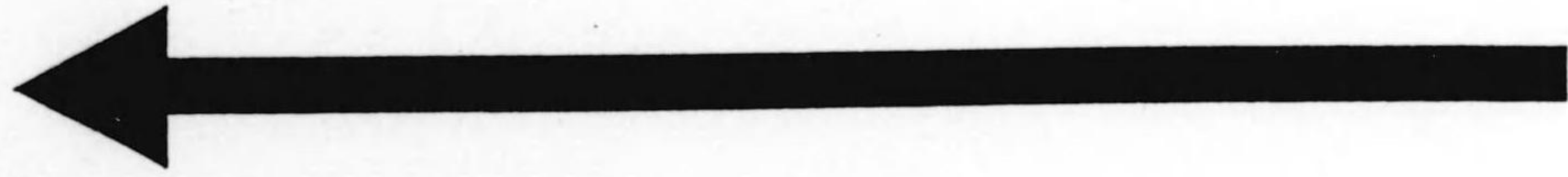


382
10



始



特231
332



千
葉
縣
總
覽



序

文化の最高點に咲き出でたる歴史の花は、過去よりも現在に、現在よりも更に將來に發展の種を蒔く。

わが大日本帝國が新文明の光りに浴してから日はなほ淺いが、その發展の力は甚だ急激に、全世界を驚倒せしめてゐる。かく敢然として皇國天賦の大使命を果し、人類和平に貢獻せんごしつゝある状態にまで國家を導いたのは、素より上に英明神ながらに在す 明治 大正 昭和の三大帝を戴き奉つたからであるが、興國の意氣に燃えた國民の努力の一方ならざりしも一大原因をなしてゐる。

しかも、すべての人を國家に結合するものは郷土である。

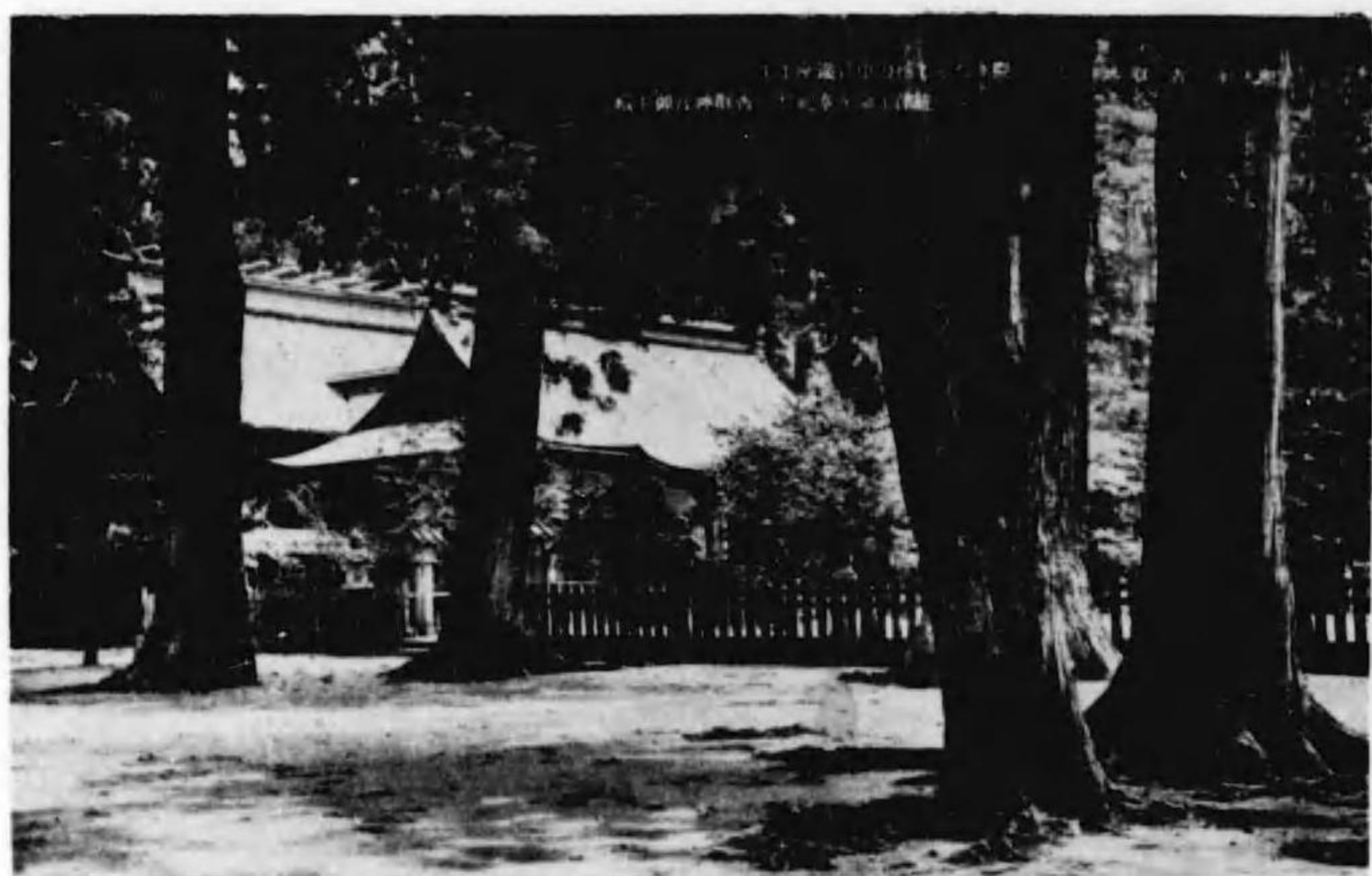
郷土に生れ、幸福の山川に抱かれてその風俗習慣の乳に哺くまれ、郷土を通じて働き、働き畢りてその懷に歸る、人間としてこれ程の幸福があらうか。この郷

土の自然と文化と社會とを認識せしめ、その價值を全一的に體驗せしめて、全體としての郷土感を育成し、よく郷土社會のために貢献せんとする熱烈なる郷土愛を涵養し、以て社會的人格を陶冶するのが、我々が趣意とし、本書の使命とするところである。

即ち郷土の有する國としての歴史、民としての記録、政治、産業、教育、文學、宗教、風俗並に各種團體の諸方面に亘り、上下數千載の事蹟を簡明に指摘採録し以て本縣の傳統美を發揮せしめんことを期し、特に現今非常時下に於ける狀勢は詳細に傳へ、以て世界第一等を誇るわが皇國の一細胞としての本縣勢を廣く世に普及せんとするものである。一は民族の元氣を鼓舞するため、一は國民的霸氣と優越せる縣民性とを不朽に記念したいための念願に他ならない。

昭和十三年三月

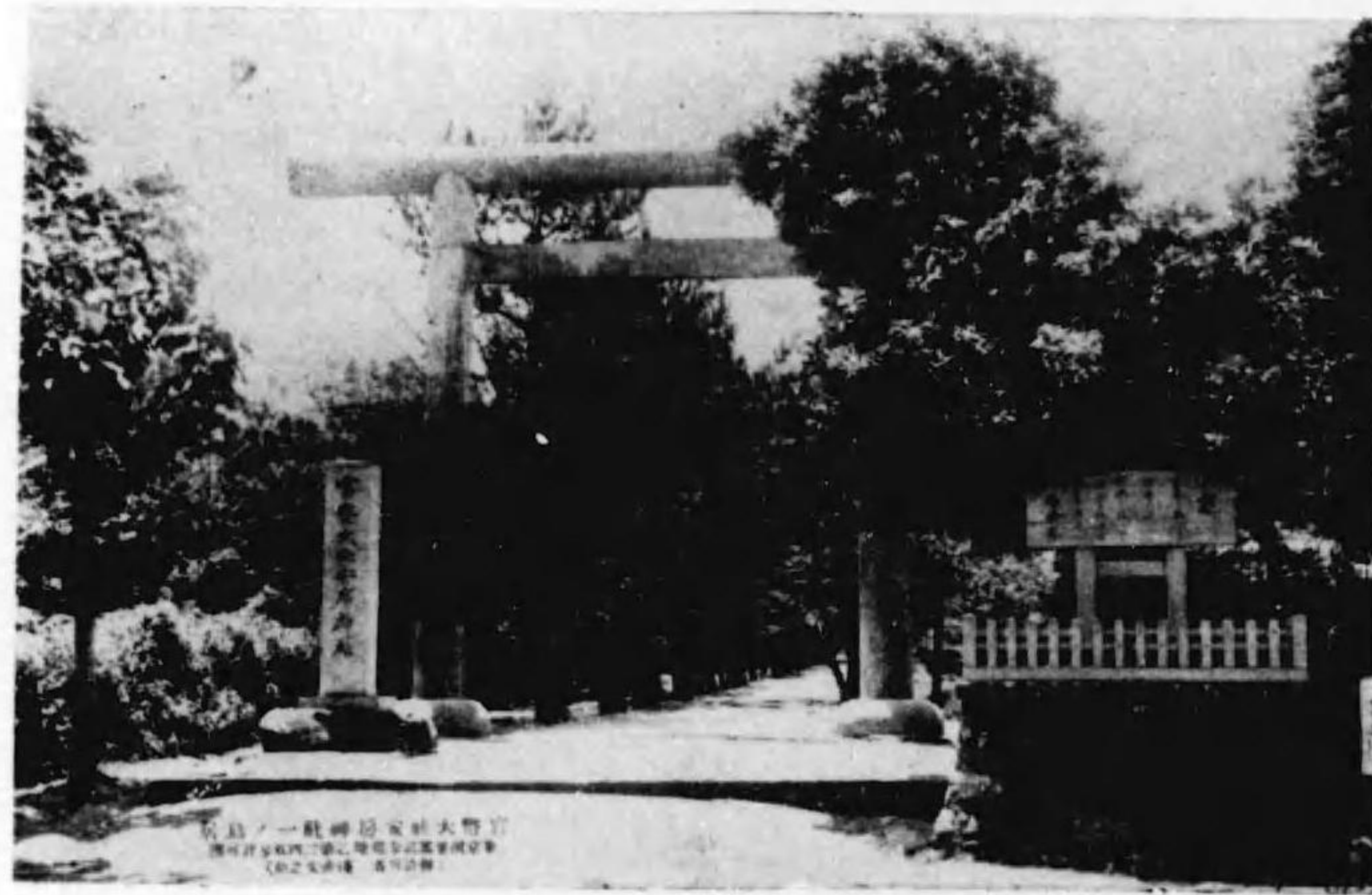
佐藤喬和識



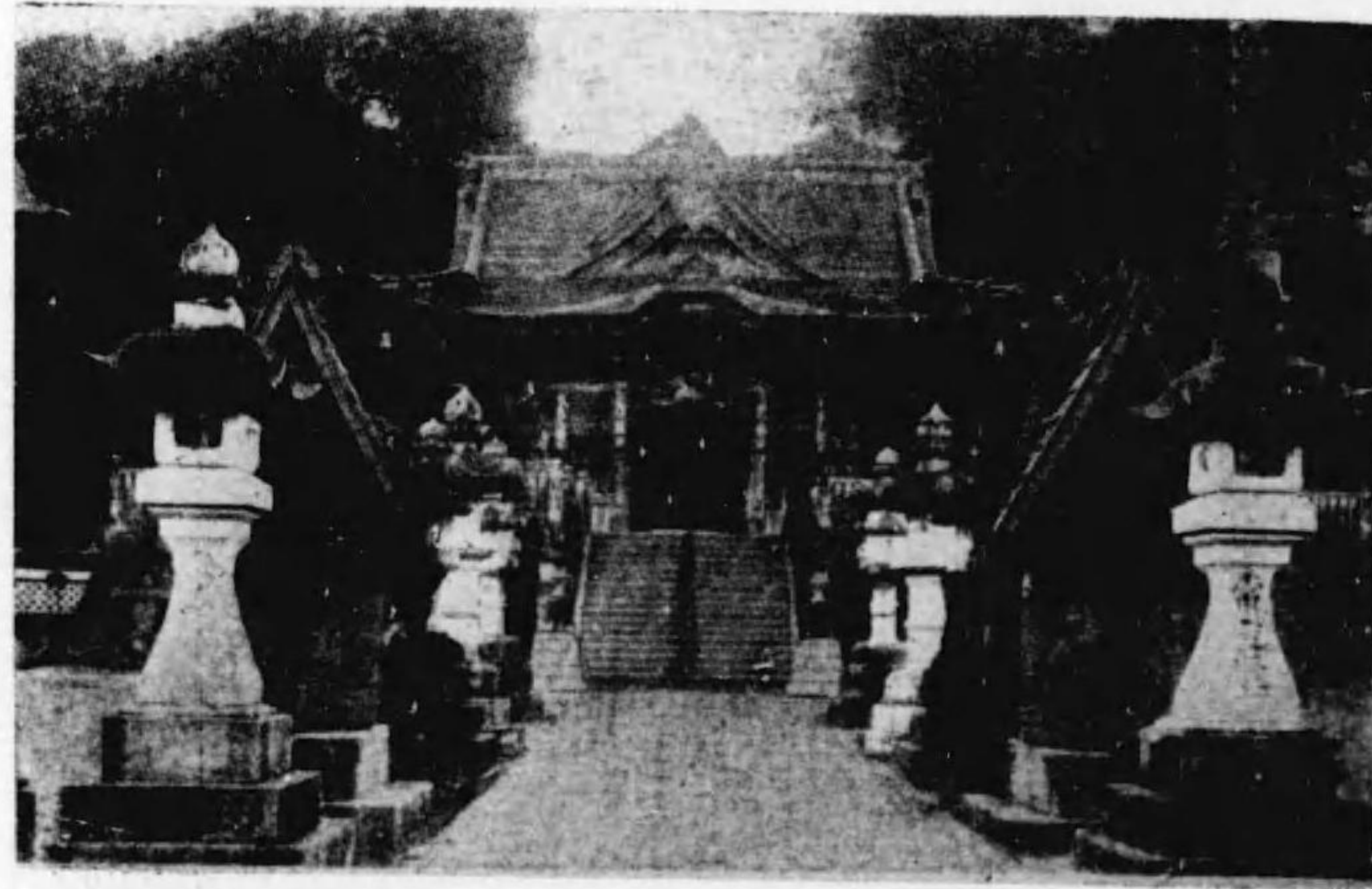
官幣大社香取神宮



千葉縣廳



官幣大社安房神社



成田山新勝寺

千葉縣總覽目次

總說

地勢……沿革……交通……產業……商業……教育……社寺

千葉市

銚子市

市川市

船橋市

千葉郡

幕張町……津田沼町……大和田町……生濱町……二宮町……椎名村……警田村……白井村……更科村……千城村……旗橋村……陸村……豊富村

市原郡

姉崎町……五井町……八幡町……牛久町……鶴舞町……千種村……東海村……市原村……海上村……菊間村……湯津村……市東村……市西村……養老村……戸田村……内田村……高瀧村……富山村……平三村……里見村……白鳥村

東葛飾郡

浦安町……行徳町……松戸町……柏町……小金町……流山町……野田町……關宿町……布佐町……我孫子町……南行徳町……鎌ヶ谷村……大柏村……八柱村……高木村……土村……馬橋村

印旛郡

八木村……田中村……新川村……梅郷村……福田村……旭村……七福村……川間村……木間ヶ瀬村……二川村……湖北村……富勢村……風早村……手賀村

長生郡

白井町……佐倉町……酒々井町……八街町……大森町……木下町……安食町……成田町……川上村……彌富村……旭村……千代田村……志津村……阿蘇村……根郷村……和田村……富里村……公津村……六合村……宗像村……船穂村……永治村……布鎌村……白井村……木埜村……豊住村……久住村……八生村

山武郡

中郷村……遠山村……一宮町……本納町……茂原町……廳南町……東浪見村……太東村……土陸村……一松村……八積村……高根本郷村……東郷村……關村……白湯村……南白龜村……豊岡村……新治村……豊田村……二宮本郷村……長柄村……日吉村……水上村……西村……東村……鶴枝村……豊榮村……五郷村

山武郡

東金町……土氣本郷町……大網町……片貝町……成東町

東京府目次

總說

位置……地形、氣候……産業……交通……沿革……名勝

東京市

位置……都市區域……人口……地勢……行政、軍事、教育機關……交通……商工業……名勝・遊覽地

八王子

西多摩郡

五・市町……青梅町……福生……熊川村組合……西多摩村……箱根ヶ崎・石畑村組合……殿ヶ谷・長岡村組合……

北多摩郡

多西村……平井村……東秋留村……西秋留村……増戸村……大久野村……戸倉村……小宮村……檜原村……霞村……小曾木村……成木村……調布村……吉野村……三田村……古里村……氷川村……小河内村

南多摩郡

淺川町……小宮町……日野町……町田町……横山村……元八王子村……恩方村……川口村……加住村……七生村……由木村……多摩村……稻城村……鶴川村……南村……忠生村……境村……由井村

大島郡

元村……岡田村……泉津村……野増村……波浮港村……差木地村……利島村

新島

三宅島

本村……神津島……若郷村……神着村……伊豆村……伊ヶ谷村……阿古村……坪田村……御蔵島村

八丈島

大賀郷村……三根村……榎立村……中之郷村……末吉村……小島島打村……小島宇津木村……青ヶ島村

小笠原島

父島大村……父島扇村……袋澤村……母島沖島村……母島北村……硫黄島村……屬島

香取郡

滑河町……神崎町……佐原町……香取町……小見川町……府馬町……栗源町……多古町……笹川町……小御門村……高岡村……米澤村……瑞穂村……新島村……東大戸村……大須賀村……香西村……津宮村……大倉村……豊浦村……神里村……八都村……森山村……良文村

海上郡

山倉村……常磐村……久賀村……日吉村……東條村……吉田村……中村……飯高村……豊和村……古城村……中和村……萬歳村……神代村……橋村……東城村……豊里村

匝瑳郡

旭町……飯岡町……船木村……椎柴村……鶴巻村……瀧郷村……嚶鳴村……富浦村……矢指村……三川村……豊岡村

君津郡

八日市場町……共和村……豊畑村……平和村……榑海村……匝瑳村……豊榮村……南條村……東陽村……白濱村……榮村……野田村……須賀村……共興村

夷隅郡

興津町……勝浦町……國吉町……御宿町……大原町……長者町……大多喜町……上野村……總野村……總元村……老川村……西畑村……上津村……瑞澤村

安房郡

千町村……古澤村……中川村……東村……布施村……東海村……中根村……浪花村……館山北條町……那古町……船形町……勝山町……保田町……千倉町……和田町……鴨川町……天津町……岩井町……江見町……白濱町……小湊町……富浦町……西岬村……豊房村……館野村……九重村……稻都村……神戸村……富崎村……八東村……佐久間村……平群村……瀧田村……國府村……七浦村……健田村……千歳村……豊田村……丸村……北三原村……南三原村……太海村……曾呂村……大山村……吉尾村……主基村……田原村……西條村……東條村

神奈川縣勢總覽目次

總説

地勢……沿革……神社宗教……
 教育……生産……農産業……水
 産業……林業鑛業……工業……
 交通

横濱市

國際都市……歴史の跡……なり
 はひの道……名勝舊蹟

横須賀市

水兵の町……軍港……歴史の跡
 ……産業……史蹟と名勝

川崎市

概説……沿革……工場……市勢

平塚市

概説……沿革……工場……市勢

橋樹郡

稲田町……宮前村……向丘村……
 ……生田村

都筑郡

川和町……新田村……中川村……
 ……山内村……柿生村、岡上村組合
 ……中里村……田奈村……新治

中郡

大磯町……伊勢原町……大山町

埼玉縣目次

總説

位置・境界……氣候……面積……人口
 産業……交通……教育……宗教
 ……財政

浦和市

川越市

熊谷市

川口市

北足立郡

蕨町……草加町……鳩ヶ谷町
 ……志木町……大和田町……
 朝霞町……大宮町……奥野町
 ……平方町……上尾町……桶
 川町……鴻巣町……吹上町……
 ……原市町……六辻村……土合
 村……美谷本村……榎目村……
 ……戸田村……芝村……新郷村

入間郡

所澤町……豐岡町……入間川

三浦郡

浦賀町……葉山町……逗子町……
 ……三崎町……長井町……大楠町……
 ……北下浦村……南下浦村……初
 聲村……武山村

鎌倉郡

戸塚町……鎌倉町……腰越町……
 ……大船町……片瀬町……中川村
 ……川上村……豊田村……本郷
 村……深澤村……村岡村……大
 正村……中和田村

高座郡

藤澤町……茅ヶ崎町……上溝町……
 ……寒川村……小田村……御所
 見村……有馬村……海老名村……
 ……座間村……新磯村……麻溝村
 ……田名村……大澤村……相原
 村……大野村……大和村……綾
 瀬村……澁谷村……六倉村

足柄上郡

松田町……山北町……寄村……
 ……上秦野村……中井村……上中村
 ……山田村組合……曾我村……金田
 村……共和村……清水村……三
 保村……北足柄村……南足柄村
 ……福澤村……酒田村……吉田
 島村……櫻井村……岡本村

足柄下郡

小田原町……國府津町……湯本
 町……湯河原町……箱根町、外
 二ヶ村組合……真鶴町、外二ヶ
 村組合……足柄村……豊川村……

秦野町

二宮町……國府
 村……大野村……神田村……相
 川村……成瀬村……大田村……
 城島村……岡崎村……豊田村……
 金田村……旭村……土澤村……
 金目村……高部屋村……比々多
 村……大根村……東秦野村……
 西秦野村……南秦野村……北秦
 野村

愛甲郡

厚木町……依和村……中津村……
 ……高峯村……愛川村……萩野村……
 ……三田村、外五ヶ村組合……小鮎
 村……煤ヶ谷村、宮ヶ瀬村組合
 玉川村……南毛利村

津久井郡

中野町……與瀬町、小原村、千
 木良村組合……吉野町、小淵村
 ……澤井村組合……川尻村……湘南
 村……三澤村……串川村……鳥
 屋村……青野村……青根村……
 ……内郷村……日連村、名倉村組合
 ……牧野村……佐野川村

谷塚村……新田村……安
 行村……神根村……戸塚村……
 ……大門村……野田村……尾間
 木村……三室村……片山村……
 ……新倉村……白木村……内間
 木村……日進村……三橋村……
 ……大砂土村……宮原村……指
 扇村……片柳村……大久保村
 ……馬宮村……植水村……七
 里村……春岡村……大谷村……
 ……大石村……上平村……小室
 村……小針村……加納村……
 川田谷村……石戸村……馬室
 村……中丸村……常光村……
 田間宮村……箕田村……小谷
 村

坂戸町

越生町……
 飯能町……芳野村……植木村
 ……古谷村……南古谷村……
 ……福岡村……高階村……大井村
 ……鶴瀬村……南畑村……水
 谷村……宗岡村……三芳村……
 ……柳瀬村……松井村……富岡
 村……山口村……吾妻村……
 小手指村……三ヶ島村……宮
 寺村……元狭山村……金子村
 ……東金子村……藤澤村……入間
 村……堀倉村……福原村……
 奥富村……日東村……大田村
 ……田面澤村……山田村……
 ……三芳野村……勝呂村……入西
 村……大家村……川角村……
 ……毛呂村……山根村……梅園村
 ……如名村……鶴ヶ島村……

比企郡

高萩村……高麗川村……東吾
 野村……渡ヶ淵村……柏原村
 ……水富村……元加治村……加
 治村……精明村……原市場村
 ……南高麗村……名栗村……吾野
 村……東吾野村

松山町

小川町……大岡村
 ……福田村……宮前村……唐
 子村……菅谷村……七郷村……
 ……八和田村……竹澤村……大河
 村……平村……明覺村……玉
 川村……龜井村……今宿村……
 高坂村……野本村……中山村
 ……伊草村……三保谷村……田丸
 村……八ッ保村……小見野村
 ……東吉見村……南吉見村……
 ……西吉見村……北吉見村

秩父郡

- 秩父町... 皆野町... 吉田町... 小鹿野町... 横瀬村... 蘆ヶ久保村... 高篠村... 原谷村... 澤村... 白鳥村... 樋口村... 野上村... 國神村... 金澤村... 矢納村... 日野澤村... 大田村... 尾田村... 長若村... 上吉田村... 倉尾村... 三田川村... 兩神村... 大瀧村... 白川村... 中川村... 久那村... 浦山村... 影森村... 大柵村... 槻川村... 大河原村

北埼玉郡

- 本泉村... 神保河原村... 賀美村... 七本木村... 長幡村... 丹莊村... 秋平村... 松久村... 大澤村... 忍町... 羽生町... 加須町... 駒西町... 不動ヶ岡町... 中條村... 南河原村... 北河原村... 星河村... 星宮村... 持田村... 太井村... 下忍村... 長野村... 荒木村... 須賀村... 新郷村... 太田村... 埼玉村... 屈巢村... 廣田村... 須影村... 岩瀬村... 川俣村... 井泉村... 中島村... 手子林村... 志多見村... 田ヶ谷村... 共和村... 笠原村... 種足村... 高柳村... 禮羽村... 樋遣川村... 三田ヶ谷村... 村君村... 大越村... 利島村... 川邊村... 東村... 原道村... 元和村... 豊野村... 三俣村... 大桑村... 水深村... 鴻室村

南埼玉郡

- 岩槻町... 粕壁町... 越ヶ谷町... 大澤町... 久喜町... 鷺宮町... 蓮田町... 菖蒲町... 豊春村... 内牧村... 川通村... 武里村... 櫻井村... 新方村... 増林村... 大袋村... 荻島村... 柏崎村... 和土村... 新和村... 出羽村... 蒲生村... 川柳村... 八條村... 八幡村... 潮止村... 大相模村... 慈恩寺村... 日勝村... 須賀村... 百間村... 太田村... 清久村... 江面村... 河合村... 黒濱村... 平野村... 栢間村... 小林村... 三箇村... 篠津村... 大山村

大里郡

- 吉田村... 八代村... 田宮村... 堤郷村... 幸松村... 豊野村... 松伏領村... 旭村... 三輪野江村... 彦成村... 早稻田村... 戸ヶ崎村... 八木郷村... 豊岡村... 櫻井村... 寶珠花村... 富多村... 南櫻井村... 川邊村... 金杉村... 妻沼町... 深谷町... 寄居町... 久下村... 佐谷田村... 吉見村... 市田村... 吉岡村... 御正村... 大藤生村... 三尻村... 玉井村... 奈良村... 長井村... 秦村... 男沼村... 大田村... 明戸村... 別府村... 幡羅村... 大寄村... 新會村... 中瀬村... 八基村... 岡部村... 櫻澤村... 本郷村... 藤澤村... 武川村... 花園村... 用土村... 櫻澤村... 男奈村... 折原村... 鉢形村... 小原村... 本島村

児玉郡

- 本庄町... 児玉町... 藤田村... 仁手村... 旭村... 北島村... 東児玉村... 共和村... 金屋村... 青柳村... 若泉村

北葛飾郡

- 栗橋町... 幸手町... 杉戸町... 吉川町... 鈴村... 豊田村... 櫻田村... 行幸村... 上高野村... 高野村... 權現堂川山村

茨城縣 目次

總説

- 概説... 地勢... 産業... 都邑... 交通... 沿革... 名勝

水戸市

東茨城郡

- 小川町... 石塚町... 磯濱町... 大貫町... 上大野村... 下大野村... 稻荷村... 大場村... 酒門村... 石崎村... 吉田村... 緑岡村... 河和田村... 上中妻村... 長岡村... 上野合村... 白河村... 橋村... 竹原村... 盛倉村... 川根村... 鯉淵村... 下中妻村... 中妻村... 渡里村... 飯富村... 山根村... 小松村... 西郷村... 坪村... 岩船村... 澤山村... 伊勢畑村

那珂郡

- 笠間町... 宍戸町... 岩間町... 岩瀬町... 南川根村... 北川根村... 大原村... 大池田村... 七會村... 北山内村... 西山内村... 南山内村... 東那珂村... 北那珂村... 湊町... 平磯町... 瓜連町... 大宮町... 前渡村... 中野村... 勝田村... 川田村... 佐野村... 村松村... 石神村... 神崎村... 額田村... 菅谷村... 五臺村... 柳河村... 國田村... 戸多村... 芳野村... 木崎村... 静村... 大場村... 上野村... 大賀村... 玉川村... 鹽田村... 山方村... 檜澤村... 小瀬村... 野口村

久慈郡

- 長倉村... 八里村... 巖郷村... 大子町... 太田町... 久慈町... 袋田町... 世矢村... 坂本村... 東小澤村... 西小澤村... 幸久村... 佐竹村... 郡戸村... 久米村... 金郷村... 世喜村... 金砂村... 天下野村... 高倉村... 染和田村... 山田村... 豊田村... 佐都村... 河内村... 中里村... 賀美村... 小里村... 生瀬村... 宮川村... 黒澤村... 依上村... 機初村... 佐原村... 上小川村... 下小川村... 諸富野村

鹿島郡

- 松岡町... 磯原町... 大津町... 平湯町... 坂上村... 國府村... 鮎川村... 日高村... 楯形村... 黒前村... 高岡村... 南中郷村... 華川村... 關南村... 關本村... 鉾田町... 鹿島町... 波崎町... 夏海村... 大谷村... 沼前村... 巴村... 徳宿村... 諏訪村... 新宮村... 上島村... 向島村... 大同村... 中野村... 波野村... 豊郷村... 豊津村... 高松村... 息栖村... 輕野村... 若松村... 矢田部村

多賀郡

- 河原子町... 助川町... 日立町... 豊浦町... 松原町

行方郡

- 麻生町... 潮來町... 玉造町... 香澄町... 八代村... 津

千葉縣人物誌目次

市原郡

濱田 玄悟	一
高山 安衛	一
積田 嘉平	一
白鳥 神社	一
安寧山龍溪寺	一
金藏 院	二
永昌 寺	三
佐倉町戊申信用組合	三
成田信用組合	四
根郷信用 販賣 買利用組合	四
臺方信用 販賣 買利用組合	四
布録村信用 販賣 買利用組合	五
六合村信用 販賣 買利用組合	五
太田 杲寛	五
藤崎 善治	六

印旛郡

田口 光	六
押尾 龍藏	六
大野 長治郎	七
清宮 貞造	七
志津 半	七
藤崎 慶重郎	八
湯本 多一郎	八
谷 清助	八
大熊 秀治郎	八
山崎 了二	九
鈴木 雄	九
五十嵐善太郎	九
鈴木 慶治郎	九
荻原 鏡之助	〇
湯淺 新太郎	〇
岩館 兼太郎	一
神崎 文助	一
武藤 重平	一
井筒 金治	二
小山藤右衛門	二
森谷 善一郎	二

高石 信太郎	一三
石井 鶴松	一三
篠田 有徳	一三
武藤 爲誠	一四
秋谷 七之助	一四
根本 隆一	一四
寺内 和吉	一五
辻 新一郎	一五
齋藤 房太郎	一五
森 満太郎	一六
村山 太一郎	一六
藤崎 勝次郎	一六
泉水 久兵衛	一七
柴倉 貴一	一七
富澤 憲資	一七
川鍋 彦太郎	一七
吉岡 義孝	一八
鈴木 寅吉	一八
植村 幹	一八
鈴木 源一	一九
鈴木 忠維	一九
櫻井 幾太郎	二〇
丸 良輔	二〇
香取 銀次郎	二〇
大菅 喜一	二〇
伊藤 茂助	二一
土屋 舜	二一
石橋 孫平	二一
小川 源一郎	二一
大澤 哲夫	二二
湯淺 綱雄	二二
石橋 源四郎	二二
吉岡 榮一郎	二二
柴崎 磯吉	二三
栗山 右忠治	二三
小澤 吉兵衛	二三
石渡 鶴三	二四
鈴木 勘	二四
中川 喜志男	二四
須藤 新重郎	二四
中村 綱次郎	二五
吉岡 庄藏	二五
櫻井 義夫	二五
村越 康太郎	二五
秋谷 武雄	二六
眞藤 永之助	二六
遠藤與物平衛	二六
笠井 市太郎	二七

稲敷郡

知村	大生原村	大田村
大和村	澄津村	要村
武田村	秋津村	立花村
現原村	玉川村	行方村
小高村	手賀村	延方村
江戸崎町	龍ヶ崎町	沼里村
君賀村	鳩崎村	安中村
木原村	君原村	舟島村
阿見村	朝日村	奥野村
岡田村	壺崎村	牛久村
調柴村	八原村	長戸村
根本村	柴崎村	太田村
大須賀村	伊崎村	高田村
世渡村	浮島村	大宮村
生板村	源清田村	長竿村
金江津村	十餘島村	本新島村

筑波郡

柿岡町	土浦町	上
大津村	下大津村	美並村
牛渡村	佐賀村	安飾村
志士庫村	關川村	田余村
玉川村	關部村	瓦會村
林村	懸瀨村	葦穂村
小幡村	小櫻村	志筑村
新沼村	七會村	都和村
藤澤村	斗利田村	山ノ莊村
榮村	九重村	栗原村
東村	中家村	三村
谷田部町	筑波町	北條町
小張村	板橋村	久賀村
三島村	谷井田村	豊村
鹿島村	長崎村	十和田村
福岡村	眞瀨村	島名村
旭村	上郷村	吉沼村
高道祖村	作岡村	水山村
菅岡村	田井村	小田村
大穂村	葛城村	

結城郡

小野川村	下館町	關本町
下妻町	眞壁町	竹島村
養靈村	中村	五所村
伊豫村	大田村	上妻村
河内村	川西村	大寶村
黒子村	嘉田生崎村	村田村
鳥羽村	上野村	大村
古里村	長譜村	谷貝村
樺穂村	紫尾村	雨引村
新治村	大國村	小栗村
石下町	水海道町	絹川村
江川村	山川村	上山川村
中結城村	名崎村	安藤村
大花村	岡田村	大形村
羽村	菅原村	下結城村
西豊田村	豊岡村	總上村
眞鍋村	豊加美村	宗道村
玉村	豊	

北相馬郡

田村	五箇村	三妻村
飯沼村	大生村	古河町
境町	岩井町	新郷村
岡郷村	藤鹿村	櫻井村
香取村	長田村	五霞村
八俣村	幸島村	八俣村
猿島村	森戸村	生子菅村
香掛村	弓馬田村	飯島村
飯島村	神大實村	七郷村
中川村	長須村	守谷町
相馬町	取手町	布川町
菅生村	坂手村	内守谷村
小絹村	大井澤村	大野村
高野村	高井村	稻戸井村
山王村	寺原村	井野村
六郷村	小文間村	高須村
川原代村	北文間村	文村
文間村	東文間村	

關谷平……………二七
宇賀常治郎……………二七
石橋仙太郎……………二八
中村喜一……………二八

長生郡

縣立一宮實業學校……………二八
縣立長生中學校……………二九
本納實業學校……………二九
階和高等女學校……………三〇
長生家政女學校……………三〇
茂原尋常高等小學校……………三一
一松尋常高等小學校……………三一
關尋常高等小學校……………三一
白鴻尋常高等小學校……………三二
新治尋常高等小學校……………三二
東陽尋常高等小學校……………三二
長柄尋常高等小學校……………三三
豐榮尋常高等小學校……………三三
蕪風尋常小學校……………三三
朝日の森幼稚園……………三三
長柄信用販賣組合……………三四
西村信用販賣組合……………三四

豐榮信用販賣組合……………三四
五區信用販賣組合……………三五
橫堀源一郎……………三五
鶴岡清作……………三六
石和田文彌……………三六
野村市次郎……………三六
及川規矩郎……………三七
糸井玄……………三七
內山庄作……………三七
牧野道彦……………三七
生城山多一郎……………三八
久我新次……………三八
木島武左衛門……………三九
長谷川太一……………三九
野口大助……………三九
光橋源一郎……………三九
北田忠之……………四〇
岡澤幸十郎……………四〇
齋藤治作……………四〇
白鳥壽正……………四〇
加藤太郎作……………四〇
川島正臣……………四一
前田義造……………四一

太田彌三郎……………四一
若菜喜惣次……………四二
江澤孝澄……………四二
千葉彌惣治……………四二
鳥海清……………四三
岩瀬正亮……………四三
金澤源吉……………四三
池澤正一……………四三
中村正治……………四四
植草庫三……………四四
大沼德太郎……………四五
三宅與一……………四五
安藤昇平……………四五
片岡中……………四五
鈴木衛……………四六
鬼原保……………四六
大和久善三郎……………四六
蔭田民之輔……………四七
三橋和喜……………四七
平野穎敏……………四七
關本虎次……………四七
鍵山靜一……………四八
麻生誠一……………四八
高仲仁三郎……………四八

並木佐太郎……………四九
松本紋四郎……………四九
關成嗣……………四九
中村正……………四九
矢部友三郎……………五〇
齋藤乙作……………五〇
中村新一郎……………五〇
石渡幸之助……………五一
鶴澤房五郎……………五一
田邊市作……………五一
金坂浩……………五一
山本弘……………五二
阿部作治郎……………五二
鹿間信雄……………五二
中村孝左司……………五二
富塚庄三郎……………五三
唐鎌彌一……………五三
相久作……………五三
森川八十治……………五四
木島保太郎……………五四
市原清治郎……………五四
麻生慶三……………五四
高橋仲次……………五五
鶴澤權一……………五五

酒井増次郎……………五五
大塚誠一……………五五
石川忠一郎……………五六
篠原靖策……………五六
古市雄三……………五六
大森爲三郎……………五六
田中大治……………五七
松本中雄……………五七
須藤喜代治……………五七
鶴岡經民……………五七
鶴岡善朗……………五八
渡邊主計……………五八
伊東昌章……………五八
太田謹三郎……………五九
池澤六郎……………五九
齋藤都一……………五九
田中一郎……………六〇
島野宗平……………六〇
市原五三郎……………六〇
根本俊郎……………六一
河野榮二……………六一
島野彌一……………六一
江澤操一……………六一
中村勝藏……………六二

鹿間久米造……………六二
行方昭一……………六二
綠川正衛……………六三
土屋孫義……………六三
岩崎保……………六三
西周治衛門……………六四
關谷憲次……………六四
宮崎敬之……………六四
片岡庄作……………六五
齋藤喜代藏……………六五
加藤作次郎……………六五
地引義重……………六五
鈴木耕司……………六六
桐谷暉……………六六
白井喜代造……………六六
加藤伊八……………六七
板倉中……………六七
田中治郎……………六七
菅谷嘉一……………六八
小野與三吉……………六八
大川又吉……………六八
今關又吉……………六八
鈴木恭平……………六九
岩佐義二郎……………六九

白鳥和雄……………六九
加藤直松……………六九
本橋岩作……………七〇
熊切政雄……………七〇
渡邊喜平……………七〇
加藤菊之助……………七一
石井善五郎……………七一
松平誠……………七一
細谷秀雄……………七一
武田醫院……………七二
飯高彌市……………七二
鹿間惣次郎……………七二
村上道清……………七三
木村六郎左衛門……………七三
千葉彌次馬……………七三
相あ終……………七四
三十尾良吉……………七四
三枝清……………七四
片岡清……………七四
山越きの……………七五
阿部和一……………七五
村上光之助……………七五
安藤政治……………七五
白井勇次郎……………七六

東條鳳平……………七六
内藤素作……………七六
細矢祐治……………七七
板倉忠藏……………七七
鶴岡浩三郎……………七七
丸島斌……………七八
井桁三郎……………七八
松濤園……………七八
古川三郎……………七九
伊藤眼科醫院……………七九
竹下醫院……………七九
芝崎金市……………七九
金坂要之助……………八〇
鎗田豐子……………八〇
宮田庄七……………八〇
高仲昂……………八一
宇野澤庸真……………八一
河野憲順……………八一
早野觀曉……………八二
橋神社……………八二
藻原寺……………八二
本從寺……………八三
妙感寺……………八三
本從寺……………八三

光明寺	八三	小林吉平	九〇	櫻井正中	九七	藤崎利一	一〇四
法東大悲山笠森寺	八四	產方克	九〇	小網進一	九七	大久保隆	一〇五
雲上山報恩寺	八四	篠崎貞	九一	海保正	九八	岩澤靜	一〇五
行徳寺	八四	鶴岡秀夫	九一	伊藤昇	九八	瀧口福三郎	一〇五
大本山鷲山寺	八五	安川尙	九一	高橋敬亮	九八	押尾薫喜	一〇五
成就山連福寺	八五	金坂健藏	九一	谷上利三郎	九九	三上修理	一〇六
妙行寺	八五	大塚文藏	九二	北田芳三郎	九九	布留川嘉門	一〇六
月輪寺	八六	渡邊惣三郎	九二	町山覺三郎	九九	早野留吉	一〇六
玉泉寺	八六	醍醐登	九二	牛尾憲	一〇〇	佐久間敏郎	一〇七
稱念寺	八六	高宮新	九三	伊丹知親	一〇〇	高山豐吉	一〇七
如意輪寺	八七	柳橋隣二	九三	淺野助五郎	一〇〇	板倉藤作	一〇七
雲頂院	八七	高橋源太郎	九三	佐藤泰助	一〇〇	佐久間信一	一〇七
水沼寺	八七	中村清	九四	大木平一郎	一〇〇	鈴木昌一	一〇八
山武郡		久保田權之助	九四	金坂徳次郎	一〇〇	小川眞一郎	一〇八
靜修女學校	八八	小川千次	九四	岩崎禧一郎	一〇〇	兒玉東海雄	一〇八
蠶種共同施千葉社	八八	吉原茂三郎	九五	猪野鐵雄	一〇二	金子情	一〇九
大網信用販賣組合	八八	石橋彌	九五	手島昇三	一〇二	並木武	一〇九
八千代信用販賣組合	八九	山本治一	九五	北田隆治	一〇二	大垣政吉	一〇九
東金瓦斯利用組合	八九	内木熊太郎	九五	岡本勘三郎	一〇三	元倉榮太郎	一〇九
石野操一郎	八九	高橋良司	九六	川島新	一〇三	大原喬	一〇九
吉岡清	九〇	大藤治作	九六	松戸武雄	一〇三	秋葉與市	一〇九
		山田平八	九七	關口義造	一〇四	子安逸之助	一〇九
		山岸孝	九七	齋田謙三郎	一〇四	吉田榮藏	一〇九
						菊地正義	一一〇

伊藤博	一一	菊地誠之	一八	岩澤元久	二五	花澤哲太郎	三二
稗田正己	一一	加藤彦治	一八	京相毅	二五	齋藤政治	三三
山本文次郎	一一	市原利清	一八	井口毅	二六	内山誠一	三三
豐田彦司	一一	北田能章	一八	早野孝治	二六	並木好太郎	三三
川島一策	一二	渡邊壽	一九	戸村英一	二六	櫻井昌雄	三三
大木民司	一二	實川誠一郎	一九	奈良中	二七	小高吉松	三三
鈴木猪二郎	一二	井上元雄	一九	伊藤貞太郎	二七	鈴木正夫	三四
山邊堅	一三	小倉利雄	二〇	土屋甫	二七	戸田戸	三四
伊藤政吉	一三	星見四郎吉	二〇	椎名章	二八	平山要三	三五
田中博良	一三	高橋一郎	二〇	角川馨	二八	秋葉勇吉	三五
北田直次郎	一四	篠崎泰輔	二〇	十枝雄三	二八	佐瀬佐太郎	三六
根本柳藏	一四	廣瀬忠夫	二一	佐藤正照	二八	中山鑛右	三六
中村守治	一四	椎名又五郎	二一	安井喜雄	二九	行木光吉	三六
小野崎邦治	一五	伊藤辰平	二一	川崎仲治	二九	伊藤迪	三七
大木誠一郎	一五	笹川敏雄	二二	中村治	二九	千葉蠶種名會社	三七
内山弟次郎	一五	伊澤清二郎	二二	小川正作	三〇	石橋彌十郎	三七
今關政治	一五	瀧田善四郎	二二	氏原敬一	三〇	矢野鹿之助	三八
宇佐美淺治郎	一六	板倉弘毅	二三	鶴岡庄平	三〇	村井吉郎	三八
三枝治部	一六	石井良一	二三	飯倉久三郎	三一	石橋健亮	三八
石渡鶴吉	一六	華表誠也	二三	土屋惠司	三一	平山重典	三八
篠崎佳三郎	一六	鶴岡正雄	二四	齋藤直一郎	三一	子安利明商店	三九
桑田常藏	一七	野老吉之助	二四	青木輝男	三一	古谷英亮	三九
川島四郎	一七	櫻井利雄	二四	廣瀬喜一	三一	小野崎武次	四〇
鈴木直	一七	佐瀬正雄	二五	中鹿中	三一	齋藤峰松	四〇

大木 彦太郎	一四〇	早尾 干城夫	一四八	野村 惠二	一六二
伊藤 久治郎	一四一	野口 竹藏	一四八	四宮 保	一六二
今關 清一郎	一四一	内山 爲之助	一四九	吉田 岩司	一六二
神原 儀三郎	一四一	齋藤 克士	一四九	近藤 謙藏	一六三
齋藤 龜太郎	一四二	今井 醫院	一四九	守 吉司	一六三
加藤 理輔	一四二	篠崎 ちよ	一五〇	大曾根 保	一六三
遠藤 熊次郎	一四二	中島 九か	一五〇	東原 稔	一六四
古谷 富保	一四三	石井 あい	一五〇	進藤 京爾	一六四
齋藤 己之助	一四三	戸村 龍快	一五〇	松本 平	一六四
鶴澤 善藏	一四三	金刀比羅神社	一五一	小泉 吉藏	一六四
大木 伸太郎	一四四	稻生 神社	一五一	藤井 松五郎	一六五
土屋 緑	一四四	天理教瑞穂支教會	一五二	高橋 廣	一六五
佐久間 定藏	一四四	片貝支教會	一五二	山口 郁	一六六
小川 一郎	一四四	鳳凰山本漸寺	一五二	渡邊 岩二良	一六六
花澤 定吉	一四五	法高山本行寺	一五三	進藤 竹二	一六六
土屋 庄一	一四五	開陽山東光寺	一五三	長谷川 良三	一六七
野老 千代松	一四五	長光山蓮成寺	一五三	平野 國平	一六七
野老 幸之助	一四六	法興山東光寺	一五四	刈込 周司	一六七
宇津木善之助	一四六	寶樹山常福寺	一五四	笹生 武義	一六八
辻村 政藏	一四六	天應山觀音寺	一五四	今井 傳五郎	一六八
高橋 松之助	一四七	羽黒山妙福寺	一五五	市川 舜藏	一六八
今井 由藏	一四七	昌谷山長光寺	一五五	茂田 陳	一六八
齋藤 榮藏	一四七	本清山大正寺	一五五	渡邊 徳三郎	一六九
牛尾 隆	一四八	高福山上行寺	一五六	佐久間幸次郎	一六九

君津郡

内田 兼次郎	一六九	鈴木 秀二	一七六	石井 央雄	一八三	小川 脩本	一九〇
鈴木 熊五郎	一七〇	刈込 徳三郎	一七六	鈴木 專治	一八三	大御 保茂	一九一
竹内 徳太郎	一七〇	榎本 信三	一七六	久保 兵衛	一八四	高橋 光雄	一九一
鮎川 亮助	一七〇	星野 基之	一七七	綾部 政太郎	一八四	勝 信太郎	一九二
水野 喜廣	一七〇	高野 意亮	一七七	笹生 精一	一八四	秋樂 マツ子	一九二
神子 惠	一七一	前田 利三郎	一七七	鈴木 保	一八四	織本 旅館	一九二
永島 整	一七一	渡邊 悟郎	一七八	森 敬一	一八五	丸音蠟灰製造工場	一九二
鹿島 仙之助	一七一	池田 久作	一七八	鳥海 才平	一八五	諏訪 神社	一九三
石井 岩藏	一七二	水越 專明	一七八	高橋 九平	一八六	山 神社	一九三
柴崎 喜代治	一七二	榎本 政吉	一七八	鈴木 辨藏	一八六	三島 神社	一九四
大村 金藏	一七二	溝口 喜三郎	一七九	榎本 吉之助	一八六	天理教千木宣教所	一九五
田丸 源四郎	一七二	朝生 和吉	一七九	伊田 重三	一八七	山王山圓如寺	一九五
山田 忠七	一七三	佐野 貴一	一七九	石井 新三	一八七	安 國 寺	一九五
永島 作之丞	一七三	鈴木 勝次良	一八〇	廣瀬 庄之助	一八七	正 行 寺	一九六
秋元 条吉	一七三	齋藤 文助	一八〇	緒志 表藏	一八八	龍像山福田寺	一九六
平野 金藏	一七三	大岩 文太郎	一八〇	山中 綠	一八八	青 蓮 寺	一九六
長谷川 辰藏	一七四	池田 貞治	一八〇	朝生 熊吉	一八八	龜鶴山圓正寺	一九七
伊藤 金藏	一七四	山田 鼎	一八一	岩田 銀之助	一八九		
在原 八郎	一七四	川俣 善九郎	一八一	竹内 友章	一八九		
宍倉 猛	一七五	榎本 芳藏	一八一	山田 武雄	一九〇		
室 親信	一七五	大森 修	一八二	色部 勘治	一九〇		
平野 竹夫	一七五	小藤田 清	一八二	鈴木 光治	一九〇		
北見 馬次郎	一七五	地曳 間治	一八二	山森 慶覺	一九〇		
小高 平作	一七六	鈴木 靜	一八三	笹本 福次	一九〇		

夷隅郡

大多喜中學校	一九七
總元尋常高等小學校	一九八
中川村信用販賣組	一九八
濱勝浦漁業協同組合	一九八

國吉町今關農家組合	一九九	竹藤	由藏	二〇七	吉田	榮吉	二二五	本吉	九郎吉	二二三
豐濱漁業協同組合	一九九	中村	五郎	二〇七	石橋	岩五郎	二二五	君塚	正親	二二四
夷隅郡畜産組合	一九九	淺野	弘雄	二〇八	磯部	春吉	二二六	君塚	倉松	二二四
新田農家組合	二〇〇	高師	一江	二〇八	鈴木	源之助	二二六	伊島	伊之助	二二四
申濱漁業組合	二〇〇	吉野	潤一	二〇八	芝崎	林藏	二二七	大會根	文治郎	二二五
鋤柄直也	二〇〇	中村	和平	二〇九	南	繁治	二二七	田邊	惣次郎	二二五
坂輪文藏	二〇一	森	一郎	二〇九	田中	吉次	二二七	峰島	利平	二二五
關平次	二〇一	田邊	三郎	二〇九	永野	敬止	二二七	江澤	賢草	二二六
山本武壽	二〇一	關口	定吉	二一〇	森	榮次郎	二二八	田邊	廣郷	二二六
朽方正秀	二〇二	田邊	平八	二一〇	平賀	竹次郎	二二八	渡邊	定太郎	二二七
池田彌一	二〇二	鈴木	幹	二一〇	貝塚	三藏	二二九	君塚	諦啓	二二七
佐藤賢治	二〇二	大屋	耕藏	二一一	岡田	丑之助	二二九	野口	至誠	二二七
石井重太郎	二〇三	久保田	信勝	二一一	副山	泰三郎	二二九	市原	布次三郎	二二八
山口治洋	二〇三	水上	甚八	二一一	齋藤	六衛	二二〇	君塚	竹治	二二八
鶴岡長之助	二〇三	川上	梅吉	二一二	藤平	熊太郎	二二〇	岡野	源吉	二二八
磯野傳三郎	二〇四	猿田	寛	二一二	吉原	龜藏	二二〇	君塚	四郎	二二九
栗原治平	二〇四	小倉	盛次	二一二	小高	豐吉	二二〇	野村	繁社	二二九
加曾利勇作	二〇四	野口	五平次	二二三	小高	惣平	二二一	鈴木	正己	二二九
君塚角之助	二〇五	野口	幸次	二二三	池田	梅吉	二二一	江澤	一哉	二三〇
野口耕藏	二〇五	若葉	精一	二二三	岩瀬	常三郎	二二一	松崎	翠	二三〇
本吉健吉	二〇五	大會根	大	二二三	久貝	源一	二二二	關	將司	二三〇
安藤忠治	二〇六	星野	龜三郎	二二四	藤平	和三郎	二二二	白井	勇次郎	二三一
麻生敬司	二〇六	秋場	公	二二四	金網	亟	二二二	磯野	己之松	二三一
渡邊保治	二〇七	最首	善次	二二五	長田	一也	二二三	吉野	六郎	二三一

高橋大	二二二	渡邊	兵一	二四〇	覺翁	寺	二四八	伊藤	義平	二五六
關玄太郎	二二二	田邊	源一郎	二四〇	城照山	醫光寺	二四八	高橋	總藏	二五六
高師清	二二三	佐藤	千代松	二四一	補陀落山水	水月寺	二四九	高野	武四郎	二五六
酒井兵治	二二三	磯野	岡	二四一	傳受山	妙嚴寺	二四九	鈴木	英逸	二五六
江澤眞	二二三	鈴木	末吉	二四一	福祐山	顯妙寺	二四九	鈴木	庫松	二五七
三上兼雄	二三四	坂輪	重司	二四二	寶藏山	眞常寺	二五〇	菅谷	嘉平	二五七
渡邊八三郎	二三四	麻生	孝三	二四二	音羽山	清水寺	二五〇	加瀬	雄作	二五八
藍野貞二	二三四	高梨	喜代治	二四三				向後	久三郎	二五八
金杉孝	二三五	池田	榮次郎	二四三				小川	昇	二五八
田中直作	二三五	末吉	市松	二四三	鶴卷尋常高等小學校		二五一	大久保	榮一	二五九
關辰之助	二三五	江澤	三郎	二四四	横田	清藏	二五一	平野	顯二	二五九
吉野治平	二三六	岡田	彌一郎	二四四	鈴木	周藏	二五一	越川	武雄	二六〇
齋藤孫四郎	二三六	星野	高之助	二四四	崎山	太良右衛門	二五二	寺村	勘兵衛	二六〇
君塚元良	二三七	菰田	熊太郎	二四五	菅谷	仁右衛門	二五二	諸持	國英	二六〇
大宮市太郎	二三七	鈴木	正司	二四五	鈴木	長三郎	二五二	向後	八十松	二六〇
枝川猪兵衛	二三七	藤平	眞平	二四五	高野	米藏	二五三	鎌形	藤作	二六一
太田大助	二三八	藤平	左京	二四六	越川	惣右衛門	二五三	石橋	銀三郎	二六一
吉田重雄	二三八	千葉合同	銀行支店	二四六	新行内	喜三郎	二五四	宮野	豐藏	二六一
麻生正善	二三八	日東養飽	合名會社	二四六	土屋	六郎兵衛	二五四	岩井	辰之助	二六一
石崎庄次郎	二三八	玉川	乘合自動車部	二四六	浪川	好太郎	二五四	平野	彌七	二六一
平川秋藏	二三九	西畑	水電株式會社	二四七	石上	一五郎	二五四	根本	子之次郎	二六一
岩瀬由周	二三九	田邊	信夫	二四七	菅谷	正三郎	二五五	赤羽	竹次郎	二六三
嶺島昇	二三九	吉野	一松	二四七	岩井	喜一郎	二五五	浪川	嘉兵衛	二六三
關寒作	二四〇	三神	晋	二四八	加藤	彌助	二五五	桂山	富太郎	二六三

海上郡

石毛縫右衛門	二六四	加瀬	晋平	二七二	穴澤	松五郎	二八〇	野口	平八郎	二八七
水野 金太郎	二六四	石毛	和平	二七二	齋藤	善助	二八一	島田	乙藏	二八八
宮島 芳兵衛	二六四	加瀬	基弘	二七三	向後	松之助	二八一	浪川	肅太郎	二八八
鈴木 武治郎	二六五	江橋	榮治郎	二七三	石毛	才次郎	二八一	玉崎	神社	二八八
伊藤 龜太郎	二六五	常世田	藤三郎	二七三	佐久間	大五郎	二八一	猿田	神社	二八八
木内 孫兵衛	二六五	鈴木	仁司	二七四	石毛	幸治	二八二	雷	神社	二八九
江ヶ崎 清三	二六六	林	友平	二七四	向後	喜一郎	二八二	浦賀	神社	二八九
江崎 常七	二六六	向後	理三郎	二七四	千葉	伊之助	二八二	仙瀧山	龍福寺	二九〇
玉置 政吉	二六六	飯田	作樂	二七五	高橋	達次	二八三	海	寶寺	二九一
璃 武雄	二六七	飯島	文治	二七五	嶋田	玄省	二八三	長	禪寺	二九一
浪川 肅太郎	二六七	鈴木	宣三	二七五	菅谷	佐右衛門	二八三	東	圓寺	二九一
阿姪 源三郎	二六七	鈴木	庄藏	二七六	穴澤	甚左衛門	二八四	蓮醫山	福藏寺	二九二
掛巢 安太郎	二六八	鈴木	庄藏	二七六	綱中	豐吉	二八四	匠 瑳 郡		
掛巢 卯之助	二六八	高梨	惣助	二七六	島田	英一	二八四	鏡線裁縫女學校	二九二	
宮内 孫三郎	二六九	加瀬	繁	二七七	川名	靜	二八五	越川	裁縫女學校	二九二
遠藤 英志	二六九	浪川	吉左衛門	二七七	石毛	右衛門	二八五	千葉縣	海匠整理組合	二九三
鮎田 勇治	二六九	波木	尙八	二七七	加藤	佐兵衛	二八五	椎名	榮藏	二九三
星野 彌五郎	二六九	齋藤	昇司	二七八	野澤	榮治郎	二八五	菊間	豐	二九三
浪川 確治	二七〇	崎山	俊治郎	二七八	佐藤	好雄	二八六	加瀬	谷一	二九四
加瀬 清	二七〇	加瀬	了介	二七八	野口	忠平	二八六	川口	長三郎	二九四
高安 太重	二七〇	笠原	醫院	二七九	渡邊	彌七	二八六	菊間	八郎右衛門	二九四
岩井 賢之助	二七一	加瀬	房吉	二七九	君塚	吉太郎	二八六	佐藤	清	二九五
崎山 金三	二七一	平野	照逸	二八〇	今井	富藏	二八七	片岡	健曹	二九五
鈴木 岩太郎	二七二	滑川	昇	二八〇	島田	勝助	二八七			

鈴木 昇	二九五	鈴木	喜十郎	三〇三	松山	神社	三二二	富澤	寅之助	三一八
越川 保三郎	二九六	野村	卓爾	三〇四	福	善寺	三二二	岩佐	定治郎	三一九
中川 賢之助	二九六	匝瑳	富二郎	三〇四	川向山	長福寺	三二二	成毛	種吉	三一九
吉田 喜三郎	二九七	椎名	喜一郎	三〇四	慈士山	廣濟寺	三二三	菅井	武夫	三二〇
角田 利平	二九七	江波戶	貢	三〇五	東谷山	安養寺	三二三	石毛	舜次	三二〇
木原 隆	二九七	深田	正	三〇五	白鳥	神社	三二三	手賀	佐助	三二一
須合 民爾	二九七	栗本	萬平	三〇五	香 取 郡			菅谷	浩平	三二一
土屋 庫之助	二九八	林	茂	三〇六	日新	小學校	三二四	林	四郎兵衛	三二一
齋藤 輝繼	二九八	大木	榮	三〇六	日吉	尋常高等小學校	三二四	林	敬司	三二二
齋藤 彌重郎	二九九	高橋	淺治郎	三〇七	多古町	水戸農事行組合	三二四	佐藤	彦次郎	三二三
椎名 省三	二九九	伊橋	善一	三〇七	五木田	茂重郎	三二五	伊藤	武	三二三
片岡 隆治	二九九	大木	仁助	三〇七	神里	尋常高等小學校	三二五	菅谷	寬	三二三
飯島 一太郎	三〇〇	品村	周作	三〇八	八都村	信用販賣購用組合	三二六	越川	廣藏	三二四
伊藤 仙一郎	三〇〇	鈴木	壽	三〇八	秋葉	作重	三二六	菅谷	萬太郎	三二四
鈴木 正義	三〇〇	林	謹	三〇八	高岡	德次郎	三二六	滑川	保治郎	三二五
越川 一	三〇一	福島	辰三郎	三〇九	佐藤	源爾	三二六	鎌形	勁	三二五
戸村 德次郎	三〇一	大松	一期	三〇九	神生	信用販賣購用組合	三二六	成毛	俊一郎	三二五
片岡重右衛門	三〇一	大木	包祐	三〇九	菅井	藤與	三二七	香取	武憲	三二六
佐久間喜以知	三〇一	加瀬	勘司	三〇一〇	梶取	宗次	三二七	鎌形	富五郎	三二七
太田 好太郎	三〇二	並木	清一	三〇一〇	保科	幸太郎	三二七	平山	俊一郎	三二七
山崎 定吉	三〇二	品村	元右衛門	三〇一〇	宇井	太衛	三二八	宮崎	金一郎	三二七
林 信亮	三〇三	梅谷	長祥	三〇一〇						
越川 平太郎	三〇三	天照皇	大神社	三〇一一						

菅井 四郎	三二八	椿 惠三郎	三三七	保立 誠一郎	三四五	繪鳩 麟爾	三五三
竹内 豐藏	三二八	飯田 博久	三三七	土屋 靜造	三四五	戸村 勝雄	三五四
竹内 昌平	三二九	大湊 雄治郎	三三七	高木 勘治	三四六	青野 庸太郎	三五四
那須 善作	三二九	柳堀 文喜	三三八	七五三 武	三四六	荒井 茂雄	三五四
土屋 理一郎	三三〇	木内 由藏	三三八	三枝 芳雄	三四六	宮崎 松太郎	三五五
越川 嘉助	三三〇	伊藤 靜壽	三三八	石井 朝光	三四七	宮崎 豐二	三五五
柴田 庄太郎	三三〇	前田 佐	三三九	渡邊 廣藏	三四七	川島 平三郎	三五五
佐藤 忠三郎	三三〇	伊藤 德三郎	三三九	林 作二郎	三四七	實川 廣	三五五
宮應 幸太郎	三三一	田 信吉	三三九	八木 金作	三四八	宮内 眞藏	三五六
渡邊 新一	三三一	細野 三爾	三四〇	高橋 嘉三郎	三四八	野口 昭	三五六
青柳 孝造	三三一	八木 常之助	三四〇	宮内 康太郎	三四八	石毛 三之助	三五六
向後 春藏	三三二	並木 匡平	三四〇	椎名 力	三四八	小山田傳次郎	三五六
木内 幸司	三三二	林 元治	三四一	寺島 濱治郎	三四九	椎名 源壽	三五七
鈴木 平重郎	三三三	花香 儀兵衛	三四一	菅井 庄一	三四九	鎌木 林藏	三五七
平山 齋夫	三三三	飯田 平太郎	三四一	八本 誠治	三五〇	林 伊之助	三五七
宮本 清市	三三三	宮内 清治郎	三四二	高木 仲義	三五〇	秋山 丑吉	三五八
圓藤 重雄	三三四	寺本縫右衛門	三四二	佐藤 幸太郎	三五〇	大木 健之助	三五八
相川 憲司	三三四	小笠原市五郎	三四三	高木 仁	三五〇	及川 林次郎	三五九
木内 要朗	三三四	竹 蓋 透	三四三	遠藤 太平	三五一	村上 信雄	三五九
石井 銀治郎	三三五	菅佐原源治郎	三四三	立花 幸	三五一	高木 千太郎	三五九
五木田太郎吉	三三五	平山 昌示	三四四	菅佐原德太郎	三五一	高木 幸索	三六〇
江波戸盛太郎	三三六	飯田 虎之輔	三四四	平山 成之助	三五一	島田 辰五郎	三六〇
秋葉 伊重	三三六	石毛 正衛	三四四	香取郵便局	三五二	成田 農夫雄	三六一
飯田 善郎	三三六	伊知地源一郎	三四五	日色 長五郎	三五二	平野 金示	三六一

林 竹松	三六一	高橋 正雄	三七〇	植田 保	三七九	小堀 誠爾	三八九
宇井 與一郎	三六一	大網 富衛	三七〇	伊藤 博正	三七九	香取 佐忠	三九〇
高木 用平	三六二	鈴木治左衛門	三七〇	石毛 正策	三八〇	日下部 直木	三九〇
内田 義太郎	三六三	宮崎 俊雄	三七一	岩田 敬三	三八〇	菅谷 彦太郎	三九一
石井 熊太郎	三六三	岩立 信一	三七一	鎌形 三四郎	三八〇	向後 武三郎	三九一
宮野 昌平	三六三	菅谷 仁兵衛	三七二	鎌木 壽一郎	三八一	木内 毅	三九一
吉田 清太郎	三六四	石井 乙治郎	三七二	宮口 儀三郎	三八一	大木 正橋	三九二
石川 吉太郎	三六四	日色 章三	三七二	高木 卯之助	三八二	及川 貫一	三九二
高木 清一郎	三六五	井上治右衛門	三七三	伊藤 慶一	三八二	菅谷 淳三	三九三
平山 忠義	三六五	上代志津馬	三七三	横田 勇太郎	三八二	飯田 文雄	三九三
飯田 總三	三六五	吉田 知三	三七三	宮負 松治郎	三八三	青柳 千代治	三九三
菅谷傳右衛門	三六六	小山田 倉吉	三七四	布施 儀三郎	三八三	菅谷 勘三郎	三九四
新井 保	三六六	字井澱粉工場	三七四	林 初太郎	三八四	伊藤 素介	三九四
菅谷 武雄	三六六	遠藤 延平	三七五	香取 重忠	三八四	平山 匡男	三九五
林 直重	三六七	萩谷 作次郎	三七五	藤田 嘉重	三八五	菅谷 幸司	三九五
鎌形 孝太郎	三六七	青柳 要三郎	三七五	高橋 辰司	三八五	宮崎 忠雄	三九五
石橋 龍三	三六七	那須 要	三七六	遠藤 孝之助	三八六	小野 元平	三九五
關 平三郎	三六八	林 勳	三七六	向後 聰夫	三八六	宮内 弘	三九六
成毛 民三郎	三六八	宇井 兵之亮	三七六	根本 源治郎	三八七	惠畑 良平	三九七
高岡 常三	三六八	高木 泰三	三七七	向後 源利	三八七	向後 晋	三九七
川島 和助	三六九	山内 進	三七七	飯田 善次	三八七	竹内 利一	三九七
林 平太郎	三六九	石毛 功	三七八	宮崎 藤一郎	三八八	菅谷 源兵衛	三九八
奈良 利秋	三六九	玉澤 五郎	三七八	小澤 豊松	三八八	渡邊 正雄	三九八
高木 保太郎	三六九	越川 清四郎	三七八	竹内 眞太郎	三八九	大谷 達雄	三九八

青柳 三郎	三九九	能 滿 寺	四一〇	豐田耕地整理組合	四一八	守 德 松	四二六
郡司 勘兵衛	三九九	妙見山妙福寺	四一一	加瀬 嘉一郎	四一八	龍 崎 貞	四二六
日下部 昇	四〇〇	龍尾山光福寺	四一一	小西 鍋吉	四一八	中 間 三 治	四二六
吉田 醫院	四〇〇	高巖山長泉寺	四一一	劍持 安太郎	四一九	渡 邊 賢 三	四二七
田 口 隆外科醫院	四〇一	北陸山東榮寺	四一二	服部 岩吉	四一九	齋 藤 紋 治	四二七
中和 醫院	四〇一	天澤山崇福寺	四一二	早川嘉左衛門	四一九	君 塚 文 五 郎	四二七
博愛堂病院	四〇一	金台山妙廣寺	四一二	山崎 又吉	四二〇	白 石 節	四二八
和田 醫院	四〇二	天竺山龍尾寺	四一三	鈴木 朝次郎	四二〇	小 藤 松 太 郎	四二八
高木 夕二	四〇二			渡 邊 巖	四二〇	石 井 直 藏	四二八
香取 神宮	四〇三			早川 六郎	四二一	福 原 德 太 郎	四二八
八坂 神社	四〇三			地 引 勳	四二一	岡 村 文 五 郎	四二九
森 丑 松	四〇四			高梨 庄平	四二一	石 井 竹 藏	四二九
松崎 神社	四〇四	館山北條町役場	四一四	田村 政吉	四二二	黑 川 榮 治	四二九
木内 大神	四〇五	天津町役場	四一四	石井 林治	四二二	吉 田 庄 七	四三〇
東大 神社	四〇五	稻都村役場	四一四	神崎 吉藏	四二二	永 井 保 治	四三〇
愛宕 神社	四〇六	白濱尋常高等小學校	四一五	日吉 貞藏	四二三	田 村 逸 郎	四三〇
楠木 祠宇	四〇七	神餘尋常高等小學校	四一五	青木 嘉一	四二三	唐 鎌 與 三 郎	四三〇
佐原支教會	四〇七	千歲尋常高等小學校	四一五	前橋 吉五郎	四二三	間 宮 政 七	四三一
長妙山淨國寺	四〇八	山名修養團消防部	四一六	近田 房治郎	四二四	山 口 晋 次 郎	四三一
惣持 寺	四〇八	外房信用販賣組合	四一六	栗原 勝治郎	四二四	鈴 木 房 男	四三一
善光 寺	四〇八	豐田信用販賣組合	四一六	佐久間 勝治	四二四	飯 田 義 人	四三一
大倉山清實院	四〇九	有隣信用販賣組合	四一七	川 名 傳	四二五	平 野 平 五 郎	四三一
弘富山清水寺	四〇九	東條村信用販賣組合	四一七	竹澤 董次郎	四二五	忍 足 太 一	四三一
法雲山新福寺	四〇九			和 田 常 三 郎	四二六	廣 田 光 治	四三一

安房郡

石井 忠藏	四三三	石田 理一	四四〇	小 宮 茂	四四八	山 口 市 藏	四五四
高梨 松治郎	四三三	渡 邊 繁	四四一	加藤 作兵衛	四四八	渡 邊 政 次	四五四
座間 一	四三四	城直 安藏	四四一	庄司 高次	四四八	小 瀧 益 而	四五六
吉野 貞藏	四三四	中村 時中	四四一	渡邊 伊平	四四八	鈴 木 酒 造 店	四五六
原 喜三郎	四三四	川 上 昇	四四二	君 塚 昇	四四九	小 島 常 吉	四五六
三幣 大作	四三五	田村 徹二	四四二	小瀧 孫次郎	四四九	眞 田 金 治	四五七
安田 良治	四三五	奥村 利慎	四四二	栗 原 剛	四五〇	後 藤 耳 科 醫 院	四五七
小澤 公司	四三五	小澤 頼一	四四二	岩 浪 祐 治	四五〇	安 房 神 社	四五七
渡邊 常松	四三五	吉野 直治	四四三	黒川 直治	四五〇	高 家 神 社	四五八
八代 竹太郎	四三六	川 名 五 七	四四三	石 井 武 雄	四五〇	熊 野 神 社	四五八
羽山 格次	四三六	龍崎 春治	四四三	前田 徳治	四五〇	莫 越 山 神 社	四五八
森田 寅松	四三六	高梨 温	四四四	柏谷 良太郎	四五〇	天 理 教 鴨 川 支 教 會	四五八
牧野 新一	四三七	小瀧 伊之吉	四四四	山口 權作	四五二	觀 立 山 三 福 寺	四五九
座間 海治	四三七	植木 幹	四四四	山下 喜三	四五二	安 房 高 野 山 妙 音 院	四五九
小林 龜吉	四三七	島田 唯次	四四五	長 田 徳 藏	四五二	正 木 山 西 光 寺	四六〇
落合 正	四三七	島田 純	四四五	加藤 五郎	四五二	多 聞 寺	四六〇
小川 房次	四三八	川名 熊吉	四四五	銀持 幸雄	四五二	天 神 山 紫 雲 寺	四六一
鈴木 周太郎	四三八	石井 嘉市郎	四四五	石井 勝治郎	四五三	延 壽 山 觀 音 寺	四六一
長居 榮	四三八	川名 徳治	四四五	安房金融株式會社	四五三	靈 巖 山 龍 淵 寺	四六一
戸倉 浦之助	四三九	佐久間 孝	四四六	伊藤 國仁	四五三	福 知 山 高 傳 寺	四六一
石橋 磯	四三九	羽山 豐吉	四四六	小谷 八之助	四五四	富 士 山 智 藏 寺	四六二
渡邊 勝太郎	四三九	小柴 司定	四四七	辻井 嘉一	四五四	勝 榮 山 日 蓮 寺	四六二
九重郵便局	四四〇	川崎 與市	四四七	古谷 房次郎	四五四	自 性 院	四六二
鈴木 謹一	四四〇	渡邊 周	四四七	池田 靜壽	四五四	富 川 山 長 安 寺	四六三

白瀧山瀧谷寺……………	四六三	鳥飼 久次郎……………	四六九
寺 正 院……………	四六三	岩瀬 爲吉……………	四六九
日色山國分寺……………	四六四	海上八幡宮……………	四六九
威武山正文寺……………	四六四	銚港 神社……………	四七〇
千葉郡その他		渡海 神社……………	四七〇
島田 暉司……………	四六五	若宮八幡宮……………	四七一
慈光山金乘院……………	四六五	椎熊 保……………	四七一
稻野山千手院……………	四六六	古谷 吉造……………	四七一
茂原女子技藝學校……………	四六六	江澤 甚一……………	四七二
豊岡尋常高等小學校……………	四六六	木川 浩逸……………	四七二
小池 榮治郎……………	四六七	河野 晃……………	四七二
井下田 良平……………	四六七		
伊藤 精一……………	四六七		
飯岡信用購買販賣組……………	四六八		
石田 關……………	四六八		
鎌田七右衛門……………	四六八		
岡田 貴仁……………	四六八		
安田 台城……………	四六八		
中島 義質……………	四六八		

市 部

目次終

千葉縣勢

總 說

地 勢
房總とは安房・上總・下總三國の總稱で、その内利根川以北に分れる下總の一部を除くほかは千葉縣の管轄に屬する。關東平野につらなつて、帝都の東に方り北より南に半島狀をなして太平洋に突出し、その沿岸は約百里に亘るばかりでなく、北は利根川、西の一部は江戸川によつて地を劃せらるゝから、四面水を環らすの土地である。

氣候は中和にして地味肥沃、陸は五穀の耕作に良く、海には魚介の棲息が多い。かく水陸の天恵に富む樂土たる爲め今より約二千六百年前、早くも天孫人種

のため開拓せられたるのみならず、先史時代に於て夙にコロボツクル人種の居住したる跡があり、アイヌ人種の來り住したことは争ふ餘地がない。従つて古き沿革を有し、多くの史蹟に富むは勿論、到るところに風光明媚なる景勝地が散在して、自然の公園をなしてゐる。

沿 革

古くは安房・上總・下總の三國を總稱して總の國と呼んだ。成務天皇の御宇、國郡邑里の制を定められるや、印波、武社、上菟上、下菟上、菊間、馬來田、須東、伊甚、長狹、安房等の國造が置かれた。武家興隆時代には桓武天皇の曾孫高望王が平の姓を賜はつて上總介に任ぜら

れ、關東に覇を稱するの先驅をなした。源頼朝、幕府を鎌倉に開くや、その舉兵に黨したる故を以て上總を平廣常に與へたが、廣常は罪を得て足利義兼これに代り、下總は千葉常胤及び結城朝光が分領した。

次で建武中興を経て室町時代に至り、更に群雄割據の世となるや、千葉氏、里見氏、武田氏等が威を振ひ、天下の權徳川氏の掌中に歸するや、藩屏として數多の小藩に分割せられ、要地には悉く譜第を封じ、その間處々に旗本領及び幕府直轄の天領が置かれた。

かくて徳川氏の治世三百年、明治維新後、安房には館山縣ほか三縣、上總には大多喜縣ほか十縣、下總には佐倉縣ほか六縣、他に別に三縣設置せられ、明治四年これらは木更津、印旛の二縣に統合され、同六年二縣合併して千葉縣となり、今日に至つた。

交 通

縣下到る處、大徑小徑縱横に開通し、交通機關たる鐵道をはじめ、電氣軌道、輕便鐵道、自動車道すべてを網羅し、眞に四通八達の盛觀である。

産業

産業は農業を以て第一となし、工業、水産業、蠶業、牧畜業、林業等がこれに次ぐ。

平林、淡水、坦々たる間、實に二十萬町歩の沃田、肥畑を有し米、麥、粟、蕎麥、豆菽類、蕨果、蔬菜、果實の年産額は實に莫大の額にのぼつてゐる。蠶絲業の經營は明治十四年以後にかゝり、駁々として發展し、特に氣候に於て早蠶をなし得るの利益あるため、農家副業の第一位を占めてゐる。また縣下、到る處に森林繼續し、殊に松杉の發育最も良好にして檜櫟の雜木これに次ぐ。佐倉炭、池田炭の木炭は全國的に有名である。牧畜業の淵源は今より千二百有餘年前、文武天皇の御宇にはじまり、安房の嶺岡牧、下總の

小金牧及び佐倉牧は、古來三大牧場として著名である。牛を第一とし、馬及び豚これに次ぎ、乳製品の産額の多きこと全國府縣に冠絶する。また三面海をめぐらし、港灣漁場に富むため、漁撈の利は北海道に亞いで全國の首班にある。京濱地帯に近きため、從來工業は餘り振はなかつたが、醬油、酒類、油類の如きは古來本縣の特産として名聲を博してゐる。

由來大藩巨城を有せざりし本縣は、未だ大商業地を持つたことはないが、古來各地方に散在する小商業地はその數少なくない。即ち下總に在つては千葉、佐原小見川、銚子、旭、八日市場、佐倉、船橋、野田、松戸の市町、上總では東金、木更津、横芝、松尾、成東、茂原、一宮、廳南、大多喜、大原、勝浦、久留里、湊姉ヶ崎、五井、八幡の各町、安房では館山、北條、鴨川、勝山の各町にして、その他の農村、漁村に於ては小規模の商業

商業

を營まるゝのみである。

教育

明治維新前に於て、房總二十有餘の列藩はそれ／＼學問所を設けて文武の道を講ぜしめ、佐倉、大多喜の二藩は特に藩學の獎勵に力めた。廢藩置縣後、學制を頒布して一般教育の普及を計られるや、文運更に興りて舊觀を一新し、各種の學校が續々設置された。小學兒童の就學歩合は殆んど百パーセントを示し、各種の施設も大に整ひ、中等教育、實業學校と相俟つて成績頗る良好である。

本縣に官幣大社二社あり、一は香取神社にして他は安房神社である。香取郡にはまた別格官幣社小御門神社鎮座し、長生郡一宮町の玉前神社は縣下唯一の國幣中社、縣社は十三社をかぞへる。名利には成田町新勝寺、安房湊誕生寺同濟澄寺、保田町日本寺、市川市法華經

寺、千葉郡生實村大嚴寺、茂原町藻原寺同町鷲山寺、長生郡水上村笠森寺、山武郡源村藥王寺、銚子市圓福寺、君津郡秋元村神野寺などがあつてその名特に著はれ、各宗寺院總數は三千有餘に上つてゐるが、年々合併その他の爲めその數を減じつゝある。

官衙學都の地

千葉市

千葉市は千葉縣廳の所在地にして、地勢概ね平坦なるも、東北に丘陵を負ひ、西は東京灣に面する。都川は譽田高田に發し、白井、千城の二村を過ぎ、支流細流を合して市の中央を貫流し、袖ヶ浦に注ぐ。官衙、學校多く、商業また殷賑の地である。

今より大凡そ千三百年前、すでに千葉の里、池田の里、結城の里を設けられしより見ても、いかに古くから發達せし地

なるかを察するに難くない。千葉常胤が千葉城を築いた當時は、實に表八千軒裏八千軒合せて一萬六千軒を有する大都會であつた。本市は大商業地でなく、工業地でなくまた農業地でもない、學校と官衙とさうして軍隊とによつて保つ都會地であるとの批評もあるが、市街地は流石に商賈稱比するを以て商業従つて殷賑である。しかし市街地外は漁業家及び農家の數が多い。主産物は甘藷澱粉、醬油、海苔、淺蜆等である。

官公衙には千葉縣廳をはじめ、地方裁判所、刑務所、稅務署、憲兵分隊、警察署、鐵道事務所、衛生試驗場、種畜場、その他があり、學校の主なるものは千葉醫科大學、男女各師範學校、中學校、高等女學校等で、裁縫女學校、技藝學校の如き私立學校の數も頗る多い。

交通の便頗るよく、總武本線及び房總線を通じ、東京市との間には省線電車も通つてゐる。千葉神社、大日寺、千葉寺

漁港に誇る

銚子市

の如き古社名刹のほか名所舊蹟多く、猪鼻城址、袖ヶ浦、君待橋、池田坂、千葉公園、羽衣松、大正天皇御手植松等はその主なるもので、千葉寺の櫻花、猪鼻下のお茶の水、綿打ヶ池、七つ塚、姥ヶ臺御殿跡も廣く知られてゐる。

北は利根川を隔て、茨城縣に境し、東は太平洋に面する。昔の荒野、飯沼の二ヶ村で、天正十八年以來徳川氏の所領となり、慶長十七年その臣高野五郎左衛門をして檢地帳をつくらしめたことがあり元和元年土井大炊頭に封じ、寶永元年酒井讃岐守の領土に移り、その後松平外記、代官間部越前守の支配を経て松平輝貞の領分となり、子孫世襲して明治維新に及んだ。

漁業、工業、商業の最も旺盛な土地で

水産物は鱈、鯛、鮭、鯉、鮪等を主とし、また工産物は醤油、澱粉、製油、味噌、木綿織物等をかぞへ、その産額莫大に達し、就中醤油は本市の特産物にして年醸造額六萬石に上る。銀行會社等の商業金融機關が多數備はり、また在郷軍人分會産業組合等は成績優秀なるを以て縣下に著名である。

利根の巨浸八十里、洋々たる海に注ぐところを銚子川口と稱し、澎湃たる巨濤と汪洋たる水流と相會する所、雪を散らし、渦を結び、舟航の危険云ふべくもなく、近くに千人塚の古塚あり、その他市内の名所舊蹟としては御野立所、夫婦ヶ鼻、黒生浦、伊勢路浦、銚子觀音堂、清水の井戸、和田不動堂、淺間神社等があり、大吠岬また有名である。

住宅都 市川市

天皇房總の地に行幸の砌、霖雨洪水あり船橋を架して御道筋を通ぜしより地名を船橋と改稱するに至つたといふ。

陸には總武鐵道横斷し、また東京押上及び上野に通ずる京成電車あり、海には東京と往復する汽船を有し、交通極めて便利である。

農業、漁業及び商業は本市の三大産業にして、農産物の主なるものは米、麥、落花生、甘藷等で、水産物は魚介、海苔である。

意富比神社、慈雲寺、淨勝寺のほか神社、寺院が多數あり、海岸は千鳥御獵地で八町歩餘の鹽田がある。また茂呂神社の境内には俗に淺田山と稱する眺望絶佳の高臺あり、近年移住者頗に殖え、こゝから東京へ通勤するものが多い。

農耕地 千葉郡

本市は南は行徳町、北は松戸町に連り西は江戸川に臨み、町の北部は一帶の丘陵にして、眞間山より國府臺に及び、他は一般に平地にして田園及び市街地が相連つてゐる。

往昔國府の所在地にして、市川の名の初めて現はれたのは戰國時代、千葉氏の所領當時である。古へより葛飾郡の管轄となり、風早庄、八幡郷等に屬してゐたことがあつた。

産業地といふよりはむしろ住宅地として發達したところであり、本縣下中東京に最も近き位置を占め、東京人の別荘も多い。産業は農業を第一とし、工業、漁業がこれに次ぎ、主産物は米、麥、桃等である。

國道千葉街道の要衝にあたり、縣道その他の道路四通八達し、鐵道總武線及び京成電車の通るあり、市川驛から東京銀座まで、雨の降る日でも傘を用ひずに行つて來られるといふ便利さである。江戸川には利根川汽船及び各種の私船常に往

復して運輸交通極めて便利である。弘法寺、總寧寺の古刹があり、國府臺古城址、國府臺古戰場、手古奈社、眞間の橋橋等の名所舊蹟は夙に世人に膾炙してゐる。

産業都 船橋市

本市は東京灣中最北の沿海地にして、地勢概ね平坦、東部及び西北部一帯の高地には沃野相連り、東は千葉郡津田沼町及び二宮町に境し、北は八榮村に接し、西は市川市及び行徳町に連る。沿海の地は往昔海であつたが、漸次開墾せられたものであつて、市街地は市の中央に存し海老川その市街を貫流して、海に注いでゐる。

景行天皇の四十年、日本武尊御東征の際、船にて當地に來り上陸せられた當時は、地名を港郷と稱したが、同五十三年

本郡は千葉縣の中樞地にして、下總國の西南部に位し、南は上總國に境して市原郡に接し、東は山武郡、北は印旛郡、西北部は東葛飾郡に隣して、西部一帯は東京灣に面する。地勢全く平坦にして山岳なく、河川また僅かに東部に鹿島川の支流があつて、北の方印旛郡に流るゝと都川の西に流れて東京灣に注ぐほかは中央部に花見川、花崎川の細流あるのみである。往古は小金原に連つて千葉野の曠野であつたこと、今なほ習志野原の如き原野を留めて當時の面影を存する。郡内に千葉市を抱いてゐる。

面積は三〇方八千餘、戸數一萬四千六百餘戸、人口は八萬一千五百餘人をかぞへる。

本郡は氣候の激變なく、水陸共に一般に農作物に適應し、産物相當に豐饒であるけれども、その面積は他郡に比して狭少なるを以て、産額またこれに伴ふは勿論である。米、麥、粟、蠶豆、蜀黍類を主なるものとする。養蠶業は他郡に比し

盛賑の觀はないが、斯業に對する農家の觀念著るしく深刻となり、一般的に普及増加の傾向にある。牧畜はこれを專業とする者なく、従つて牧場等も見ない。家禽の飼養は農家副業中の第一位を占める。千葉市蘇我及びその近郊より製作される澱粉類は近年著るしく頭角をあらはし、今や郡内工業界の第一位にある。次ぎは醤油、製油、酒類にして、その他織物、染物、菓製品、煉瓦、瓦なども尠なくない。

由來本郡は林野の連續、田畑の斷續あるも、水澤に富まず、湖沼に乏しいばかりでなく、指を屈すべき河川がないため淡水魚産は記すに足らない。鹹水産も、西部一帯が東京灣に面してゐるが、漁業者が少數であるため、産額また割合に少ない。

郡單位の各種機關としては、千葉郡農會、千葉郡地主會、千葉郡澱粉同業組合、千葉郡教育會、千葉郡聯合青年團などがある。

幕張町

本町は郡の西部に位し、南西は東京灣に面し、東南は花見川を以て千葉市に境し、東は横橋村、北は大和田町及び二宮町、西は津田沼町に接し、夫婦梅、馬加城址、武石城址の舊蹟がある。

町民の大多数は農業を営み、幕張西瓜の特産を有し米、麥、甘藷の産多く、養豚業も盛んである。國道に沿ふ地域は商業地區を形成する。

津田沼町

當町は郡の最西部に位し、西は船橋市東は幕張町、北は二宮町に接し、南は東京灣に面する。

地勢は概ね平坦、東西三十町、南二十町餘を有し、久々田、鷲宮、谷津、藤崎大久保の五區に分ち、大小麥、米及び甘藷等を主産物とし、蔬菜、豆菽類をも産する。

する。

町農會、漁業組合、青年團、軍人分會その他各種團體の成績優秀である。

大和田町

地勢は平坦にして山嶽なく、林野に富む本町は、郡の北部に位し、南は幕張町横橋村に、北は陸村に、西は豊富村及び二宮町に接し、習志野原、六方野原に接したる地積四百有餘町歩は陸軍練兵場となつてゐる。

大和田、萱田町、勝田、萱田上、萱田下ほか五區にわかれ、農産物の産多く、萱田飯綱神社境内では毎月一回市場を開き、商業盛んである。

生濱町

當町は曾ての生實濱野村にして北生實南生實、濱野、村田、有吉の部落より成り、郡の西南端に位して東京灣に面し、

地勢東西に長く、南北に短く、南部は村田川を境として市原郡八幡町に接する。

米、麥、葱、甘藷、馬鈴薯、薪類等を主産物とし、町内には生實城址の舊蹟、本行寺の古刹があり、また縣立感化院たる生實學校がある。

二宮町

習志野原を以て大和田町に續く本町は郡の西北部にあり、西は船橋市、南は津田沼町につづく。面積一方里餘。農業最も盛んにして米、麥、甘藷、蔬菜を産し從來習志野には陸軍騎兵四個聯隊屯在するほか、更に大正五年陸軍騎兵學校が移轉して來たため、商業また發展の一路を辿りつゝある。

舊蹟に仁田四郎忠常の古址がある。

椎名村

當村は郡の最南部に位し、市原郡菊間

村及び市原村に接する。村内河川なく、山岳なき平坦の地である。

村内を茂呂、菊田子、古市場、椎名崎ほか五區に分ち、明治維新前は森川出羽守の所領地であつた。

米麥の産最も多く、大豆、甘藷、清酒麴、菜種等これに次ぎ、また山林多きため薪炭、用材等をも産出する。

譽田村

本村は郡の東南部に位し、西は千葉市に接し、南は市原郡市東村、東は山武郡土氣本郷町に境する。地勢概ね平坦にして東西二里十八町、南北一里五町に及び舊幕時代は生實藩に分屬した。

主産物には米、麥、大豆、菜種、落花生、木材、椎茸類及び栗などがある。霧の屋、恕寛塚の舊蹟がある。

白井村

當村は郡の東端に位し、地勢平坦にして東北に長く、南北に短い。東は山武郡土氣本郷町及び印旛郡川上村に挟まれ、北は更科村、南は譽田村、西は千城村に接する。

當村は郡の中央部に位し、東は白井村及び更科村に境し、西は千葉市に接し、南は譽田村に、北は印旛郡旭村に隣する地勢一般に平坦、都川は中央部を西流して灌漑に便し、米、麥、甘藷、蔬菜等の農産物が多い。

千城村

坂尾には姫櫻の名木があり、辨天池、御手掛の櫻、城山等の名蹟がある。

横橋村

本村は千葉市の東部に位し、地勢平坦にして東南より西北に延び、鹿島川が村の中央を貫流する。西は千城村、南は白井村に接する。

本郷、新郷、米ノ内、廣尾、花島ほか八區に分れる本村は、郡の中央部に位し縣廳を距ること北方へ一里三十二町、幕張、大和田の二町と接し、地勢概ね平坦村農會、産業組合、在郷軍人分會、消防組等の各種團體いづれも成績よく、米、麥、里芋、甘藷苗、薪炭、藪、鹽俵、苦等を主産物とする。

陸村

當村は郡の北部に位し、地勢平坦、土地肥沃、天與の農産地にして、米麥をはじめ甘藷、豆菽類及び薪等をも産出する。桑納、麥丸、尾崎、花輪、寺臺ほか九區に分れ、東は印旛郡阿蘇村、北は同郡船穂村、西は豊富村、南は大和田町に接し、城橋川の支流は村の中央を貫いて印旛沼に注ぐ。八幡神社、貞福寺ほか神社寺院の數が多い。

豊富村

郡の最も北部に位する本村は陸、大和田、二宮の町村に境し、東西一里餘、南北二里餘に亘り、村内を神保神田、八木ヶ谷、大神保、小室、小野田ほか八區に分ち、舊幕時代には旗本及び代官領であった。住民は概して農産業を營み、小數の商人を占めてゐる。

家あり、主産物は米、麥、大豆、甘藷、切干、薪炭等である。

農産漁産の市原郡

本郡は上總國の一部に屬し、千葉縣の中央西部に位する。東は丘槽、原野を以て長生、夷隅二郡に境し、北は河統、丘陵を以て千葉郡及び山武郡に連り、南西は山脈、原野を以て君津郡に隣し、北西は東京灣にのぞむ。

地勢は南部一帯槽脉蜿蜒するところ、また支脈相錯綜して最高峯は海拔二一五米突に達する。養老川はこの谿谷を走つて北に貫通し、數多の支流を合せて次第に廣潤なる流域をつくりつゝ東京灣にそゞぐ。廣袤東西五里三十餘町、南北八里三十餘町、面積二三方里餘あり、戸數一萬三千三百餘戸、人口七萬一千八百餘人を占めてゐる。

郡民生業中第一位を占むるものは農業にして、耕地面積一萬一千六百町歩、米、雜穀、豆菽類、蔬菜、菓の産が殊に多い。

養蠶は明治二十年頃より發達普及を遂げて今日に至つたが、製糸業はまだ極めて幼稚なる域を脱するを得ない。畜産も牛馬を放牧するものなく、多くは役用として飼養されるに過ぎない。家禽は農家副業として一般に普及し、従つて産卵額も極めて多い。

郡内に於ける漁村は東京灣に面したる八幡、五井、千種、姉崎の町村にして、貝類の漁獲最も多く、近時海苔養殖もまた非常な發達を示してゐる。工産物としては特に擧ぐべきものなく、蓆吹の製造はその名顯著なるも、産出價額の微々たるを脱がれない。醤油、酒類、織物、足袋等に至つては、今後に期待がかけられる。本郡は五町十六ヶ村に區割される。即ち次の通りである。

町 姉崎、五井、八幡、牛久、鶴舞
村 千種、東海、市原、海上、菊間、湊津、市東、市西、養老、戸田、内田、高瀬、富山、平三、里見、白鳥

姉崎町

本町は郡の西北隅にあり、北は東京灣に面し、南部は丘陵連亘して幾多の谿谷をつくり、細流相合して境川となり、町の中央を流れて次第に廣き平野をつくつて東京灣にそゞぐ。

面積約一方里餘。往古は瀬海の一漁村に過ぎず、足利氏の末、眞里谷氏がこゝに築城してから繁榮を見た。千葉、木更津の中間に位し、商業股賑を呈する。

五井町

當町は郡の西北部にあり、八幡町を西南へ距る約三十町、八幡、市原、千種、海上、東海の町村と境を接し、北は東京

灣に臨む。地勢平坦、養老川は町の中央を貫流して海に注ぐ。

面積約〇・七四方里。田野遠く連り、地味豊にして米、麥、甘藷、藪、大豆、蠶豆を産し、魚介類も少くない。名蹟に諏訪の臺、五井鼻、陣屋址等がある。

八幡町

本町は千葉市を距る南へ二里十三町の地にあり、西は菊間村、西南は市原及び五井町に續き、北は村田川を以て千葉郡生濱町に境し、西北は東京灣にのぞんでゐる。

地勢平坦、地味肥沃、町内を八幡、五所、山木の三大字に分ち米、麥、魚類の産多く、交通至便。縣社飯岡八幡神社あり、靈域一帯は飯香岡と稱し、風景絶佳である。

牛久町

當町は舊明治村にして、郡の西部に在り、面積一方里餘、牛久、奉免、妙高、中ほか七大字より成り、小學校、青年學校の施設他に優り、青年團、在郷軍人分會、村農會、消防組等各種團體の業績また諸るべきものが多い。

鶴舞町

本町は郡の東南部に在り、東は内田村及び平三村に、西は牛久町及び高瀬村に南は富山村に隣り、地勢一般に丘陵地をなし、平藏川は町を南北に貫流する。往古はこの附近一帯の地をば沼田莊と稱してゐた。

産業は農を主とし、商業はあまり振はないが毎月一、六の日を定期市日として鶴舞區に開市し、四方より集まる商賈顧客で股賑を極める。

千種村

八幡町の北方約一里三十二町の地にある當村は、郡の西北部に當り、東海、姉崎、五井の町村と接し、西方一帯は東京灣にのぞみ、地勢概ね平坦、前川は村の中央を貫流し、灌漑排水の便多く、村民は農を専らとし、傍ら漁業及び養蠶を営むもの多く、海苔は當地の名産である。名所舊蹟では海上瀉、千種浦、瓶塚、白幡六郎墓等が知られる。

東海村

本村は郡の西北にあり、八幡町を距る二里餘、海上、千種、姉崎、五井の町村と隣接し、丘陵南部に起伏し、北部は田野遠くつらなり、養老川は村の東北部を流れて灌漑の便よく、地味肥沃である。面積〇・五一五方里。村民概ね農を業とし、一般に生活裕にして蠶業は近年聊

か振はざるも、なほ副業の首位たるを失はない。

市原村

往古の市原莊たりし當村は、郡の東北部にあり、東は菊間、濕津兩村に、西は五井町に、南は市西村及び養老川を隔てて海上村に對し、北は八幡町に隣る。

南方は土地一般に高く、二三の縦谷北方に展開し、大字能滿の東南方は久しく雜草繁茂の荒蕪地であつたが、開墾事業大に進捗し、その大部分は良圃と化した

海上村

本村は郡の西北部に在り、八幡町を西南に距る約二里餘、東は養老川を以て市西、養老の二村に隣り、西は東海村、南は戸田、姉崎の町村に接し、土地一般に高臺をなし、面積〇・八五方里。

近時農事一般に改良せられ、繩及び米

菊間村

八幡町の東につゞく當村は、郡の東北部に位し、東は濕津村に、南は市東村に接し、北は村田川を隔て、千葉郡生濱町に隣り、地勢一般に高く丘陵起伏せるも地味肥沃にして灌漑排水共に便利である。小學校の外に子守學校があり、教育程度は全般的に高く、祖先崇拜の念も發達してゐる。産物は米麥を主として豆類、蔬菜類、果實、繭等これに次ぐ。

濕津村

本村は郡の東北部にあり、東は村田川の上流を以て市東村に、西は市西、市原兩村に境し、南は長生郡長柄村に、北は菊間村に隣接する。面積は約一・三〇四

方里。

潤井戸、下野、喜留、大成ほか七字より成り、村民は農を専らとし、副業として養蠶、家畜、家禽の飼育が行はれる。林業もまた盛んであつて、薪炭は郡の優位を占める。

市東村

當村は郡の東北隅に位し、八幡町を東に距る約三里、地勢丘陵に富み、村田川は村の中央を流れて土地を南北二部に分ち、西方に向つて次第にひろがつて平野をつくる。

皇紀二千百年代には土氣の城主酒井定隆の所領であつて、徳川時代には代々旗本の支配下に屬した。役場は東國吉に置く。主産物としては米、麥、豆類、繭、薪炭等である。

市西村

本村は郡の中部にあり、東は丘陵によつて濕津村に、西は養老川を隔て、海上村に、北は市原村に各隣接し、男女青年團、婦人會、在郷軍人分會等の成績頗る優秀である。

養老村

當村は郡の中央部に位し、東は長生郡長柄、水上二村に境し、西は海上、戸田西村につゞき、南は内田村に、北は市西村及び濕津村に隣り、面積一方里餘、東南部には丘陵重疊し、谿谷悉く西北に向ひ、西部養老川流域は土地平坦にして地味また肥沃、田野よく開けてゐる。

縣道通じ交通の便極めてよく、村内には二子山、鶴城、將門塚等の名所舊蹟がある。

の調製にも機械力を用ふる傾向を生じた。水産では鰻、鱈を主とする。養蠶も相當に行はれる。

戸田村

本村は郡の中央に位し、西部は一般に丘陵連亘し、幾多の支脈を北東に派するが、中央部より東部は一帶に養老川の流域にして土地低平、田圃遠く連る。徳川時代には多く旗本の采地であつた。

村民の生業は農を主とし、副業に養蠶が行はれる。地勢上林産豊富にして、養老川には多少の水産物もある。

内田村

當村は郡の中央部にあり、地勢一般に高隆にして、水田は内田川の流域即ち市場、堀越、島田、江子田、安久谷等に開け、面積約〇・九方里を占めてゐる。

村民は専ら農を営み、且つ林業盛んにして、明治三十九年以來共有原野に年々植林を繼續しつゞあり、最近松、杉、榎等が非常に多くなつた。舊蹟には陣屋址

古墳、古穴等がある。

高瀧村

本村は郡の西南部に位し、東は鶴舞町に、西は君津郡馬來田村に、南は富山、里見兩村に、北は牛久町に隣り、東西兩部の村境は高峻を極め養老川、村の中央を貫流し、殆んど盆地の如き観がある。由來急斜の地多きため耕地割合に少なかつたが、近年續々開墾され、農業の進歩著るしきものがあり、また山地多きため林産甚だ豊富である。

富山村

當村は郡の南部に位し、東は平三村に西は高瀧村に隣し、南は里見村に、北は鶴舞町に境する。南部一帯は丘陵連り、北方に進むに従つて漸次低下し、古敷谷川村の中央を貫流し、西北に田野開く。縣道通じて交通の便よく、村内には大

正天皇御慶事記念櫻、吉澤城址、阿保塚等があり、蠶業及び果實の栽培が盛んに行はれる。

平三村

平藏、米原、小草畑の三大字より成る本村は、郡の東南隅に位し、長生郡西村富山村、里見村、夷隅郡上瀑村、本郡内田村、鶴舞町、長生郡鹿南町に各相接し地勢一般に高隆、南部の日本鼻は海拔二五米に及ぶ。面積約一方里餘。品質良好の米麥を産し、竹細工、蓆蓑の工産物あり、また林産も豊富である。

里見村

當村は往古の高瀧郷の一部にして、天正六年里見義弘の子義頼、その弟梅王丸をこの地に幽したる史實を有し、郡の南部に在り、面積一方里餘、地勢一般に高く、殊に東西兩部に山脈走り、中央を流

本郡は縣の最北部に位し、南北に長く東西に狭く、中央廣潤にしてその状や、三角形をなしてゐる。西は江戸川を境として東京市及び埼玉縣に接し、北は利根川を隔て、茨城縣と相對し、東は千葉、印旛の二郡に接し、南は東京灣に莅んでゐる。

廣麥東西八里餘、南北一〇里餘、面積は三〇方里餘を占め、現在戸數四萬五千七百餘、二十四萬一千五百餘の人口を擁してゐる。

本郡の産業は工業を以て第一となし、農業、水産業、蠶業、牧畜業、山林業の順位を以てこれに亞ぐ。工業物中野田の醬油はその名全國に喧傳し、流山の味淋また名高い。その他梨、桃、大根切干、葉煙草、海苔等を本郡著名の特産物としてかぞへる。

元來利根、江戸の兩河に抱かれるため地味肥沃、一般に耕作に適するを以て農産物に富み、米、麥、大豆、南瓜、甘藷など頗る産額が多い。養蠶は漸次發達し

つゝあるも、縣内各郡中第六位である。

一茶は吟じて

母馬が番して飲ます清水かな
呼び合ふや長閑に暮らす野馬哉

といつた小金ヶ原も、明治維新後開墾せられて良田沃畑と化し、牛馬の放牧は全く昔の夢となつた本郡は、畜牛も畜馬も遙かに他郡に及ばず、僅かに養豚が農家副業として比較的盛んに行はれるに過ぎない。

東京灣には漁業行はれ、淺蛸、鰕、鱈、鱒、鼠頭魚が多く、海苔養殖も隆盛である。醬油は全國に知られるだけに産額も頗る多く、縣下第一位を占めるは勿論、各府縣中に冠絶してゐる。その他工産物には酒類、製絲及び眞綿、織物などがかぞへられる。

郡農會、郡地主會、葉煙草耕作聯合會、郡教育會、學齡兒童保護會、衛生會、郡聯合青年團、郡養蠶組合聯合會、郡織物組合、その他郡單位の各種團體多く、いづれも旺盛な活動を展開してゐる。

れる養老川を挾んでゐる。

生産は農を主とし、養蠶業の進歩近年に至つて著るしく、本村全面積の六割は山林にして樅、櫟、檜等用材の産が多い。

白鳥村

本村は郡の最南端にあり、丘陵崎嶇として紛糾し、懸崖絶壁のところ尠なくない。しかも養老川は村の中央を南北に貫流し、到る所河蹊牽帶し、瀑布を成せるもの數ヶ所あり、面積一方里餘で、郡中土地最も高い。

農業は産業の首位を占め、産業年々増加し、林産また豊富にして森林の植栽盛んに行はれる。養老川の鮎は世に著名である。

工業本位の 東葛飾郡

浦安町

本町は郡の最南端に位し、地勢平野をなして一つの丘陵だになく、西は江戸川をへだて、東京市に境する。明治維新前は、行徳領と稱し、曾ては代官の支配地であつた。

約二里に近き沿海線を有し、古來有名なる漁業地で、多くの魚介類を産し、特に乾海苔、佃煮、貝灰を産する。

行徳町

廣大なる耕地を有する當町は、農業を營むもの多く、商業、漁業、製鹽業等これに次ぐ。位置は郡の南部を占め、西は江戸川を隔て、東京市に對し、東は東京灣にのぞみ、南は南行徳町に接し、北は市川市に連り、面積二方里餘。

町内には行徳浦、徳願寺、宮本武藏墓妙行寺等の名所舊蹟がある。

松戸町

本町は郡の西部中央にあり、松戸、下矢切、中矢切ほか三大字より成り、町役場は松戸町三丁目置く。曾ての郡役所所在地にして官公衙、銀行會社等あり、商業頗る股賑を極め、國道水戸街道の要衝たる外常磐線松戸驛あり、縣道市川關宿線も通り、交通運輸の利便大である。相模臺、縣立農事試驗場、高等園藝學校等がある。

柏町

郡のやゝ中部に位する當町は、東は手賀沼に臨み、且つ大津川を境として風早村に對し、地勢平坦、東西一里餘町、南北一里餘町の廣袤を有し、曾ては千代田村と稱してゐた。

主として農業に従ひ米、麥、甘藷、蕪蓐等の特産物とし、常磐線柏驛あり、こ

こより野田鐵道が分岐して船橋市に達し交通至便である。

小金町

本町は郡の中部に位し、地勢平坦、東西約一里、南北三十町、面積零方里餘を有し、古は小金ケ原の首腦地だつたが、今は沃地相連る農産地である。また僅少の工業及び商業に従ふ者あり、米、麥、豆菽類、桑、茶等を主産物とする。國道は町の一角を貫き、常磐線は小金驛を置く。東漸寺、本土寺、大谷口城址小金ケ原の名利古蹟がある。

流山町

當町は郡の中央西部に在つて江戸川に沿ひ、地勢南北に長く、東西に短く、概して平坦である。味淋の名産地として廣く知られ、醸造工業の隆盛なること縣下屈指である。

郷社赤城神社、東福寺その他の神社寺院を有し、赤城神社は三百有餘年の歴史を有すると共に、その境内は古杉老檜蓐として神寂び、流山の一名所をなしてゐる。

野田町

本町は郡の北部に位し、康正年間、足利氏の下總古河城に據るや、重臣野田右馬之介をこの地に封じてより野田の名が生じたといふ。

工業及び商業地にして、農業これに次ぎ、工業中最も盛んなるは醤油醸造業にして野田の醤油の名は天下に冠絶する。その他麻真田、清酒、味淋、麵類、桶樽類、提灯の特産物がある。

關宿町

古來關東に於ける名邑の一つたる當町は、郡の最北端に位し、大利根と江戸川

との分岐點に挟まれ、細く半島形を成して茨城、埼玉兩縣の間に突出し、南方一小部分が二川村に接するのみである。

關宿城址、御所印塔、その他舊蹟尠なくない。町民の生業は半農半商にして近年養蠶頗る發達し、産額米を凌駕するの勢である。

布佐町

本町は郡の最東端に位し、東北は利根川を挟んで茨城縣布川町と相對し、西南は手賀沼に臨み、西北は湖北村に連り、南は印旛郡大森町に接する。

地勢北部は一帶に丘陵をなし、南部は開けて田圃相連り、往昔和田氏の所領たりし所であつて、現にその居城址がある米、麥、繭、魚、鳥を主産物とする。

我孫子町

當町は郡の中央よりやゝ東北部に在

り、常磐線及び成田線の分岐點に當つて交通の利便頗る多く、古來商業繁華の地にして、住民の生業は大部分が半農半商である。

主産物は米、麥、菜種、繭、生絲、酒類、葉煙草等にして、利根川及び手賀沼には僅かながら水産物がある。附近は風景佳なりと共に狩獵地として知られる。

南行徳町

本町は郡の南端、浦安の東北に連り、東南は東京灣に面し、西北は江戸川を隔て、東京市に對し、地勢平坦、村内を押し、湊、香取ほか七字に分ち、成田街道を縦断して交通の便あり、住民は農業及び漁業を營むもの多く、米、鹽、海苔を主産物とする。

鎌ヶ谷村

當村は郡の南端に位し、東は印旛郡白

井村と千葉郡豊富村に堺し、地勢は概ね平坦なるも、中央部はやゝ高丘をなしてゐる。

鎌ヶ谷、道野邊、中澤ほか四大字より成り、米、麥、甘藷、薪炭を主産物とし大根切干を特産物とする。縣道を買いて交通の便よく、八幡神社、延命寺その他の社寺がある。

大柏村

往古小金ケ原に連り、徳川時代には幕領その他に屬した本村は、郡の中南部に在り、地勢平坦にして山嶽なく、東西三十町、南北一里餘、畑地最も多く、山林水田これに次ぎ、地味やゝ肥えて農耕に適する。

大字大野に平將門の城跡と傳へらるゝ所あり、また法蓮寺は曾谷入道の開山として著名である。神社には春日神社、日枝神社等があり、寺院には日蓮宗小本山法蓮寺をはじめ數ヶ寺がある。

八柱村

當村は郡の中央部にあり、地勢概して平坦なるも、東北部はやゝ高地にして、東京灣方面と利根川方面との分水嶺をなしてゐる。

農村なるを以て米、麥、甘藷、野蜀葵、日本梨、豆菽、葱、瓜、大根、葡萄等の産額頗る多く、村内に大山咋命を祀れる日枝神社ほか六社八ヶ寺がある。

土村

幕府時代にあつては小金ヶ原に連つて旗本代官その他の領有だつた當村は、郡の中部に位し、地勢平坦にして東西二里餘、南北約二里にわたり、大津川の支流細く流れて手賀沼に注ぐ。

米、麥大豆、甘藷、青芋、大根などの農産物に富むほか、苜蓿等の特産物とする。

八木村

ひ縣道も備はり、江戸川には舟行の便もある。

日本武尊御東征の歸路、當地を御過ぎ給へりとの傳説ある當村は、郡の中央部に位し、舊小金ヶ原の一部なりしこととて地勢一般に平坦で、たゞ村の南部に凹凸の箇所やゝ多きも、その他は田圃所在に開け、また山林に富んでゐる。

村民は農を主とし米、麥、甘藷、大豆、菘、茄子の産多く、また蓑の特産がある。

高木村

本村は郡の中央部に位し、地勢概して平坦なるも山林に富む。廣袤東西二里餘南北三里の大村にして、國道水戸街道及び鐵道常磐線の開通あり、住民は農業を營む者最も多く米、麥、豆菽類、甘藷、蔬菜を主産物とし、特産物には大根切干梨等あり、また薪炭をも産する。御立場大塚、茂呂神社等の舊蹟がある。

馬橋村

本村は郡の中央西部に位し、地勢概ね平坦にして東部は山林または畑地多く、中央部より西部一帯の地は水田相連つて米麥作に適し、村民殆んど農業を主とし少數の工業も行はれ米、麥、豆菽類、蔬菜、酒、焼酎、醬油、籐竹製品、牛馬具等の産が多い。

常磐線沿線にして馬橋驛あり、國道及

田中村

本村は郡の中北部に位し、北に利根川を控へ、地勢概して平坦であるが、村の南部はやゝ地低く、東部北部には所々に高地がある。面積の大なること郡中第一位にあり、人口の多きこと郡内五指に屈せられる。徳川時代には本多領に屬した

住民の大部分は農業に従事し米、麥を主産物とし、特産には葉煙草、蓑、疊表等がある。

新川村

當村は郡の中西部に位し、西は江戸川に臨み、地勢平坦にして山岳なく、深井新田、西深井、東深井、平方外十三部落より成り、役場は大字中野久木に置く。

水利組合の優良なること他村の範といはれ、野田鐵道沿線にして交通悪くなく、舊蹟に乏しきも利根運河の一帯は櫻の名所にして、樹數々千本に達し、附近は狩獵地としての名がある。

福田村

農業を主とし、醸造工業また行はれ、畜産物、林産物も少なくない。野田鐵道村の中央を貫いて梅郷驛を置く、縣道は江戸川に沿ふて開通し、權現櫻の名所がある。

當村は郡の北部に在つて、東北部は利根川を以て茨城縣と境し、南は利根運河を距て、田中村と相對し、西は梅郷村、西北は旭村に接する。

地勢概ね平坦土地肥沃、上三ヶ尾、下三ヶ尾、西三ヶ尾、二ツ尾ほか三部落より成り米、麥、豆菽類、蔬菜、葉煙草、果實を産し、養蠶、養鶏も盛んに行はれ薪の産出また尠なくない。

七福村

當村は郡の北部に位し、西は江戸川を隔て、埼玉縣に相對し、地勢平坦、一面の平野をなしてゐる。村内は谷津、吉原蕃昌、五木ほか三大字より成り、役場は大字谷津に置く。徳川時代には天領に屬した。

村民は農を主とし、副業として養蠶及び果樹(桃李)の栽培が盛んに行はれる。

梅郷村

本村は利根運河の北に在つて江戸川その西を流れ、野田町の南に續いてゐる。地勢は平坦にして東西一里、南北亦約一里、徳川時代には幕府直轄の地であつた

旭村

本村は郡の北部に位し、北東は利根川を隔て、茨城縣に對し、西は野田町に接

川間村

本村は郡の北部に位し、東は利根川を

隔て、茨城縣に境し。西は江戸川を越えて埼玉縣につゞき、南は七福、旭の二村に、北は木間ヶ瀬村に接し、土地平坦にして地味肥え、五畝沼、安部沼あつて灌漑に頗るよく、葉煙草の産極めて多く米大小豆、蔬菜これに次ぎ、大字尾崎には毘沙門天がある。

木間ヶ瀬村

當村は郡の北部に位し、東北は利根川を以て茨城縣に、西は江戸川を以て埼玉縣に相對し、南は川間村に、北西は二川村に接し、地勢平坦、田圃廣く連り、徳川時代には天領たりしところ、村民は専ら農業を營み、米、麥、大豆、葉煙草、蔬菜の産多く、近年養蠶業頗る發達して産繭逐年増加し、また淡水産物もある。

二川村

本村は郡の北部に位し、東南は木間ヶ

瀬村に、西北は關宿町に隣り、利根川及び江戸川二流の間に在り、兩河の沿岸は眺望佳を極め、寶珠花部落地方は桃樹多く、花季の候、江戸川沿岸を廻り遊覽するものが多い。
産物の主なるものは米、麥、大小豆、蔬菜、繭、葉煙草、製茶等である。

湖北村

當村は郡の東部に位し、東は布佐町に連り、西は我孫子町に接し、南は手賀沼に臨み、北は利根川を以て茨城縣に相對し、地勢概ね高燥、東西約一里、南北凡そ二十五町、中峠、中里、古戸、日秀、新木の五部落より成り、大字中里には役場及び小學校等があつて村の中心をなし主産物は米、麥、大小豆、甘藷、豌豆等である。

富勢村

する。

手賀村

本村は郡の東部に偏在し、地勢平坦にして山嶽なく、東は手賀沼を境として、布佐町及び印旛郡大森町に續き、西は風早村、南は印旛郡白井村及び永沼村に界し、面積約一方里、元は十數ヶ村に分れてゐたが、自治制施行と共に合併して手賀村と稱し、今日に至つた。

住民は農業に従ふもの多く、漁業を營むものあり、鴨その他鯉、鰻、鮒はこの地の名産地である。

農蠶の地

印旛郡

本郡は縣の北部に位し、下總國の中央部を占め、東は香取郡に連り、東南は山武郡に接し、南西は千葉郡に境し、西北

は東葛飾郡に隣り、北は利根川を隔て、茨城縣に相對する。

地形は、三角形をなし、關東平野の一部なるを以て地勢一帯に平坦にして山岳なく、纔かに丘陵起伏するを見るのみである。これに反して郡内池沼多く、その著大なるを印旛沼及び長沼といひ、東葛飾郡の手賀沼の一部はまた本郡内に接してゐる。河川は郡の北部を流る、利根川のほか郡内には物井川、高崎川、鹿島川、平戸川、神崎川、長門川、木下川、水懸川、飯岡川、新妻川、龜成川、名内川等もある。利根川のほかいづれも小さなものである。郡の廣袤東西八里餘、南北また八里餘町、周圍五十一里餘で、面積四一方里餘を有し、戸數約二萬六千戸、人口約十四萬をかぞへる。土俗更にこれを印西、印東、下埴生の三區に分ち稱するの風習がある。

郡内を八町二十二ヶ村、計三十ヶ町村に區劃し、その町村名は次の通りである
町 白井、佐倉、酒々井、八街、大森、

本村は郡の北部中央に位し、東は我孫子町、西は田中村に接し、南は手賀沼にのぞみ、北は利根川を挾んで茨城縣と相對する。

地勢概して平坦、丘陵と稱すべきものなく、村民は農業を専らとし、水田廣く開けて灌漑の便よく、生産頗る豊饒である。加ふるに近時蠶業發達し生糸の産出額また尠くない。關東三辨天の一なる布施辨財天は本村内にある。

風早村

往古は小金領風早の莊と稱し、維新以前に於ては本多藩の支配を受けた當村は郡の東南部に位し、土地概ね平坦にして塚崎明神臺及び大井箕輪の城山は小高き丘陵を爲し、大津川の清流は村の西方を巡つて手賀沼に注いでゐる。

村民は概ね農業に従ひ、極く少數の工業家がある。招魂社、拔法院、大井城山藤ヶ谷城址、神明神社などの舊蹟地を有

木下、安食、成田

村 川上、彌富、旭、千代田、志津、阿蘇、根郷、和田、富里、公津、六合、宗像、船穂、永治、布鎌、白井、本埜、豊住、久住、八生、中郷、遠山

産業は農を以て第一となし、蠶業、工業、畜産業、林産業等これに次ぎ、水産業は沿海線なきを以て淡水産物に止まらるが故に、その漁獲高は極めて僅少である。主なる産物には米、麥、大豆、落花生、瓜類、繭、鶏卵、薪炭材、樹皮、木炭、酒類、醤油、製絲、製茶、織物等である。

白井町

本町は郡の西南部に位し、東は鹿島川を隔て、佐倉町に對し、西は小竹川を以て志津村と境し、南は千代田村に連り、北は印旛沼に臨み、地勢は東部、中部、西部の三臺に分れる。

白井八景を初めとし、印旛湖畔は景勝

に乏しくない。臼井城址、権現水等の舊蹟もある。米、麥、豆、蔬菜、淡水魚類、繭の産出が多い。

佐倉町

舊郡役所のあつた當町は郡の中央に位置し、東は酒々井町及び和根村に接し、西は鹿島川を隔て、臼井町と相對してゐる。そして南は根郷、和根の二村に隣り、町の大部分は丘陵の地にして繁華なる商家は多くこの丘上に軒を連ねる。東方に將門山があり、西方に鹿島山がある佐倉聯隊の所在地。交通は水陸共に恵まれてゐる。

酒々井町

本町は郡の中央に位置し、西南には佐倉町に、東南は成田、富里、和根の町に隣り、西北は印旛沼に面して、地勢概ね平坦である。天正十九年幕府の命によつ

て町を新設し、佐倉六町の一に編せられ、明治に至るまで佐倉酒々井町と冠稱した。役場は字酒々井に置く。産物は米、麥、雜穀、豆類、蔬菜、薪炭、醬油、味噌等を主とし、商業もまた行はれる。

八街町

佐倉七牧の一部なる柳澤牧及び小間子牧に屬せし當町は、郡の東南端に位置し、地勢概して平坦ではあるが、一帯に海拔百二十三尺の高地、水田が尠ない。農を以て生業とするもの多く、たゞ總武線八街驛附近には商家軒を並べ、商業進歩の態勢を示してゐる。縣下に於ける櫻の名所として廣く知られてゐる。

大森町

本町は郡の西端に位置し、東は木下町に隣り、西は手賀沼に面し、北は利根川に

沿ふて東葛飾郡布佐町に接し、南は永治船穂の兩村と境する。地勢は概ね平坦、地質豊饒、面積約一方里、鐵道成田線に沿ひ、利根川には利根汽船の寄錨するあつて交通至便、町民の大半は農を營むも、商業も近年頗る發達し、隣町木下町を凌いでゐる。

木下町

當町は郡の西北に位置し、利根川の南岸に沿ひ、東は本埜村、西は大森町、南は船穂村に接し、地勢概ね平坦、面積零方里餘を有し、徳川時代には代々稻葉美濃守の所領に屬した。

成田線木下驛があつて交通の便よく、全住民の半數は農に従事して米、麥の産多く、竹袋城址及び別所地蔵は舊蹟として夙に世に知られてゐる。

安食町

生絲、木炭、笹、木材等である。

旭村

本村は郡の南部に位置し、東北は彌富村及び鹿島川を隔て、根郷村に隣り、西南は丘陵多く、村内山林原野多くして水陸田が尠ない。

小學校は明治六年の創立、また私立旭裁縫女學校がある。四街道には野砲兵第十八聯隊、野砲兵射撃學校が置かれる。總武線に沿ひ交通の便よく、産物は穀類、豆菽類、野菜類、繭、油類、金物等を主とする。

千代田村

郡の西方に位置する當村は、東は物井川を隔て、根郷村に對し、西は志津村、南は旭村に隣り、北は臼井村に境する。東は一里、南北二里十八町の廣袤を有し、往古は物部郷と稱し、代々千葉氏の所領

盛觀である。

川上村

本村は郡の最南部に屬し、東南より西北に擴がり、一圓の高野にして、鹿島川の上流は村を縦斷し、人家は概ねその流域に沿ふて散在する。面積一方里餘。

村民はすべて農業を専らとし、主産物は米、麥、落花生、芋、大豆、繭等で、また村内森林多きが故に、林産物も多額に上る。

彌富村

當村は往古の鹽古郷にして、郡の南部に位置し、地勢甚だしき高低なく、岩富町岩富、坂戸、内田ほか七大字より成る。日本外史の所謂岩富城のあつたところで交通は便ならざるも、二毛作に従事し得て産業に賭るべきものがある。

主産物は米、麥、落花生、甘藷、繭、

郡の北部に位置し、利根川を以て茨城縣と相對する本町は、東南一帯に丘陵を起伏し、西北は概ね低地にして水田多く、地味肥沃とはいへないが、しかし耕地に適せざるところなく、住民の生業は主として農である。

成田町

當町は成田不動を以て名があり、商業繁華の地で郡の東部に位置し、東は根古名川を以て遠山、中郷兩村に境し、西は公津、八生の二村、南は富里村、北は中郷村に接し、西南方に丘陵連続して東へ走り、その盡くるところが即ち成田公園である。

鐵道、電車、バス等交通機關完全し、成田山參拜の客は年々數百萬を越ゆるの

であつた。
村民の多くは農を専らとし、一部に商業を営むものがある。下志津ヶ原、六方野などは富士裾野に次ぐ大射撃練兵場である。

志津村

郡の西部に位する本村は、中古千葉氏の一族たる志津四郎平胤が壘を構へてから志津の名があり、徳川時代には堀田藩の所領となつた。北に印旛沼あり、東に小竹川あり、主産物は米、大豆、甘藷野菜等である。
千手院、陸軍射撃場、小竹城址、志津壘、西行清水、加賀清水、小竹の牡丹等の名所舊蹟が多い。

阿蘇村

當村は郡の西部に位し、東は志津村に西は新川に接し、地勢概して平坦、南よ

り北に向つて緩傾斜をなしてゐる。往古はこの附近を稱して村神郷といひ、徳川時代には代々佐倉藩に屬した。
村民は農を主とし、商業を営むものは僅か二割に過ぎない、しかも何れも農事の傍ら兼業するのみである。
米本壘、村上綱清之墓、阿蘇沼等の名所舊蹟がある。

根郷村

本村は郡の中央よりやや南に在り、佐倉町に南隣し、六崎、寺崎、太田、城、石川ほか四大字より成り、古くは千葉衛道の要驛として人家櫛比し、馬渡と相並んで比較的殷賑を極めたが、廢藩置縣後は昔日の傳なく、村民は農を専業とし、米、麥、荳菽類、雜穀類、野菜などの産出が多い。
役場を大字大篠塚に置く。用替ヶ丘、(大字太田)加藤秀丸の墓(大字本野子)などの舊蹟がある。

和田村

當村は郡の殆んど中央に在り、往古の謂ゆる和田野で、直彌、八木、高崎、宮本、米戸、ほか九大字より成り、八街、佐倉、酒々井等の町に隣接してゐる。
主なる産物は米、麥、荳菽類、蔬菜などで、林産も頗る多く、かの佐倉炭と稱して天下に名あるもの、その原産地は實に本村である。

富里村

本村は郡の東部に位し、本郡中の最高地を占め、鹿島川及び新妻川の源をなしその流域に沿つて地勢自ら南北の二部に分れる。役場は大字七榮に置き、小學校、青年學校等も同字に設置される。
全村農を營み、副業に養蠶及び養鶏が盛んに行はれ、立澤養を特産物とする。村内香取牧は宮内省管轄である。

公津村

當村は殆んど郡の中央に位し、東西四軒。南北八軒弱、宛も蝙蝠の翼を張れるの形をなし、成田町の西、酒々井町の北に續き、地勢概ね平坦、西北部は低くて水田多く、東南は高臺で畑地が多い。
小學校、青年學校の成績よく、産物は米、蔬菜、甘藷等を主とし、年産額四十五萬圓に上り、養鶏を副業に營むものが多い。

六合村

郡の西北に位する本村は、印旛沼に突出して、たゞ西北の一方が宗像及び本埜村に接するのみである。住者は吉高郷に屬した。役場は大字瀬戸に置く。
花島山は印旛沼中にあり、俗に離れ島と稱して風景絶佳、他に吉高城址、松蟲皇女廟の舊址がある。養蠶の盛んなるこ

と郡内屈指とし、印旛からは古來著名な鮎を産する。

宗像村

當村は、村民一致協力精勵の村として知られ、役場事務の圓滑なること他にその比較なく、納税徴收に關しては各種督勵組合の不斷の活動によつて成績極めて良好である。
交通の便には恵まれないが、しかし縣道白井木下線の完成後、物資輸送に一新紀元を劃し、米、麥、卵、蔬菜等を主産物とする。

船穂村

本村は郡の西部に位し、東は宗像村、東北は本埜村に境し、南は印旛沼に臨み北は大森、木下の二町に接し、東西は三里餘、南北は二里餘の廣袤を有し、村民は概ね農を業とし、副業に養蠶、牧畜、

養鶏が行はれるが、とりわけ養蠶は近來頗る隆盛に赴いてゐる。
名蹟に結縁寺、源頼政塚等がある。

永治村

當村は郡の西北部に位し、東は大森町及び船穂村に、西は白井村に挟まれ、地勢は概して平坦であるが、印旛沼及び手賀沼に面する地は丘陵崎嶇として高低が多い。
當村は往古の三宅郷の地に當り浦部、和泉、小倉、白幡、平塚ほか六大字より成り、役場は大字浦野に置く。
米、麥、荳菽類、蔬菜、繭を主産物とし、大菅豊後守城址及び月影の井の舊蹟がある。

布鎌村

郡の北隅、安食町と木下町の中間に位する本村は、北西に利根川を控へて茨城

縣と相對し、地勢は平坦、一の丘陵もなく、往古布録十六ヶ村（現各大字）を合せて大瀬と稱されたところ、役場は大宇清方に在る。

本村は創業時代より中世に至るまで畑地ばかりの如く、漸次開墾されて現在では畑地より水田の方が多い。従つて米、麥の産額多く、且つ利根の鮭もまた著名である。

白井村

當村は郡の最西部に位し、東は永治村に接し、手賀沼及び印旛沼に注ぐ水源地をなし、南部の高地は郡内第一と稱されてゐる。

村民は農を専らとするも、水田が割合に少ないところから、陸田に耕耘すること多く、主産物は小麦、大豆、甘藷、大根などで、殊に甘藷切干は近年産出の増大顯著なるものがあり、しかも良好なるものとして評判がよい。

本埜村

本村は郡の北部に位し、東は印旛沼に面し、その落口長門川を境として安食町に隣り、地勢西南部は一帶に高臺で東北に到るほど低下し、丘陵と稱すべきものがない。

往古は言美郷と稱したところ、一千餘年前の遺物があり、その草創古きを知るに足りる。主産物は米、麥、荳菽類、蔬菜、繭等、名所舊蹟には南陽院、吉次堀等がある。

豊住村

當村は郡の東北方に位し、利根川を隔て、茨城縣に相對し、面積一千二百七十餘町歩を有する純農村である。

昭和七年經濟更生村に指定せられ、産業組合を活用して産業及び經濟の發達を圖り、負債整理組合設立以後負債整理の

業績頗るあがり、共同收益地の設立、共同作業場の設置によつて、農家の利益増大顯著なるものがあり、自給肥料もまた成績頗る良好である。

久住村

本村は郡の東北部に位し、地勢東西に伸び、縦三里餘、横一里餘あり、往古は磯邊郷と稱した。初代團十郎の生れた土地で、その墓は大字幡谷にあり、その他漁貫の松、荒海城址、圓通寺、永福寺等の舊蹟に富んでゐる。

村民中農を専業とするもの約九割を占め、産物の主なるものは米、麥、蔬菜、繭、油類等である。

八生村

當村は郡の北部に位し、地勢南北並に中央部に丘陵地多く、水田は新妻川の流域及び印旛沼沿岸に多い。松崎、大竹、

賣田、山口ほか四大字より成り、往古の玉作郷の一部である。

住民は農家が大部分で、副業として養蠶業が頗る殷盛を極め、殊に下福田、上福田、大竹の如きは蠶糸業をさへ出すに至つた。名蹟には子ノ神城址、神切坂がある。

中郷村

遠山村の西につづき、郡の東北部に位する本村は、南に根古名川を控へて成田町及び八生村に向ひ、西は長沼を隔て、豊住村と對し、北は荒海川を堺として久住村に隣り地形殆んど圓形をなし、縣道通じて交通運輸の便ある。

近年農事に熱心なる人々及び農會の活動により、農業頗る改良せられ、従つて生産額頗る増加するに至つた。

遠山村

成田町の東に隣り、郡の東部に位置する當村は、地勢概ね平坦なるも土地高く香取川は村の中央を貫流する。往年の山方卿の地にして村内を小菅、大山、馬場久米ほか十二區に分ち、役場は大字小菅に置く。

り北方へ向ひ。市原、山武二郡に連亘する。郡の南西部はこの二山脈の間に挟まれるところから、支脈諸町村に盤入し、到るところ小嶺低岳が起伏し、各所より一ノ宮川の水源を派出する。

藁工品特産の長生郡

當村は三里塚御料牧場、瓜生農場の所在地として知られ、農業が盛んであり、また三里塚の一部には商業殷賑を極め櫻の名所としても著聞する。

一ノ宮川は一名埜生川と稱し、往古埜生、長柄兩郡の境界線であつた。延長約七十八里、九十九里濱に注ぐ。その他河川は、南に夷隅川あり、郡の南境に沿ふこと一里許り、北に南白龜川あり、上半流は山武郡に屬し、下半流は本郡にある。

本郡は上總國の東部に位し、北は山武郡、南は夷隅郡、西は市原郡に連り、東は渺茫たる太平洋に臨んでゐる。

町 一宮、本納、茂原、藤南
村 東浪見、太東、土睦、一松、八積、高根本郷、東郷、關、白湯、南白龜、豊岡、新治、豊田、二宮本郷、長柄、日吉、水上、西、東、鶴枝、豊榮、五郷
氣候温和、地質概ね第四紀層に屬す、

最も農作物の培養に適し米、麥、菽類、蔬菜、果實の産多く、落花生及び甘藷、馬鈴薯は本郡の特産に數へらる。牧畜業はなほ幼稚の域を脱せず、養鶏は農家の副業として最も普及し、蠶業は着々進歩の跡著るしく、又九十九里濱に面し夷隅一宮、南白龜三川を有するを以て水産物は豊富、また蕨吹等の薬工品を特産とし、産額縣下第一位にあり、木綿織物また相當の産出を見る。

一宮町

郡の東南部、太平洋に面する本町は、北に一宮川を控へ、西南部に岳陵あつて他は平坦地をなし、市街は山地と市街との境界線を占め、商賈揃ひする。諸官衙學校、銀行會社等あり、商業頗る殷賑を極め、海濱一帯は近時別荘地と化しつゝあり、一宮川には鯉の名産がある。洞庭湖周圍十餘町、風光掬すべき勝地である。

本納町

當町は郡の北部に位し、地勢西南に稍や岳陵を見れども、東部は悉く平坦にして田圃遠く連り、縣道及び鐵道は町のほと中央を南北に縦走し、西部の山麓に市街を形成する。

住民の生業は概ね農なるも、大字本納の市街を成せる部分は商業殷盛にして城下街の面目躍如たるものあり、町役場、學校等もこゝに聚つてゐる。

茂原町

元郡役所の所在地たりし本町は、郡の中央に位し、地勢東西に長く、南北に短く、西方は岳陵相連り、南部及び東北部は概して平坦にして一宮川及びその支流が流れてゐる。

學校、官公衙、銀行會社等があつて商業殷賑を極め、房總線茂原驛あり、銚子街

道、房州街道、大多喜街道等の縣道通じ、長生郡の首府、附近物質の集散地をなしてゐる。

廳南町

當町は郡の西南部に位し、往古本郡が廳南、廳北の二郡に分れた時代には、廳南地方の中樞となり、甲斐武田の族、武田豊信の城廓あり、南總の名邑として名高かつた。

町民の生業は殆んど半商半農にして、副業に養蠶及び蕨吹の製造が行はれるが、廳南風、廳南傘、藏持柿、廳南蕨吹は當町の四特産とされる。町内また名所舊跡に富んでゐる。

東浪見村

郡の東部に位し、太平洋に面する本村は、南は太東村に、西北は一宮町に、西南は夷隅郡に隣接し、地味概ね肥沃、東

浪見、網田の二大字に區劃され、交通の便よく、村農會は地方農事の改良に力めて成績最も優良である。

なほ村内には上總七不思議の一たる末無川をはじめ、釣ヶ崎、二股薄、鳴山等の名所舊蹟がある。

太東村

當村は郡の南部に位し、東は太平洋にのぞみ、地勢東西に長く、南北に狭く、椎木、中原、和泉の三大字より成り、村民の生業は農及び漁業にして、副業として吹蕨の製造が盛んに行はれ、主産物は米麥及び海産物、その他に蓮根、果實、筍を産出し、生活状態概して富裕である。太東岬、龜ヶ城、鶴ヶ城、鴨島、雀島等の名所がある。

に、北は八積村に、西は茂原町及び鶴枝村に、南は東村及び夷隅郡の一部に接し、上之郷、下之郷、大谷木ほか七大字より成り、村民概ね農を業とし、副業として薬工品の製造及び養蠶が行はれ、主産物は米麥、蔬菜、木炭、蕨等である。三宮神社、諏訪神社、寺崎觀音堂等の舊蹟がある。

一松村

當村は郡の東端に位し、東は太平洋にのぞみ、海岸は白砂青松相連り、一松川村内を貫流し、水清澄にして鱒、鯉、鯉を産し、氣候温和なるを以て別荘地に適し、顯官紳士多數の別荘が營まれてゐる。一宮驛より約半里、交通の便よく、船頭給川、大興寺、供養塔の名所舊蹟がある。

高根本郷村

當村は郡の東部に位し、地勢平坦にして山河なく、高根本郷、宮成、小泉、中之郷、會根の五大字より成る。

村民は概ね農を生業とし、且つ副業に養蠶及び柑橘栽培が行はれしかも旺んでゐる。

産業組合は大正二年の創設にして成績頗る優良であり、その他青年團、在郷軍人分會、村農會、養蠶組合等いづれも業績著るべきものがある。

土陸村

本村は郡の南部に位し、東は一宮町

八積村

東郷村

本村は郡の東北部に位し、東西一里、南北二里半、西方一帯は森林にして南方は遠く八積村境に池沼が多い。千町、六ツ野、木崎、谷本ほか五大字より成り、茂原驛に近く、交通の便は悪くない。村民概ね農を生業とし、米麦をはじめ大小豆、蕎麥、葱、大根等を主産物に擧げるを得、副業に養蠶が盛大である。

白潟村

本村は郡の東端に位し、東は九十九里濱に面し、村内を古所、八斗、鷲、中里幸治の五大字に區分する。役場は大字八斗に置く。村民の生業は農及び漁業にして、副業に養蠶が行はれ、本村養蠶組合は成績良好を以て聞えてゐる。主産物としては米麥及び魚類のほか落花生、繭、乾鰯が擧げられる。

村内に鎌田兵衛の墓、元祿海嘯塚等の舊蹟がある。

豊岡村

本村は郡の東北部に位し、萱場、弓渡粟生野ほか四大字より成り、役場は大字粟生野に置く。住民は農を主とし、副業に機業及び養蠶が行はれ、繭、織物を特産とする。大字清水に在る陣ヶ臺は源頼朝の陣營せるところと傳へられ、その附近にボウボウ貝の芝と稱する舊蹟がある。

關村

當村は郡の東北部に位し、内谷川は村の東方を、新川は北方を横流して共に白龜川に合し、灌漑の便よく、地味豊穰である。關、北日當、福島、北高根、南日當の大字より成り、米、麥、鶏卵、菘類、蔬菜、茶、繭等を産出する。村農會、養蠶組合などの成績も良好である。

南白龜村

九十九里濱に面し、郡の東北隅に位する當村は、地勢概ね平坦にして西北より東南に延び、氣候温和にして地味肥沃である。牛込、濱宿、剃金、五井の四大字より成り、役場は大字牛込にある。村民の生業は農及び漁業にして、養蠶が副業として行はれる。

新治村

當村は郡の北端に位し、地勢山岳多く平地少なく、部落は山内に散在し、殊に大澤區は村内の最高地に於て高さ約一千尺、東は太平洋西は東京灣の眺望がある。村民は概ね農を營み、副業として養蠶、養鶏、果樹の栽培が行はれる。

村内には石火矢臺、御經塚、八幡臺等の傳説地がある。

豊田村

本村は郡の北部に位し、地味肥沃にして灌漑の便あり、米麥を主に登類、蔬菜繭等を産し、果樹の栽培、養鶏も盛んに行はれ、村民は概して富裕である。

長柄村

本村は郡の西北部に位し、地勢東南部稍や低く、西北部は最も高峻である。即ち鼠坂の峻坂以西は岳陵彌ま高く、立地蔵に至つて鹿野山に次ぐの高峰武ヶ峰が聳立する。米、麥、豆類、甘藷、瓜類、果實、繭、鶏卵等を主産物としてゐる。村内には鼠坂、雌雄瀧、安然の墓、鐘ヶ淵、六地藏、武ヶ峰等名所舊蹟が多い。

製造、果樹栽培等が行はれる。名所舊蹟には榎本城址及び朝立ヶ岡がある。

水上村

本村は郡の西部に位する山間狭長の地にして、南北二里弱、地勢恰も山間味足を張れるが如く、たゞ中央を流るゝ一宮川の流域に平野を見るのみである。主産物は米、麥、繭、大小豆、甘藷、吹、薪炭、柿等にして、坂東三十一番靈場たる古刹笠森寺は大字笠森にある。

二宮本郷村

當村は郡の西北部にあり、地勢岳陵に富み、一宮川の支流村の中央を貫いてその流域は田圃拓け、農業頗る盛んにして米、麥、蔬菜、果實、鶏卵を主産物とする。小學校は郷土教育を強調して特色を發揮し、村農會、在郷軍人分會の成績が

日吉村

當村は郡の西部に在り、四面山を以て圍み、中央部は平坦にして耕地連り、鴉谷川は村を南北に兩斷する。針ヶ谷、立鳥、鴉谷、長富ほか四大字より成り、村民の生業は農にして副業に養蠶、蕨吹の

西村

當村は郡の西南隅に位し、地勢一般に高く、全村到るところ山岳起伏し、就中西北部及び南部に著るしく、河川は皆北流し、一部に東流するあつて一宮川に合する。佐坪、市野々ほか七大字より成り、米、麥、大豆、蕨吹、木炭、材木、

薪の産が多い。
野見金山、鏡塚、吾妻瀧等の名所舊蹟がある。

東 村

郡の南端に位置し、岳陵多き農山村たる本村は、土陸、西、廳南の町村及び夷隅郡瑞澤村と接壤し、東西一里十餘町、南北一里十町、村内を十一大字に區分し役場は大字地引に置く。米、麥、豆、甘藷、蔬菜、繭、蕨、竹細工、木炭等の産が多く、各種團體はいづれも村勢發展に貢献するところ甚大である。

鶴 枝 村

郡の南部に位する當村は、茂原町、八積村、五郷村、土陸村、東村、廳南町等と隣接し、村民は専ら農を生業とし、村内先覺者により燠炭肥の鼓吹に努められしを以て農業の進歩著るしきものがある。

り、副業としては養蠶及び菅笠、蓆の製造行はれ、殊に菅笠は三ヶ谷笠と稱し、その名遠近に聞えてゐる。

豊 榮 村

本村は郡の西南部に位し、地勢丘陵に富み殊に西方は山岳重疊し、これより二條の山脉東西に走り、一は村の中央を貫いて須田區に止り、一は北境より關原區の東南に達する。小學校、青年學校、女學校等があつて村民は教育に對する理解頗る深く、生業は概ね農、米、麥を最とし、大小豆、蔬菜これに次ぎ、蕨、繭、椎茸、菅笠、薪炭の産も尠なくない。

五 郷 村

東北境に一宮川の上流たる茂原川を繞らし、地味肥沃なる當村は、郡の中央に位し、鶴枝、廳南、豊榮、茂原の町村と境を接し、南方に一連の岳陵起伏するほ

かは田野廣く開け、村民は概ね農を業とし、副業として養蠶、養鶏、蕨の製造等盛んに行はれ、一村皆な富裕である。青年團、在郷軍人分會、貯金組合等の成績顯著なるものがある。

副業殷賑の 山 武 郡

本郡は上總國の東方に位し、北は香取匝瑳の二郡に接し、西は千葉、印旛、市原の三郡に境し、南は長生郡に隣り、東方一帯は太平洋の渺茫に在り、海岸は鈍き弧線を畫して謂ゆる九十九里濱の一部をなしてゐる。

西半の地は房總國境山脈の支脈蜿蜒として林帶丘陵の起伏あるも、最高所と雖も海拔百メートルに滿たず、東半一帯は村落田圃遠く展開し、地勢概して平坦である。従つてまた巨流大湖なく漸く、南

白龜川、境川、木戸川、栗山川、鳥喰沼雄蛇ヶ池を數ふるのみである。

廣袤東西七里南北八里、周圍四十二里三十三町、面積五萬里餘を有し、八町二十四ヶ村に區劃され、町村名は次の通りである。

町 東金、土氣本郷、大網、片貝、成東
松尾、横芝、白里
村 公平、源、丘山、増穂、大和、瑞穂、山

邊、福岡、豊海、正氣、豊成、鳴濱、日向、南郷、綠海、蓮沼、上堺、大平、大富、鹽岡、豊岡、大穂、二川、千代田
東金町が一萬人を越えて人口最も多く、片貝、白里の兩町これに次ぎ、降つて成東、横芝の二町は共に四千數百人をかぞへる。

産業は農を以て第一位となし、米、麥、豆菽類、蔬菜類、蕨果類を主な産物とする。本郡はまた蠶業の最盛地として知られ、年々の收購高は相當額に上つてゐるが、製糸業は未だ幼稚の域を脱しない。往年一時牧場の勃興を見たるも、現時に

在つては漸く農家の副業として小規模に營まれるに過ぎず、これに反し家畜飼育事業は頗る盛大にして、一戸平均約十羽を飼育する。鱈、鯉、秋刀魚、鯨、鯖等の水産に富み、工業物では酒類を筆頭に、焼酎、醬油、織物類、製糸、煉瓦及び瓦、墨表及び蕨莖、油類等がある。

東 金 町

本町は郡の東部より稍や南に偏在し、西北部は丘陵起伏して山林田畑相尤牙し、市街はその丘麓にあり、東北部一帯は平坦廣潤にして美田良圃遠く連る。本町は古の岡山郷の地にして郷社日吉神社が大同二年の創建なるに見てもその革輶の古きを知るべく、官公衛學校銀行その他商賈相櫛比し、産業殷盛を極め、活氣に滿ちた町である。

土 氣 本 郷 町

本町は郡の西南に位し、地味肥沃頗る耕耘に適し、米、麥、繭、鶏卵を主産物とする。しかし大字大網は一街衢をなし、商業を營むものが多い。本郡南部に於ける樞地要點にして、縣道は南北に貫くものと海岸より至るものと、町の中央に於て丁字形をなし、また鐵道房總線及び東金支線の分岐點に當り、交通至便である。

大 網 町

當町は郡の西南隅に在り、地勢概して平坦なるも、東北境より西南境に亘つて丘陵の起伏あり、土氣蓋は内灣及び外洋に流れる河川の分水嶺をなしてゐる。室町幕府時代、土氣太郎なる者地頭に任ぜられてより開けたところにして、住民の多くは農を以て本業とし、傍ら商工を兼ねるものあり、近時養蠶業が盛んに行はれるやうになつた。

片貝町

當町は郡の東端に位し、東は九十九里濱に面し、北に境川が流れる。田中荒生片貝、小關の三大字より成り、古來漁業を以て顯はれ、頗る水産物に富むも、近年また農業の盛大を見るに至り、併せて人口の増加に伴ひ、商業も殷盛を呈するに至つた。交通の便よく、町内には千人塚、大村屋址、面足神社等の舊蹟がある

松尾町

當町は郡の東北部に在つて横芝町の西に續き、西北は林圃犬牙交錯し、東南は平野連亘する。産業は農を主として商これに次ぎ、重要物産は米麥及び繭である。房總東街道は町の中央を貫いて横芝町に至り、總武線は町の南部に停車場を置いて交通の利便良好である。名所舊蹟には桔梗ヶ岡、物見塚のほか天下の名木旭松等がある。

白里町

郡の東南隅を占める當町は、九十九里濱の渺茫に瀕する農漁村にして、米、麥、落花生、甘藷、鶏卵、繭、魚介類の産が多い。四天木、南今泉、北今泉、細原の四大字より成り、地勢概して平坦、大網町へバスの便あり、また一宮町、銚子市へも縣道が通ずる。小學校は一枚にして兒童學業成績の優秀なること他に些の遜色がない。

成東町

本町は郡の中央部に位し、日本武尊東征の途次この地に渡らせ給ひし時、鳴濤(鳴戸)と名づけたと傳へられ、近古は山邊莊成東郷と稱へ、組四十八ヶ村の首村であつた。所謂ゆる房總街道は本町を南北に貫き、また別に縣道走り、鐵道も通じ交通の便よく、中學校銀行その他各種機關備はり、名所舊蹟等も頗る多い。

横芝町

松尾町に東隣し、東は栗山川を隔て、匝差郡に對する本町は、郡の東端を占め、常陸の人行方治右衛門なる者によつて開拓移住された土地で、今も住民は農業を主とし、商工業これに次ぎ、米、麥、雜穀、繭を重要物産とする縣道は松尾町より本町を過ぎて匝差郡東陽村に入り、

公平村

郡の中央部に位する本村は、古の菅谷村の地にして、道庭、家之子、姫島、松之郷、求名の五大字にわかれ、總武線と房總線の分岐點に當り、住民は農を主とし、養蠶、養鶏を副業とする者多く、丘

源山村

當村は郡の西部に位し、地勢概して丘陵に富み、南北二流の水脈に沿ふて狹長の豁谷を成してゐる。上布田、極樂寺、下布田ほか六大字に分れ、米、麥、繭、用材、木炭、馬、鶏卵の産が多い。小學校の施設良好にして學業成績よく、明治四十一年創立の源村圖書館は藏書多數を有して村民の利用頗る多い。各種團體の活躍また旺盛である。

増穂村

當村は郡の西南部に在り、地勢概ね平坦にして南北に稍や長く、東西に短く、田圃林樹の間に民家點在する。村内を清名幸谷、上貝塚ほか十六字に分つ。米、麥、蔬菜、柑橘、梨の産額多く、村農會男女青年團、在郷軍人分會の活躍顯著なるものあり、名所舊蹟には朱學派の大儒稻葉點齋の舊廬孤松庵の跡がある。

瑞穂村

當村は郡の西南部に位し、西部には多少丘陵の起伏を見るも概して平坦にして、古昔は堀城郷または土氣庄と稱したもので、長享元年酒井氏が土氣城に移つてからは、代々子孫相繼いで明治維新に至つた。

大和村

郡の西南部に位する本村は、千段穴、雄蛇ヶ池、小西城址、法光寺、本福寺等

丘山村

本村は郡の中央に在り、和名抄の謂ゆる岡山郷の地にして、現在小野、油井、瀧、丹尾、山田の五大字に分れ、村は農

農業盛大にして傍ら商業及び工業に従事するものあり、養鶏、養蠶、柑橘栽培等もまた盛んである。鐵道房總線及び縣道等、村の南北を貫き、交通極めて便利である。

陵部に於ては林業を營み、求名の果樹蔬菜、松之郷の製茶、家之子の機業は共に本村の特産である。名所舊蹟また頗る多い。

を主とし、副業に養蠶、林業を營み、米、麥、繭、用材、薪炭、醬油の産が多い。縣道東金千葉線は村の中央を貫き、交通の利極めて便である。墨染櫻、小野小町の出生地たる小町山は共に世人に知られる。

の名所舊蹟に富み、村民は農を生業となし、近時養蠶、養鶏、果樹栽培等が盛んに行はれ、また古くより大字福俵にては菅笠を製造し、販路頗る廣く、本村の特産といはれる。縣道東金大網線があり、また鐵道房總線が村内を駆けつて、交通極めて至便である。

山邊村

郡の西南部に位する本村は、北に大網、西南に土氣本郷の兩町を控へ、往昔縣主を置かれし地にして、貴船神社、高海寺、南玉の瀧、兒玉堀、御茶屋松葉の名所舊蹟に富む。

住民は農業を主とし、副業に養蠶及び林業を營み、重要物産は米、麥、繭、鶏卵、薪炭等である。房總線大網は本村地内に屬し、交通至便を極める。

福岡村

當村は郡の東南部に在り、地勢概ね平坦にして水田林圃遠く開け、南白龜川は村の中央を貫流する。村内を小沼田、大沼田、一ノ袋ほか十一字に分つ。

産業は農業その首位を占め、副業として養蠶、養鶏、機業等が行はれる。名所舊蹟に大關城址、島山重康の墓あり、神社寺院も少なくない。

豐海村

粟生、細屋敷、西野、龜真ほか四大字より成る本村は、郡の東南に位し、東は九十九里濱にみ、眞龜川は村の中央を貫流する。東西一里、南北三十三町、海岸居住者は半農半商にして他は皆な農工商を營み、米、麥、大豆、繭、魚類を主産物とし、また上總木綿の本場として知られ、その製品は關八州のほか奥羽方面にまで販出される。

正氣村

當村は郡の東南部に在り、地勢全く平坦にして田野山林遠く開け、廣瀬、北幸谷、幸田ほか六大字より成る。米、麥、鶏卵、繭を重要産物とするが、柑橘の産地としても著名である。村農會、男女青年團、在郷軍人分會、産業組合、養蠶組

豐成村

本村は郡の東南部に在つて九十九里濱を距ること里餘、東南は片貝町に、東北は成東町に接し、地勢平坦田畑に富み、山林に乏しい。古は武射郷と呼ばれたところ、住民は農を主とし、副業では養蠶が盛況を呈する。東金町へは縣道通じ、交通状態頗る良好である。十文字領、平將門の城址、水神社、妙善寺等の名跡がある。

鳴濱村

當村は郡の東南に位し、東は九十九里濱に面し、地勢全く平坦、作田川村内を貫流して灌漑の便よく、農家殆んど住民の九割以上を占め、漁業また隆盛を極め、養鶏、養蠶等の副業も行はれる。

成東町及び東金町へ縣道通じ、交通の便大なるものがある。

日向村

郡の西端中部に位する當村は、東は成東町に、北は睦岡村に、南は公平村に隣り、地形恰も瓢の如く、その溢れたる中央部に總武線日向驛あり、地勢自から南北の二部に分れ、北部は丘陵蜿蜒し、南は平坦である。主産業は農にして米、麥、豆の産額多く、工業は製材首位を占め、近時林業も長足の進歩を見るに至つた。

南郷村

本村は郡の北東部に在り、西北は成東町に東北の一角は松尾町に境し地勢平坦境、木戸の二川疆土に沿ふて流れる。

産業は農を主とし、また養蠶業の最盛地として知られ、米、麥、の産額絶大である。里餘にして成東、松尾の兩停車場

に達し、交通頗る便利、また村内下横地には荻生組練母の墓がある。

綠海村

當村は郡の北東部に位し、西は南郷村に連り、東は九十九里濱に面する。往昔はこの地一帯海なりしと稱せられる。松ケ谷、木戸、小松、井ノ内の四部落より成り、住民の七割は農に従事し、米、雜穀、落花生、繭、生魚、乾魚、川魚の産が多い。

東金町へ縣道通じて交通の利便よく、御中主神社、勝覺寺、連臺寺等の社刹がある。

蓮沼村

本村は郡の東北隅にあり、東は九十九里濱に面し、北境を谷津川流れ、良田美圃遠く開け、この間を栗山川が貫流し、有名な龍立沼も耕地整理の結果完全に開

拓され、米、麥、落花生、甘藷等の産多く、又副業として最も盛んなるは養蠶である。

村内には五所神社、極樂寺等のほか矢挿神社、辨天島、源頼朝の御殿臺の名所舊蹟がある。

上塚村

當村は郡の東端に在り、北は横芝町に連り、東は栗山川を隔て、匝瑳郡白濱村に對し、東南は九十九里濱に面する。舊屋形、北清水、新島の三ヶ村より成り、農業盛大にして米、麥、落花生、蔬菜、繭及び水産がある。謂ゆる銚子街道は本村を貫き、また村内には無量寺、不動院の古刹あり、栗山川下流海岸地帯は白砂遠く連りて風光絶佳である。

大平村

上塚村及び横芝町の西南につゞく本村

は、郡の東部に在り、廣根、下野、折戸下之郷ほか五部落より成り、往古の山邊莊の一部である。縣道里道四通八達し、六萬部川は日本武尊毒蛇退治の傳説を遺し、住民は殆んど農を以て生業とし、米、麥、繭の産多く、養鶏は副業中の主位にあり、また醸造工業も一部に行はれる。

大富村

當村は郡の西部に在り、西南は成東町に接する。房總街道たる縣道は村を縦貫し、辰總線成東、松岡兩驛間に介在し、交通至便である。産業は農を以て第一とし、米、麥、豆類及び雜穀、大根等を主産物とする。

駒形神社、光明寺、明しの松、日出松等の名蹟を存し、輩出の人物また多士濟々である。

陸岡村

本村は郡の東北部に位し、東は二川豊岡の兩村に、南は大富、成東、日向の二町一ヶ村に、西及び北は印旛郡に境し、丘陵多くして平地に乏しい。高原地なるも開墾事業よく行はれ、盛んに陸稻、麥、大豆、落花生等を栽培する。また木材薪炭等のほか上總戸の本場として知られる。塩谷城址、八幡城址、日連上人誕生井冨塚等の古蹟も有名である。

豊岡村

山室、引越、谷津、古和ほか五大字に分れる當村は郡の北部に在り、住民は農を主とし、副業としては蠶業、林業が盛んである。耕地概して地味肥沃にして耕地整理施行後農業頗る振興し、米麥等の農産物多く、また蔬菜類は本村の特産物である。縣道は東南方松尾より來つて村の東端を通過し、交通の便がよい。

大總村

本村は郡の東北隅に在り、東南は横芝町及び松尾町に接し、木戸臺、小堤、寺方、曾根合、於母ほか九大字より成り、古の狎猿郷及び長倉郷の地といはれる。米、麥、大豆、繭、鶏卵等を主要産物とし、林業また見るべきものがある。

村内名所舊蹟多く、八幡神社、靈通寺、坂田城址、井田氏墳墓、小堤特址、匍匐坂はその主なるものである。

二川村

當村は郡の北端に在り、地勢概して平坦、村内は小池、柴山、山中、高谷ほか九部落に分れる。産業は農を主とし、米、麥、大豆、落花生、繭、鶏卵、材木、薪炭、竹材の産が多い。村農會、産業組合、養蠶聯合組合は共に成績良好である。芝山観音は房總の名刹にして千百五十

年の歴史を有する。

千代田村

本村は郡の最北端に在り、東北西の三面は丘陵に圍まれ、栗山川の支流高谷川はこの丘陵を南東に流れる。村民は主に農業に従ひ、商工業を営むものは一小部分に過ぎない。重要産物は米、麥、大豆、玉蜀黍、繭、落花生、蔬菜、鶏卵、薪炭等である。

名所舊蹟として知られるものに飯櫃城址、朝倉岩窟、五十石込、清瀧姫の御手洗等がある。

農産物の天府 香取郡

本郡は千葉縣の東北端に位し、下總平原の一部をなしてゐる。東は海上、匝瑳

兩郡に接し、南は山武郡、西は印旛郡に隣り、北は利根の長流を隔て、茨城縣鹿島、行方、稻敷の諸郡に對してゐる。地勢は概ね平坦、僅かに丘陵林帶の起伏があるのみ。曠野遠く開け、沃田空に連り、渺茫限りなき平野であり、匝瑳、山武兩郡を貫流して九十九里濱に注ぐ栗山川は、源を本郡内に發し、灌漑極めて便利である。また關東平野の主水系たる利根川に沿ふを以て、往々洪水の氾濫を見ることもあるも、一碧の長江悠々として流れ、縹渺畫の如きあたり白帆去來し、汽船航行して、水郷の風趣、輪漕の利二つながら備はつてゐる。

廣袤東西九里二十餘町、南北七里二十餘町にして、面積三十六方里餘、現在人口二萬六千餘、その人口十四萬七千を占めて居る。九町三十二ヶ村に區劃せられその町村名は左の如くである。

町 滑河、神崎、佐原、香取、小見川、府馬、栗源、多古、笹川
村 小御門、高岡、米澤、瑞穂、新島、

東大戸、大須賀、本大須賀、香西、津宮、大倉、豊浦、神里、八都、森山、良文、山倉、常磐、久賀、日吉、東條、吉田、中、飯高、豊和、古城、中和、萬歳、神代、橋、東城、豊里

氣候概ね温和にして激變、少ないばかりでなく、地味肥沃、灌漑至便、實に農産物の天府であり、一面山武、印旛に次ぐ養蠶業の最盛地である。牧畜は未だ振はず、家畜は多く役用飼養若くは極めて小規模の農家副業として行はれるに過ぎないが、家禽事業は頗る盛況である。水産業は利根川沿岸に行はるゝのみで、工業では酒類、醬油、織物、マニラ麻眞田、瓦及び煉瓦、下駄等を主とする。

滑河町

郡の西部に位し、西北に利根の流れを擁する本町は、東西、南北各三十町、滑川、猿山、大菅、西大須賀の四大字に分れ、成田線滑河驛あり、加ふるに縣道は

町の中央を貫いて成田町及び千葉市に延び、交通至便である。産業は農を主とし、商工業これに次ぐ。

滑川観音堂、朝日ヶ淵、菊水井戸、三井寺、稚兒塚、耀窟山の窟、八幡ヶ浦の名所舊蹟がある。

神崎町

當町は郡の西部に在り、地勢平坦にして東西に長く、南北に短い。米、麥、蕎麥を主産物とし、清酒、醬油等の醸造品を特産とする。鐵道成田線に沿ひ、利根汽船と並んで、水陸の二面の交通極めて便である。

双生山は俗に神崎森の下と稱し、鮭漁を以て名あり、神崎神社には昔時水戸黄門が名づけたといふナンヂャモンヂャと稱する神樹がある。

佐原町

名所舊蹟には愛宕山、府馬古城、山の舌の大楠、志高の大柀等あり、夙に世人の口の上つてゐる。

栗源町

本町は郡の中央部に在り、地勢概して平坦、栗山川は町の中央を貫流し、その流域は頗る良田に富む。延喜式に據れば石部の石室と稱し匝瑳郡に屬し、香取郡に編入されたのは香取神宮神殿改築のあつた當時である。縣道を通じて佐原多古の兩町に至り、交通頗る便利を極め、産物は米麥を主とし、繭鶏卵がこれに次ぐ。

眞淨寺内には澤の櫻の名木がある。

多古町

本郡南部隨一の樞要地たる當町は、東西一里余、南北二里半の廣袤にして、地勢概して平坦、米、麥、落花生の産出多

元郡役所の在りし本町は、香取町の西に續き、東大戸、香西、新島の諸村と境し、利根川は町を兩斷して流れ、市街の中央には小野川の貫流するあり、舟楫の便よく、水の都として來游の客年々多きを加へてゐる。商業極めて殷盛、商賈軒を列ねて、又た清酒、味淋、醬油等の醸造盛んであり、奈良漬はこの地の名産である。

香取町

官幣大社香取神社の鎮座するを以てその名全國に著はれる當町は、郡の東北部に位置し、地勢概して平坦、米、麥、蕎麥、落花生等を産出し、佐原町より小見川町に至る縣道は町の北部を走り、その他樞要道路縱横して陸路の八達に加ふるに、利根川に蒞むを以て水運また至便である。

櫻の馬場、飯篠長威齋の墓等の名蹟がある。

小見川町

本町は郡の東北部に在り、東北の利根川に接するところ一大湖あり、小見川江湖と稱する。江湖と利根川の間には政府事業たりし大堤防がある。市街の中央には黒部川貫流して江湖に注ぎ米、麥、甘藷、貝類、清酒、醬油、マニラ眞田、足袋類の産多く、集散貨物は主として水運に據る。

名所舊蹟として須賀神社、城山は著名である。

府馬町

當町は郡の東南部に在り、元、府馬、古内、志高、長岡の四ヶ村に分れたるを、自治制施行の際合併して府馬村と稱し、後ち町制を布いて今日に至つた。住民は、農七、商三の割合にて、米麥作多く、養蠶、養鶏、製茶等も行はれる。

く、商業又殷賑を極め、町農會、養蠶組合、産業組合等の活動旺盛を極める。大字島には島古城あつて戦亂の昔を偲ばしめる。

鐵道多古線多古驛あり、縣道縱横し、交通の利便頗る大なるものがある。

笹川町

本町は郡の東部に在り、利根川に注ぐの小流は町の中部を貫流して舟楫灌溉の便は尠くない。住民は農商相半ばし、主産物は米、麥、蕎麥、甘藷、淡水魚等である。佐原町と銚子市の中間に在るを以て交通至便を極め、利根の水運また便利である。

名所舊蹟としては諏訪神苑、龍神山、菰藪原が知られ、殊に菰藪原一帯の風光は筆舌に盡し難いものがある。

小御門村

名蹟として高岡城址、高岡記念櫻、辨天祠が知られる。

郡の西部に在つて神崎町の南に續く當村は舊高倉、名古屋、成井、青山ほか六ヶ村を合併して成り、麥、米、蕎麥、甘藷、薪炭等の産があり、交通状態は概して不便なるも、西に滑河驛がある。

南朝の忠臣藤原師賢を祀る別格官幣社小御門神社鎮座し、その他名所舊蹟に文貞公の墳、文貞公の館址、十二代神社等がある。

高岡村

北東は神崎町、西南は滑河町に接し、西北に利根の流れを有する本村は、郡の西部に位し、元滑河町の一部と聯合して大和田村外五ヶ村の聯合村であつた。米、麥、蕎麥の産出盛んにして、成田線は村の中央部を貫いて陸運便なるのみならず、東京銚子間を航行する内國通運の水運の便がある。

名蹟として高岡城址、高岡記念櫻、辨天祠が知られる。

米澤村

當村は郡の西部に位し、東西約一里五町、南北約一里十二町の廣袤あり、武田、毛成、古原、植房ほか四大字より成る。米、麥、藪を産出し、成田線郡驛あつて交通の便よく、村内には村農會、男女青年團、在郷軍人分會、産業組合等の各種團體組織され、共に優秀なる業績を擧げてゐる。

瑞穂村

本村は郡の西北部に位し、神崎町の南に連り、東西二十四町、南北一里八町、村内を堀之内、谷中、寺内、西邊田ほか三大字に分ち、住民は殆ど農に従ひ、米、麥、藪の産出が多い。鐵道成田線は村内を貫通し、陸運の至便に加ふるに利根川に沿ひ水利の便がある。光福寺は古刹として知られ、寺内に十

一面觀世音がまつられてゐる。

新島村

郡の北端に在つて西から北にかけ利根の水流に面する當村は、往昔の香取海にして、利根川の上流より流出せる土砂が自然堆積して漸次一大洲渚をなしたもので、元和寛永の頃より移住開墾されたところである。

加藤洲の十二橋、堤防大師、安産觀世音、大島藥師如來その他名所舊蹟多く、水田多きため米を以て産物の第一とす。

東大戸村

本村は郡の西部に在り、佐原町の西に連り、村内を大戸、大戸川、麥戸、新寺、玉造ほか九大字に分つ、銚子中山間の縣道は大戸川森戸の中央を通じ、また大須賀川を利用して利根川に出づる等、

水陸の交通極めて便利である。雨乞の松の名所あり、産業は農蠶を主として副業に養鶏を營んでゐる。

大須賀村

當村は郡の西部に在り、大須賀川は俗に九十九曲と稱し、本大須賀村と當村との境を迂餘曲流して利根川に注ぐ。村内を伊能、奈土、柴田、堀籠ほか六大字に分ち、役場は大宇伊能に置く。幾多の河川溝渠村内を縦横し、舟楫直に利根川に出づべく、また佐原町へは縣道通じ、交通至便である。産物は米、麥、藪、大根、甘藷等を主とする。

香西村

香取町の西に續く本村は、郡の西北部に當り、地勢概して平坦、村内を大根、大崎、與倉ほか六大字に分ち、役場を大字大根に置く。村民は主に農に従ひ米麥

の産多く、その他副業的産物として藪、落花生、煙草、薪炭等がある。佐原より多古に通ずる縣道は村の東部を走り、佐原成田間の縣道はその西部を縦貫し、交通の便に恵まれてゐる。

津宮村

當村は郡の北部に在り、利根川に枕して龜甲山、筑波山の雲峰を望み得、氣候溫和、地味肥沃、古來香取神社の奥門と呼ばれ、伊勢の津、鹿島の舟津と併んで三津の一と稱され、蓋し北總の要津である。津の國河岸、香取浦の名所あり、米、麥、鮭、鰻等の産あり、銚子小見川間の要路に當り坦々たる縣道は村の中央を貫いてゐる。

大倉村

本村は郡の東隅に在り、利根川に面し、氣候和暢である。村内を丁子、側

高、丸峰、市神、今市、代下ほか三大字に分ち、役場は大字大倉に置く。利根川と與田浦を控へ、水運實に至便なる上、佐原より小見川に達する縣道あつて陸運に便を與へてゐる。村民は農を主とし、副業に養蠶、漁業が行はれる。郷社側高神社が鎮座する。

豐浦村

當村は郡の北部に在り、東は小見川町に接し、北は利根川の支流を隔て、茨城縣行方郡に對し、地勢概して平坦、大字富田に役場を置き、産業は農を主とし、副業には養鶏、梨樹の栽培、淡水漁業等が營まれる。利根の本支流間に介在するを以て舟楫實に至便なる上、縣道佐原小見川線通じて陸運にも恵まれてゐる。舊蹟に粟飯原城址がある。

神里村

當村は郡の東部に在り、北は小見川町に境し地形東西に長く、南北に短く、丘陵起伏なきにあらざるも、概して平坦である。村内を小見、川上、竹之内、高野ほか四大字に分ち、役場は大字小見に置く。農を主とし、副業には養鶏、養蠶が行はれ、薪炭の産も頗る多い。縣道小見川旭町線は村の中央を貫いて交通至便である。

八都村

子育觀世音、油田一夜堀、白井王宮、蟲幡の經塚等の名所舊蹟あり、木内神社また世に知られる。

森山村

笹川町の西に續き、小見川町の東に接する本村は、郡の東部に在り、北部は利根川を隔て、茨城縣鹿島郡と相對する。農を主業とし、米、麥を第一として甘藷及び大小豆等の農産物以外に、淡水漁獲物が尠なくない。その他鶏卵、干草、繩等を産出する。佐原町と笹川町間の要路に當り、町内には長山城址、台山、森山古城址等の舊蹟がある。

良文村

當村は郡の東部にあり、地勢概して平坦にして殆んど圓形である。元貝塚、阿玉台、久保、五郷内、和泉の五ヶ村に分れたるを、明治二十二年合併したるものにして、村民は農を主とし、米麥の産多く、副業としては養蠶養鶏が行はれ、繩の特産がある。

夕顔觀音、源頼朝の墳墓、貝塚等の舊蹟があり、小見川及び笹川兩町に近く、交通の便良好である。

山倉村

本村は郡の東南に位し、府馬町の西につき、東西に長く、南北に短い地形をなし、丘陵岡阜到處に起伏するを見る。栗山川の水源たる溪流は灌溉に便し、地味極めて肥沃である。されば米、麥、繭等の農産額は巨額にのぼる。

なほ村内には山倉神社、八重垣神社、觀福寺等の古社名刹がある。

常磐村

當村は郡の南部に位し、地形東西に長く、南北に短い楕圓形をなし、地勢東南に進むに従つて高く、河川は悉く西北に流れ、灌溉排水の便良好である。川島、方田、坂、東松崎、南玉造の五區より成

り、住民は主に農業に従事して米麥の産多く、副業としては蠶業が最も盛んである。

郷社松崎神社、松崎岩址、今宮叢林、能滿寺の楓等名所舊蹟に富む。

久賀村

米、麥、繭、木材、薪炭等の産出多き本村は、多古町の北に接し、郡の南部に位し、南北一里二十町、東西一里の廣袤を有し、谷三倉、本三倉、次浦、出沼ほか八大字より成る。佐原町及び多古町へは縣道通じ、村内には寺作の舊蹟あり、また東漸寺には千葉胤直一家の墳墓がある。

日吉村

郡の西南部に位する當村は、栗山川を以て多古町の一部と接し、地勢は丘陵蟠屈して群蝶の散點するが如く、人家は多

く北、南の丘麓に沿ふて聚落を成してゐる。西北耕地は栗山川貫流すること一里余に及び、舟楫灌溉の利便尠なくない。産物は米、麥、繭、草履、養蠶等を主とする。村内には日吉八景をはじめ名所舊蹟が多い。

東條村

多古町の南に續く本村は、地勢概して平坦にして水田多く、畑地、山林に乏しい。明治二十二年舊船越村及び牛尾村を合せて成立せるもので、村民は農を主とし、米麥の産多く、副業では養鶏及び養蠶が頗る盛大に行はれる。道路四通八達し、加ふるに栗山川の水運あつて交通の便に富む。

吉田村

當村は郡の南端に在り、地勢概して平

坦、村内を住方、谷、城新田ほか八大字に分ち、役場は大宇吉田に置く。穴居時代の土甍の在るところより見てその草創の古きを察し得べく、住民は殆んど農を以て立ち、副業には養蠶及び箕の製造が行はれる。多古町より八日市場町に至る縣道通じ、交通頻繁を極める。

中村

本村は郡の南部に在り、吉田、飯高、日吉、常磐、多古、久賀等の町村に接し、地勢概して平坦、往古匝瑳郡中村郷に屬し、郡の中央に當りしを以てこの村名を得たと傳へられる。産業は農を主として米麥作多く、副業として繭、材木、薪炭、甘藷の産出尠くない。

飯高村

加賀見山お初墓。日本寺、六所櫻等の名所舊蹟がある。

豊和村

當村は郡の南部に在り、舊飯高、金原、安久山、大堀、片子、小高の六ヶ村より成り、就中飯高は大部落にして、日蓮宗の舊蹟飯高寺及び村社飯高神社等あるにより、飯高を以て村名とした。農業の振興は近時特に著るしく、養蠶、養鶏等の副業また盛況を呈する。

豊和村

日圓上人の墓、日祐上人百日說法塚その他名所舊蹟頗る多い。

本村は郡の東南端に在り、地勢小丘陵の起伏なきにあらざるも概して平坦にして、東西一里餘、南北一里餘、殆んど正方形をなし、大寺、内山、飯塚、朱持の四大字より成る。大根の産地として知られ、米麥の産も多く、副業としては養蠶業が最も盛んである。

村民は一般に敬神崇祖の念篤く、加ふるに教育に理解深き美風を有し、一村の將來をトするに足りる。

古城村

當村は郡の東南端に位し、地勢南北の兩部に分れ、南部は元椿沼の遺跡にして平坦なるも、北部は丘陵起伏して概ね海拔四、五十米間にあり、東西一里餘、南北一里七町餘、面積一方里強、大字橋木區附近には瓢形の古墳多きに徴するも、その草創の古きが知られる。主産物は、米、麥、落花生、蓮根、薑、甘藷、藷等である。

中和村

府馬町の南に接し、古城村の東に連る本村は、地形南北に長き矩形状をなし、中部及び以北は小丘起伏し、南部一帯は平坦にして謂ゆる干潟八萬石の一部である。農を以て主産業とし、米麥を始め、藷、落花生、瓜類の産が多い。府馬町へは縣道が通ずる。

名所舊蹟には八石、熊野神苑、妙法庵、月山、淺間山、椿海址、諸徳持岩址等がある。

萬歳村

當村は郡の東南に在り、元萬歳、關戸、溝原の三ヶ村に分れたるを、自治制施行の際合併して一村となし今日に至つた。米、麥、藷、薪炭、鶏卵、甘藷、蔬菜、蜜柑、酒、醬油、味噌、下駄、蕨の産類尠なくない、鮎、鰻、鱈の如き淡水漁獲物に富む。縣道は村の中央を貫いて旭町及び笹川町に至る。三角芝、宋休塚等の名所舊蹟がある。

神代村

本村は郡の東部に位し、橋、東城、萬歳、府馬、良文、笹川等の町村と接壤する。東西約二十三町、南北約一里、岳陵岡阜の起伏甚だしく、田園山林交錯の間

に人家が散在する。米、麥、甘藷、藷、鶏卵、薪炭等の産類尠なくない。村農會、地主會、小作會、産業組合等の業續見るべきものが多い。
十騎塚、四寺院址、出陣臺ほか名所舊蹟に富む。

橋村

笹川町の東に接し、北は利根川を隔て、茨城縣鹿島郡と相對する當村は、元青馬、宮本、今郡、谷津ほか四ヶ村に分れ、いづれも橋莊の舊土に屬せしを以て、自治制施行の際、合併して橋村と稱し今日に至つた。農を主産業として漁業これに次ぎ、米、麥、藷、甘藷及び饅その他の淡水漁獲物尠なくない、茶種、清酒等も出す。

東城村

本村は郡の東部に在り、舊小南、夏目、

醤油醸造を誇る海上郡

粟野、小座、八重穂の五ヶ村より成る。村民は主に農に従ひ、米、麥、甘藷、粉、木綿等を出してゐる。村農會、地主會、男女青年團、在郷軍人分會の活動特に目覺ましきものがあり、産業の進展、經濟の向上は年と共に顯著を加へてゐる。

豊里村

當村は郡の東端に在り、村内を富川、下森戸、東笹本、下櫻井、諸持、宮原の六大字に分つ。産業は農を主とし、米、麥、甘藷、鶏卵、藷等を産し、淡水漁獲物も尠なくない。縣道佐原銚子線に沿ひ、利根川には晝夜汽船の航行あり、交通頗る便利である。

大字下櫻井に在る御産宮は玉依姫命を祀る古社として名高く、參詣者踵を接する。

本郡は縣の東北端に在り、西北は香取郡に接し、西南は匝瑳郡に隣り、北は利根の長流を隔て、茨城縣鹿島郡に對し、東は銚子市と交り、南方一帯は雲霧萬里の大平洋に面する。

地勢は概ね平坦にして、たゞ僅かに丘陵の起伏あるのみ、河川また利根川に滲むのほか匝瑳郡界を流れる新川があるに過ぎない。府表東西六里餘、南北三里餘面積八・四万里餘を占め、現在戸數一萬餘、人口約五萬六千をかぞへる。

鐵道總武線及び成田線は郡内を走り、銚子、成田、八日市場方面への交通の便よく、郡内に干潟、旭町、飯岡、猿田、推柴等の驛を置く。定期自動車路は旭町を中心に四通八達し、また郡下到るとこ

ろに縣道あり、車馬の往來頻繁を極める。

郡内を分ちて二町九ヶ村とし、その町村名は左の通りである。

村 旭、飯岡、船木、椎柴、鶴巻、瀧郷、嬰鳴、富浦、矢指、三川、豊岡

産業は普通農業を第一位となし、工業、水産、蠶糸、牧畜、林業等がこれに次ぐ。

氣候概ね温和にして激變なく、地味また肥沃にして一般農作物に適應し、米、麥を始めとし、粟、黍、蕎麥、胡麻、蜀黍等の産出頗る多く、菽類、蕨果類、甘藷また巨額に上る。副業では蠶業及び養鶏が最も一般的に普及されてゐる。牧畜は頗る不振にして、多くは農家の役用若しくは僅かに副業として飼養されるに過ぎない。

東南一帯は、九十九里濱の好漁場を控へ、また利根川にのぞむを以て、鹹淡水産の兩漁獲物に富み、その主なるものは

鱈、鯛、鯉、鮪、鮓、秋刀魚等である。水産製造物は鯉節、肥料、魚油、貝灰等が多い。工業は醬油醸造を以て第一となし、これに亞ぐは澱粉、酒類、桶樽、油類、マニラ麻、蓆吹類、織物等である。

旭町

本町は郡の西北部に位し、嚶鳴村に接し、匝瑳郡共和、椿海、豊畑の三村とも交はり、舊網戸、成田、十日市場、太田の四ヶ村より成る。警察署、銀行會社、學校、各種團體等あり、商業殷盛なる一面農産物に富み、また清酒、焼酎等の醸造工業も盛んである。名所舊蹟には網戸山、木曾義仲の墓、仲島城址等がある。

飯岡町 當町は郡の東南部に位し、東南は九十

九濱に面し、北は豊岡村、西は三川村に境し、上永井、下永井、飯岡ほか五大字より成る。半商半農の地で、米、麥、甘藷、落花生、澱粉等の農産物に富むと共に、鱈、鮓、鯉節、焚干、鹽辛等の水産製造物も多い。銚子市、八日市場町間の縣道あり、鐵道總武線にも沿ひ、交通至便である。

船木村

本村は海上村の西に接し、北は利根川に臨み、高田、芦崎、岡ノ臺、三門、ほか三大區より成る。古來三崎莊船木郷に屬し、住民は質實勤勉の美風あり、信仰心に篤く、教育教化の實績頗る著るべきものが多い。米、甘藷、澱粉の産出多し、村内には松平外記の墓、中島城址等がある。

椎柴村

本村は郡の中央に位し、椎柴、三川、嚶鳴、瀧郷の諸村と隣接し、總武線飯岡驛に近く、運輸交通頗る便利である。大字見廣には役場、小學校等ありて村の中心をなす。見廣城址は要害山と稱し、島田三河守義廣の居城たりしが、永祿年間、里見氏に陥落せられ、今はその名殘を止めるのみである。

鶴巻村

瀧郷村

當村は郡の最北部に位し、北部一帯は概して高燥にして畑地山林に富み、南部の低地は水田が多い。古昔は石井郷に屬した。村民は殆んど農を以て生業となし、主要産物は米、麥、甘藷、大小豆等にして、副業では養蠶及び養鶏が盛んである。

富浦村

岩井龍福寺境内には不動瀧あり、杖を曳いて一日の清遊を娛しむものが多い。

當村は郡の西南端に位し、西北は新川を隔て、匝瑳郡に接し、東北は旭町に接し、東西一里半、南北里餘、地勢概して平坦、九十九里濱に面し、鱈、鯉等の漁獲多く、農産の主なるものは米、麥、繭、落花生等である。各種團體よく整備して業績他の範とするに足り、また村内には神社寺院多く、村民は一般に敬神思想に富んでゐる。

三川村

物も多い。旭町へは定期バスが通じてゐる。

嚶鳴村

旭町の北に續き、郡の西北に位置する本村は、琴田、江ヶ崎、高生、後草の四大區より成り、農産地にして米、麥、落花生、甘藷等を主とし、蔬菜類これに次ぎ、副業に養蠶が盛んである。總武線飯岡驛は本村内に在り、また旭町驛までは二十町餘、交通の便利を極めてゐる。

矢指村

本村は郡の南部に位し、三川、富浦、旭の町村に接し、南は九十九里濱に臨んでゐる。村内を椎名内、野中、東足洗、西足洗、足川の五大區に分ち、各區とも古昔は獨立の一村であつた。農産物には、米、麥、落花生、甘藷等、工産物には肥料、醬油、酒、繭絲等あり、その他漁獲

豊岡村

本村は郡の東部に位し、東南は九十九里濱にのぞみ、東は銚子市に接し、他は船木、椎柴、海上、飯岡、三川の町村に交はり、東西約一里半、南北一里に亘り、稍や長方形をなす。銚子北條間に通

する縣道は村の中央を貫いて交通頗繁を極める。産業は農を主とし、米、麥、菜種、菽類、甘藷、蕈などの産額が頗る多し。

養蠶旺盛の 匝 瑳 郡

本郡は下總國の一部にして、縣の東北に在り、南西は山武郡に、北は香取郡に、東北は海上郡に隣り、東南一帯は渺茫たる九十九里濱にのぞんでゐる。

地勢概ね平坦にして山岳なく、たゞ丘陵の小起伏あるのみ、河川は、源を香取郡に發して山武郡界を流れる栗山川と、匝瑳郡界とを流れる新川との二つがある。各數多の支流を包容して次第に廣濶なる流域を作りつゝ九十九里濱に注いでゐる。

廣袤は東西四里、南北四里八町、周圍

二十里二十三町にして、沿海線二里十二町を有する。現在戸數は、八千餘戸、人口四萬六千をかぞへる。郡内を分ちて一町十三ヶ村とし、その町村名左の如し。

町 八日市場
村 共榮、豊畑、平和、椿海、匝瑳、豊原、南條、東陽、白濱、榮、野田、須賀、共興

郡内各産業中第一位を占むるは農業にして主要農産物としては米麥をはじめ、粟、黍、蕎麥、胡麻、豆菽類、蔬菜等が挙げられる。養蠶業は大正末期頃から急速の進歩を來し、農家副業中の第一位を占めてゐるが、製絲業はまだ不振の域を脱しない。牧畜業は發達遅々として未だ幼稚を極め、豚を除くの外は、多くは役用として飼養されるに過ぎない。養鶏は農家副業として一般に普及し、年産卵數は相當量に上る。

漁業は、白濱、榮、野田、共興、豊畑等海に面する町村に盛んにして、これに次ぐは南條、東陽、白濱等の栗山川沿岸

地である。工産は近時頗にその産額を増大しつゝあるが、その主なるものとして酒類、醬油、油類、箕、味噌、織物、油粕などがある。なほ陶磁器、菅笠、提灯等を特産物とする。

八日市場町

舊郡役所の所在地たりし本町は郡の殆んど中央に在り、地勢北方に高く兩方に低く、横芝町、成田町、旭町等各方面に向つて交通の便よく、鐵道及びバスが通ずる。町民の大半は商を營み、人馬の往來織るが如く、近隣地方の産物はすべて二つに集中し、市街殷賑を極め、縣下有數の都會であり、官公衙、銀行會社、學校等もある。

共 和 村

村内の桃林は縣下に名あり、花季來遊の客頗る多し。

平 和 村

當村は郡の中央部に位し、豊畑、須賀、八日市場、共興の町村に隣接し、村民は専ら農を營み、近時養蠶業頗る旺盛となり、桑苗木の産出多額である。農産物の主なるものは米麥にして、蠶繭これに亞ぎ、蕪類、甘藷、野菜、蠶網等また尠なくない。殊に落花生は本村第一の名産である。八日市場町に連り交通は至便である。

匝 瑳 村

當村は郡の北部に位し、椿海、豊畑、吉田、八日市場の町村及び香取郡飯高村と堺し、北部に丘陵を有し、南部は水田廣く拓け、土地肥沃である。往古物部小事大連の治下に屬し、千葉氏興るに及んでその支族この地に蔓り、謂ゆる匝瑳黨を稱した。村民は専ら農業に従事し、大浦牛蒡及び宮本大根はこの地の名産である。

豊 榮 村

本村は郡の西北部に位し匝瑳、八日市場、南條、東陽、須賀の町村及び香取郡日吉村と交壤し、小丘全村に連つて山林をなし、人家及び田圃はその間に介在する。鐵道總武線は村の南部を貫き、横芝、

豊 畑 村

當村は郡の東北隅に在り、海上郡嚶鳴村及び旭町に接し、地勢平坦にして、新川は村の中央を貫き、謂ゆる干潟八萬石の中心をなし、米を筆頭に麥、蕎麥、落花生、蔬菜、梨、桃等の産物多く、就中落花生はこの地の名産である。村の東部を縣道通り、また鐵道總武線の沿線にして交通の便よく、村内には雨乞ひ神社、水神宮がある。

本村は郡の東部に位し、地勢概ね平坦にして氣候溫和、地味肥沃である。海上郡永井の人玄蕃、式部の兩名によつて開拓された土地、村民は専ら農を營み、砂土の乾燥地なるを以て米麥、菽菜いづれも品質良好で、殊に桑園に適し、養蠶業が盛んに行はれる。鐵道總武線に沿ひ交通利便。

村内には内裡神社、延壽寺の古社名刹がある。

椿 海 村

本村は郡の北部に位し、地勢平坦にして水田多く、地味肥沃である。村内は椿、春海の二大字に分れる。米、麥、落花生、大豆、蠶絲、繭等の産出多額に上り、殊に落花生は縣外にまで移出される。當地は謂ゆる干潟八萬石の一部にして土地豊穡なるを以て村民一般に富裕である。

八日市場の兩驛に近く、交通は至便である。

農業は村民の生業にして、近年養蠶業著るしき進展を來し、收繭高年々増加の趨勢にある。

南條村

當村は郡の西北隅に位し、西は栗山川を隔て、山武郡に連り、地勢高低一様ならず、地味肥沃、耕作に適し、住民多くは富裕である。産業は農業が最も盛大で、傍ら養蠶及び養鶏が行はれ、桑園頗る多い。林産物として薪炭用材共に尠なくない。總武線横芝驛へは約半里、交通の便に恵まれ、村内は芝崎城址、虫生の鬼堂杉の名所舊蹟がある。

東陽村

本村は郡の西南部に位し、西は栗山川を隔て、山武郡に續き、他は榮、須賀、

豊里、南條の諸村に隣接し、地勢概して平坦なるも、栗山川沿岸は稍や高く、山林多く、東部は田園廣く拓けて人家所々に散在する。

白濱村

當村は郡の南端に位し、南東一帯は九十九里濱に面し、東北は榮村、北は東陽村に接し、西南は栗山川を以て山武郡と境する。地勢平坦にして面積約一方里あり、村民は農及び商を營み、副業として養蠶業が盛んである。

栗山川の舟游釣魚は頗るよく、沿岸には堀田氏の陣屋跡がある。縣道は村の中央を走り、交通の便悪くない。

榮村

新川の舟遊は雅趣豊かなるものあり、殊に夏季沿岸の景勝は頗る絶佳である。

養鶏筆頭の 君津郡

本郡は縣の南部に在り、東南北三面は安房、夷隅、市原の三郡に接し、山岳丘陵相連り、漸次傾斜して西は東京灣に面する。湊、小櫃、小糸の三川は丘陵起伏の間を縫ふて、東南より西北に走つて海に注ぐ。

房總山脈に接續する一帯の山間部は、概ね第三紀層より成り、丘陵及び平原部は多く第四紀層に屬する。そして洪積地は主として凝灰質砂岩の分解で、適度の腐植物を混じた壤土より成るから林業に適し、また小糸川及び小櫃川に沿ふた平原の沖積地方は、最も良好な壤土を以て充たされるから、農業は専らこの部分

本村は郡の南部に位し、東南一帯は九十九里濱に面し、他は白濱、東陽、須賀野田の諸村と接壤し、地勢平坦にして地味肥沃である。村民の生業は農及び漁業を専らとし、大正末期頃から副業として養蠶業が頗る盛大となつた。九十九里濱の鱧は著名である。

野田村

九十九里濱に面し、共興、須賀、平和の諸村に接壤する當村は、地勢平坦、海邊に向つて傾斜し、沿海の砂濱は遠く東西に連り、文字通りの長汀をなしてゐる。村民の生業は農及び漁業を専らとし、副業として養蠶業の進歩著るしきもがある。

大字野手は人家稍や稠密にして商家多數あり、漁期の股賑さは附近にその比を見ない。

須賀村

八日市場町の南に續き、野田、平和、豊榮、東陽、榮の諸村と隣接する本村は郡の中央部に位し、地勢概ね平坦にして東西に廣く、沼澤に富む。村民は専ら農を營み、米、麥、荳類、蔬菜類及び繭を主産物とし、鮎、鱸の如き淡水魚の特産がある。總武線は村の西部を通過し、八日市場驛へは半里にして達するを得、交通の便に恵まれてゐる。

共興村

當村は郡の東部に位し、九十九里濱に面し、地勢平坦である。村内を吉崎、長谷、登戸ほか二大字に分ち、村民は協力一致共存共榮の團結心あり、村の示すが如く共に興るところの村である。産物は米、麥、落花生、繭、蠶網、鱧、松苗、杉苗等を主とする。

に發達した。

東西八里二十餘町、南北八里三十餘町、周圍三十九里にして、面積四五方里餘、海岸線一七里餘を有し、現戸數約二萬六千、人口十三萬四千を占め、全郡を分ちて八町二十九ヶ村とする。

町 木更津、久留里、青堀、富津、大貫、佐貫、湊、昭和
村 清川、巖根、金田、長浦、中郷、根形、平岡、馬來田、小櫃、松丘、龜山、富岡、中川、鎌足、波岡、八重原、周西、中、小糸、秋元、三島、周南、貞元、飯野、環、關豐、天神山、竹岡、金谷

氣候溫和、地味肥沃にして頗る農家に適し、米麥作を主に、雜穀、菽類、蔬菜類、果實等の産多く、養蠶業また頗る隆盛を呈する。本郡はまた丘阜原野に富み、放牧場及び乾草に豊かなるを以て、牛豚の飼養盛んに行はれ、製乳業も新産業の一として羽振りを利用してゐる。農業副業の筆頭は養鶏である。西方一帯は東京灣に面するため水産の利に乏しくな

い、牡蠣及び海苔の養殖は著名である。工業は不振を脱れないけれども、酒類、醤油、酢及び味噌、油類、木製品、被服及び附屬糸類、瓦類の産額は多大である。

木更津町

本町は郡の西北部に位し、上總第一の繁華地、東京灣内の要津である。日本武尊東征の御時、寵姫弟橘媛海神の犠牲となつて荒海を渡らせ給ひしが、尊この地に上陸の日、媛の最後を想ふて低徊去るに忍びず、仍て「君不去」を以て地名にしたと傳へられる。

官公衙、銀行會社、學校等多數有り、郡内物貨集散の中心地となつてゐる。

久留里町

當町は郡の東部に位する山間の市街にして馬來田、小櫃、松丘、龜山の諸村と

境し、東南西の三方は丘陵を以て圍まれ、僅かに北西の一部を開くのみで、自然の一大城廓を爲してゐる。久留里線久留里驛あり、木更津、平岡、秋元、市原郡白鳥の町村へは定期自動車の便がある。農商相半し、副業として林業、養鶏が行はれる。

青堀町

本町は郡の西部中央に位し、昔は上總國周准郡大堀村と稱した。省線房總線は町の東方を貫通し、大字大堀に青堀驛がある。また縣道は町の中央を南北に縦断し、交通頗る利便である。町内にはラヂウム鑛泉あり、遊客頗る多い。主要産物は米、麥、落花生、甘藷、南瓜、海苔、魚介類などである。

富津町

當町は郡の西端に位し、東は青堀町に

つゞく。東西に廣く西北に狭い三角形をなし、西端海に突出するところが即ち富津岬である。縣道木更津佐貫線あり、省線房總線また町内を貫き走つて青堀、大貫の兩驛に近い。住民は農漁業に従ひ、米、麥、海松貝、海苔を主産物とし、富津南瓜はその産額を美味に於て縣下第一である。

大貫町

本町は郡の西南端に位し、東南の二方は山脈起伏するも北は全く平野をなし、西は東京灣に面する。産業は農を主として、漁業がこれに亞ぐ。重要物産としては米、麥が主なるもので、蔬菜、落花生、鳥介類等も重要な物産として挙げられる。

縣道富津佐貫線は町の中央を横断し、十數町にして房總線佐貫驛に達し、海岸線は横濱行汽船の發着所をなし、水陸の交通至便である。

佐貫町

東南は湊町に接し、西は東京灣にのぞみ、往古佐貫郷と稱し、舊阿部氏の城地だつた當町は、東西一里十九町、南北十三町餘、佐貫、龜田、龜澤ほか六部落より成る。米、麥、薪炭、酒類、醬油、果實、魚介類を以て主産物とする。省線佐貫驛あり、海には東京灣汽船あつて水陸の交通便利である。

湊町

本町は郡の西南部に在り、房總山系の支脈蜿蜒して岳陵の起伏甚だしく、僅かに湊川の西方海に注ぐ所、田圃相連り、謂ゆる湊町の市街を形成してゐる。産業は農を主とし、漁業これに亞ぎ、副業としては林業が盛んである。房總線湊驛あ

り、また東京横濱房州方面へは汽船の便がある。鬼涙山は日本武尊が大賊を平定せし處と傳へられる。

昭和町

當町は神納、檜葉の兩村が合併して最近町制を實施したもの、木更津町を北へ距る二里、姉崎町を南へ隔つる二里半、金田村の背につゞいた新興澁刺たる町である。房總西線に澗葉驛を置き姉崎、木更津の兩町間及び金田村へはバスの往來が頻繁で交通は至便である。戸数は現在約六百、人口四千弱をかぞへ、共存同榮を目指して活氣を見せてゐる。有租地八一四町餘、田三八〇町餘、畑二四〇町餘、宅地四一町餘、山林一四三町餘、原野七町餘等を有し、米の年産額約十七萬圓、麥同二萬六千圓などを示してゐる。現町長神頭淺次郎氏は勳八等の榮譽を担ふ張り切つた精神の持ち主、鋭意町政の

清川村

成果を擧げること邁進してゐる。郷社坂戸神社の祭禮には、昔は人費を供したものだといひ傳へられてゐる。

本村は郡の西北部に在り、地勢は、舊望陀、周淵を界する山系の支脈が本村に蜿蜒して幾多の岳陵を爲すが、最高所海拔一〇〇尺に過ぎない。小櫃川は村内を紆餘し、流域は廣い平野を爲し、灌漑の便多大である。米、麥、蔬菜、瓦を産し、養鶏、畜牛等も行はれる。縣道及び樞要里道等縦横し、交通状態は極めて便利である。

巖根村

當村は郡の西北部に在り、西は東京灣に面し、地勢概ね平坦、地味肥沃である。住民は農を主とし、漁業これに次ぎ、米、麥、蔬菜、果實、海苔及び魚介類を

主要物産とする。千葉市館山北條町間の
縣道は村内をつらぬき、また省線房總線
に沿ひ、木更津驛へは一里内外にして達
する。

金田村

本村は小櫃川口の北岸を占めて巖根村
と相對し、盤洲鼻海に突出して富津岬と
共に木更津の海灣を擁してゐる。往昔は
望陀郡に屬し、金田郷とたゞへた所、中
島、中野、牛込、瓜倉、畔戸の大字に分
け、戸數八百餘戸、人口四千五百を擁し
米麥を主産物として米十八萬餘圓、麥七
千餘圓の年産額を示し、また副業の金額
に於て一萬七千餘圓の年産をかぞへてゐ
る。今、鎗田嘉十郎氏當村長として一村
の樞機を握り、あらゆる方面の刷新向上
に専念し、村民の信望を博してゐる。
なほ交通は橋葉驛に近く、バスの往還が
頻繁である。

村田に菱原、日枝、藏王の三社に、觀

音、吉祥院、正行、照光、東永寺、來迎
院、蓮照寺等の寺院があり、富士見崎、
また名勝の地として知られる。

長浦村

當村は郡の西北端に在り、地勢概ね平
坦にして三面に林野を繞らし、田圃はそ
の間に介在する。土質は多く輕鬆壤にし
て肥沃に非るも耕作に適し、米の産額頗
る多く、また薪炭、竹材、鶏卵、魚介類
等を主要産物とし、馬糞貝は特産と稱さ
れる。

大字久保田に在る笹上觀音は信州善光
寺の分靈にして、毎歲四月十八日には賽
客群をなして殷盛を呈する。

中郷村

本村は郡の北部に在り、徳川時代には
幕領または旗下の采邑たりしところ、村
民は農を生業とし、副業には養鶏及び果

樹の栽培が盛んに行はれ、主要物産は米、
麥、大豆、粟、蠶豆、柑橘、梨、桃、鶏
卵等である。縣道及び樞要里道は村内を
縱横に貫通し、また省線房總線に沿ひ交
通至便である。

根形村

當村は郡の北部に位し、農八商二の土
地である。主要物産としては米、麥、大
豆、繭、鶏卵等を挙げられる。昭和町と
西隣し、木更津久留里間の縣道通じ、昭
和平岡間のバスも走り、交通概して便利
である。

縣社飽富神社は字飯富に在り、綏靖天
皇時代の創建と傳へられる。なほ名所舊
蹟には丸山塚、鏡ヶ峯等がある。

平岡村

廣袤東西一里二十七町餘、南北一里十
九町を有する本村は、米、麥、薪炭、落

花生、蜀黍、筍、竹材等の産額頗る多く、
副業としては養鶏及び養蠶が隆昌を呈し
てゐる。姉崎馬來田間の縣道あるほか、
久留里線及び房總線に近く、交通の便は
よ。

村内には御靈神社、八坂神社、安養寺
その他神社寺院が多い。

馬來田村

當村は久留里線馬來田驛の所在地にし
て交通の便よく、村内地勢平坦ではない
が、しかし嶮峻峻峰なく、田圃山林連り、
米、麥、蔬菜、果樹の栽培に適し、いづ
れも巨額の年産を示してゐる。

往古馬來田國造の置かれし處、その創
始は太古時代に在るといはれ、村内には
眞里谷城址、阿彌陀堂、眞如寺、八坂神
社等の舊蹟がある。

小櫃村

本村は馬來田、富岡、小糸、久留里の
町村と接し、地勢東部は丘陵起伏して御
腹川その間を流れて長谷川臺の耕地をな
し、西部一帯は愛宕山に連亘する丘槽を
以て割せられ、南部は小櫃川貫流して謂
ゆる小櫃郷の平野を形成する。主産物は
米、麥、繭、生糸、醬油、酒、薪炭、鶏
卵等である。
名所舊蹟には舟塚山及び大友皇子の御
陵がある。

松丘村

當村は郡の東南部に位し、久留里町の
西に續く。丘陵の起伏甚だしきも、土質
多くは砂質壤土にして頗る耕作に適し、
麥、米の栽培多く、林業また盛んであ
る。縣道久留里天津線は村の中央を貫通
する。

大原神社、稻荷神社の古社あり、大字
大坂には山狀富嶽に似て富士山と稱する
高さ約七〇〇尺の山がある。

龜山村

本村は郡の東南隅にあり、久留里町及
び松丘村の南に續いてゐる。清澄山の支
脈は、本村の東境を北に走つて石尊山を
起し、花立峠を経て久留里町に盡きる。

また西方三島村境には大塚山がある。産
業は農を主とし、米麥を産し、その他薪
炭、乾柿、竹材、楊枝、鬮扇、酥柿、自
然農及び川魚等の産額が尠くない。

富岡村

當村は郡の東北部に在り、小櫃川に跨
つて南北に長く、東西に短い。中央部は
丘陵連り最高所を赤坂臺と稱し、海拔九
メートルに達する。小櫃川及びその支流
鎗水川の兩域は地味肥沃、耕作に適し、
川に沿ふて部落がつゞいてゐる。主産物
は米、麥、雜穀、木材、薪炭、繭、鶏卵
等である。村の西部を縣道が走る。

中川村

當村は郡の北部に在り、東は平岡、西は清川及び中郷、南は富岡、北は根形各村に連つてゐる。地勢概ね平坦、小櫃川は富岡、馬來田の二村より來つて村の西端を流れて灌漑に便してゐる。農を主とし、繭、鶏卵の副業なども旺盛である。

熊野神社、善福寺の社寺あり、義商喜平治の墓がある。

鎌足村

本村は矢那、草敷の二部落より成り、郡の西北部に位し、清川、富田、小糸、中、波岡等の諸村に連り、梁川の溪流は村の中央を貫流して灌漑を助ける。産業は農を以て第一とし、米麥を主産物に、雑穀、茶、木材、薪炭、繭、鶏卵等も尠なくない。木更津久留里兩町へは定期バ

スの運行ありて交通の便よく、高倉観音は坂東第三十番の札所として知られる。

波岡村

當村は郡の西部に在り、西の一部は東京灣に蒞む。村内を畑澤、小濱、大久保、上島田ほか二大字に分ち、役場は大久保に置く。産業は農を主とし、漁業これに次ぐ。副業としては養蠶、養鶏等が盛んである。今、主産物を挙げれば米、麥、大豆、粟、甘藷、薪炭、繭、鶏卵、海苔等がある。

葎ヶ作の貝塚は石器時代の遺物として著名である。

八重原村

小糸川の北岸に位し、中、周西、波岡の諸村に接する本村は、三直、南小安、左師、外箕輪ほか四大字より成り、役場は南小安に置き、郵便局は内箕輪にあ

る。米、麥、粟、大豆、甘藷、苗木、薪炭、繭、鶏卵等を主産物とし、村民は一般に勤勉努力の美風を有つてゐる。縣道四方に通じて交通至便であり、また村内は名所舊蹟に富む。

周西村

當村は郡の中央西部に在り、波岡、貞元、飯野、青堀の町村に接し、北西は東京灣に臨んでゐる。東北部は稍や丘陵の起伏を見るも概して平坦であり、小糸川は村の南部を西流して内灣に注ぐ、人見妙見山の頂上に觀音堂あり、眺望絶佳である。省線周西驛ありて鐵道の便よく、縣道富津櫻井線も走る。産業は農漁相半する。

中村

本村は郡の中央に位し、小糸、周南、八重原、鎌足、波岡の諸村と交はり、地

秋元村

本村は郡の東南部に位し、西南隅には鹿野山高く聳え、また東南一帯は小山脈起伏して謂ゆる九十九谷をなし、なほ北には諸原山の屹然たるあり、僅かに東北方に偏して回流する小糸川流域に於て小平野を見るのみである。今を去る一千數百年前、嘉祥年間すでに部落を爲したところで、住民は農林の業に従ふ。鹿野山は縣下の名山で、勝景舊蹟に富む。

三島村

當村は郡の東南に位し、山岳岳陵を以て圍まれ、たゞ西北方の一部小糸川流域に小平野を展開するのみである。昔時は畑村或は周東郷と稱したところ、大岩、二入辻、森ほか七大字より成り、住民は殆んど農に従ひ、米、麥の産あり、その他木材、薪炭、鶏卵等を主産物とする。

二入神社、三島神社、寶性寺の社寺がある。

周南村

本村は郡の西南部に位し、秋元、中、八重原、貞元、佐貫、湊、環の町村に接し、地勢岳陵起伏多く平坦ではないが、小糸川に接する部分は田野遠く展開する。主要産物として米、麥、薪炭、繭、鶏卵、竹細工、蕨等がある。縣道は村の東部及び西部を貫き、木更津、湊兩町に通ずる。

濱子の建曆寺は行基の開基、尾車の鸚鵡岩は人呼ばば答へるといふ。

貞元村

當村は郡の西部に在り、南部に鹿野山の一支脈たる三船山の起伏あり、北に至るに従つて低く、小糸川が緩流する。東西約一里、南北約二里、古昔の須惠の地

勢概ね平坦にして南と北に僅かに山を負ひ、小糸川はその中央を貫流する。廣袤東西三十三町、南北一里餘町、殆んど圓形を爲す。産物は米、醬油、笹、繩を主とし、秋元八重原間の縣道は村の中央に於て中川支線を分岐し、交通極めて便利である。

舊蹟に鬘洗、千騎坂がある。

小糸村

當村は郡の殆んど中央に位し、富岡、小櫃、鎌足、中、秋元、松丘、久留里の町村と堺し、東西南の三方は山脈を以て圍繞され、西方纔に開けて小糸川流れ、沿岸は良田美圃相連る。

當村の産業は農を主とし、林業これに亞ぎ、副業としては、養蠶、養鶏等が盛んである。

菅原神社、諏訪神社、山神社、高照院森下寺、天南寺その他の神社と寺院とがある。

にして木更津、佐貫兩地間の要驛であつた。住民は農を主とし、稀に商工を兼ねるものもある。

大字貞元には貞元親王御廟がある。三船山は里見北條の古戦場である。

飯野村

本村は郡の西方に在り、村民は農を以て生業とし、一部副業的に手工業製品を産する。概して質實の特長を有し、教育に對する理解も深く、小學校は施設よく整ひ、成績頗る良好である。省線房總線に沿ひ、青堀驛に近く、交通便利を極める。

大字飯野には周廻二百五十間の内裏塚あり、奈良朝以前のものにして、貴人の塚たることを確實である。

環村

當村は郡の南部に在り、地勢岳陵起伏

して、溪谷部に僅に部落田圃の開くを見る。關尻、上後、小志駒ほか十一部落より成り、村民は殆んど農業に従事し、副業としては養鶏、養蠶等が盛んである。高宕山は一、二五〇尺の高塔にして頂上に芳泉寺址あり、宮内ヶ瀧は三層の飛瀑にして水聲急雨の如くである。

關豊村

本村は舊時の關豊岡組合村たりしものを合併して成り郡の南部に位する。東には八郎峠の峻嶺あり南には花立峠があつて三崎村と境をなすところ、即ち木の根峠にして往昔の房總街道として知られる。米、麥、薪炭、木材、繭、鶏卵を主産物とする。名所舊蹟には提灯塚、姥石、高野井、荒澤井等がある。

天神山村

當村は郡の西南部に在り、南部一帯は房總山系の支脈蜿蜒して岳陵の起伏甚だしきも、湊川流域は全く平坦にして田圃遠く開けてゐる。産業は農を主とし、林業これに次ぐ。天神には空海の再興に係る小祀あり、天神山川は香魚を以て聞え、その他不動瀧、梨澤鑛泉、鐵杖止等の名所舊蹟がある。

竹岡村

本村は郡の南部に位し、西北は東京灣にのぞみ、東西一里餘、南北一里三十町、竹ヶ岡及び萩生の二大字より成る。産業は農を主とし、漁業これに次ぎ、副業に林業が行はれる。主産物には米、麥、魚介、薪炭、木材等がある。館山街道に沿ふて、南に省線金谷驛及び湊驛があると共に、また海に東京灣汽船があつて交通極めて便利である。

金谷村

當村は郡の西南端に在り、西は東京灣にのぞむ。地勢山岳起伏して海岸に於て少部の平坦地を見るのみである。陸には房總線金谷驛、海には東京灣汽船發着所あつて交通頗る便利である。主要物産には米、麥等のほか、石材、生魚等があり、住民は概して富裕である。

金谷神社、豐受皇大神社、本覺寺等の神社寺院を有する。

農作適應の

夷隅郡

本郡は縣の東南端に在り、北は長生郡に、西は市原、君津二郡に、南は安房郡に連り、東は渺茫たる太平洋に面する。房總山脈の支脈蜿蜒して到るところ丘

陵の起伏を見、河川の大なるは夷隅川にして溪谷を紆餘して遠く海に注ぐ。

東西六里、南北六里二十八町、面積二五方里四一五を有し、戸數一萬八千餘でその人口九萬人を占めてゐる。全部を七町十五ヶ村に分れる。

町 興津、大多喜、勝浦、國吉、御宿、大原、長者

村 上野、總野、總元、老川、西畑、上瑞澤、瑞澤、千町、古澤、中川、東、布施、東海、中根、浪花

郡内には省線房總線及び大原線あり、郡西の一部西畑村には小湊鐵道もあり、これら沿線には長者町、大原町、浪花村、御宿町、勝浦町、興津町、東村、國吉町、中川村、大多喜町、總元村、西畑村等がある。また御宿町東村間、長者町興津町間、勝浦町總元村間には定期乗合自動車を通つてゐる。縣道は郡内到此ころに縦横し、車馬の往來頻繁にして交通至便を極める。海岸線はいづれも水清くして遠淺なれ

ば海水浴に適し、夏季避暑に来る都人士によつて埋められる。産業は普通農業を以て第一となし、漁業、工業、養蠶業等が之れに次ぐ。抑々本郡は氣候の激變なく、地味また概して肥沃にして一般農作物に適應し、米麥をはじめ、雜穀、菽類、蔬菜類、果實の産出が多い。養蠶業はこゝ十數年來急速の進歩を示し、牧畜また本縣中安房郡に亞ぐの盛地である。漁業また實に盛んにして水産製造物の産出も相當額に上る。工業は不振を免れないが、しかし侮るべからざるものがあり、工業藥品、清酒、味噌、蕨吹等頗る隆昌を呈してゐる。

興津町

本町は郡の最南端に在り、南は太平洋に面し、オセノコログシ、濱行川岬、辨天岬、椎島、興津城址等の名所舊蹟あり。東は勝浦町に、西は小湊町に連る。米、

麥、蔬菜、沃度、鹽化加里、食鹽、鯉節、灰鮑、干鰯、石花草等を主産物とする。房総線鶴原驛及び上總興津驛あり、また天津町及び長者町へは定期バスの便がある。

勝浦町

當町は郡の南部、興津町の東につゞきて、東北は御宿町に連る。南は海に面して勝浦灣を抱き、海水浴地として知られ、勝浦城址、田道將軍の墓、勝浦八景、砲臺址等の名所舊蹟あり、勝浦港は水深く浪穏かに、船舶常に幅輻し、沿岸一帯は景勝に富む。町民の生業は商業、若くは農漁業にして、房総線勝浦驛あり、交通至便を極む。

國吉町

本町は郡の北部に位し、町内を分ちて刈谷、彌正、深谷、今關ほか五部落とす

る。小學校及び青年學校の成績優秀にして他の範とするに足り、青年團及び在郷軍人分會の事業は頗る旺盛を極めてゐる。縣道は町を丁字形に走り、鐵道大原線國吉驛ありて交通至便である。舊蹟としては伊甚屯倉址、伊甚國府臺、萬木城址、刈谷古戰場等があり、他縣にも聞えてゐる。

御宿町

當町は郡の東端に位し、東西北の三方に山脈屹立し、南方は網代灣を抱いて眺望廣く、氣候溫和にして風光絶佳、別荘地及び海水浴場として最好適地であり、大業作家吉屋信子女史の「女の階級」にも出て來るところである。房総線御宿驛ありて交通の便はよく、夏季には都人士によつて埋められる。名所舊蹟には郷社春日神社、最明寺、妙昌寺、夕影の松、袴山、弓折坂、千人塚等がある。

大原町

本町は郡の東部に位し、東一帯は太平洋に面し、北に岩瀬川に流れる。房総線と大原線の分岐點に當り交通頗る利便、往古芦道縣の所在地たりしを見れば早くより相當の聚落をなしたことが知られる。住民は農、商、漁業各同數にて、寄瀨大原兩區が商業の中心をなし、主産物は米麥をはじめ、菘類、蔬菜、繭、鶏卵、酒、醬油、莫莖等である。

長者町

當町は郡の東端に位し、東は太平洋に面し、西南は丘陵連互して土地高く、北に夷隅川を周らし、土地肥沃にして灌漑の便あり、且つ氣候溫和にして避寒、避暑に適する。面積零方里四九。古くから房州街道の要路として知られたところ、農商漁の三者鼎立し、副業に果樹栽培

培、製茶、養蠶等が行はれる。江場土海水浴場は風光甚だ明媚で知られてゐる。

大多喜町

本町は千葉市を距る東南へ約十二里、舊郡役所の所在地にして、郡の西北部に位し、四方山岳に圍繞せられ、殊に西部は高峰聳え、岳體數里に連互する。市街は縣道に沿ふて南より北に伸び、夷隅川は町の中央を貫流して景勝自ら備はる。夷隅郡の首都として商業最も盛んなると同時に、米、麥、蔬菜、木材、薪炭、清酒等の産が多い。

上野村

當村は郡の南部に在り、西は小湊町、南は興津町、東南は勝浦町に續いてゐる。往古神武天皇の朝に、天太玉命の孫天富命諸忌部を率ゐて安房國に來るや、

本村名木に於て材を取り、館を作りて奈部をしてこれに居らしめた。草創以て甚だ古きを知る。産物は米麥を最とし、豆類、雜穀、蔬菜、果實、用材等これに次ぐ。

總野村

本村は郡の南部に位し、面積二方里。六、關谷、中谷、平田、新戸、宿戸ほか十二大字より成り、役場は大字松野に置く。村民概ね農を業とし、副業として養蠶行はれ、林産物また尠なくない。房総線勝浦驛へ約一里、交通の便がよい。村内には平廣常の、墓古佛堂、勝浦富士等の名所舊蹟がある。

總元村

當村は郡の中央部に位し、地勢概ね丘陵にして夷隅川その間を流れ、地味肥沃である。村民は専ら農を生業とし、副業

として吹蕨の製造が行はれ、また地勢の關係上林業を營む者も多い。縣道大多喜勝浦線村の西部を通り、また鐵道大原線總武驛ありて交通の便に恵まれてゐる。山中城址、石神瀑布は共に世人に知られる。

老川村

本村は郡の西南隅に位し、地勢到る處に丘陵起伏し、しかも養老川の水源地である。上古伊保庄筒森郷また筒森村と稱したところである。村民は専ら農を生業とし、また山間地なるを以て造林をなすもの尠なくない。米、麥、木材、薪炭、竹材、柿等を主産物とする。高瀧、栗又鑛泉、小田代鑛泉等は名所として廣く知られてゐる。

西畑村

當村は郡の西部に位し、北は大多喜町

に續く。村内るところ丘陵起伏して殆んど平地なく、村民は概ね農を業とし、米麥を筆頭に、蔬菜、木材、薪炭、生繭、鶏卵等の産出頗る多く、村民いづれも富裕である。

兜の山、内梨瀧、田代瀧、毒蛇退治の址等の名所舊蹟多く、勝浦久留里間の縣道を通じて交通の便は悪くない。

上 瀑 村

本村は郡の西北隅、大多喜町の北に位し、四圍殆んど山脈を繞らし、西北部長生郡界をなすところが最も高い。大多喜水道は水源地を本村内に有し、大字横山の淺間神社境内には高さ丈餘に及ぶ大瀧がある。村民は概ね農を業とし、米、麥、薪炭、野菜、果實等を主産物とするほか、吠庭の製造が盛んに行はれる。

瑞 澤 村

昌を極める。
八幡神社、榮久山光福寺、伊保城址等の古蹟あり、交通の便良好である。

東 村

當村は郡の中央より稍や東方に偏在し、房總山麓に屬する山岳丘陵多く、田圃は夷隅川支流々域に展開するのみである。平安朝時代にすでに夷隅郡に屬し、鎌倉時代より明治に至るまで伊南の莊に屬した。村民の生業は概ね農にして、副業として養蠶、蕨の製造、養鶏等盛んに行はれ、一般に富裕である。

布 施 村

本村は郡の東南部に在り、七本、實谷、上布施、下布施の四大字より成る。寛平年中、高望王九大の孫、伊南の城主上總介常隆これを領し、壽永二年同廣常は源頼朝のため鎌倉に殺されたが、のちその

當村は郡の西北隅に位し、東西約一里七町、南北一里十六町、地勢山岳重疊する。主要物産は米、麥、豆類、雜穀、蔬菜、果實等にして、なほ薪炭その他の林産物、蕨等の製造品も相當に産出しつゝある。

妙樂寺、福聚院の古刹のほか駒返橋、日の子坂、飯盛山等の名所舊蹟があり、遠く迄聞えてゐる。

千 町 村

本村は郡の東北部に位し、地勢西北の二方に山岳連互し、東南は廣く田野開け、地味肥沃にして灌漑の便良好である。村民概ね農を業とし、主要物産と稱すべきものには豆、蔬菜、薪炭、梨、蠶繭、吠、蕨等がある。
大字萩原行元寺境内には冷泉大納言の墓あり、往古この地には神軍ありてその神馬大根に躓き倒れてから、一般にこれを栽培するを禁じた傳説がある。

罪なかりしを知りこの地を以て布施料に賜り、村民依つて起ると傳ふ。米麥を筆頭に、蔬菜、果實、蕨、薪炭等の産が多い。

東 海 村

當村は郡の東端に位し、長者町の南につゞき、東は太平洋に面する。地勢は南より北に延び、南西北の三面に山脈連り、中間に田圃が開け、海岸は白砂青松遠くつらなる。村民は概ね農を生業とし、米、麥、豆、蔬菜、繭の産額が多い。房總線は村の東南部を走るも、村内に停車場の設置はない。
二葉松と三階松、日在灣、發坂峠の名所がある。

中 根 村

本村は郡の東北部に位し、長者町の西に連り、地勢丘陵に富む、村民は概ね農

古 澤 村

當村は郡の東端に位し、南境を夷隅川が流れる。地味概して肥沃、米麥をはじめ豆類、芋類、野菜類、梨、繭、製茶等の産出頗る多い。縣道村内を縦横して車馬の往來繁く、房總線太東驛に近く交通至便である。教育の普及頗る徹底し、各種團體の成績また良好を極める。

名所舊蹟には石安寺、妙傳寺、法華寺、法興寺、矢嶽城址、蓮池坂等がある。

中 川 村

本村は郡の中央稍や北寄りに在り、地勢概して丘陵に富み、増田、作田、行川、乙女ほか五大字に分れる。徳川時代は幕領或は旗下の采邑等區々に分れてゐた。産業は農を主とし、米、麥、薪炭、吠、蕨、鶏卵の産出多く、また畜牛が隆

を業とし、副業としては養蠶が行はれ、また梨、柑橘その他の果實を多量に産出する。房總線長者驛へ約半里、縣道も通じ、交通状態は頗る良好である。

名所舊蹟に清水寺、白井古城址等あり、大字押日は、古昔貴人この地を過ぎて日の暮るゝを惜しみし處なりと傳ふ程の景勝地である。

浪 花 村

當村は郡の東部に位し、東南は太平洋に面し、地勢西北部に山岳を負ひ、東南に傾斜し、山林または原野に富み、田圃は比較的尠ない。村民の生業は農または漁業にして副業として養蠶が行はれ、米、麥、及び海産物を最とし、菘類、蔬菜、竹材等も少なくない。鐵道房總線は村の東北部を貫き、浪花驛を置きて交通の便よ。

戸渡山、烏山鼻の名勝がありて知られてゐる。

牧畜に古い 安房郡

本郡は、縣の南端に突出せる半島にして、北方鋸山脈を隔て、君津、夷隅の二郡に接するほか、三面海を以て圍まれる。山岳丘陵蜿蜒起伏して平坦部は極めて少ない。

廣袤東西十里二十餘町、南北七里二十餘町、周回四十三里十餘町にして内海岸線三十一里十餘町に達し、面積は三五方里九六である。として現戸數三萬四千、人口十六萬餘人を擁し、郡内を分ちて十四町二十八ヶ村とし、町村名は次の如くである。

- 町 館山北條、那古、船形、勝山、保田、千倉、和田、鴨川、天津、岩井、江見、白濱、小湊、富浦
- 村 長尾、西岬、豊房、館野、九重、稻

都、神戸、宮崎、八東、佐久間、平群、瀧田、國府、七浦、健田、千歳、豊田、丸、北三原、南三原、大海、曾呂、大山、吉尾、主基、田原、西條、東條

鐵道房總線は海岸線に沿ふ郡の輪廓を一周し、餘山北條町及び千倉町以南の地には省營バスが走り、その他保田鴨川間、岩井館山北條間、小湊館野間等には定期自動車の便を有し、縣道は各町村間を縦横して交通の便益頗る多大である。

氣候溫和、地味肥沃にして頗る農作に適し、米を第一に、麥、粟、稗、黍、蕎麥、大小豆、落花生、果實の産が多い。養蠶業は遠く明暦年間内藤若狭守時代には桑樹を栽植し、養蠶を奨励したことがあり、明治二十年安房國四郡蠶絲業組合創設以來、各地に養蠶傳習所を開設し、或は組合製絲場を置く等、改良進歩の端緒を開くに至り、今日では頗る隆昌を極めてゐる。牧畜業また沿革古く、慶長年に國主里見氏が嶺岡に牛馬を放牧したるを嚆矢となし、徳川幕府時代には印度よ

り白牛を輸入する等のことがあつた。水産も縣下第一と稱され、近年工業も漸次隆盛に赴きつゝある。

館山北條町

本町は郡の西南部海岸に面し、舊北條町及び館山町を合併して成り、安房郡の首都をなす。女學校、中學校等あり、官公衙、銀行會社等多數存し、商業販賣を極め、房總線安房北條驛あり、長尾村、神戸村等へは省線バスが通ひ交通至便を極める。館山灣に臨み、海軍航空隊の所在地としても著名である。鏡ヶ浦、館山公園の名勝がある。

那古町

當町は縣水産試験所の所在地にして、郡の西部に位し、地勢北部に小岳起伏し、南部に至つて田圃遠く展げ、平久里川が館山北條町境を流れる。交通至便に

して従つて人馬の往來頻繁、商業も殊のほか發達してゐるが、農業はその生命にして町民の大半はこれを業とする。那古の浦、大蘇鐵、和泉式部の塚等の名所舊蹟がある。

船形町

本町は郡の西部に位し、南は鏡ヶ浦に面し、他は那古、富浦、八東の町村に接する。地勢北境に丘陵起伏せるも、概して平坦である。住民の約半數は漁業を營み、農を業とするものは全戸數の約五分に過ぎない。商工業者は約四割を占める團扇原料の製造盛んに行はれ、京濱地方へ移出する。館山北條町から那古を経て本町を貫く縣道は勝山町へ抜けてゐる。

勝山町

當町は郡の西部に位し、保田、佐久間岩井の町村と交はり、北は一帯に東京灣

に面してゐる。町内を分ちて加知山、龍島、岩井袋、下佐久間の四部落とする。米、麥、魚介類の産が多い。房總線勝山驛あり、また縣道、國道縱横し、海には東京灣汽船の發着所あり、水陸共に交通至便である。田子ノ浦、浮島の名勝がある。

保田町

本町は郡の西北部に位し、西は東京灣に臨み、東南北の三面は山岳重疊し、殊に北部は有名なる鋸山脈連互するあり、保田川は町を貫流する。町民の生業は農及び漁業にして、近年海水浴場として都人士の來遊するもの増加し、商業も頗る發達して來た。特産物としては保田の水仙最も有名にして、年々多量に京濱方面へ移出する。

千倉町

名所舊蹟には黒瀧、忠僕元助の墓、入定窟、郷社熊野神社等がある。

和田町

本町は郡の東端に在り、東は太平洋に面し、他は南三原、北三原、曾呂、大海の諸村に境する。住民は農漁相半し、米麥のほか鯉、金鎗魚、鯖、海藻の漁獲がある。縣道は町の中央を東西に貫き謂ゆる房總街道をなし、車馬の往來頻繁を極める。

鴨川町

當町は郡の東北部に位し、東は太平洋に面し、地勢西南部は山脈連互し、他は概ね平坦にして、一半は市街地、一半は耕地である。舊長狹郡の首都にして、同地方の物貨多くこゝに輻輳し、随つて商業殷盛を極める。沿岸は海産物豊富にして漁業盛んである。大字前原の海濱を前原灣と稱し、灣内眺望絶佳を極める。

天津町

本町は郡の東北部に在り、南は渺茫たる太平洋に臨み、北が山、南が海なるため冬暖夏冷の土地である。縣道は本町を縦貫して謂ゆる房總東街道をなし、人馬の交通頻繁を極め、また汽船より海上の便も良好である。

日蓮宗發祥の地なる清澄山は町内に在り、今公園になつてゐる。その他工藤左

近吉隆の城址、清澄寺、旭森、日蓮創洗井等の名蹟がある。

岩井町

當町は郡の西北部に位し、平群、勝山佐久間、八東、富浦の町村に隣接し、西方一帯は東京灣に面する。土地概して平坦にして肥沃、加ふるに排水灌漑の便がある。村民の生業は農を以て首位とし、漁業及び商工業がこれに次ぐ。副業としては養蠶及び柑橘の栽培行はれ、殊に畜牛に至つては最も盛んである。

富山は安房の名山と稱される。

江見町

本町は郡の東南部に位し、南は太平洋に面し、他は和田、大海、會呂の町村に隣り、地勢概して山岳多く、平坦の地はたゞ縣道の兩側に存するのみ、殊に秋葉山、大塚山、八幡山等連互し、西は辨天

山に至つて海に迫り、東は蛇山の山足が遠く海中に突出する。海岸は岩礁が多い。主要物産は米、豆、蔬菜、果實、木材、薪炭のほか鱈、鯉の水産物がある。

白濱町

當町は郡の南端に位し、南部一帯は太平洋に面し、他は七浦、長尾、豊房の諸村に隣接する。北部には山脈連互し、他は概ね平坦である。往古は眞間村と稱したが、仁安年間より白羽眞間村と稱し、中古より白濱村と改め今日に至つた。縣下屈指の漁業地にして岩目、乙濱の二港、漁船の出入多く、海産物頗る豊富である。

小湊町

本町は郡の東北部に在り、以前は湊村と稱し、町制施行後小湊町と改めた。南は太平洋に面し、内浦、小湊の二區に分

れ、古昔長狹郡に屬し、池田莊東條郷に隸した。産業は漁を主とし、鮪、鯉、秋刀魚、鰯の漁獲多く、また農産物では、米、麥、豆があり、その他木材、薪炭も尠なくない。交通は至便にして、名所舊蹟頗る多し。

富浦町

當町は郡の西端に在り、北は内灣に面する。多田良、原岡、豊岡、南無の四大字より成り、役場は大字原岡に置く。住民は農業を主とし、漁業に従ふものも尠なくない。また煉乳の製産地として夙に著名である。縣道は村を貫き、南は館山北條町へ、北は千葉市へ通じ、海には横濱方面への定期汽船の利便がある。

太武岬は名所として知られる。

西岬村

本村は郡の西南端に位し、西南一帯は

太平洋に、北は東京灣に面し、地勢三面に海を繞らし、半島をなして海中に突出する。往古朝夷郡に屬した。村民の生業は農及び漁業にして、殊に漁業は隆盛を極め、鱈、鯉、鮪、秋刀魚の漁獲物が甚だ多し。

縣社洲崎神社、明神山、洲の崎、臥龍松、蛇切神社、刳木舟等の名所舊蹟があり、有名である。

豊房村

當村は郡の南部に在りて、廣袤東西一里、南北二里、面積二方里を有する。住民は農を主とし、主要物産は米、麥、大豆、蔬菜、蒟、鶏卵等にして、また畜牛が盛んである。縣道は村の中央を貫き、南は長尾、白濱の漁村に通じ、北は館山港に達する。

名所舊蹟としては弘法井、烏山城址、金丸城址、里見氏墳墓等があり、近在に聞えてゐる。

館野村

本村は郡の南部に位し豊房、館山北條、國府、九重の町村と接壤する。村會、男女青年團、在郷軍人分會、産業組合の諸團體の活動成績良好を極め、産業は農を主とし、副業としては畜牛、養蠶、養鶏等が行はれる。縣道は村の中央部を東西に貫く。

名所舊蹟には里見城址、孝子伴直家主の碑がある。

九重村

當村は郡の西南部に位し、地勢南境に小丘相連り、東北の二境また山脈蜿蜒し、釜ヶ臺、大峰等の小峰がその間に起伏し、中央部は一帯の平原にして、遙かに富山、伊豫嶽を仰ぎ見られる。産物は米麥を最とし、蔬菜、梨、柑橘、白土、苳、繩、鶏卵等を主とする。

今宮山王社及び大井明神の古社が聞える。

稲都村

本村は御庄、池ノ内、中山名の三大字より成り、郡の中央部に位する。産業は農を主とし、畜牛、養鶏等の副業が盛んである。縣道和田館山北條線は村の南部を東西に貫き、車馬の往來が頻繁である。教育状態良好、衛生思想また頗る向上の域にある。

舊蹟には頼朝の隠れ井戸がある。

神戸村

當村は郡の南部に在り、太神宮、中里龍岡、大石ほか五部落より成る。産業は農を主とし、主要物産には米、麥、落花生、甘藷、南瓜、西瓜、薪炭、白土、桃柿、柑橘等がある。館山北條町より本村安房神社及び布良海軍望樓に通ずる縣道

が縦横し、交通便利である。安房神社はまた櫻の名所としても知られる。

富崎村

本村は郡の南端に位し、地勢東より南に山嶽連立して海に迫り、その斜面に部落及び耕地がある。縣下の模範村として知られ、村民の生業は主として漁業にして、地域狹隘なるため農業の如きはあまり振はない。外房街道通じ、車馬の往來頻繁である。

郷社布良崎神社、布良崎、布良港、海軍望樓等の名所舊蹟がある。

八束村

當村は郡の西部に位し、那古、船形兩町の北に續く。西北より東南に至る三方は山を繞らし、西の一方のみ僅かに展開し、岡本川は村の中央を貫流する。田圃

は多く山狭に階段状を爲す。産物は米麥を最とし、木材、薪炭、牛乳、枇杷、柑橘等を主とする。交通はあまり恵まれてゐない。

舊蹟としては宮本城址、里見氏の墓、義民佐内の碑がある。

佐久間村

本村は郡の北部に位し、保田町の南につゞき、南部一帯は山脈連立して謂ゆる津邊野を成し、中央稍や平坦にして佐久間川貫流し、灌溉の便頗るよい。村民の生業は概ね農にして畜産業また非常に發達して居り、郡中富裕村の一に數へられてゐる。

神社寺院多く、中にも瑞雲山天寧禪寺は著名である。

平群村

當村は平久里中、山田、荒川、平久里

國府村

下、犬掛ほか四大字より成り、郡の西北部に位置する。産業は農を主とし牧畜また盛んである。主要物産は米、麥、豆、柑橘、柿、薪炭、牛乳、牛酪、促成胡瓜等である。縣道通じ、交通の便頗るよい

當村は郡の中央部に位し、東及び北は山脈蜿蜒し、海拔九〇〇尺の海老敷山を起點として稻都村の境を南方に走り、西部は一帯の平地にして平群川はその西方を限る。往昔、孝謙天皇の御代、平群、安房、朝夷、長狭の四郡を管轄する國府を本村府中に置かれたことあり、村名はこれより起る。主産物は米、麥、蔬菜、柑橘、梨等で、牧牛も盛んである。

名所舊蹟には勤王家鳥川義所出生地、高塚山、五十騎橋等がある。

健田村

當村は郡の西位に位し、南部に山脈連立して千倉町につゞき、土地概して高隆、瀬戸川が村の中央を貫流し東は太平洋に面する。往古朝夷郡に屬した。村民の生業は主として農にして、沿海地方に漁業を營むものまた尠なくない。副業として養鶏及び牧畜が行はれる。千倉町及び館山北條町へ縣道が通ずるほか、外房街道に沿ひ交通状態良好である。

瀧田村

本村は郡の稍や中央部に位し、南北に蜿蜒たる山脈連立し、地味肥沃と稱すべからざるも、灌溉の便があり、土地の乾燥適當にして作物良く充實し、米麥を主に蔬菜、豆類、果實を産し、また薪炭、竹材、乳製品も尠なくない。縣道村の中央を貫通し、交通至便にして、車馬の往來頻繁である。

名所舊蹟には里見氏古戰場、増間炎泉、瀧田の古城等があり、縣内に聞えてゐる。

七浦村

本村は郡の東南に位し、東北は千倉町に接し、東南一帯の地は太平洋に面する。村内を白間津、大川、千田、平磯の四大字に分ち、外房の一漁村として海産物最も豊富、秋刀魚、鯖、龍蝦、鯖、その他魚介類海藻等を産し、また農産物では米麥を最とし、甘藷、大豆等これに次

千歳村

本村は郡の東部に在り、西に眞野山聳え、南は瀬戸川、北は丸山川に流れ、東は太平洋に面し、地勢概して平坦である。和名抄の謂ゆる朝夷郡新田郷の地で

ある。農漁相半し、青蕨を特産とし、農家副業には養蠶、養鶏及び畜牛等がある。海陸共に交通の便がよい。

豊田村

當村は郡の東南部に位し、東西北の三方に山を繞らし、東南の一方廣潤なる田野をなし、その中に淺間山(貴船山)が宛も島のやうに孤立する。地味一般に肥沃、村民の生業は概ね農にして梨樹の栽培及び蕪蕨の製造が副業として盛んに行はれる。

丸村

本村は郡の中央部に位し、地勢南方に開け、東西北の三方は繞らずに山岳を以

てし、殊に中央以北は甚だしく、愛宕山鷹取山、法華塔の諸山が聳え、就中愛宕山は縣下第一の高山として有名である。面積二方里五〇、主産物は米麥を筆頭に、豆類、甘藷、果實、繭、煉乳、牛酪、薪炭、用材、籐竹製品等を多く産出する。

麻呂館址、千朶の楓等の名所舊蹟が村内にある。

北三原村

當村は郡の東南部に位し、四方殆んど山脈を以て圍まれ、南北の一部三原川に沿ふところだけが僅かに平坦である。村民概ね農を業とし、商工業者は極めて少ない。副業として畜産、養蠶、養鶏等が盛んに行はれる。和田町那古町への交通至便を極める。

大字小川には三原城址あり、享祿年間境井禪正の據りしところ、往時の面影なほ偲ぶに足る。

南三原村

本村は郡の南部に位して、地勢概ね平坦、山野少なく、三原川は村の中央を貫流し、南は太平洋に面する。村民の生業は農漁業を主とし、商工業これに次ぐ、殊に畜産業は日進月歩の状態に在る。銚子館山北條間の縣道は村の南部を貫き、車馬の往來頻繁である。

名所舊蹟には普門寺、諏訪山、富士淺間(淺間山)等がある。

太海村

當村は郡の東部に位し、東南は太平洋に面し、北に嶺岡山脈あつて土地高隆である。外房の小漁村にして村民はいづれも農または漁業を以てその生業とし、鰹節及び干鰯はこの地の名産である。銚子館山北條間の縣道は村の中央を縦貫する。濱波太は漁場として名あり、且つ海

上には小島散在し、南は太夫崎を望み、景勝の地である。

曾呂村

本村は郡の東北部に位し、鴨川町の西に連り、東西に長く南北に短く、四圍山脈連互して平地が少ない。曾呂川は村の中央を流れ、地味肥沃である。村民概ね農を生業とし、副業として蕨、細等の製造が行はれ、牧牛また頗る盛んである。有名な嶺岡牧場は本村及び大山村に連り、千葉縣種畜場を置き、畜牛の改良に力を致してゐる。

大山村

當村は郡の北端に位し、東西一里二十町、南北一里、北部は謂ゆる房總山脈連五し、南部また岳陵蜿蜒たるあり、中央に田野が開けてゐる。村民の生業は概ね農にして、副業として養蠶、養鶏、家畜

等盛んに行はれ、一般に富裕である。各種團體の業績頗る良好、交通機關またよく備はる。

高藏山大山寺は、聖武天皇時代の草創に成る古刹である。

吉尾村

本村は郡の北部に位し、北方君津郡界は房總山脈連互し、南に嶺岡山脈起伏し、加茂川は村の中央を東西に貫流し、田野は多くその流域に開く。村民の生業は概して農にして牧畜最も盛んに、養蠶もまた近年著るしい進歩の跡を示してゐる。

縣道鴨川保田線は村の中央を貫く。

主基村

當村は郡の最北部に位し、南に嶺岡山脈あり、北は房總山脈を以て君津郡に境する。面積一方里〇二、加茂川が村の中

央を貫流し、灌溉に便してゐる。元五ヶ村に分立し居り、自治制施行の際に合併したもの、明治天皇の御大典に際し、主基御齋田に定められ、村名はこれに起りしものである。

御齋田公園、白瀧不動の名所がある。

田原村

本村は郡の最北端に位し、東は西條村及び鴨川町に續き、加茂川は村の南部を東流する。面積一方里〇九。村民の生業は概ね農にして商工業これに亞ぎ、規模は小さいがオイルエンチン精米所を經營する者があり、副業として製茶、養蠶、牧畜、養鶏等が行はれる。縣道保田鴨川線あり、交通の便によい。

舊蹟には金山城址、大裏塚がある。

西條村

當村は郡の西北端に位し、北部君津郡

界に房總山脈連互し、加茂川の支流金山川は村内を貫いて流れ、土地概ね高隆である。往古は長狭郡に屬してゐた。小學校は各種施設よく整ひ、兒童の學業成績良好である。村民の生業は概ね農にして米、麥、野菜、薪炭、用材、藻細工、味噌、醬油、瓦、繭、果實等を主要産物とする。

東條村

本村は郡の東部に在り、天津町の西に隣接し、南は太平洋に面する。東北一帯に山脈連互し、西南稍や平坦にして田野開け、民家はその間に點在する。村内を分ちて西、廣場、東、和泉の四大字とする。主産物は米、麥、繭、豆類、蔬菜、清酒、木材、薪炭等である。縣道鴨川天津線は村の南部を横斷する。袈裟掛松、旗掛松等、その他の名蹟が多い。

猪鼻山(千葉市)

千葉家累代の城の跡、この山一つが、たうとう今の千葉市を生み出したわけ。山の登り口、往來に面した方三尺ばかりの清水、その傍らに立札があつて、「お茶の水——治承の昔千葉常胤頼朝公を居城猪鼻山に迎へし時此の水を以て茶を侑む公深く之を賞味せりと傳ふ、爾來お茶の水と稱し星霜八百年清水滾々として今に竭きず」とある。

段々を敷へれば八十一ばかり、市内は脚の下、内海は眼の下、まこと展望の大景觀、こゝを我が居城となし、武を練り文を繕き、天下の風雲を睨んでゐだ城主の風貌が偲ばれる。天主臺跡、七天王の塚など何れも懐古の情をそゝる。

九十九里濱(片貝あたり)

約七千里の海岸を有つ本州日本には、日本海方面にも、大平洋方面にも、随分と長い砂濱はあるが、上總の九十九里く

らゐ美しい濱はない。北、飯岡の岬から南、大東岬まで六町一里で九十九里、實測では十六里半の砂濱はそこにその美しい形を破るべき一つの小山、一つの岩礁だになく、永劫に白浪蹴立て、襲ひかゝる大平洋に對して、弛む時ない半圓の弓を、じわりと張つてうけとめてゐる。この中央に片貝の街がある。

鯛の漁場として天下に冠たる九十九里濱の中央片貝海岸は、一望千里、海水清く、岩礁一つなき白砂遠淺で、磯廣く、砂美しく、海水に鹽漬けにした體を温める砂風呂遊びや、湯に出て蛤とるのも面白く、家庭學生向き簡素な行樂地、海水浴場としても近來喜ばれる。

地引網は毎朝この濱一帯に張られる、夏はアジが主で、カマス、ヒラメ、エビ等の雜魚もはひる。朝霧を突いて船出男ましい聲、やがて裸男百人近くもが、エイヤ聲して洩き上げる網には銀魚のをどる、避暑客のこれに交つて網洩くを手傳ひ、夕飯の菜に生きた魚をもらつて歸るもまた、一興である。

東京府勢

總說

位置

東京府は本陸部と島嶼部から成り、本陸部は武藏國の一部で、島嶼部は伊豆七島、小笠原諸島及び硫黄列島等から成る。本陸部は千葉、埼玉、神奈川及び山梨の四縣と隣接し、東南部のみ開いて東京灣にのぞみ、現在二市三郡、即ち東京八王子の二市と、西多摩、南多摩、北多摩の三郡とから成立する。島嶼部は大島八丈及び小笠原の三支廳により管轄されてゐる。府廳を東京市麹町區に置く。面積二千四百四十方軒、人口約六百萬、わが國府縣中最大の密度を有する。東京市域をのぞく府下は、面積一六〇〇餘方軒。

人口四十四萬人で、人口密度は一方軒二百七十餘人で、關東地方の他縣とほぼ等し。

地形・氣候

本陸部の地形は大略これを四區に分つことが出来る。西部は雲取山(二〇一七米)を主峯とする古い地層より成る山地で、山梨縣と境し、中央部、西部及び南部は、山麓丘陵地及び多摩丘陵地で、中央部東部は廣大な武藏野臺地の地域で、東部は江戸川中川、荒川の形成した沖積低地である。河川は上述のほか多摩川があつて、關東山地より發して本流し、府をほとり東西に貫流、下流は三角洲を形成してゐる。以上の地形區のうち東部沖積低地及び

中央部東部の武藏野臺地の東部の地域は東京市内に屬し、それ以西の臺地、丘陵地及び山地の地域は府下である。

島嶼部は富士火山帯に屬する雁行島列をなし、現になほ火山活動を行つてゐるものもある。

本陸部は一般に南關東式の氣候なる故に溫和である。西部に至るに従ひ、氣溫の較差及び降水量が大となる。

島嶼部は海洋性の氣候で、氣溫の較差少なく、南するに従つて溫暖となり、小笠原島に於ては二月の平均氣溫が十七度を越え、霜雪の類は全然見られない。

産業

沖積低地が狭いので水田面積小なのに對し、廣い武藏野臺地は多く畑地であるから、畑地の面積は水田面積の三倍以上を占める。

畑作物としては大麥、甘藷のほか、茄子、胡瓜、蕪菁、甘藍、生大根、牛蒡、越瓜等の蔬菜類の栽培が頗る隆盛を極め

帝都近郊の農業地域の特色を遺憾なく發揮してゐる。この蔬菜栽培地帯が東京市の住宅地の西進と共に西方地域へ後退しつゝあるは著るしき現象である。

牧畜では養豚及び乳牛飼育が共に盛んで、これも大都市近接地域の一つの特色といふことが出来る。

水産は海苔の産が頗る多いが、それは東京市内の地域に屬し、いはゆる府下では多摩川の香魚が最も有名である。

工業では東京市内の沖積低地が大工業地帯を形成してゐるが、これは東京市の項で述べることとし、府下では山麓地帯の製絲業と八王子市の絹織物とがあるに過ぎない。

交通

東京はわが國鐵道交通の一大核心で、四方にそれ／＼幹線を出してゐるが、府下を最も長く走つて東京市の中心と連絡するものは中央線である。ために東京府下にとつては、東京驛よりも新宿驛の方

が重要となる。その他、武蔵野鐵道、西武電車、京王電車が市と府下とを連結し青梅電鐵、五日市鐵道、は中央線の補助をなし、八王子市からは別に横濱へ直接に結ぶ横濱線が古くからあるほか、埼玉縣を経て高崎市につゞく八高線が最近新しく開通した。

海上は島嶼部と隅田川河口地帯を結ぶものが重要である。その最も代表的なるものとして芝浦から出航する東京灣汽船がある。

航空路の發着地點としては東京市内に羽田があり、府下に立川がある。

沿革

古く國府の置かれたところが府下にあるが、中世には全く關東の片田舎となつてゐた。徳川時代に至り江戸が政治上の中心となり、ために大いに開けて來たのであるが、近郊地域なる故を以て、郡部の地は多く天領または旗本領となり、一の名大すら置かれなかつたのである。

名勝

明治四年、東京府市が現在の東京の區域に置かれ、同十一年靜岡縣に屬した伊豆七島が東京府に轉屬し、小笠原島は明治十三年になつてから内務省より府に換屬した。三多摩地方は同二十三年神奈川縣より府に管轄を轉じたのである。なほ埼玉縣よりはしばしば小地域が移管されたのである。

東京都制案は近時やうやく有力となりやがて東京府の地域が全部東京都の地域となるに至る形勢にある。

東京市内にある名勝及び舊蹟は別に記すこととし、ここには府下の分だけを擧げよう。先づ中央線沿線では井之頭公園小金井の櫻、立川飛行場、多摩御陵、高尾山等があり、その他奥多摩谷は萬人の知るところ、村山貯水池、府中の大國魂神社、日野の近くの高幡不動等また全國に廣く知られてゐる全國屈指の名勝地である。

東京市

位置

東京府の東南隅にあり、帝國の首府といふ點から見れば、狹長なるわが國のほと中部を占むる關東地方の中央に位してゐるから、その位置は好適である。直接の後背地としてわが國最大の關東平野を控へ、かつ要害なる東京灣にのぞんでゐることも、帝都としての強味である。東は千葉縣、北は埼玉縣、南は神奈川縣に隣接し、西は北多摩郡に境する。

都市區域

昭和七年までは面積八一平方千の地域で、麴町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川の十五區に分れ

てゐたが、本市及び隣接町村多年の望みであつた市域の擴張は、同年十月一日を期して行はれ、所謂大東京、即ち新東京市の面積は一躍五五〇平方千、世界第五位となり、新市域はこれを品川、目黒、荏原、大森、蒲田、世田谷、澁谷、澁橋中野、杉並、豊島、瀧野川、王子、荒川板橋、足立、向島、城東、葛飾、江戸川の二十區に分けた。

人口

天正十八年、徳川家康が江戸城を以て柳營となすまでは、僅かに百餘戸に過ぎなかつたといふ。享保六年調査には町方人口五十萬人餘とあり、天明六年の火災飢饉時に際して調査したものは百二十八萬五千人を數へ、明治維新直後の人口は極めて減少し、明治六年には殆ど半減して五十九萬六千人と計算された。その後漸次増加し、殊に歐洲大戰後に於て著るしく、現在の人口は約五百九十萬人である。即ち一方千一萬餘人の密度を有し

地勢

東京灣に注ぐ隅田川河口附近を中心とし、東は江戸川、西は多摩川に達する地域を占め東京灣のうち更に品川灣が市域中に入り込み、臺地性の山手及びその接続地と、沖積低原より成る下町及びその接続とより成る。山手の高度は海拔二十米から四十米である。

行政・軍事・教育機關

宮城は麴町區の中央にあつて、もと徳川將軍家の居城たりし地である。櫻田門外より霞ヶ關にかけて警視廳、内務省、外務省、參謀本部等があり、これを中心として、帝國議會新議事堂、大藏省、文部省、司法省、海軍省、陸軍省、拓務省、逓信省、鐵道省、農林省、宮内省、内閣樞密院等があり、帝國行政上の最高中樞機關は殆どここに集つてゐる。

軍事上の機關としては近衛、第一の兩

師團司令部、その他旅團司令部三、參謀本部、教育總監部、航空本部、兵器本廠等、軍事中樞機關も全部東京市内にあり陸海軍各大學をはじめ、軍事教育機關としての主要學校は七校ある。

學藝上の中心都市としては、最高學府たる帝國大學、文理科大學、工業大學、商科大學等あり、また私立大學十有餘、その他各種専門學校多數、中等學校にありては無慮何百をかぞへられてゐる。

交通

東京市は東海道本線、東北本線、中央線、總武線の四大幹線を集中し、これらに連絡するために環狀線山手線があり、更に省線に連絡して京濱、池上、目黒蒲田、東京横濱各電鐵、玉川電軌、小田原急行鐵道、京王電軌、西武、武藏野各鐵道、東武鐵道東上線及び伊勢崎線、王子京成各電軌、帝都電鐵等の社線が蜘蛛の巣のやうに分布し、市内電車網並に東京地下鐵道、市營バス、東京乗合バス等も

通じ新市域各地のバス並に無數の圓タクと共に市内の交通に便すること甚だ大なるものがある。

街路の主なるものは昭和通（北品川から銀座裏、江戸橋、和泉橋、上野驛前、坂本町を経て南千住に至る）と、大正通（九段坂上に始り神田、淺草橋、錦糸堀を経て龜戸に至る）等合はせて二十二線あり、その主要道路は悉く舗裝されてゐる。

橋梁は隅田川に千住大橋、白鬚、言問吾妻、駒形、既、藏前、兩國、新大橋、清洲、永代等あり、その他聖橋、日本橋等と共に市の一體觀たるを失はず全國的にも有名である。

商工業

日本橋區から麴町區の東部にかけて銀行、會社、デパート、大貨事務所等、世界にも比類の少ない大ビル街を形成し、日本銀行をはじめ、日本勸業、日本興業第一、十五、三井、三菱、安田、住友、

名勝・遊覽地

公園には上野、芝、淺草、日比谷、濱町等あり、隅田川、江戸川、飛鳥山、龜戸、洗足池等も公園としてそれ／＼特徴を持ち、その名所舊蹟遊覽地の主なるものは、神宮外苑、靖國神社、深川八幡宮、震災記念堂、赤坂日枝神社、愛宕山芝浦、御臺場、湯島神社、小石川傳通院泉岳寺、小石川植物園、三宅坂、江戸川端、辨慶橋附近等數へきれず地方よりの遊覽客が頗る多い。

八王子市

八王子市は三多摩の中心都市で、人口約五萬を有する多摩川流域中の最大都會である。南には多摩丘陵が高尾山麓から東に延び、北には加治丘陵が小佛支脈から東南に突出し、所謂八王子盆地には、北淺川と南淺川とが多摩御陵の位置する廿里丘陵を挟んで東流し、その合流點の南岸の段丘上に八王子の市街が位置を決定してゐる。

南北には川越街道と鎌倉街道がこゝで連結し、東西には甲州街道が交叉して走り、殊に徳川時代には甲州口として重要視され、千人隊或は千人同心と稱した屯田兵を駐在せしめた。現に町の西口には千人町の地名が残り、他の部分と異つた屋敷町らしい氣がする。

當地は古くは木曾義仲の後裔たる大石

氏の領有に係り、八王子城を築いて城下町として繁榮したが、天正年間、前田利家のために亡ぼされてからは市場町として若返り、文化文政の頃は、なか／＼殷盛を極めたものである。またその當時から機業も盛んに行はれ、八王子織の名は廣く天下に知られた。

現今、八王子の生命は實に織物にある。市民の生活は直接間接に斯業に關係をもたないものはなく、市の活況は一に織物の商況に支配される。製品の大部は絹織物で、綿織物は全く少く、人絹交織は未だ注目に値しないが織物界の大勢に順應して遠からず發展するであらう。産額順に並べると、節織類が最も多くて全産額の三分の一を越え、絹紡績類、糸織類はこれに次ぎ、紹織類、袴地類も少くない。

市の南方丘陵臺上にある唯一の公園なる躑躅園に立てば、遠くは富士をはじめ甲信武相の山々指呼の間に通り、淺川の清流は脚下を繞り、市街の全景は眞に一

幅の繪である。市内には八幡神社、子安神社、大善寺等がある。

養蠶機場の西多摩郡

東京府三郡の一にして、府の最西端に位置し、北は埼玉縣秩父郡及び入間郡に境し、南は南多摩郡及び神奈川縣の津久井郡に續き、西及び西南は山梨縣の北都留郡と接し、東は北多摩、南多摩の兩郡に交はる。

關東山脈の一部が郡内に連互するを以て山岳重疊し、惣岳山（七四二米）、大嶽山（一二六七米）、馬頭刈山（八八四米）、白杵山（八四二米）、生藤山（九九〇米）、御前山（一四〇五米）、鋸山（一〇四六米）川乗山（一三六三米）、大ツ石山（一四七八米）等がその主なるもので、更に西境には天目山、雲取山、七ツ石山等がそびへてゐる。

これら山岳の間を多摩川とその支流たる秋川が流れて二條の溪谷をつくり、いたるところに奇岩怪石を嚙んで溪谷美を發揮する。

多摩川は東京市上水道の水源をなし、甲州街道の裏街道は、この河に沿ふて甲斐に出で青梅鐵道の電車は中央線の立川より岐れてこの谷に入り御嶽に至る。五日市鐵道も同じく立川より發し、秋川の谷より岩井に至る。

本郡は明治十三年五月多摩郡を東西南北の四に分けた時に出来た郡で、初めは神奈川縣に屬したが、明治二十六年四月東京府に編入された。次の二町二十五ヶ村より成る。

町 五日市、青梅
村 福生、熊川、西多摩、箱根ヶ崎、石畑、殿ヶ谷、長岡、多西、平井、東秋留、西秋留、増戸、大久野、戸倉、小宮、檜原、霞、小曾木、成木、調布、吉野、三田、古里、米川、小河内

五日市町

本町は郡の中央南寄りに位し、増戸、大久野、小宮、戸倉の諸村及び南多摩郡川口村に境し、秋川溪口聚落の部落にして、その名によりて市場町たりしことが知られる。この地はもと黒八丈の産地として有名であつたが、今は昔の面影をとゞめるよすがもない。面積〇・六七方里人口五千三百人弱。米、織物、木炭、繭を主産物とする。

五日市鐵道は町の中央たる五日市驛より起り、中央線に連絡し、また別に乗合自動車の方があつた。
伊勢の四日市、越後の十日町など、同じく昔より五・十の日に市が立つた。阿伎留神社は多摩八座の一にして御朱印を賜りたることあり、廣徳寺また古刹として著名である。南奥多摩の溪谷は名勝として知られ、都人士の來遊するものが頗る多し。

青梅町

帝都を距ること西方へ十三里、西多摩郡の東北に位し東は霞村、西は三田村、南は調布村及び吉野村、北は小曾木村に隣接する。東部は田野拓け、いはゆる武藏野の最西端に當つてゐる。西方一帯は翠緑の丘陵に掩はれ、大嶽、御嶽、光明山等の峰巒の雄姿を仰ぎ見る。南の方、町の稍々半分は多摩川の碧溪に臨んでゐる。本町はかくの如く自然美に抱擁せらるゝのみならず、一面質朴純眞の氣風漲つてゐる。初めは農商本位の町であつたが、近年青梅織物の進歩につれ、その中心地として發達したる故、工業地帯化した感が多分にある。この地はまた二七日の市場町にて、他の定期市場が影を没せらるに拘らず、本町のみは今日なほこれを繼續してゐる。また青梅綿、青梅綿の産地たるは周知のことである。青梅街道は町の中央を東西に貫き、交通の便大なる

ものがある。

福生・熊川村組合

福生村は熊川村と共に拜領島の内にてその位置は熊川の北、多摩川の東岸に位し、面積〇・四三方里、戸數七百餘をかぞへる。村内には府蠶業取締支所、福生郵便局、武陽銀行支店、福生産業組合等あり、交通は八高線東福生驛及び青梅線福生驛を有して頗る便利である。名勝には石濱渡の舊址、辨財天、清岩院、長徳寺がある。

熊川村は郡の東南隅に位し、南北西の三多摩郡交會點にあり、多摩川が村の西を流れてゐる。面積〇・二三方里を有し米、蕎麥が多く、また村内には熊川砂利採取場がある。交通は八高線南拜島驛及び青梅線拜島驛によりて頗る至便、名勝には南北朝の古戰場たる牛濱の渡、眞福寺、千手院、福生院等がある。
なほ組合役場は福生村に置く。

西多摩村

本村は郡の東部に位し、東は箱根ヶ崎村、北は長岡村及び霞村、西は調布村、南は多西村及び福生村につゞき、玉川上水の取入口たる羽村があるので廣く知られる。

玉川取入口は四代將軍家綱時代、老中松平伊豆守信綱の奉行により築造せしものにて水路十二里半にして江戸四谷大木戸に達した。今は東京市に於て羽村堰を設け、水を村山貯水池に送つてゐる。戸數八百五十、人口五千七百、面積は〇・五五方里である。米、蕎麥、大麥、甘藷の産が非常に多く、青梅鐵道は村の中央を貫いて羽村驛を置く。

武陽銀行支店、中根製絲工場、生糸販賣組合西玉社、村産業組合等の産業經濟機關備はり、神明神社、稻荷社、五ノ神社、玉川神社、松本神社、一峯院、禪林寺等社寺も多し。

箱根ヶ崎・石畑村組合

狭山、村山にかけてこの附近一帯は狭山丘陵と稱し武蔵七黨の一たる村山黨の根據地であつた。箱根ヶ崎は宮池あるにによりて地名生じ、昔より武蔵野交通の要路にあたる宿場にして今なほ古驛の面影が残つてゐる。面積〇・二五方里、米、蕎麥の産が多い。

石畑村は箱根ヶ崎村の南に接し、東は北多摩郡村山村につゞく。面積〇・二九方里、こゝもまた米、蕎麥を以て主要物産とする。
殿ヶ谷村は石畑村に接し、東は同じく北多摩郡村山村と境し、面積〇・一七方里、郡中でも小村の方である。郷社阿豆佐美天神社は延喜式神名帳多摩郡八座の一にして、江戸時代の名社で聞え高き神社であつた。
長岡村は箱根ヶ崎村の北に接し、東は

埼玉縣元狭山村に境する。面積〇・一四
方里、青梅町へは自動車を通ひ交通の便
がよす。

多西村

東秋留村の北、平井村の東にあり、多
摩の清流の西側に沿ふてゐる。この附近
は中世多西郡と稱し、本村が今その名を
存してゐるのである。面積〇・五方里。
村内には製糸工場三をかぞへ、年産三十
餘萬に上つてゐる。その他米、麥、繭の
産も多く、多西村信購利組合及び菅生信
購販利組合の活動は大に見るべきもの
がある。

青梅鐵道福生驛及び五日市線西秋留驛
に近く交通の便は悪くない。村内には村
社小宮神社、慈勝寺、藏守院等をはじめ
とし三社八ヶ寺を有し、名所には瀬戸岡
古墳、尾崎觀音等あり、小宮神社には鎌
倉時代の製作と傳へる和鏡が保存されて
ゐる。

平井村

西秋留村の北、多西村の西に接し、更
に調布村の南、大久野村の東にあつて
介在し、五日市町を距へ東北で約一里半
の地點を占める。面積〇・四方里を有し
主要産物としては米、麥及び繭が擧げら
れる。

昔は鹽澤の寶光寺に鹿の湯と稱する鑛
泉あり、藥用として江戸に送つたとい
ふ。村名は元當地に平井氏が居住したる
に依る。

五日市線病院前驛に近く、また青梅線
福生驛へは乗合自動車を通じ、交通の利
便頗る大である。村内には春日神社、八
幡神社の二社があり、西光院、祥雲寺、
常福院、大智寺、東光院ほか二ヶ寺もあ
る。

東秋留村

郡の東南部に位し、北は多西村につゞ
き、東には多摩川流れ、南は南多摩郡加
住村に接して、村境近くを秋川が流れて
ゐる。

往古はこの邊一帯を小川郷と稱し、牧
場のあつたところで、戰國時代には二の
宮城あり太田道灌に攻められて落城した
歴史があり、歴史上に聞えて居るところ
である。

面積〇・四八方里にして、人口約四千
をかぞへる。村内には醬油工場、織物工
場等ありて、織物業が頗る盛に行はれ、
織物の年産十數萬圓に上りその他米、繭
麥の産出も少くない。東秋留村信購利組
合、同出荷組合、同納稅組合等はいづれ
も業績顯著にして他の範となすに足るも
のがある。

五日市鐵道東秋留驛ありて交通の便よ
く、東京府廳までは十二里にて達する。
古墳大塚二宮神社等の舊蹟あり、二宮神
社は古くは小河明神ともいひ、武藏國六
所宮府中の一である。

西秋留村

郡の東南部に位置し、東は東秋留村に
つらなり、北は平井村に接し、西は増戸
村と交はり、南は南多摩郡加住村及び川
口村と境してゐる。村の殆ど中央を秋川
が東西に流れ、灌漑の便大いによろし
い。淵上、油平、牛沼、下代繼、上大繼
引田の六大字より成り、面積〇・三五方
里、人口二千五百有餘をかぞへ、村役場
は大字淵上に置く。

繭を以て産物の筆頭とし、これに次で
米麥の産が頗る多い。住民は概ね勤勉質
朴の美風を有し思想また穩健中正にして
自治、教育、文化各方面に堅實な進歩を
見せつゝあり、衛生状態のごときも極め
て良好といふことが出来る。

五日市鐵道西秋留驛ありて交通の便は
悪からず、史蹟に石器時代の住居址群存
し、寺院に觀音寺、眞照寺、眞城寺、福
徳寺、寶泉寺等がある。

増戸村

五日市町の東に接し、南は秋川の清流
にのぞんで南多摩郡川口村と界し、北に
大久野村がある。大字網代には鑛泉あり
て年々來遊の客多く、大字山田には鎌倉
公方基氏の伯母瑞雲尼の開基せる瑞雲寺
といふ名刹あり、また横澤に吉祥院あり
て平山氏重の書寫して納めたといふ大鑛
若經が保存されてゐる。その他岩走神社
龍性寺、松岩寺、成就院、禪昌寺等の神
社寺院あり、眞言宗大悲願寺は鎌倉時代
以後武家に崇敬せられし寺にして、國寶
指定の阿彌陀如來、千手觀音及び勢至菩
薩の諸像を安置する。

戸數は約五百、面積〇・四二方里を擁
し、水田極めて少く、畑地は水田の約十
二倍の面積を占めてゐる。産物は米麥及
び繭を主とする。増戸産業組合は堅實な
經營方針の下に業績頗る擧りつゝある
五日市線武藏増戸驛あり、五日市町に

近く、交通は至便である。

大久野村

五日市町の北にありて、東は調布、平
井の二村、東南は増戸村、北は吉野村、
西は山岳地帯をなして小宮、三田等の諸
村と地域相錯する。五日市鐵道の終點
にあたりて、大久野驛及び武藏岩井驛を
置く。

山中の寒村だが、近時、淺野セメント
工場の設立によりて頗る偉觀を呈し、た
めに大いに活氣がある。實に勝峯山の石
灰岩より、山間の小聚落であつた岩井は
活潑なる鑛山聚落に急變したのである。

面積一方里四五〇主要産物は前記セメ
ントのほか、米、繭、麥等あり、山地な
るが故に水田は極めて少く僅かに二十三
町歩餘に過ぎない。

村内名勝としては勝峯石灰山をはじめ
稻村石扇松、藤吉橋、二ツ塚峠、樽窪瀧
不動瀧、肝要長壽、四入淵、玉の内鑛乳

洞、日の出山、檜岩など枚舉に追なきほど多く、神社寺院も白山神社、三島神社、岩井院、慶福寺、光明寺等二社十ヶ寺をかぞへる。

府道村道共に漸次改修されつゝあり、貨物の運輸至つて良好である。た名山にして登山の客が多い。

檜原村

小宮村

本村は郡の南西に位する山村にして、東北は秋川を隔て、五日市町に界し、西は小宮、檜原兩村に隣り、南は盆堀谷及び刈寄谷の山嶺に續き、南多摩郡川口村と同恩方村に接してゐる。

御嶽山の南麓、五日市町の西に接する本村は、北に大久野村及び三田村、西に檜原村、南に戸倉村と接し、海拔八八四メートルの馬頭刈山は村の西境にある。乙津、養澤の二大字より成り、面積一里三、人口二千人弱をかぞへる。

五日市町より秋川に沿うて西し、その水源にあたる山中の部落にして、南は山梨縣に境してゐる。山また山の仙境で、村内には平山伊賀守氏重の城址あり、また大嶽山は多摩郡内第一の高山にして、路四十二町を上りて藏王権現がある。鈴ヶ尾の七瀧、神戸岩、神戸の溪流等はすでに世人の知るところ、また拂澤溪間に

全村五部落に分れ、本郷、西戸倉、坂下十里木の三部落は村道に沿ひたる平坦部に屬し、星竹は秋川を隔て、北に突出し、盆堀は山嶺を越えて盆堀川の沿岸にあり、村全面積は〇・七八方里、内耕地と宅地が約六十町歩で、他は全部山林にして山林のうち公有林が六割を占める。

近世までは小宮郷と稱し、郡内五十九ヶ村を總べたところで、ここに小宮五郎左衛門なる豪族あり、その名は東鑑にも見え、頗る有名である。

産物は米、生糸、玉糸、繭、大麥、甘藷、里芋、馬鈴薯等である。

産物は米、麥、繭を以て主とし、山村なるが故に林産物にも富む。小宮産業組合は頗る旺盛に活動し、業績見るべきものが多い。

五日市町へは自動車の便あり、道路は

寺院には徳雲院及び明光院あり、村民は概して敬神崇祖の念に富んでゐる。村内光明山は、支那の五嶽の一に擬せられ

は拂澤の瀧あり、未だ廣く知られないが瀧は三段より成り、その最も大なるは高さ五十尺餘、頗る雄大である。

面積六方里八の大村にして、主産物は繭と麥である。産業組合の活動成績良好なるはすでに名有り、その他各種團體とも頗る活潑な狀況を呈してゐる。

山村なれば交通の便にはあまり恵まれず、村内には寒澤寺、吉祥寺、玉傳寺、西光寺ほか四ヶ寺がある。

霞村

小曾木村

成木村

青梅町の東に接し、北に小曾木村、南に西多摩村あり、東は埼玉縣入間郡金子村と接壤してゐる。大門、新町、今井、藤橋ほか八大字より成り、村役場は大門に置き、面積は一方里一、人口は約七千三百人である。

郡の東北隅にありて、北は近く飯能町と相對し、南に青梅町あり、東南は霞村に接し、西南は三田村につゞき、西及び西北は成木村と境する。黒澤川は西南方の山地に源を發し、村内を西北に流れて埼玉縣に入る。地勢西に高く、東するに従つて低い。

郡の北部にあり、北は埼玉縣飯能町南高麗村に境し、南は小曾木村の一部を越えて青梅町に隣接し、西に古里村西南に三田村、東に小曾木村がある。地形は埼玉縣境を底邊とする三角形をなし、全村山岳丘陵に掩はれ、北方を成木川が東流する。

天寶寺内に霞池あり、また霞川あるによりて霞なる村名があり、もと師岡山城守の居住地にして「東路土産に、霧はたつわけ入る八重の外山哉」とあるはこの地のことである。鹽船には有名なる觀音堂ありて寺寶木像千手觀音像を安置し、境内にはまた永仁四年の板碑があり、近在に聞える。

天正十八年、八王子落城の後北條氏の家臣は小曾木山に引籠り、はじめ石灰を製造し、慶長年中、江戸城造營の時には村民は石灰の御用をつとめたといふ。石灰は實に本村の特産にして、年額も相當額に達する。その他米、麥、繭の産も少なくない。

昔は高麗郡に屬したといはれる。もと足利尊氏の創建せし愛染院があつたが、今は寶篋印塔を存するのみにて、愛染明王を安置する。明治初年までは小曾木村に屬してゐたが、自治制施行の際獨立して今日に至つた。面積一方里四六。主産に米、麥、木材、薪炭、繭等がある。

産物は麥、米、繭、織物を主とし、殊に織物は年産三十餘萬圓にのぼり、村内重要産業とされる。

青梅鐵道小作、河邊の兩驛に近く、共に乗合自動車の便がある。

南小曾木、富岡、黒澤の三字より成り面積〇・九八方里、青梅驛へは約一里半にて達するを得、青梅飯能間の乗合自動車村が村内を走つてゐる。村社は二、寺院は海藏院、高德寺ほか五ヶ寺をかぞへる。

山村なれば交通は比較的悪く、僅かに青梅町へ自動車が通するのみである。村内安樂寺は、鎌倉右府頼朝の發願により、畠山重忠がこれを草創したと傳へられてゐる。

調布村

本村は青梅町の南に接し、西北に霞村東に西多摩村あり、南は多西村につゞき西南は大久野村に接し、西は吉野村に境して漸次山岳地帯に入る。西北から本村に入つた多摩川は東流して東方西多摩村界に至つて右折し、東境をうるほしつゝ南流する。

青梅鐵道河邊驛及び青梅驛に近く、交通は頗る便利である。

調布の名は、多摩川の清水にて布を洗ひしに起るといふ。上代多摩川にて晒されたる布即ち調布は朝廷に奉られたものである。またこの地方は古く牧場地帯なりしものゝ如く、駒木堂の如き地名が今も残つてゐる。

面積は〇・八三方里あり、主産物としては米、繭、麥が擧げられる。なほ阿須の溪流は名勝として知られ、寺院には玉泉寺、花藏院ほか五ヶ寺がある。

吉野村

青梅町の西方にありて多摩川の南北にまたがり、北岸を日向和田、南岸を日影和田と稱す。この邊一帶は梅林を以て聞え、周圍三尺以上のもの二千五百株を越え、總數数千本ありといはれ、季節になると東京市内にも吉野梅林のポスターが氾濫する。

下、畑中、日影和田、柚木の四大字より成り、面積〇・五二方里、村内に青梅鐵道日向和田驛ありて交通至便である。

主要産物としては米、麥、繭が擧げられるが、畜産、工産等も尠ならず、年生産總額は約三十萬圓に達してゐる。また村内には東京府養魚場あり、産業組合出荷組合、蠶業實行組合等はそれらの機能に應じて良好な業績を示してゐる。名所舊蹟には前記吉野梅林のほか、神代萬年橋の渡場、即清寺、愛宕神社、鐘乳洞等がある。

三田村

本村は東西に長く十一軒にして、南北に短く四軒である。全村概ね多摩川の左岸に居を占むると雖も、大字御嶽、御嶽山の二部落は多摩川を隔て、右岸にあり南北の二面はいづれも山岳重疊し主として東西の二面に運輸交通路を有し車馬の交通自由である。

村内二俣尾、中央部及び澤井上分、澤井下分、御嶽の一部は、多摩川沿岸の平地に點々として田畑拓け、大麥、桑、甘藷等の栽培に適し、他は山岳地帯にして植林に適する。

水運は多摩川の流れを利用し桴筏を通ずと雖も、水勢の急なるを以て舟楫の便がない。

氣候は山岳の關係よりして花芽の發生は東京市より數日遅れるも、風霜の被害は少い。しかし稀に晩雪に見舞を受け林木の損害意外に大なることがある。名勝

に青瀟神社、樂々園、惣岳山公園、綾廣ヶ寺あり、いづれも著名である。の瀧、その他がある。

古里村

本村は青梅線御嶽驛に下車、多摩川に沿うて氷川村に至る間の峽谷の地區にして、北は埼玉縣秩父郡に接し、東は成木三田の二村に續き、西から西南へかけて氷川村に隣接する。多摩川は村の南部を流れていはゆる奥多摩の溪谷をなし、その支流たる大丹波川及び眞名井川がある鳩の巢、數馬などの奇勝あり、また將門の原も名勝として知られる。御嶽驛より坦々たる道路が氷川に通じ、自動車の便益頗る大である。

小丹波、大丹波、川井、梅澤、丹三郎棚澤、白丸の大字より成り、面積二方里六一、丹波は多摩の轉訛なりといはれる米、麥、繭の産額多く、産業組合は二組合あり、いづれも成績よく、なほ村内寺院には西光寺、正法院、丹叟院ほか五

氷川村

郡の北端、多摩川と日原川との合流點にあたり、甲斐と秩父の兩山地の分岐點をなし、北は埼玉縣、西は山梨縣に境を交へ、秩父三峯の一なる雲取山はその西北に聳えてゐる。なほ東に古里村、南に小河内村あり、東南は三田、小宮、檜原の諸村に接壤し、面積八方里七六にして郡内の最大村であるが、その大部分は重疊たる山地である。

村名は氷川神社より起つた。昔は奥多摩の寒村なりしも近時御嶽峽谷の開發に伴ひ面目を一新し、多摩川に沿ふて立派な自動車路も走つてゐる。産物は米、麥繭を主とし、林産物も非常に多い。

名所舊蹟頗る多く、殊に日原の鐘乳洞氷川墜道、愛宕山、氷川橋、昭和橋、トボウ岩等は有名であり、村の南部は所謂奥多摩溪谷の絶勝をなしてゐる。

小河内村

郡の極西にあり、従つて東京府の最西端に位し、湖底の村として有名なところ即ち將來は大東京市の水道貯水池となるべく豫定された村で、歌にもなり、小説にも書かれ、往時の一寒村は、今や社會問題の表面に浮び上つて時代の動きを刻んでゐる。

面積三方里四九、氷川へは自動車を通じ、村内至るところ峽谷美をなし、殊に鶴の湯と稱する温泉は有名である。地名辭書によれば、「泉池方六尺許り、底に數竅あり、混々噴湧す、客舎六七戸、浴槽火を加へ供用す、之を去る三町許り、また二泉あれど、湧量極めて微少なり。」と見える。今も旅館は六軒をかぞへ、幽邃を好む墨客騷人の來り浴するものが極めて多い。

なほ主産物は繭及び麥にして、これに林野産物を加へることが出来る。

農耕旺盛の 南多摩郡

東京府の南部にあり、北は北多摩郡及び西多摩郡に接し、東は神奈川県橋本郡及び都筑郡に、南は鎌倉郡及び高座郡に西は津久井郡に境する。

郡の西部には關東山脈の諸山があるが東部は武蔵野の一部をなし洪積紀の丘陵が所々に起伏してゐる。しかし土地はよく開け、桑園が多く、養蠶や機業が盛んである。

郡の大部の水は浅川にあつめられ、郡の北境を流れてゐる多摩川に入る。

中央本線の鐵道は郡を横断して甲斐國に入り、横濱線もまた八王子市まで來り八王子から更に北方へ八高線が出てゐる。その他京王線、小田原急行等の電車も郡内を運轉される。

本郡には關東地方唯一の帝陵たる大正

天皇の多摩御陵を有するので名高い。明治十三年四月、多摩郡を東西南北の四郡とし、當時西、南、北の三郡はこれを神奈川県に管轄したが、明治二十六年四月、東京府に移管して、今日に至つた。大正六年九月、八王子市が本郡の中より獨立し、今郡内は四町十四ヶ村に分れ、人口は八萬八千餘人をかぞへる。

町 浅川、小宮、日野、町田。

村 横山、元八王子、恩方、川口、加住七生、由木、多摩、稻城、鶴川、南、忠生、堺、由井。

浅川町

本町は郡の西方に在り、西及び南は神奈川県に接し、東は横山村及び堺村の一部、北は恩方、元八王子の二村と境する。多摩御陵の参拜驛として、高尾山藥王院の参詣口として近時浅川の名は人口に膾炙されるに至つた。面積一万里六四にして人口四千七百を算し、絹織物の産額頗

小宮町

往古の小宮郷の地にして、八王子市の北、日野町の西に接し、北は北多摩郡昭和村につゞき、西に加住、川口の二村がある。八高線小宮驛ありて交通の便よく八王子市との境界を北浅川が流れ、また谷路川は村の殆ど中央を貫流して多摩川に注ぐ。

昭和九年十月一日を以て町制の施行を見、爾來天下の模範的安住地たらしむべく、理事者をはじめ、町内有識の努力により、今や郡内有数の優良町といはれるに至つた。小學校も各施設よく整つて兒童の學業成績誇るべきものあり、男女青年團の活動も世の賞讃の的である。

武蔵七黨の一たる西の黨の祖日野宗頼の勸請したもにて、地名はこれより出てゐる。日野の渡津は甲州本街道にあたると同時に、また鎌倉街道への分岐點でもあつて、こゝから小野路へ出て鎌倉街道と會する古い連絡がある。かく重要な地ではあるが、先年の大演習の時に架けられた橋をその儘永い間使用して居り、近年に至りてはじめてコンクリートの立派な橋が出来た。この北岸は史上に知られてゐる立川原の古戰場である。

人々が賣買をしたところで、建武二年、北條二郎時行が信州より鎌倉に攻入る時足利直義の出でて拒ぎしところにして、井出澤の古戰場はそれである。もとは町田村と稱したが、大正二年町制を布き、町田町と改めた。

日野町

八王子市の東北に位し、多摩川南岸の渡津にあたり、現在は中央線及び京王電車の沿線にして交通至便を極める。

北は北多摩郡に對し、南は七生村、西は小宮町につゞき、村内を浅川が流れる面積〇・九五方里、人口五千五百餘人をかぞへ、産物は米、麥、蕎麥を主とする。鎮守を日野宮と稱し、七百年前こゝに

町田町

郡の東南隅の市邑にして、小田原急行と省線横濱線との交叉點にあたり、原町田驛及び新原町田驛がある。東西共に神奈川県に接し、南に南村、北に忠生、鶴川の二村があり、地勢は所謂武蔵野臺地の一部をなし、面積〇・六一二方里である。

往古は毎月七日を市日となし近郷の

横山村

八王子市の南、浅川町の東に接し、南は堺村に接し、東は由井村につらなる。往古は武蔵七黨の一なる横山黨の根據地として知られ、今は多摩御陵がこゝに置かれ、大正天皇の英靈が鎮まり在す。また古くから多摩の横山とて勝地の一にかぞへられ、萬葉集にも詠まれてゐる所である。

面積一五方軒八八三、人口三千八百をかぞへ、産物は薪炭、米、生繭、麥等を主とし、相當額に上る。村内には宮内省諸陵寮の出張所あり、帝室林野局出張所宮内省林業試験場等もここに置かれる。因に多摩御陵地は、戦國時代、武田、北條兩氏が戈を交へた古戰場廿里山の一部で、附近には八王子攻城の際前田利家が本營を置いた高乗寺がある。

元八王子村

八王子の西に接し、南に浅川町あり、北は川口村につき、西は恩方村と境する。北浅川の支流たる城山川は村の西南方に源を發し、東北流して八王子との境界點に於て北浅川に合してゐる。地勢東部は平坦なるも、西に至るに従つて山岳重疊する。

もと八王子城のありしところにして、城は北條氏時の築いたもので、前田利家上杉景勝など當時の雄將が馬を陣頭に進

めて攻陥せし歴史がある。

土地宛も多摩御陵の背後にあたり、城山の八王子城址、八王子神社、その支峰小峰曲輪の跡にある北條氏照の墓、中山勘解由の墓、宗關寺、梶原杉など名所舊蹟として知られ訪客年毎に多きを加へてゐる。

交通は八王子市に近きため頗る便利を極める。面積〇・八四方里である。

恩方村

郡の極西に位し、南は神奈川縣吉野町及び佐野川村に境し、西は西多摩郡戸倉檜原の兩村に接し、北に川口村、東に元八王子村あり、東南は浅川町と接壤する。北浅川の水源地にして、その上流支流たる案下川、小津川が村内を東に向つて流れてゐるが、山岳地帯に屬するため全村到る處丘陵に掩はれ、水田僅かに十二町歩餘に過ぎず、畑地は二百九十町歩に上る。

川口村

元八王子村及び恩方村の北に横たはる東西に長く南北に狭い農山村で、西北は西多摩郡に境し、東北に加住村、東南に小宮町ありて八王子へも近い。

東部は概して平坦なるも西半は至るところ丘陵起伏し、川口川は村の中部を東西に貫流し、八王子の近くで浅川に合流する。

和名抄に多摩郡川口郷とあるところ、八王子驛の南まで、昔はみなこの舊郷域

に含まれてゐた。八王子市の本郷は、川日本郷の略とさへ疑はれるのである。しかし村内圓福寺の經卷の奥書に、應永三十三年、多西郡柚井郷河口村とあり、また元應年間の古鐘銘には北河口郷と見え西黨の一族にも川口氏なるものがある。鳥栖山の中腹に鳥栖觀世音堂あり、本尊は手觀音の立像木佛である。

加住村

本村は郡の西北部に在り、西から南へかけて川口村と接し、東から南へかけては小宮町と接壤し、北は北多摩郡拜島村及び西多摩郡東秋留村とつらなり、三多摩郡界に位してゐる。地勢概して平坦、谷路川は村のほと中央を東南流して小宮町に入る。また秋川、多摩川を東北に帯びる。

カスミとは組村の義あること、諸國の例に於て知られるが、延寶四年、寺社奉行小笠原山城守の令書に、伊勢參宮者の、

在來且那の村々をすべて霞之内と呼びしことが出て居り、加住は霞から轉じたものである。

大字丹木藏の王權現社は專國谷のつゞきにあり、神體は木像、高さ八尺餘、隨神二體あり、背後に康永二年癸未正月造立とある。また丹木には瀧山城址がある。

七生村

郡の中央北部にあり、東は多摩村に接し、南は由木村に接し、西南に由井村あり、北は日野町に隣り、西はわづかに八王子市につらなると共に小宮町に境してゐる。地勢東西に長く南北に短く、浅川村の西方を流れ、地勢平坦にして地味肥沃、京王電車南平、平山の二驛ありて交通の便もよい。

近世は日野領の城内なれど、別に得恒郷と稱した。高幡不動堂は、本尊は木の坐像、高さ一丈にあまり、左右に二童子の立像が立つてゐる。これは高さ八尺餘

由木村

もとは柚木領と稱し、關戸、小山田の邊までを含めた。關戸の西南なる波狀原野を占め、八王子の東二里ばかりの地で東に多摩村、東南に忠生村、南に堺村あり、北は七生村につき、西は由井村に接してゐる。

下柚木を中心として府道三方に通じ、車馬の往來頻繁である。

大字大塚は、八幡社内に古塚がある故に起りし名にして、神明社は土俗に神明森と號し、神體は石である。

大字別所は佛堂あるが故にこの名起り

蓮生寺の古き薬師堂がその因をなして、大字遺水は一に鎌水とも書く。本村は山間にて谷々多く、大栗川の源をなすが村内を流れる部分は別に河名はなく、三里ばかり下流に至つて堰あり、それより稻毛用水に引き水かさまる時は堰をはらへば多摩川に入るのである。

多摩村

往古の小野郷の地にして、小野路の名は本村關戸の南なる小山田の邊に存し、相模國より武蔵村府中に往來する道程にある。

多摩川を北に帯び、府中へ一里、東は稻城村に接し、東南は神奈川縣につゞき南に鶴川村及び忠生村あり、西は七生、由木の二村に境する。北方の一部を京王電車が走つて關戸驛を置き、府道は縦横に通じて交通至便である。

關戸は古の小山田關、または霞の關と稱したる柵址にして、武蔵野南方の防所

であつた。今も村の中心はこゝにある。東鑑元久二年畠山重忠誅伐の條に、大手將軍相州義時、關戸將軍式部丞時房とあり關戸は關戸の間誤ひなりともいはれる

稻城村

郡の東端に位する農村にして、東及び南は神奈川縣に接し、北に多摩川が流れて北多摩郡多摩村との境をなし、西は本郡多摩村につゞく。南武鐵道は村の北部を東西に走り、村内に大丸、稻城長沼の二驛を置き、府道またこれに沿ふて走るほか、多磨鶴川の諸村へも通じてゐる。

舊小澤郷の内に於て、府中へ一里、八王子へ四里の地を占める。東長沼、矢野口、大丸、坂濱等の大字より成り、矢野口の城山の中腹には穴澤天神社あり、式内の古社で、今は天満宮と稱する。東鑑治承四年十一月の條に武蔵國威光寺が源家の祈禱所たりしことが見えてゐるが、該寺は穴澤天神社の別當であつた。長沼

には鎮守青沼明神あり、大沼とも呼び、神名帳に載りたる青沼神社は當社なりと傳へられる。

鶴川村

郡の東部にあり、地域半島の如き形をなして神奈川縣に突入し、西北に多摩川西に忠生村、西南に町田町があるほかはすべて神奈川縣と隣接する。地勢平坦、鶴見川は村を東西に貫いて流域に豊沃な土地を展開する。小田原急行電鐵は村の南部を走つて鶴川驛を置き、府道また縦横に發達して車馬の往來頻繁を極める。

教育施設よく整ひ、小學校の出席率は殆ど一〇〇パーセントの好成绩にあり、大都會に近き村としての特色を充分に發揮してゐる。男女青年團、在郷軍人分會、消防組等の成績また良好にして、その他各種團體共事業成績見るべきものが多し。米麥等の農産物多く、住民は一般に勤勉努力の風あり、且つ生活程度が高

い。東京市との交通が便利なため日々の文化の流入も早く、村勢頓に向上の一路を辿つてゐる。

南村

郡の西南端に突出する農村にして、北東、南、西と大部分が神奈川縣と境し、西北の一部が町田町に隣接するだけで、村名の如く東京府の極南を占めてゐる。氣候溫和にして地味肥沃、恩田川は町田町より本村に入りて東に流れ、灌漑の便がよい。八王子から起る省線横濱線の沿線にあたり、村内に停車場はないが、原町田に近くして交通の便よく、また府道は川崎、東京、横濱、厚木、藤澤、町田の諸方面へ通じてゐる。

自治の圓滑に行はれること他にその類例少く、實に文字通り融和協調の美風に伸び行く村である。産業に於ては常に進歩的施設を講じ、農産を主に各種産物は年々相當額に達してゐる。住民は祖先を

敬ひ神社を崇拜するの氣性を有し、教育方面に於ては顯著なる成績を擧げてゐる

忠生村

郡の南部に位置し、東は鶴川村に接し西南に町田町あり、南は境川が東南流して神奈川縣境をなし、北に多摩川を有し西は由木村及び境村と接する。鶴見川は源を本村に發して鶴川村に入る。上小田園師等の部落あり住民は大部分農業に従事する。従つて産物は米麥を以て主とする。交通の便良好にして、道路よく發達の熱心なる努力によりて自治は圓滑に行はれ、納税思想の如きもよく普及徹底してゐる。勸業方面に於ても常に適切なる措置を執り居るため、合理的經濟による收益の増大は、年毎に村民の生活をうるほしてゐる。各種産業團體の活動また見るべき點が多く、殊に男女青年團、在郷軍人分會の業績は顯著である。住民は概

して敬神崇祖の念に富み、思想穩和、國民精神總動員の如きも極めて順調に行はれてゐる。

境村

郡の南部にあり、東西に長く八キロ、南北は極端に短く一キロ乃至一キロ半である。南界を境川が流れて神奈川縣と相對し、東は忠生村に、西は淺川町に接し北は横山、由井、由木の三村と隣りする。地勢東半は平坦なる武蔵野の一部なるも、西方淺川に近づくに従つて次第に丘陵地となる。主要部落たる相原はほぼ中央に位し省線横濱線相原驛があり、また町内を経て横濱に至る府道と横山村を経て淺川に至る府道が出てゐる。更に八王子溝線、八王子川和線も村内を走る。小山、相原等の大字あり、相州境には田倉川が流れ、川の南に同名の相原、小山がある。氣候溫和にして地味肥沃、住民は質朴にして主に農業に従事し、年産は

相當額に上る。小學校は設備よく整ひ、各種團體の活動また賅るべきものがある

由井村

本村は八王子市の南につき、東は七生村に接し、東南から南へかけて由木村及び境村があり、西は横山村に境する。八王子から出る省線横濱線は村を南北に貫き、また北には京王電車ありて北野片倉、山田の三驛を置く。府道四線、いづれも自動車通じ、交通至便を極める。村の東北境を浅川が流れ、その支流たる山田川は村内をうるほして農耕の業をたすけ、村民は概して文化的に進歩し居り、産業の隆昌また見るべきものがある。往古の由井領の中心地で、或ひは油井にも作るが、その初めは山比である。近世の由井領は遙かに南方相模國高座郡の中までも及んだことが、永祿北條役帳に出てゐる。また古くは武藏七黨のうち西の黨の大夫日野宗忠の弟宗弘が別當に補

せられたところである。

蔬菜豊饒の北多摩郡

本郡は東京市の西につき、府下三郡中最も東にあり、北は埼玉縣と隣接し、南は神奈川縣及び南多摩郡と多摩川とを以て境し、西は西多摩郡につゞいてゐる。面積約十六方里を有す。全郡曠夷、波狀の丘陵起伏すと雖も、一望平原たるに妨げず、いはゆる武藏野の原はこれである。上水道あり、西より東に貫通して灌田汲飲に供用される。省線中央線は東京市から先づ武藏野町に入り、眞直に西へ進んで立川に至り、こゝで南折して八王子に達する。途中、吉祥寺、三鷹、武藏境、武藏小金井、國分寺、國立、立川の諸驛を置き、國分寺からは府中へ行く支線と埼玉縣所澤町へ至る川越線が分岐し、立川からは青梅鐵

道が岐れる。この他武藏野鐵道、西武線、小田原急行、京王電車、多摩鐵道、南武鐵道、五日市鐵道、多摩湖鐵道等ありて交通の利便は極めて大きい。北多摩は明治十三年の分郡に始まり、近世には拜島領、府中領の區劃ありて諸村を統べた。中世の多東郡にあたり、國府の置かれたところである。全郡を分ちて六町十七ヶ村とる。町 立川、府中、調布、武藏野、小金井、田無。村 谷保、西府、多磨、神代、粕江、三摩、國分寺、砂川、昭和、拜島、村山、大和、東村山、清瀬、久留米、保谷、小平

立川町

本町は郡の西方に位置し、東は谷保村に接し、北は砂川村につゞき、西に昭和村あり、南は多摩川の清流を隔て、南多摩郡日野町と相對する。地勢平坦、所謂

武藏野臺地をなし多摩川の支流たる殘堀川は、町の西南方を流れて灌漑に便して居る。

町内には府立第二中學校、蠶業試驗場農業試驗場等あり、また陸軍の飛行場のあるところとして知られ、日本空輸株式會社の飛行機も現在こゝを發着地としてゐる。その他民間の工場及び格納庫もある。また國寶六面塔の普濟寺も世に著名である。

商業殷盛なると共にまた農耕の業も盛んに行はれ、殊に畑作物が多い。省線中央線の沿線にあたり、青梅鐵道、五日市鐵道の起點をなし、また川崎—立川間の南武鐵道もこゝに終り、國道もあり、交通上重要な地をなしてゐる。

府中町

本町は往昔の武藏國府の所在地で、御殿山はその遺跡である。町の南には武藏國の總社大國魂神社があつて、社前にあ

る源義家が奥羽征伐の歸途寄進したといはれる注連繩を張つた一本を含む樺の大並木は、他には全く類例のない美觀を呈してゐる。

町は郡の南部に位置し、南は多磨村を経て多摩川に近く、東は多磨村に接し、東北に小金井町あり、北は國分寺村につゞき、西は西府村につらなる。地勢平坦、京王電車、南武鐵道及び府中線ありて交通の便よく、道路また八方に通じてゐる。税務出張所、土木出張所、警察署、府立農蠶學校あり、また町の東南部には有名な府中競馬場がある。町から北方へ國分寺に通ずる往古の重要道路があり、これに沿ふて武藏國分寺であつた醫王山最勝院がある。

調布町

本町は郡の南部にあり、東は粕江村につらなり、北に神代村あり、西は多磨村に接し、南の大部分は多摩川を以て神奈

川縣に相對するも、西南の一部は多摩川を越えてその右岸に地を占め、わづかに南多摩郡稻城村と隣りする。地勢平坦にして丘陵と稱すべきものなく、地味また肥沃である。京王電車は町を東西に貫きこれに沿ふて甲州街道が走つてゐる。

奈良朝時代にこゝの清水を以て里人に調布をつくらせたのが地名の起原といはれ、當時は麻布をつくつてゐたものである。附近には石器、古墳の遺跡がすこぶる多い點から見て、すでに先史時代に人類の居住地であつたことが知られる。宿場町として舊幕時代には繁榮したが、中央線が出来てから、今は寂れて大東京の住宅地の一尖端となつてゐる。

武藏野町

本町は郡の東部に位置し、東は杉並區上井草町及び上荻窪町に接し、東京市に在住の者でさへしばしば東京市の一部と誤るほど發展し東京化した町である。北

は板橋區石神井關町及び立野町に隣り、西は千川上水を隔て、保谷村につゞき、南は玉川上水を隔て、三鷹村に隣接してゐる。

鐵道中央線は市街の東南部を横斷し、吉祥寺驛があり、西部には武藏境驛があつて多摩川支線の分岐點をなす。また吉祥寺郵便局は昭和十二年二等局に昇格、交通通信の便は頗る大なるものがある。

吉祥寺驛南方には井之頭恩賜公園があり、西境には小金井櫻堤があり、その東方には東京市上水道浄水場がある。本町の人口は最近十ヶ年間に約一萬の増加を示すに至り、現在二萬五千三百人をかぞへる。

小金井町

郡のほとんど中央に位し、武藏野町の西につゞき、東南は三鷹村に接し、南は多摩墓地を越えて多磨村と隣り、西南に府中町あり、西は國分寺村、北は小平村

と境し、東北の一部わづかに田無町と交つてゐる。中央本線は町の中央を東西に貫きて、これまた町のほとん中に武藏小金井驛を置く。また多摩鐵道は町の東南部を走り新小金井驛がある。府道縦横に通じ、市街は武藏小金井驛の南に展開される。名勝小金井の櫻は北方小平村境にあり花時東京人士の觀櫻するもの頗る多い。また中央線により東京へ短時間なるため住宅地として發展しつゝあり、これに應じて商店も漸次増加してゐる。しかし一部には未だ農を以て生業となすもの多く、蔬菜その他を移出する。小學校は設備充實し、入學歩合出席歩合ともによく、兒童の學業成績また良好である。

郡のやゝ東寄りに位し、北東南の三面は保谷村と境し、西北に久留米村あり、西は小平村と相交り、西南はわづかに武藏野、小金井の二町に隣する。西武線の

田無町

沿線にあたり田無驛を置き、府道また八方に通じ、大東京の住宅地として年々發展をつゞけてゐる。武藏野平野の中央にあたり、もと土性黒かりしが開きて白田となし、依つて田無の稱を得たといふ。戸數七百餘、人口約四千をかぞへ、面積は〇・四四一平方里である。田無警察署、東京區裁判所出張所、田無郵便局、武陽銀行支店等ありて町は相當殷盛を極めるも、一面農業に従事するものも多く、米、蕎麥の産額が多い。田無神社、總持寺ありて庶民の信仰をあつめ、また町内には農兵練兵場がある。東京への交通便利のため文化は相當程度に發達してゐる

谷保村

本村は立川町の東に在り、西南は多摩川を隔て、南多摩郡日野町と相對し、東及び東南は西府村につゞき、北は國分寺村と境する。東京南科大學の所在地として知られ、中央線國立驛及び南武鐵道谷

保驛を村内に有し、府中より來る甲州街道は村を東西に貫き、自動車の往來が頻繁である。

古くは分倍庄栗原郷と稱した。谷保天満宮は社領十三石五斗を附せられ、社傳に菅公太宰府へ左遷の時、三男道武が玉川の邊に遷されて星霜を送られ、菅公薨じ給ふを聞くや悲哀のあまり、この像を彫刻せられたといふ。また東鑑、正喜三年の條に、津戸新民部丞といふ人見え、津戸は谷保の舊名とも稱される。

西府村

府中町の西に位し、甲州街道は村の中央を東西に貫通し、これと綯ふやうにして南武鐵道が走り街道に面して西府驛を置き、また東南隅には京王電車が通り中河原驛がある。北は國分寺村に交はり、西は谷保村につゞき、南は南多摩郡七生村及び多磨村に接して多摩川に近く村内概ね平坦である。

西府とは西府中の義である。古代の牧場地にして、今府中に馬市あるは遠き時代からの由來によるのである。戸數四百十餘、人口二千四百人を有して、面積は〇・四六四平方里に及ぶ。耕地田百五十町歩、畑二百二十町歩餘にして、米、麥、蕎麥の産多い。正光院、法音寺は共に古刹として知られ、また正平二年新田義貞が北條氏と戦ひ、享徳四年足利成氏が上杉顯房と戦ひ、更に享祿三年北條氏康が上杉朝興と會戦したといふ文倍川原古戰場がある。

多磨村

府中町の東に位し、多磨墓地の所在するところとして知られる。東は調布町につゞき、南は多磨川を隔て、南多摩郡稲城村に對し、一部は多磨川對岸に飛地する。北に小金井町がある。かく三方を町で圍まれるため、交通便利を極め、多摩鐵道及び京王電車は村の中央で十字に交

神代村

郡の東部に在り、東は東京市世田谷區に接し、京王電車により東京新宿まで僅かに三十分餘で達し得られる。甲州街道は京王電車と平行して走り、交通は頗る便利である。北と西は三鷹村に接し、西南は調布町につゞき、南に狛江町がある

本村は深大寺を以て著はれる。寺は聖武帝の時、満功上人の開基に係るものにて、しばしば祝融の災にかゝり、本堂は大正八年の建築に係る。阿彌陀如来像、釋迦如来等國寶に指定されたものありまた村に上杉朝定、北條氏綱の争奪せし深大寺城址がある。人口四千六百人、面積〇・六七一方里にして深大寺、佐須、柴崎、金子、入間、大町、下仙川、北野等の大字より成り、米、麥、蕎麥を主産物とする。寺院頗る多く清教寺、明西寺、明照院等十四ヶ寺をかぞへる。

狛江村

郡の東南端に位し、南に多摩の清流ありて神奈川縣に相對し、東は東京市世田谷區に接壤し、北は神代村、西は調布町につらなる。六郷用水は本村に於て多摩川から分れ、村を東西に貫く。小田原急行電鐵は世田谷區から來て村の東南を走り、村内に狛江、和泉多摩川の二驛がある。

大東京の外廓地帯として交通の便よく近年住宅地として大いに發達を見せてゐる。この附近は一に和泉の玉川と稱し龜塚、富士塚など古墳が非常に多い。また登戸の渡は、現在の小田原急行電鐵の鐵橋の附近にして、稻毛三郎重成の城なりといふ榊形山城址があり、その山麓には古刹廣福寺あり、また山の南東側の山中には飯室長者の遺跡なる長者の穴數十がある。生産總額は二十萬圓に餘り、主なるものは果實、蔬菜、川魚、砂利、米、麥、蕎麥である。

三鷹村

東京市杉並區及び世田谷區の西に接して郡の東端に在り、北に武藏野町あり、西は小金井町及び調布町と境域を交へ、南は神代村が半島狀に本村へ突入してゐる。井ノ頭恩賜公園及び三鷹天文臺の所在地として有名であり、近年は大東京の住宅地帯として著るしい發展を示してゐる。

中央線三鷹驛、帝都電鐵井ノ頭公園前驛がある。玉川上水及び品川用水は共に村内を東南流する。戸數千四百弱、人口八千二百餘人、面積一方里〇九四あり米、蕎麥を以て主産物とする。東京天文臺は東洋一と稱されるものでその雲を衝く鐵塔は武藏野を壓し、また構内の測量基線は全國三角點の經緯度測定の基準點である。寺院は威徳寺、春清寺、眞福寺ほか五ヶ寺を有し、吉祥寺驛の南に接する井ノ頭池は古くは神田上水の源泉地で、今、池を中心に立派な公園となつてゐる。

國分寺村

郡のほぼ中央に位し、交通の要衝として知られる。即ち中央本線國分寺驛を中心、南方府中へその支線が出るほか、北へは川越線が起り、多摩湖鐵道も驛前を起點としてゐる。東に小金井町、東南に府中町あり、北は小平村に接し、西は

砂川村につゞき、南は谷保、西府の二村に境する。人口六千七百人をかぞへて、面積は一方里四七三である。米、麥、蕎麥を主に、生産は年三十五萬圓餘に上る

天平の昔、聖武帝の時、國家の安寧と國民の教化を目的とせる國分寺が各國に建てられし際、武藏の國分寺はこゝに置かれた、斷礎の間、今なほ往時を偲ぶに足るものがある。川越鐵道と中央線の岐れて鋭角をなす一小郷は戀が窪の舊址で古の脂粉の地、今でも陸田の間から折々昔の化粧道具の焼瓦などを掘出すことがある。

砂川村

郡の西部、立川の北につゞく農村にして、東に國分寺、小平の二村あり、北は村山村と相接し、南に昭和村を控へ、西は西多摩郡福生に境し、西南の一部が拜島村とつらなる。地形東西に長くして南に短く、多摩川の支流たる殘堀川は村

のほと中央を南北に貫流して灌漑の便よく、更にこれと交叉して玉川上水が流れてゐる。

自治の圓滑、産業の隆盛、教育の振興など村治の躍進大いに見るべきものあり住民は堅忍持久の精神に富み敬神崇祖の念もあつく、教育にも理解が深い。古くは荒野の中にあつたが、村山郷岸村に居住せる村野助右衛門といへる者が當地を始めて開墾した。助右衛門の家に傳へたる寛文八年の記録に「六十年前、武藏野砂川と云處を取立、繩御申請」云々とあり、慶長十四年の頃開けた土地である。

昭和村

郡の西部に位し、東は立川町立川飛行場につゞき、北は砂川村と交はり、西は拜島村に接してゐる。南には多川が流拜野平地の一部にして地味よく肥え、灌漑

の便も良好である。立川町から來る五日市鐵道及び青梅鐵道は殆ど並行して西方拜島村に至る。

會ては大神村と稱し、昔は鴨の里と呼ばんだ。鴨と神は古言相通じて大神となつたといひ、また鎮守明神の社ある故村名ありしとも傳へられたが、最近になつてから現在の村名に改められた。人口五千五百餘、面積〇・八二一方里あり、米、蕎麥の産が多い。村内には郵便局、武陽銀行支店、中神産業組合等あり、また觀音寺なる古刹を有す。行政上區劃して中神、福島、郷地、築地、宮澤、大神、田中、上川原の八大字とす。

拜島村

多摩川の東岸にありて、郡の最南端に位置し、西は西多摩郡熊川村に接し、西は南多摩郡加住村につらなり、東及び東南は昭和村とまじはり、北に村山村がある。

八高線、青梅鐵道、五日市鐵道は共に村内を東南から西北へ抜け、いづれも拜島驛を置いて交通の利便、大なるものがある。

新風土記によれば、「拜島領なる拜島村の宿と稱ふるところは、八王子市より箱根ヶ崎への馬次なり、村民は耕作の餘業に、蠶桑、紡織して生産の資となし、また鮎漁の業をなし江戸へ出てひさげり」と出てゐる。拜島の字は、また一に蠅島につくり、武田實記には「永祿十二年十月、北條氏照が居城、瀧山を攻むべしとて、信玄は蠅島の本陣に居らる。」と見え

村山 山村

郡の西北端に位し、南は砂川村に接し東は大和村に隣りする。而して北は埼玉縣と境し、西は西多摩郡殿ヶ谷村及び石畑村につゞいてゐる。西多摩郡より流入する殘堀川は村の西から南へ流れ灌漑の

便よく。府道よく發達して八方に通じ車馬の往來頻繁を極めてゐる。

奈良朝より平安朝にかけ、幾多の莊園が各國に設けられた頃、この附近は村山莊と稱し、關東武士の割據地であつた。また古くは山口領ともいつた。戸數千三百五十餘、人口約八千人、面積一〇一六あり、耕地は田十七町歩餘、畑六百六十餘町歩で、産物は米、藁、麥を主とする。岸、中藤、三ツ木の三大字より成り村内には禪昌寺、長圓寺のほか、太田道灌の宿陣せしところといはれ古碑多き眞福寺がある。

大和 村

村山貯水池の所在を以て知られる本村は、郡の北部稍々西寄に位し、東は東村山村、西は村山村と接し、南は伊豆殿堀用水を以て小平村と境し、北は貯水池を隔て、埼玉縣につゞいてゐる。多摩湖鐵道村山貯水池驛ありまた西武線村山貯水

東村 山村

池前驛に近く、東京との交通頗る便利である。大字清水の村を中心地とする。元の狭山郷の一部で、千載集に五月やみ狭山が峯にとす火は雲の絶間の星かとぞ見る

と詠まれたところである。高木、芋窪、藏敷、奈良橋、狭山、清水の六大字より成り面積〇・八六三方里、人口約五千五百人で、米、藁、麥をはじめ、各種生産總額四十五萬圓にのぼる。養鶏組合、農事改良實行組合、産業組合、出荷組合、養蠶組合、養豚組合等あり、村山貯水池は遊園地として東京人の清遊するものが多い。

に切斷して中央に東村山驛を置き、東京

高田馬場を起點とする西武線もこゝで交はり更に南には多摩湖鐵道、東北には武藏野鐵道がある。府道も四通八達し、交通至便である。

昔は武州七黨の一なる村山黨の根據地にして、久米川は新田勢と北條勢との戦ひたる有名な古戰場である。面積一方里一一一、回り田、大袋、野口、久米川、南秋津の五大字を合し、人口約八千九百人である。村山貯水池が出来てから都人士の行樂地として殷盛を呈し、その他名所舊蹟としては徳藏寺板碑、正福寺等がある。

清瀬 村

郡の北端にありて埼玉縣へ半島の如くに突入し、西南方がわづかに東村山村及び久留米村に接してゐるに過ぎない。武藏野鐵道清瀬驛あり、また府立清和園及び府立清瀬病院のあるところとして知ら

れる。

もと江戸日本橋から行程六里といはれた。人情風俗及び交通關係は埼玉縣北足立郡に近似する。戸數六百三十、人口三千六百人をかぞへ、面積は〇・六六方里を有し、耕地は田四十六町歩、畑四百七十六町歩で、産物は米、藁、麥を主要のものとする。中清戸、上清戸、下清戸、清戸下宿、中里、野鹽の六大字を合して成る。教育施設整ひ、教育費は年々村費の中から一萬數千圓が支出されてゐる。村内寺院には圓通寺、圓福寺、全龍寺、長源寺、東光院、長命寺等がある。

久留米 村

田無町の西北に隣接して郡の北部に位し、東に保谷村あり、西南は小平村につゞき西は東村山村と境し、北は清瀬村及び埼玉縣に接壤する。府立久留米學園及び武藏野鐵道は村の東北部を走り東久留米驛を置き、その他道路よく整備して自

動車の往來繁く、交通至便である。村名

は久留米川に因んで名づけられた。東京へ三里、神奈川縣へ五里、山梨縣へ七里にして達するを得、共に自動車の便がある。前澤、南澤、神山、小山、落合ほか六大字より成り、面積一二方軒九三八、人口は約五千五百人である。生産年額は三十萬圓に達し、大根、甘藷、里芋、馬鈴薯、西瓜、米、麥、藁を主要産物とする。名勝に前澤の浮牧院あり、社寺に神明社、氷川神社、沿川神社、神田淺間神社、大圓寺、多聞寺、長福寺ほか五社二ヶ寺を有す。

保谷 村

郡の東北端にあたりて東は東京市板橋區に接し、南は武藏野町と交はり、西は田無町に隣り、一部は久留米村とも境し北は埼玉縣につゞいてゐる。北に武藏野鐵道、南に西武線が走り前者に保谷驛、後者に東伏見、西武柳澤の二驛がある。府

と東京市をつなぐ府道は數線共に村内を走り交通至便である。また村のほとり中央を石神井川が流れてゐる。元祿年中玉川上水をこの地に分ち、板橋を経て江戸の北邊たる小石川、本郷、下谷、淺草等に給水した、これを千川上水といふ。上保谷新田、上保谷、下保谷の三大字より成り、面積〇・五七九方里、人口五千餘人をかぞへる。村の主産物は米、大小麥、大根、甘藷、馬鈴薯、里芋、胡瓜、蒟蒻等である。村内には武藏野女子學院あり、また産業組合、養蠶組合、出荷組合、動力組合等が組織されてゐる。

小平村

本村は郡のほとり中央に位し、東は田無町、東南は小金井町につゞき、他は國分寺、砂川、村山、大和、東村山、久留米の諸村と隣接する。玉川上水は村の南部を流れる。交通機關がよく備はり、東に西武線花小金井及び小平の二驛、中央に

多摩湖鐵道櫻堤、小平學園、青梅街道、元小平の四驛、西には川越線小川驛がある。青梅街道は村を東西に貫き、その他の府村道もよく發達してゐる。草野樹林多く、水田なく僅に二町、畑地は千二百餘町歩にのぼる。明曆年中、村山郷の人、小川九郎兵衛なるものがはじめて當地を開拓したもので、小川部落にその名が残つてゐる。小川新田、鈴木新田、大沼田新田、回り田新田、野中新田、小川等の部落より成り、人口六千六百八、面積一方里三六八にして主産物は米、麥、蒟蒻等である。

椿油の大島

伊豆七島中最も内地に近接し、毎日東京芝浦との間に東京灣汽船が運航し、伊東には發動機船が通つてゐる。島は南北に長く十五キロ、東西は八キロ半ほどの

楕圓形を呈し、中央に位する三原山の活火山の裾野がゆるやかに四方にひろがり東側より西側に緩斜面多く、海岸線は至極單調で、安全なる錨地としては東南隅にある波浮港のみである。黒潮に洗はれる島であるため、氣候は頗る溫和で、低地には椿、榛、大島櫻多く、杉等の用材林は稀であり、漸次黄楊ツ、チ等の灌木林にうつる。溪流の至つて乏しいこの島に水田を缺くのは當然で、畑は一小部分をのぞくほかは伐替畑であつて、開墾して甘藷、里芋、麥等を耕作するが、數年後地力減毛すれば植樹して雑木林となし、十五年前後で伐採して薪炭となし再び畑に開墾することを循環するのである。椿油や木炭は島の主要産物となつてゐる。また畜牛が盛んに行はれ、大島バタは夙に有名である。

東京との交通がかなり便利になつて男子の出稼人を多くしてゐるが、女子は未だ保守的で、結髪はすべて總髪にし、

既婚者はインボンジリ髷に、未婚者は元祿結びに似た島田に結び、紺緋の筒袖、ソウメン絞りの鉢巻、帯を用ひずに前掛けの紐の幅廣きを前に結び、手甲、脚絆、黒足袋に草履ばきの身輕な姿で水桶その他を頭上で運搬する光景は、隨所に散見し得られ、島の風俗の特徴なしてゐる。

元村

島の西側にあり大島支廳の所在地で、その北に近い乳ヶ崎は潮流常に急馳するを以て知られ、爲朝の弓を射たところと傳へられ現に爲朝の記念碑も建てられてある。風早崎には大島燈臺があつて附近の航海を安全にしてゐる。三原山見物の客はすべて船をこゝで下りるので、村には旅館飲食店等あり、都

大島の東北部に位し、村落は盆地をなせども後方は平坦にして西北に延び、三原山麓より海岸に亘つて稍々三角形をなす。海岸は一小灣をなして船舶の假泊地とされてゐるが、潮流甚だ強くして安全でない。西北に突出する千賀崎は浦賀水道と神子元島間の常航路になつて居り、崎頭斗絶して峻峯をなす。面積〇・四七方里、米、椿油の産がある。

泉津村

本村は島の東北部を占め、西南は三原山頂を界として増野村に接し、南は波浮港村に續き、海岸は割合に平坦、海岸線も至つて單調である。

面積一方里四五五、大島支廳まで約二里、陸路通すれども未だ不便といふべく海上交通は波浮港による。郷社被治加麻神社が村内にあり、名勝に役の行者窟道場がある。

岡田村

大島の東南端に位置する漁港にして、元祿十六年十一月の海瀆のため波浮の池の一部が決壊して海に通じ灣になつたのだといふ。港淺くして巨船の入港できない憾みはあるが、四時漁船出入あり、避難港として無二の港である。灣の直徑三

野増村

東部は三原山を以て泉津村に堺し、北部は元村に隣り、西部は海岸にしてセンバ岬が突出する。本村瀧ノ口の海底より太古の土器、石器等發掘されたることあり、太古の墟落が火山灰と熔岩とにより埋没せしめられたものなりといはれ、太古既に住民のあつたことが窺はれる。人口約九百、面積一方里三七四。有名な三原山は大部分を本村地域内にあり、風光言語につくしがたい。

波浮港村

大島の東南端に位置する漁港にして、元祿十六年十一月の海瀆のため波浮の池の一部が決壊して海に通じ灣になつたのだといふ。港淺くして巨船の入港できない憾みはあるが、四時漁船出入あり、避難港として無二の港である。灣の直徑三

五〇メートル、東岸椿林茂る絶壁の上に波浮の部落が營まれ、繪のやうに美しい景観を呈する。

差木地村

波浮港に隣接し、北方に山岳を負ひ、面積一方里二八二、人口千八百人弱を有し差木地郵便局、製材工場、林浦寺等あり里見謹吾の伊豆七島なる書に、「右に千波崎を左に三原山の噴煙を望みつゝ、差木地村に着す、神社、學校、村役場あり三十三町の稍々平坦地を過ぎて波浮港入口に至る。」とある。

利島村

利島は、摺鉢を覆せたやうな周圍僅かに一〇キロの小火山島で、中央に海拔五〇八米の宮塚山が屹立し、山腹は直に海に迫つて海崖をめぐらし、砂濱を全く欠き、舳船の發着にすら頗る不便である。

漁業の新島

唯一の聚落である利島は最も緩斜面である北側に位置を決定し、土壤は埴土割合に厚く、やゝ肥沃なるも、島の畑は全部代替畑である。清水は極めて乏しいのは當然で、雨水を専ら飲料としてゐる。

新島は南北に長く、北に宮塚山、南に向山、大峰、丹後山等あるも酸性流紋岩の火山島で著るしく嶮岨ではなく、中央部は平坦な熔岩臺地が廣がり、西側には前濱の白砂がちらなる。主邑本村はこの濱に面し、その脊後に畑が松林に圍まれてあり、表土うすく、土地は瘦せてゐる北端に若郷の小聚落がある。

一般に男子は漁業に従事し、鯨、鯨、干魚は本島の人達による海産物としては最も重要なものであり、時には鯨の大部分を捕獲することもある。女子の髪は老若

本村

の別なく島田醬に結び、布にて鉢巻をしてゐて、農作と家事を専らにしてゐる。屬島の式根島は、新島の西南に接する小島で、最高點も一〇五メートルに過ぎなく、低平ではあるが小起伏に富み、谷間に民家が點々と散在する。

なほ島の南岸には足附温泉があり、その附近はいたるところから温泉が湧出する。共に岩隙から湧出し、その温度は潮汐の干満によつて調節されてゐる。

の清淨なること他にその比を見ない。言話風俗粗野のうちに古代の情味を存し、祭式舞樂等古典的にして朴雅捨て難きものがある。面積一方里四二、人口四千五百餘人を有す。

神津島村

神津島は頂の平坦なトロイデの天上山を基本とした火山島で、南北に長く約七キロ、東西は二キロ乃至四キロである。山腹はかなり急峻で森林に蔽はれてゐるが、神津島の聚落は島の南部の熔岩臺上にあり、前濱の白砂に對して居り、天上山より西北に走る空谷で聚落は二分される。

耕地もその臺上で、面房と稱する地が大部を占め、酸性流紋岩の風化崩壊した白色の砂土で、地味は一般に肥沃とはいはれない。島民は質朴で神佛祖先を崇敬すること厚く、男子は専ら漁業を事とし女子は耕耘に従事し、薪を採り、運搬の

勞役にも服し頗る勤勉である。飲料水は山腹の海蝕崖からも清冽な泉が湧出するので大なる不便はなく、水桶を頭上で搬ぶのも女子の重要な仕事の一つとなつてゐる。

若郷村

本村は新島の北端に位置し、南方に海拔四二九米の宮塚山を負ひ、海岸は砂濱となり、根浮、堂丸、旗城ヶ鼻等の岬角が突出する。戸數僅かに七十、人口五百人に足らず、新島本村及び東京間には月五回宛汽船の便ありてうち一回だけ本村に寄港する。當地の盆踊りは郷土色豊かに特色あるものである。

農産を主の三宅島

伊豆七島の一にして、神津島と御藏島

との間に位する若い火山島である。雄山の矮樹が成長して放牛地を提供し、山腹の輻射谷は淺くてシヒ、イヌグス、スズリハ、ヒサカキ等の暖帯常緑樹が最も繁茂し、樹間にはオホタニワタリ等の熱帯性羊齒が著生してゐる。

島は噴火を幾度か繰返し、明治七年に噴出した熔岩流は神着村の大部分を被覆したほどで、耕地は火山灰地で瘠薄なるを免れず、飲料水も天水によるほどで、田は全くなく、麥、甘藷、里芋等を主要作物とし、椿油、黄梅材が移出され、漁業はあまり重要でない。

行政上は大島支廳に管轄され、神着、伊豆、伊ヶ谷、阿古、坪田の五村と御藏島をその區域とし、各村の相互の連絡は不便で、風習も自ら異なつたものを保有

してゐる。

神 着 村

戸數二百六十餘、人口千百有餘人にし、面積〇・六二八方里あり、水田全く無く、畑地は百二十有餘町歩にのぼる。陸米、蕎麥、等を産し、村内には大島支廳出張所、蠶業取締所支所、東京區裁判所出張所、三宅島郵便局等あり、東京芝浦との間に月十回の定期船往復し、うち東京直航五回、館山經由一回、下田新島、神津島經由三回、大島新島經由一回である

伊 豆 村

三宅島の北岸西寄りに位し、北及び西は海濱にしてその尖端を伊豆崎と稱す、東は神着村、南は伊ヶ谷村に境し、東南方に雄山聳え、西北洋上遙かに新島、式根島をのぞむ、人口千八弱、面積〇・四二九方里にして、バター、米、團扇竹、

飛魚、蕎麥、石花菜、麥等を主産物とし、村内には三宅島伊豆郵便局、伊豆村産業組合、同養蠶實行組合、同漁業組合等があり、また神社四、寺院二を有し、本村大久保濱を大島に於ける元村の如く交通の中心地にして神着村との境に位し、東京航路の最も頻繁な寄港地である。

伊 ヶ 谷 村

三宅島の西岸に位し、北は伊豆村、南は阿古村に境し東方に雄山屹立し、西方海にのぞみ、伊豆村との境界に大船戸灣と稱する小入江を抱く。面積〇・三二六方里、本島中の最小村で、米、蕎麥、ほかに漁獲物に富み、東京三宅島間の定期航路は毎月六回宛本村に寄港する。なほ村内には温泉湧出し、島の總社とされる式内の古社今宮がある。

阿 古 村

南北四里面積四方里四八六の八丈島とその屬島とより成り、位置温帯圏にあり、且つ黒海岸を洗へるため、氣温極めて中和にして四時青緑を絶たず、温度は三十度を越ゆること少く、零度に下ることがない。

住民は殆ど農業を専業とし、水田は伊豆七島及び小笠原群島中ひとり本島に於てのみこれを見る。畑は、平坦部にありては永久畑なるも、傾斜地は伐替畑にして、主として里芋及び根菜類、葉菜類等の栽培をなし、畜牛の飼料たる八丈秣も多くこの畠に栽培する。また水産業盛んにして鱈、鮪、鯉、鰻、柔魚、龍蝦、石花菜、海苔等は漁獲の主なるものである。交通は東京へ月十回、小笠原島へ月四回の航路あるのみである。

大 賀 郷 村

八丈島の西南部に位し、北部に海拔八五四米の西山そびえ、南部に平野ありて

三宅島の南西岸にあり、北は伊ヶ谷村東は坪田村に境し、東北隅に雄山の雄姿あり、阿古部落は村の西隅海濱に伊ヶ谷村と隣して位し、その海に突出するところを今崎とす。その崎角は新鼻と稱し、側に古池がある。面積〇・八二七方里。

坪 田 村

三宅島五ヶ村中最大の地域を占むるものにして、島の東南部に雄山を中心として扇状に擴がつてゐる。北は神着村、西は阿古村に隣し、長き海岸線を有すれども良灣と稱すべきものがなく、たゞ北端に赤場曉灣と稱する漁船の小碇泊地がある。面積三方里五。麥、蕎麥、石花菜、チーズ、桑材、椿油の産が多い。

御 藏 島 村

御藏島は壯年期に開拓されたコニーデの火山島で、御山が中央に突起し、津久

部落をなし、八重根港を抱く。面積一方里三二八。米、麥、甘藷、木炭、榊、煉乳を主産物とし、漁獲また少くない。村内には八丈電氣發電所、八丈煉乳工場、八丈島製氷冷蔵工場等あり、官衙に八丈支廳、八丈島測候所、東京區裁判所出張所、八丈島警察署、八丈島郵便局がある。また優婆夷實明神社、八丈島役所跡宇喜多秀家の墓、鳥島噴火の碑、釋迦堂等の名勝舊蹟があり、遊客の目を惹くもの、頗る多い。

三 根 村

八丈島本島の北部に位し、西部に西山、南端に東山そびえ、その中間の平地に部落が散在する。面積一方里四二四〇。米、麥、甘藷、飼料、蕎麥、牛乳、木炭、飛魚、石花菜、節類、木製品などの産を誇りとなし、底土ヶ濱、西山神社の碑、觀音堂、その他忠次郎神社等の名勝を有する。

水田を誇る

八 丈 島

伊豆七島中の最南端に位し、東京を距る百五十七海裡に當り、東西二里十二町

目杜、稻佐森、大川等そびえ、急傾斜を以て海に迫り、高きは五〇〇メートルに

近い海崖を四圍に繞らしてゐる。平清水川、大舟戸川の溪流あり、島の西南には白瀧と稱する飛瀑もあり、飲料水は乏しくなく、土地もまた埴土で、植物の生育は良好であるが、急傾斜面のみであることが耕作を困難にし、西北端に里、東南端に南郷の二小聚落が存在するのみである。島民は主に植林農作に従事し、漁業は少い。殊に林地が殆ど島の全部を占めたるため林業が主要で、中でも黄楊は古來最も大切な移出物となつてゐる。言語風俗はよく三宅島に類似し、島内は一家の如く融和してゐる。

檉立村

本島の南岸に位置して、北西に大賀郷村あり、東は中之郷村に隣接し、北端に東山がある。

面積〇・四九一万里あり、村農會、産業組合の組織があり、生産年額約八萬圓に達する。名勝には大坂トンネル、白瀧等がある。

中之郷村

本島の南端に位し、その尖角を小岩戸の鼻と稱す。東山の南麓を占むるものにして西は檉立村、東は末吉村に堺し、海岸線は小岩戸の鼻を以て東西に分たれ、本村中心部落はその西岸に位し、その前面に藍ヶ江瀧がある。

面積は〇・五四四万里。梅辻飛驒の墓冥福の碑、大御堂、長樂寺などの名勝蹟がある。

末吉村

本島の東海岸に位し、西部は東山を中に三根村及び中之郷村と相接し、南端に洞輪澤港を抱く。面積〇・六九九万里洞輪澤の瀧ありて頗る風景に富む名古の浦あり事代主命を祀る三島神社も村内に鎮座する。

小島鳥打村

小島の西半を占め、宇津木村との境に山あり、標高六一六米八、村の西端北側に小入江あり漁船の碇泊地となす。面積〇・一〇九万里。

小島宇津木村

小島（八丈島本島の西に位す）の東半を占め東端北側に小入江を抱いてある。面積〇・〇九六万里。源爲朝を祀る八郎

神社が鎮座する。

青ヶ島村

八丈島の西南七〇軒に位する周圍一三軒の小火山島で、海崖高くめぐらし、汽船は神子浦の沖にかゝり、荷役容易でない。面積〇・三五二万里。飲料水は雨水以外に求めることが出来ない。

甘蔗單一の

小笠原島

小笠原諸島は、父島、母島、笠島及び硫黄島の四列島から成る多數の火山島の總稱で、小笠原支廳の管轄に屬する。

伊豆七島が歴史上早くから知られ、住民もまた甚だ古い傳説を有するに反し、小笠原のわが版圖に完全に入つたのは極めて新しく、その住民はすべて新しい移民であるのは著るしい相違である。尤も

父島扇村

本村は大村と二見港を隔て、相對する砂濱にあり、後丘に小笠原の發見者と傳へられる小笠原貞頼を祀る貞頼神社や、内務卿大久保利通の開拓碑があり、昭和二年 今上陛下が長くも行幸遊ばされた所である。

袋澤村

北袋澤と南袋澤にわかれ、土地は肥沃で灌漑の便もよいので水稻の二毛作も可能であるが、すべて甘蔗畑に利用されて居り、溪谷ではバナ、ヤその他果樹がよく成育する。

母島沖村

本村は母島列島中の主邑で、北に乳房山が聳え、東には劍光山が峙ち、沖港は

母島北村

港内に礁多くて淺く、大船に入るゝに足りない。最初は獨人ロースの居住したところである。

島の最北の聚落で、潮流の早いので知られてゐる。東港は北港と小丘を隔て、東にあり、大東崎と石門岬に挟まれて椰子濱が灣頭にある。明治初年、英人に隨伴した、支那廣東人の移住した地で、甘蔗の栽培が非常に多い。

硫黄島村

硫黄島は北、南、中の三島あり、中硫黄島を以て主とする。一七八四年英人により發見され、ホルカイ三島と呼び、しばらく所屬不明のまま無人島として放置されたが、明治二十年高崎東京府知事の検査あり、同二十四年わが版圖に入り小笠原に屬した。現在盛んに硫氣を噴出し

父島大村

大村は小笠原本島の首邑で、小笠原支廳、稅務署、警察署等の所在地で、父島要塞司令部もある。

海濱は一帶の黃砂で、以前は少數の歸化人の聚浦であるに過ぎなかつたが、明治十五年島廳を扇浦から移して以來殷盛に向つた。

かなり古くから漂流民の見聞が内地の一部に知られ、人無島、巽人無島、無人島などと呼ばれ、歐米人は無人等を轉訛してボニン・アイルランドと稱し、小笠原と命名されたのは幕末の國際多事の間であつた。
産業上における小笠原が内地はもとより、伊豆七島とも、氣候上のその如く全然異なつて、甘蔗單一耕作で、主食物の米のすべてを他地方から移入してゐるといふ事實は、看過し得ない同島の一特色である。

中硫黄島東海岸では地熱を利用して天日製鹽をなしてゐる。

屬島

なほ小笠原列島中には前記父島、母島硫黄島のほか、多數の無人島があり、それらのうち主要なるものは野羊島、兄島、弟島、北島、西島、瓢島、人丸島、東島、南島、向島、鯉島、平島、二子島、丸島、姉島、妹島、姪島、聖島、妹島、嫁島、北ノ島、西ノ島、南島、中ノ島島等である。

大東京

碧いお濠、白い花崗岩の橋—二重橋である。かりにも帝都に足跡を印するものまづこの橋畔に立つて、皇居を拜せぬものはなく、東京見物は即ちこゝからはじまる。

二重橋のあるところ、即ち宮城正門

で、もと西丸下乗橋のあつたところ、正確にいへばこの石橋の奥に一段と高く見える鐵橋こそ、ほんたうの二重橋であるのだが、今は普通にこの宮城正門を二重橋と呼びならはしてゐる。

皇居の四境を圍む城壁上にならぶ老松は、常磐の色こまやかに、斜めに影をお濠の水にひたし、幾群の水禽その間に悠遊自適してゐる物靜かな落ちついた光景は、飽くまでクラシカルで、そして純日本的で、自づから襟を正し、首の垂るゝを感じしめる。

外苑の芝生ひろくとして、稚松の影參差、一點の埃をとどめざるところ、東南の一角に英姿颯爽として立つ楠公の銅像は、さながら千載の下、なほ皇威を守護したてまつるものゝ如くである。

大江戸八百八町、鐘ひとつ賣れぬ日のないことを誇りとしたのは徳川時代、明治維新の後、皇城この地に移されて以來は、わが國政治の中心として將又文化の中心として急激なる膨脹發展を遂げ、殊

に大東京出現の結果は、一躍して人口は世界で第二位を占め、むかし、

武藏野は月の入るべき峰もなし

尾花が末にかゝる白雲

と詠まれたその武藏野の殆んど三分の一ばかりを市内に抱含してゐる。

名物

日本は世界の櫻花國、その主都たる東京はまた「櫻の都」であることも、こゝに逸してはなるまい。昔からの「花のお江戸」で、専門家は土質が櫻の生育に適するのだと語る。

だが、花よりも團子ともいふ、空腹をかへて終日市中見物も出来まい、食物のうちで東京名物として普遍的なものは鰻の蒲焼、天ぶら、握り鮓、もつと通俗なものでは、蛤鍋におでん、土産物としては浅草海苔、佃煮、菓子では大福、似て非なるものに焼芋、これ等はすべて東京が本場で、最も東京のローカル・カラアを帯びた名物である。

神奈川縣勢

總説

地勢

本縣は、關東地方の西南部にありて、東京灣及び相模灣に面し、相模一國及び武藏の國の一部より成り横濱、横須賀、川崎、平塚の四市と橋本、都筑、三浦、鎌倉、高座、中、足柄上、足柄下、愛甲、津久井の十郡とに區劃され、面積二三五三軒、人口一七四萬人をかぞへ、密度は六八八人である。

東北は多摩川を隔て、東京府に接し、西北は山梨縣に境し、西南は足柄、箱根の群山により静岡縣につゞき、南は三浦半島突出して相模灣にのぞみ、東は東京灣を越えて房總半島に相對する。

沿革

即ち西は丹澤山を主峰とする丹澤山塊にして東方大山に及び、御坂層並に第三紀層の水成岩から成る。西南境には箱根火山の噴出で、山岳丘陵横たはり、東南方は次第に平野をなす。平野は多摩川、馬入川、酒匂川の耕地で、農産物に富む三浦半島に第三紀層から成り、相模灣と東京灣とを區分する。

相模灣は海岸の出入に乏しいが、京濱地方に對する第一の保養地帯で鎌倉、平塚、小田原その他の小都會が多い。東京灣岸は出入屈曲多く、横濱港をはじめ横須賀軍港その他の港灣が發達してゐる。

南方海岸地帯は氣候温暖、避暑避寒の最適地である。

和名抄に、佐賀三と註し、古事記には相武につくり佐賀武と訓じた。武藏は和名抄に、牟佐之と註する。また更に廻つて考ふれば、相模武藏の地をすべて佐斯の國と稱したものとよく、後ちこれを二つに分けて武藏と相模にしたのだともいはれる。

有史以前にはコロボツクルと稱する人種が武藏の橋本郡、相模の中郡、高座郡及び三浦半島に居住した遺跡があり、有史以後、日本武尊御東征の砌り、足柄峠を踏えて木賀溪に下り、鎌倉より三浦半島に入り、走水より上總に渡り給ふた。その後十餘年を経て、景行天皇自ら東國御巡視の際、日本武尊東征の跡を視察せられた。

爾來昇平の日久しく、文恬武熙の風を成し、紀綱廢弛し、坂東やうやく多事となり、治承四年、兵馬の權頼朝に歸し、鎌倉幕府の開設を見てより以來、鎌倉は將軍政治の中心となり、諸將士の邸宅軒を並べ、百貨輻輳股賑を極めて全國の首

府となつた。

しかし源氏は三代で滅び、北條氏がこれに代つて政權掌握九代に及び、武士道を中心とする鎌倉文化はこの地に發達し氣品高遠なる藝術の花が開いた。北條氏滅び、建武中興の業成り、明應四年、北條早雲小田原城を略取してより、豆相の要地はその掌中に歸した。次で豊臣秀吉起ち、北條氏滅んでより徳川家康の所領に歸し、江戸に幕府の開かれるや、箱根は軍事上重要な地となり、更に參觀交代制の立つや本縣は二百有餘年の久しきに亙つて諸侯識者來往の要衝となり、金澤には米澤氏代々これに據り、小田原には大久保氏あり、荻野、山中をその支封とした。

然るに幕末の家慶の時、長夜太平の夢破れ、米使ペルリ浦賀に來航し、横濱港を通じて世界進出の劃期となつた。英露佛蘭等とも條約を結んで神奈川は開港され、當時人煙稀疎の一漁村横濱は、泰西文化のわが國への流入口となつた。

神社宗教

官幣中社鎌倉宮、國幣中社鶴ヶ岡八幡宮、同寒川神社、國幣小社箱根神社をはじめとしてその他縣社六、郷社四十餘、村社七百、無格社五百有餘をかぞへ、曾ての大震災の慘害は、壯嚴なる社殿、幽邃なる境内も潰滅に瀕したが、官國幣社の造營着手されるや、縣は縣社、郷社及び村社の造營並びにその神域の造營に加擔し、昭和御大典の盛儀には概ね新社殿に於て嚴肅に奉仕することが出來た。當然とはいへ、誠に慶賀の至りである。

王政維新と共に國學の興隆に伴ひ、神道は復興の色を示し、キリスト教もまた早く外國宣教師の渡來するありて宣教の實をあげたが、本縣は鎌倉時代より佛教興隆の中心地であつた關係上、臨濟宗建長寺、圓覺寺、淨土宗光明寺、曹洞宗總持寺、新義眞言宗智山派平間寺、時宗清淨光寺等著名の寺院また少くない。寺院總数は千七百有餘ヶ寺にして曹洞宗、眞

言宗、日蓮宗が多い。なほ佛道教會所は九十餘をかぞへる。

教育

明治五年八月學制頒布以來六十有餘年を経て、縣内教育の諸機關は、初等教育といひ、中等教育といひ、高等教育といひ、將又教員の養成といひ、また特殊教育乃至は社會教育に到るまで、教育上に於ける諸般の施設は、日進の大勢に應じてそれ相應に整備し來り、大正大震災後の發展は殊に目覺ましく、形式内容共に面目を一新した。

學校設備の完否は、教育の盛衰に至大の關係あり、縣は夙にそれに留意し、校舍建築、器具機械の整備、その他に完璧を期したる結果、教授、訓練、養護等各方面に於ける施設經營の改善と共に漸次良好となつて來た。

本縣最初の中學校は現横濱一中の前身校たる神奈川縣尋常中學校である。明治三十年の創立に成り、その後時世の進運

と社會の發展に伴ひ、中學校、高等女學校の數は増加し、一般民衆は中等教育に對する理解も非常に深く、最早往年の比ではない。實業學校に於てもまた然りである。

本縣が永く高等教育の機關を有しなかつたことは、甚だ遺憾としたが、大正九年横濱高等工業學校の創設を見、同十二年には横濱高等商業學校が置かれ、次で關東學院高等部、横濱高等專門學校等が創立せられ、本縣教育界のため洵に慶ぶべきことである。

社會生活の複雑となるにつれて、家庭教育を裨補すべき幼稚園の設立は非常に増加し、圖書館及び巡迴文庫の數も急激な増加の線を辿りつゝある。本縣には往昔金澤文庫の記録あり、昭和四年昭和義塾の完成に次で同文庫が復活された。

生産

本縣は大東京市に接續し、また國港横濱港を控へる關係上、商工業は特に旺盛

である。従つて本縣の生産は、工業品が斷然その首位を占め、農産物を次位に蠶絲、水産、畜産、林産、礦産の順位を常態としてゐる。

その地方的狀況は、横濱市が總額の約半分近くを占め、川崎市が三割七分、高座郡はぐつと下つて三分六厘等、その主なるものである。更に市郡別に見ると、農産は第一位が中郡で、高座、足柄上はこれにつき、蠶絲の第一位は高座郡で、以下足柄上、鎌倉、愛甲の順である。畜産は横濱市を筆頭に鎌倉、中の兩郡があり、水産は足柄下郡が最高で、三浦郡及び川崎市がこれに次ぐ。更に林産は津久井、足柄上、都筑の各郡に多く、工業は横濱市と川崎市が最も多く、平塚、足柄下、三浦の諸郡これにつゞき、礦産では愛甲、足柄下、橋樹が主位を占める。

農蠶業

耕地面積六九八二六ヘクター、その中田が二二二一一ヘクター、畑が四七七

五ヘクターあり、氣候温和、地味豊饒なると、全國第一の消費地たる東京を控へ且つ大都市横濱を抱擁するの關係上、米麥、粟、蕎麥、煙草、蔬菜、果實等の栽培盛んにして、殊に園藝方面に於ては將來を有望視されてゐる。なほ本縣の農業を全國的に見ると、農家戸數に於て第四十一位、耕地に於て第三十五位である。

本縣蠶絲業は千數百年の古き歴史を有するが、發展の曙光を見たのは横濱開港以來のことと屬する。即ち明治十五年頃には先進縣から技師を聘して飼育を行ひ、十九年には座繰製絲、同二十二年には機械製絲の業はじめて行はれ、累次漸進的發展を見るに至つた。縣は蠶種の検査、技術者の設置、補助金の交附、または共同乾繭所、養蠶組合等の施設獎勵をなして斯業者の便に資し、蠶業試驗場を設けてこれが改善發達に努力し、昭和八年更に本縣蠶の一大集散地たる厚木町に縣立繭検査所を設置し、以て斯界に一大光明を點じ、ます／＼本縣蠶絲業の繁榮

を割しつゝある。地域別では高座郡を主位とし、愛甲郡、中郡、津久井郡、都筑郡が最も盛んである。製絲は年産十八萬貫にのぼる。蠶種は相模川沿岸地方で主に製造される。

水産業

縣下市町村中海岸に沿ふところは四市五郡三十一ヶ町村にして、海岸線の延長は五十六里に亘り、海岸は相當屈曲に富み小田和灣、小網代灣、油壺灣、金田灣久里濱灣の灣入あり、浦賀、横須賀、三崎の諸港がある。水産物では鱈、鯖、鰯、鯨等が主なるもので、沿岸の淺海には淺蜆、蛤、牡蠣、蝦、蟹、海鼠等が棲息し岩礁の多いところは石花菜、和布などの海藻が繁殖する。

本縣の三大河川たる多摩、相模、酒匂の諸川には、昔時より香魚の繁殖多く、蘆ノ湖にはアカハラ、鯉の棲息を見る。

林業 鑛業

縣内林野の面積は十一萬二千有餘町歩にのほり、土地總面積の五十二パーセントを占め、主に縣の西北部に偏在し、箱根、大山、蛭ヶ峯の諸峯はその主なるものにして、馬入、酒匂の兩川の水源をなしてゐる。

往昔北條氏、徳川氏時代には林政の見るべきものあり、維新前後よりは濫伐の弊に陥り、且つ横濱の開港に依つて用材薪炭材の需要が増大し、運輸の便ある森林は、悉く伐採されて禿山となつた地方が多く、即ち公有林野のうち一萬四千二百町歩は原野のみ、放置される状態であつた。

明治維新後、縣の指導獎勵の結果、造林思想は漸次喚起され、林業の發達大に見るべきものあり、林産年額百四十餘萬圓にして、内用材は杉、檜、樅、松、等を主とし、木炭薪炭材は年々三四十萬圓に上り、林野副産物に苗木、樹皮、竹皮、椎茸の生産がある。

鑛業には見るべきものないが、海岸線

に於ける安山岩の採取、或は河川に於ける砂利の採取は、大正大震災の復興事業上に相當需要あり、殊に多摩川と相模川の兩河川に於ては相當大規模に採取された。その他に安山岩、砂岩、硃砂などがある。

工業

世界的貿易港横濱を控へ、帝都の關門を扼し、海陸の便四通八達し、工業地帯として最好個の地を占むるのみならず、發動力たる水力の豊富を配するを以て將來更に大に發達すべき天恵の地である。勿論である。

殊に横濱市は開港以來、港勢の進展と共に躍進的發達をなして來たが、今後大に工業を招致して、全國屈指の臨港工業地帯を造成すべく囑望されてゐる。また川崎市は京濱の中間に位し、京濱の發達と應策して縣下第二の工業地帯として覇を稱へてゐる。その他高座郡や足柄下郡がこれに亞ぎ、中郡、三浦郡、鎌倉郡

等もまた相當の發展を示してゐる。

主産物は綿絲紡績、絹絲紡績、鐵、電機、自動車、絶緣電線及び電纜、船舶、硝子及び同製品、石油系鑛物油、肥料、蓄音機、レコード、製粉、菓子類、製糖ビール等があり、いづれも年産百萬圓以上である。

交通

東海道本線が縣内を貫き、支線の横須賀線、御殿場線、横濱線、その他電車が四通八達し、殊に東京横濱間の連絡は極めて便利である。海上交通は、近海航路の汽船の往復盛んなる外、外國航路の巨船が常に横濱港に碇泊し、世界各地に向つて航路をひらき、水陸共に交通頻繁である。

本縣は古くより東海道の要衝に當り、沿海地方の交通頻繁であつたが、明治維新後、帝都は東京に奠り、横濱は通商貿易港として本邦五港の第一となり、横須賀に軍港の開かれてよりはその發展著る

しきものがあつた。

近年、商工業の發達は、各都市の擴大隆昌を見、殊に大都市に接近して氣候溫和、清麗なるため郊外はますます開けて人口稠密となり、交通機關はいよゝゝ完備せんとし、特に沿海及び平野地方に著しい。即ち道路延長千八百二十有餘萬軒に達し、内縣道は二百十五軒である。

なほ私設鐵道及び私設電車は、鶴見臨港、相模、神中各鐵道、湘南軌道、小田原急行、京濱、江ノ島、小田原、東京横濱各電鐵、海岸電氣軌道、大雄山鐵道、南越鐵道、玉川電鐵、箱根登山鐵道、湘南電鐵、南津鐵道、相武電鐵、箱根土地電鐵、大山綱索鐵道等である。

躍進する

横濱市

國際都市

國際都市横濱は、内地のどこへ行つても見られぬゆるやかな、異國情緒に溢れた港街である。東方一帯は森漫たる海灣に面し、北は川崎市と橋樹郡、西は都筑郡に接し、西南一帯は鎌倉郡につゞき、日本第一の貿易港、そして東京市の咽喉である。

古くは久良岐郡石川郡に屬したところで、一村を形成した年代は詳かでないが足利時代の記録に、横濱村の名稱の存するのを見る。住民は専ら漁業を營み、農事に従ふもの極めて少なかつたやうである。幕末に至り米、蘭、露、英、佛などの諸國と通商條約を結び、神奈川を開港場と定めたが、その實横濱を以て要衝となし、昔日の一寒村は、漸次内國人の多數が移住すると共に、多數の外國人も競つて居を構ひ、通商貿易の業に従ふに至つてやうやく殷盛の港と化して來た。かくて明治五年京濱鐵道敷設され、市

内の一部に瓦斯燈の點火を見、翌年には上水道事業の一部も竣功し、明治十年には人口三萬を數へ、十五年五萬二千餘、二十年九萬四千餘と鼠算を以て増加し、蠶糸に關する取引は本邦生絲市場の中樞たると共に、取引價格は歐米都市の絲價を左右するの盛況を呈するに至つた。

明治二十二年市制を施行し、その後數次に亘つて地域の擴張を行ひ、今や往時の久良岐郡はその全部が横濱市に編入された。

横濱港は、明治三十二年に第一期擴張工事を完了し、三十九年に第二期擴張を大正十年に第三期工事を完成し、かくて開港以來僅かに六十有餘年にして世界有數の一大貿易港となり、全國六大都市の一に列した。

なりはひの道

當市生産額は、工産の二億四千二百餘萬圓を筆頭に、畜産三百五十萬圓、農産百六十餘萬圓、水産八十餘萬圓で、百花

燎爛とも稱すべき隆盛を見せてゐる。

當港出入の貿易船噸數は、内國船の出が千六百隻五百八十餘萬噸、入が千六百餘隻五百八十五萬噸、外國船が、出入とも千隻五百萬噸餘で、岸壁につながる大船巨舶は、輸出四億九千萬圓、輸入五億四千萬圓といふ老大な數を示し、主なる輸出先は關東州、中華民國、滿洲、英領印度、英吉利、佛蘭西、アメリカ合衆國、濠洲等である。なほ重要輸出品としては生絲、縮緬及び壁織、小麥粉、蟹罐詰、玩具、電球等を擧げることが出來、輸入品は綿綿、羊毛、原油及び重油、小麥、生ゴム、石炭、自動車部分品、木材等である。

なほ市内に所在する特殊銀行としては横濱正金銀行、神奈川縣農工銀行、臺灣銀行横濱支店、香上銀行支店等があり、普通銀行三十餘、貯蓄銀行十三がある。

名勝舊蹟

市内の名所舊蹟には、生麥の碑、總持

寺、花月園、子生山、諏訪守城趾、小机城趾、浦島寺舊趾、その他海の山下公園人工美の極致を盡せる横濱公園をはじめとして綱島桃園及び鑛泉、野毛公園、三溪園、扇ヶ浦、本牧、保土ヶ谷ゴルフ場根岸競馬場、金澤文庫、金澤八景などがある。

軍港としての

横須賀市

水兵の町

横須賀といへば、都會を思ひ出す前に鎮守府を考へ、海の精銳海軍を想像する。實に横須賀はわが日本の海の守りであり、セーラー服の潤歩する街である。三浦半島の北部に位し、北方は東京灣に面し、西は三浦郡葉山町に接し、東南は浦賀町に隣する。市内到るところ丘陵起伏し、人家櫛比

の街は、沿岸の平坦地または海岸埋立地にして、或は陵間の窪地、或は田園の中に市街を形成するところがあるが、その他多くは山嶺をたひらけ、傾斜地を拓き隨所に人家を點綴してゐる。故にこれを接続する道路は、勢ひ坂道ならざるを得ない。

「埋立の上の都」は依然埋立への歩みを止めず、海兵團練兵場數萬坪が昭和八年市域に編入されたのをはじめ、追濱航空場の飛行場擴張で、伊藤公の憲法起草で有名な夏島は遠からず無くなるものではないかと心配され、その他各所に民間埋立が進められ、東京灣への進出をつけてゐる。

軍港

大正十二年の震災復興は、市の側より海軍の方が一足遅れてゐるが、昭和八年夏から秋にかけて海軍工機學校、同通信學校、鎮守府會議所、海兵團など復興工事完了し、海軍航空廠は五ヶ年計畫を三

ヶ年で仕上げ、こゝにわが海軍の殿堂は全く築きをはつて軍港の外形は整備し、名實共に東洋一を誇つてゐる。

當軍港は、實に首都東京に對して軍事上重大なる任務を有してをるもので、その灣内は水深く、數多の軍艦は東を扼する凸字形半島の岸壁に自由に繫留することが出来る。

歴史の跡

元治元年、幕府の小栗上野介の主唱によつて、横須賀造船所を設ける議が決して軍港としての礎石を置き、明治十七年横濱の東海鎮守府を廢して横須賀鎮守府となつてから、わが海軍の成立と共に伸び、明治八年村から町へ、四十年豊島村を併せて市制施行、昭和八年四月田浦村と衣笠村とを合併して、今の大横須賀を實現した。

産業

これを種類別に見ると工産が最も多く

これに次で畜産、林産などの順にかぞへられる。生産總額は一戸當り平均約二百圓である。

年産額一萬圓以上にのほる主なものをあげると米、牛乳、牛肉、豚肉、鶏卵、黒鯛、鮪、和布、石花菜、紡織品、機械器具、化學工業品、食料品等がある。そして市勢はもとより、軍港として、海軍關係事業によつて維持されてゐると見るべきであらう。

史蹟と名勝

諏訪神社背後の小丘八幡山を諏訪公園と稱し、軍港市街を一眸の中に收めることが出来る。塚山公園は、十三峠にあり往年、幕府時代に於ける横須賀街道の要衝なりしところ、市中隨一の高所大勝利山は、海山の眺望絶佳にして、展望最も雄大である。

その他長峰城趾、船泊庵趾、猿島、海水浴場、記念艦三笠、衣笠公園、觀音崎などがある。

工業都市 川崎市

概説

川崎市は縣の東部に位置し、東南は東京灣に臨み、西は横濱市及び橋樹郡に接し、北は多摩川を隔て、東京市に相對する、京濱工業地帯の重要な一ポイントをなし、市内は九十一區に分割され、面積約二方里六である。

明治末期より大正初期にわたり、川崎驛を中心とし、多摩川を利用せる工場地區が出現し、工業都市としての第一歩を踏み出し、更に京濱運河會社の埋立事業により海岸地帯は一躍工業地帯となり、市の核心は漸次南方に移動して遂に今日の態勢を形成するに至つた。

沿革

武藏野の低地を縦横に流れる多摩川の浮洲の如き土地に、古代民族が原始的生活を営んでゐたが、その後、河崎冠者基家が秩父より來つて莊園を開いたのが始祖で、源頼朝が天下を平定するや、佐々木高綱をして支配せしめ、北條時代間宮豊前守信盛の知行となり、徳川時代に至つて、元和九年久根崎、砂子、小土呂、新宿の四村を合併して川崎宿となし、はじめに東海道五十三次の一驛となつた。

明治の御代となり、六郷渡船は鐵橋とかはり、明治三十年今の京濱電鐵の前身たる大師電鐵が敷設され、同三十八年には横濱製糖會社の創設を見、次で東京電燈が移轉し、更に富士紡、それに東京瓦斯、味の素などの大會社工場をはじめ、大小幾多の工場が設置されて今日の殷盛を來たした。

大正十三年、川崎、大師、御幸の一町二ヶ村を合併して市制を施行し、昭和二年には田島町を合併して名實共に大工業都市となつたが、更に昭和八年中原町を

合併し、人口十五萬の大工業都市川崎への偉大なる姿を現出するに至つた。

工場

工場生産額二億圓を突破するといふ盛況を呈する當市に、然らばどんな會社工場があるのであらうか。今、主要なるものを擧げて見ると、

富士瓦斯紡績、日本鋼管、東京電氣、東京製鋼、富士電機製造、淺野セメント、明治製菓、日本蓄音機、日本トラスコン鋼材、東京製線、日清製粉、富士製鋼、屋井乾電池、明治製糖、京濱電鐵、東京電燈、東京セルロイド製造、汽車製造、富士電力、川崎セメント、日本製鐵などがある。

市勢

川崎、京濱兩乗合自動車が市内唯一の交通機關となつてゐるが、省線京濱線、南武鐵道、鶴見臨港鐵道等が市の内外を運轉し、東横電鐵經營のバスが川崎驛よ

り高津町に通じ、謂ゆる四通八達する。學校は小學校十二校、中等學校六校、その他青年學校、幼稚園などあつて教育施設充實し、市の事業としては都市計畫水道、公益質屋、公設住宅等を營み、更に工業學校、水道擴張工事、公會堂建設などが企劃、着工されてゐる。

理想住宅地の 平塚市

本市は縣の南中央部に位し、東は馬入川を隔て、高座郡茅ヶ崎町に對し、西は花水川を挟みて大磯町に隣り、南に相模灣を擁し、北は大野村に接する。四時氣候溫和にして海水浴に適し、理想的住宅地として名士の別荘多く、都人士の來住するものもまた尠くない。市内は須賀、馬入、平塚、平塚新宿の四大字に分轄せられ、東西三軒五、南北三軒一である。

起源に關する記録に乏しく詳かならざるも、延暦年間桓武天皇三代の御孫高見王の御子政子の方東國下向の途、この地に御發病あらせられ、御療養よく努められしも海濱の一寒村なりしたため、御養生意に任せず、天安元年三月悼しくも終に薨じ給ひしより、御埋葬の地に一堆の塚を築き松樹を植ゑて御墓標に代へたが、塚の上部が平かなりしに因んで平塚の地名が起つたと傳へる。

徳川氏江戸幕府を開き、西國との交通頻繁なるに及び、東海道の一驛として春風秋雨二百年、驛鈴絶えることなく遂次殷盛の緒につき、明治二十二年東海道線開通と共に一層面目を改め、都市發展の基礎を築き、昭和四年四月平塚須馬兩町を合して新に平塚町を置き、同七年四月には更に市制を施行し今日に及んだ。

明治三十年、現平塚海岸火藥廠の前身たる日本爆發物會社が置かれてより、工業都市の色彩を加へ、相模、關東兩紡績工場の開設後、各種工場の設置相次ぎ、

躍進的發展を示し、現在工産年額七百五十七萬圓、綿絲、紡績絹絲が主で、乳製品がこれに次ぐ。農産物は三〇餘萬圓、茄子、葱、その他蔬菜を主とする。

都心進出の 橋樹郡

本郡は武藏野の一部を占め、多摩川沿岸地方で、縣の東北隅に位し、東及び北は東京府に續き、南から西へかけて川崎市、横濱市、都筑郡に接し、大都市を近くに控えて地理的には頗る恵れてゐる。茫々と田圃開け、その中に遺憾なく發達せる交通機關が文明の利器たるを矜り顔にはしり、面積約七千方軒、次の町村に分れてゐる。

町 稲田
村 宮前、向丘、生田

當地方はすでに古くより開けたるもの如く、皇紀千五百三十七年には在原業

平が江戸隅田川まで来り、千五百九十五年には蟬丸の宮が將門反亂前密偵となつて來てゐる。源頼義、同義家が東國征討に井田臺から川を涉つてゐるし、源頼朝同義經、稻毛重成、葛西清重、島山重忠などもこの地を横行濶歩してゐる。當時葛西清重が丸子庄司になつたことがあり

丸子莊と稱へてこの時代から文化の組織立つた發達の第一歩が始められた。建武の中興時代並に足利時代を経て、戰國時代に入つてからは、國守は空位を擁するのみで、豊島五十皿子在城した扇谷上杉の配下に屬し、天正十八年北條氏滅亡の後は關八州が徳川氏の領有となり、一般行政は代官を以て支配された。代官者中著名なのは、市の坪の江川太郎左衛門である。王政復古となり、自治制施行の時二町十七ヶ村に分割され、その後川崎市の獨立、その他町村の離合が行はれて現在の一町三ヶ村となつた。

いづれも他郡に比して著るしく發達が遅れてゐる。農業は本縣中第五位にして、米、麥、蔬菜、果實を主要産物とし、蔬菜及び果實は東京、横濱兩市場への重要な供給地である。また産額は少いが、多摩川の鮎は、都人士の最も賞味するところである。

交通はよく發達し、道路には中原街道川崎府中線、他二縣道が四方に走り電車には目黒蒲田電鐵、小田原急行電鐵、南武鐵道、東横電車、玉川電車等があり、交通運輸の便は、將來ますます發展を約束されてゐる。

稲田町

にこれを合併、純農村として人口移動もすくなかつたが、昭和二年小田原急行電鐵、南武鐵道の開通により、頓に發展し昔日の農村は今や郊外住宅地並に商街を形成し、昭和七年六月一日遂に町制が施行された。町内にある官公衙は町役場、郵便局、巡查駐在所にして銀行、産業組合等の金融機關整備し、小學校は二校、社寺は五社十三ヶ寺をかぞへる。

宮前村

本村は郡の中央部に位し、東は横濱市に接し、西は向丘村、南は都筑郡中川村に續いてゐる。馬絹、梶ヶ谷、野川、有馬、土橋の五字より成り、役場は馬絹に置いてある。

産業は農を主として米、麥、果實、蔬菜を主要産物とし、殊に果實、蔬菜類は京濱地方に出荷して好評がある。昭和八年度經濟更生村に指定され、多角形經營による合理的農業改善が行はれてゐる。

交通は玉川電車並に南武鐵道があり、高津驛へ一里で達し、その間自動車の便がある。

教育機關には宮前尋常高等小學校、青年學校のほか男女青年團、在郷軍人分會等がある。影向石十三本臺、鞍掛山等名勝も多い。

向丘村

當村は横濱市の西につき、西は生田村及び都筑郡柿生村、同山内村に接し、南は宮前村に境し、東西一里二十六町、南北二十一町、面積〇・六五方里で住民の大部分は農業に従ひ、生産物の主なもの米、麥、馬鈴薯、果實、繭、麵類にして、これ等産業の獎勵機關として果物出荷組合、蔬菜出荷組合、養豚組合等がある。昭和七年、經濟更生指定村となり經營組織の標準を高め約四萬七千圓の増収を圖つて優良農村の實現に成功してゐる。

村内には村役場、巡查駐在所、向丘尋常高等小學校、同分教場、青年學校、圖書館、男女青年團のほか神社五、寺院八がある。

生田村

本村は郡の西北部に位し生田、高田、細山、金程の四大字より成り、面積四方料。一般村民の風儀は良好で、曾て交情圓滿を缺いたことがない。しかも勤儉節約の美風があり、葬儀の如きは全然酒を用ゐざるまでに生活改善の實績の顯著な村である。

交通は小田原急行電鐵開通以來至便を極め、村内所在の生田驛は附近村落交通の中心をなし、またそれに交錯して南武鐵道走り、縣道も村内を東西に貫いて恵まれることが多い。産業は主として農業にして米、麥、大豆、甘藷を産し、近來園藝の發達著るしく、梨、柿の出荷が頗る多い。

林産地帯の都筑郡

本郡は、武蔵野の一角を占め、横濱市に近接する郊外地として發達し、北は橋樹郡、西は東京府南多摩郡、南は鎌倉郡につき、郡内殆ど平地である。

町 川和
村 新田、中川、山内、柿生、岡上、中里、田名、新治、都岡、二俣川

産業は農を主として行はれ、工業また隆盛なるを見る。鑛物の産は全然なく、林産は縣下第三位の産額で、生産額の一戸當り平均を見ると約四百圓となる。人口の増加、文化の進歩と共に加速度的に發達した交通方面を見るに、横濱を發したる縣道は、郡の東部より入つて北部を西走して山田村に達し、川崎市方面より來る縣道は郡の中央部を東西に貫通

する。

また北部を小田原急行電車が通れば、私設神中線は郡の南部を東西に走つてゐる。その他到るところに自動車の便あり今日の状態を以て明治時代のそれに比すれば、その變遷は全く隔世の感なき能はざるものがある。

かくの如く、その昔狐狸の棲家たりしこの里も、今は文明の恩澤に浴し、自動車、電車、汽車等が縦横に疾走するのである。

本郡は舊都筑に起り、萬葉集に、天平勝宣七歳、武藏國都筑上丁服部於田、云云とあり、また續後記承和五年二月武藏國都筑杉山神社と始見し、和名抄には豆豆岐と註し、餘戸、店屋、驛家、立野、針丘、高幡、幡の七郷に分つた。

平安朝の頃、平家の祖高望王の一族がこの地を領し、治承の頃、源氏の傍系多田氏が本郡に住した。鎌倉幕府時代から小田原北條氏時代までは、各その幕府に直屬し、彼の徳川家康が天下を取るに及

んで、當時東國への驛路となり、文化の程度漸次高きを加へた。

降つて明治の御代となるや、初めより神奈川縣に屬し、郡内町村の離合變遷數次に及び、郡制廢止の後、現在の區劃に改められたものである。

川和町

本町は郡の中央に位し、東は新田村に接し、北は中川村及び山内村に隣り、西は中里村に境し、南は鶴見川を隔て、新治村並に横濱市に對し、面積一方里三二二九、町の東南は垣々として水田展け、西北は山岳を擁し、郊外住宅地としての理想郷である。中部は豊穰なる畑地にして蔬菜園藝の栽培隆盛を極め、胡瓜、茄子、大根、柿、苺等の收穫が多い。

戸數人口その他各般の事物郡内の首位を占め、大正九年頃すでに人口五千有餘に達し、しかも地方に於ける商取引の中心たるのみならず、本郡に於ける官公署

または銀行會社等は概ねこの地に集中してゐる。横濱線の電化後、東横、二子玉川等バスの進出目覺しく、交通網の發達は京濱間の距離を短縮し、川和を中心に各字共に著しく社會文化並に産業開發を促し、將來ますます發展の道程を辿りつつあり、昭和九年には町制が施行され、大川和實現に一步前進を示した。

七月二十五日の川和の盂送り、十二月二十五日の年の市、三月三日の淡島祭は川和行事中の尤なるもの、その他名所には松林園の菊、觀音寺の櫻、貝塚、鴨獵場、關東一の大杉、八幡神社の櫻などがある。

新田村

當村は南北に長く、東西に狭く、西北は丘陵起伏し、東南は低く開放し、鶴見川の流域一帯をなしてゐる。戸數は五百八十餘戸、人口約三千九百人で農業、林業、漁業、工業、商業等を營んでゐる。

個人所有の田は二、六九八、八一七反、畑は二、八一、三二四反、宅地一〇五、二四四、八四坪、山林原野一、八〇七、五〇八反あり、普通作物の外に蔬菜、果樹、花卉。畜産は乳牛、豚、鶏、鮮牛などがあり、副業としては苞(ビール瓶)繩などがある。

各種の団体としては農會、産業組合、農業實行組合、在郷軍人分會、水利組合青年團、女子青年團等設けられてゐる。當村は大政奉還後、品川縣の管轄となつたが、同五年神奈川縣に移り、舊來の名主制度を廢して一村戸長となり、同村の事務を取扱つた。同七年の區劃改正に際し新羽村、大熊村は都筑郡の第一小區となり志田村、高田村を併せて第二小區と稱し、一村戸長を改めて正副番組戸長を置き、事務所を會所と呼んだ。同十一年再び戸長制となり、同十六年折本、大熊、新羽、元田、高田の五ヶ村を聯合して戸長一人、筆生數人を置いて事務を處理した。同二十二年の町村制實施に當り

聯合役場を廢し、吉田、新羽、高田の三ヶ村を合して新田村と稱し、今日に至つてゐる。

中川村

本村は、郡の東部に位し、その面積一千餘町歩、横濱本町は南四里にあり、東方六里には東京日本橋ありで交通の便は一時間を出ない。早淵川は東西に流れ、大崎縣道は東南に通じ、小机縣道は南北に通ずる。西端は厚木縣道に接し、耕地は狭少であるが果實園藝に適する。本村副業中の養蠶は明治三十年頃には盛んに飼育せられたが、濕地なるを以て蠶蛆の害極めて多く、漸次衰退し、孟宗竹の適するを發見、その栽培に熱中し、今や養蠶はその痕跡を絶ち、筒栽培勃興して中川筍の名産地を以て稱される。その他米、麥、甘藷、トマト、葱、西瓜等は本村の重要物産である。

神社は郷社杉山神社、村社山田神社、

同杉山神社ほか村社二社、無格社二十一社あり、寺院は正覺寺、大善寺、長徳寺、最乘寺、長泉寺、壽福寺、外に六ヶ寺がある。明治四十二年村内各小字に納稅組合を設け、昭和七年村内行政區八區を區單位の納稅組合に改造、諸稅完納の成績を擧げ、大正元年都筑郡地方改良會より、昭和八年東京稅務監督局長より、同十一年縣知事よりそれぞれ表彰せられたる納稅優良村である。

山内村

當村は東經百九十三度三十三分、北緯三十五度三十四分の間にあり、東は中川村、西は柿生村、南は中里村、北は向丘村に接續し、廣袤東西六・二軒、南北三・三軒、面積一〇・九五方軒を占め、十一區に分れてゐる。

もと荏田、石川の二ヶ村であつて、往時は師岡莊小机領であつたといはれ、明



治七年神奈川縣管轄となり同二十二年四月町村制施行と共に二ヶ村を合併し、更に黒須田村の飛地を加へて

山内村と改め、今日に至つてゐる。戸數約六百、人口約四千、その殆んどは農を營んでゐる。産業團體として農會、農事改良組合、團藝組合、養蠶實行組合、養豚組合、産業組合等があり、主としてこの方面の發展を目安に擧村運動してゐる。

柿生村組合 岡上村組合

本組合村は郡の北部に位し、東北は橘樹郡生田村及び東京府南多摩郡に、西南は東京府南多摩郡鶴川村及び本郡田奈村中里村に、東南は山内村に接し、縣道神奈川日野線は村の西南を走り、厚木調布線は西北部に通じ、小田原急行鐵道沿線にあたり、村の中央に柿生驛がある。東西二里一町、南北一里十九町、面積は柿生村が一方里〇一二、岡上村が〇方里一〇〇である。地勢は丘陵起伏し、耕地その間に點在する。組合役場は柿生村上麻生に置く。

本組合村の舊石高は二千九百石餘であつた。現在は兩村とも、米、麥、蔬菜を主産物とし、殊に蔬菜は横濱、東京方面に出荷して相當の收益を擧げて居り、花卉類またこれに劣らぬものがある。木竹製品、養蠶の副業があり、木材及び薪炭の産出も侮り難い。教育機關には小學校一校あるに過ぎないが、施設見るべきものあり、兒童約八百名、十九學級に分ち、二十二人の教員

が指導に當つてゐる。またこれを扶けて青年團その他社會教化及び教育諸團體の活動あり、實績を收めてゐる。當地は風光の地としても知られ、西には秩父の連山、遠くまた芙蓉峯が目を樂しませる。

中里村

當村は南北に長く、南は新治村の境大字青砥より寺家の北端東京府の境界まで一里二十町、東西二十町にして帶狀をなしてゐる。村の中央を谷本川（鶴見川の上流）が南流し、これを挟んで南北に走る丘陵が二脈あり、また新治村との境界には恩田川があり、この谷本、恩田の兩川は共に當村大字青砥に至つて合して鶴見川となる。主なる農耕地は谷本川流域の諸平地である。廣袤東西二十町、南北一里二十町、面積は一〇六四方里で、戸數八百四十餘戸、人口四千七百餘人、その殆んどが農

業に従事してゐる。

當村は徳川時代に於ては旗本代官の所領であつたが、明治維新の大變革に伴ひ舊來の慣習によつて各村、即ち現時の大字寺家、鐵、黒須田、大場、鴨志田、市ヶ尾、上吉本、下吉本、北八朔、西八朔、青砥、小山の名主、組頭、百姓總代を置いて村政を掌らしめた。同十七年舊十三ヶ村を合併して中里村と稱し、町村制の實施と共に教育、勸業、土木、衛生等幾多の施設は劃期的伸展を見せつゝ、現在に及んでゐる。

田奈村

本村は郡の西部に位し、東は中里村、北は岡上村及び東京府南多摩郡に、南は新治村及び都岡村に境し、西は東京府南多摩郡及び鎌倉郡瀬谷村に接し、東西一里十町、南北二里、面積一方里〇五六である。

長津田、恩田、奈良三大字より成り、

徳川時代にはいづれも旗本の所領であつた。縣道厚木東京線（舊青山往還）は村の南部を東西に貫通し、昔時、東海道の裏街道として、相當交通頻繁であつたが明治維新後、鐵道東海道線の完備により一時寂寥となり、近時横濱鐵道の敷設、長津田驛の設置及び軍事上交通極めて頻繁となり、縣道としては最も主要な道路である。

小學校は一校にして分教場二を有し、補習教育の徹底よく、集合教授により成績をあげてゐる。

神社寺院は首教員の破達せざりし時代に於ては、その數も相當多かつたが、現在では神社としては杉山社、住吉社王子社、外無格社三社、寺院としては徳恩寺、大林寺、松岳院、ほか五ヶ寺をかぞへるに過ぎない。

産物は甘藷、米、麥、里芋、豌豆、柿蠶繭等を主とし、建坪十五坪の共同作業及び建坪四坪の簡易火力乾燥場等の共同設備によつて便益を圖つてゐる。

新治村

當村は郡の中南部に位置し、南は横濱市に隣り、東は川和町、北は中里、田奈の二村に接し、西は都岡村に境する。東西約二里、南北約一里十町にして面積一方里一五を有し、鶴見川に沿ふて開けてゐる。

武藏風土記によれば、村内十二字は徳川時代には神奈川領及び小机領に屬し、當時の住家戸數は五百十九戸であつた。徳川末期に於ては石高四千四百石餘を算した。

昔宗教の盛なりし時代は、神社寺院は相當數に上つたが、現在まで残りしものは神社十社、寺院十五寺六堂のみである。村内民情敦厚にして愛郷の念深く、先覺者の指導と村民の協力とにより頗る盛況を見せてゐる。

經濟更生指定村にして特に産業經濟方面に於ける成績顯著なるものあり、生産

の増加を計るため品種の改良、播種期促進、施設改善、その他技術の改良等を行つて居る。蔬菜栽培は漸次郊外的蔬菜の栽培状態となり、爲めに種類非常に多く共同販賣は市場に比較的近きと自家生産を即賣する農家相当あるため、蔬菜共販は少く、また米麥も自家消費のもの多きため共販なく、たゞ産繭のみが郡乾繭販賣利用組合を通じて廣く賣捌れる。

都岡村

本村は、大字上川井、川井、下川井、今宿、上白根、下白根の六大字より成り面積一方里二分六厘、氣候溫和にして空氣清澄、酷暑といへども九十度を越えること稀に、極寒といへども三十度を下ることはない。

上川井には龜ノ甲山及び道樂園、今宿には畠山重忠の遺跡、下白根には不動ノ瀧等の名所舊跡あり、一日の清遊に杖を曳くものが多い。

小學校は一枚、高等科を併置し、分教場を有す。學級は十七にわかれ、在籍兒童八百六十餘名あり、男女ほど同數である。愛と熱を以て當る教員の指導宜しきを得て、學業成績は頗るよく、諸施設もたよく整つてゐる。青年學校は男女兩部ありて生徒百六十名をかぞへる。

人口の約八割は農業に従事し、六分が商業、三分が工業である。生産は相當多し、殊に農産に於てまき、米、麥、甘藷、蔬菜等は他に移出して好評あり、副業に養鶏を營むものは相當多い。林産も少なからず、薪炭二萬數千圓を筆頭に、特産竹材を以て知られる。工業は殆ど麻眞田のみである。

二俣川村

當村は郡の南部にあり、西は鎌倉郡瀬谷村に、南は同郡中川村に、北は本郡都岡村に、東は横濱市に接し、二俣川、今井、市野澤、小高野田、三文田の五大字

より成り、東西約一里半、南北約一里、面積一方里弱である。住民の約八割は農業者で、横濱市との間には深い經濟的關係が結ばれてゐる。明治二十二年自治制の發布と共に西谷村と組合村をして來たが、昭和二年これに分れて獨立し今日に至つた。萬騎が原は往年の鎌倉街道につづき、畠山重忠の古戰場として知られる。役場は大字二俣川にある。

重要産物として米、麥、柿、蔬菜、茶蠶繭等が擧げ得られ、工業は總額一萬三千圓にて肥料、布製品、木炭、食料品に内譯される。養蠶實行組合十一、蔬菜組合四、農事改良組合一、その他に村農會があり、農業關係團體の改善研究的事業により、當村の産業經濟状態は年々向上しつゝある。

小學校は二俣川、今井、市野澤の三枚あり、兒童總數七百餘名、過去十ヶ年を通じ、出席歩合は九六パーセント五三に一定してゐる。社寺は村社五、無格社七寺院七をかぞへる。

別荘地帯の

三浦郡

三浦三崎にとんと打つ波は
可愛い男の度胸だめし

この三浦半島の全部を占め、軍港横須賀をいだき、且つ葉山御用邸の所在を以て全國的にその名の著れた地方である。黒船來航の浦賀は本郡の首邑をなし、逗子、葉山をはじめ避暑、避寒に適する地多く、都人士の往來頻繁なることはすでに定評がある。

交通は、省線横須賀線、私線湘南電鐵京濱電車、海路東京灣汽船の便に恵まれてゐる。

相模國に屬し、北方は鎌倉郡及び横濱市に接し他は悉く海に面し、房總半島と東西相呼應して東京灣を擁し、西岸は相模灣にのぞんでゐる。

白秋の小唄に――

雨は降る降る城ヶ島の磯に
利休角の雨が降る

とも歌はれる今は燈臺の城ヶ島は、實に郡の南端に位する。

海岸線の出入に富み、良港あり、海運の便ひらけ、夙に漁業が盛大である。郡内は山岳の起伏多く、平地に乏しく、農耕の利は極めて少い。

人口密度は一方籽約七百四十八にのぼり、縣下郡部中の最高位にあり、以下その人文の發達を知ることが出来る。

町 浦賀、葉山、逗子、三崎、長井、大楠

村 南下浦、初聲、武山、北下浦

名勝舊蹟の主なるものに、走水神社(浦賀)、神武寺(逗子)、披露山古戰場(逗子)、頼朝別墅趾(三崎)、城ヶ島燈臺、逗子海水浴場等が知られてゐる。

本郡は天明朝の和銅年中に置かれたもので古代は御浦と記した。これは日本武尊御東征の砌り、この地より乗船あらせ

給ひ上總に渡られしに依り特に御浦と稱したと傳へてゐる。鎌倉時代には矢部庄あり、その以前には三浦一統の居住地として歴代にあらはれた地である。彼の三浦義澄、その子義村等は頼朝時代にあつて極めて有名な武人であつた。徳川時代には浦賀奉行を置き、陸路の箱根と同様主要視された。明治維新後は小田原に屬し、後ち神奈川縣の所轄となり、以て今日に及んだ。

浦賀町

本町が浦川と稱した往古にあつては、人家は僅かに港を圍繞して散在するに過ぎなかつた



が、天正、文録の交より人家増加し、享保五年に浦賀番所が設けられ、江戸入口の諸國の廻船が

すべてこの番所の改めを受けることになつてから、俄然船舶輻輳し、港内は常に賑ひ、對岸を望むを得ざりしといふ當時關東の商都として殷盛を極めた。黒船渡來に長夜の夢を破られて以來、外國通商問題は漸く朝野の問題となり、一轉して騷擾の巷と化し、神奈川條約締結となるなど、我が文化の魁をなした幾多想ひ出の深い町である。

明治維新後神奈川縣治下の管轄となり同十七年聯合戸長役場を設けらるゝに及んで浦賀町宮下外二十ヶ町村聯合戸長役場を置き、同二十二年四月、町村制實施によつて大津、走水、鴨居の各村を合併し、舊來の獨立町村を大字となし、現在の浦賀町を形成するに至つた。

町は三浦半島の東端にあつて東、南、北の三面は東京灣に面し、南北は横須賀市に、西南は平作川を隔て、横須賀市久里濱に連り、東西六・九杆、南北三・九杆で、面積は一四・〇杆である。現在戸數約五千、人口約二萬五千人あり

つて、浦賀船渠株式會社に従業するもの多く、全戸數の五割三分餘は工業で、商業、漁業、農業等これに亞ぐの狀態にある。町役場は大字荒巻にあり、小學校の外に幼稚園、縣立高等女學校があり、海軍に關する官公署が多く置かれてある。現町長は敏腕の聞え高い加藤小兵衛氏である。氏は今、縣町村長會長を兼ね元縣會議員を務めた人である。

葉山町

當町は宮内省御用邸を以て知られ、風光絶佳の地であり、また海水浴場に適し知名人士の別荘を營むものが多い。

郡の西北に位し、地勢平坦ならず、東は横須賀市に接し、南は大楠町に界し、北は逗子町につゞき、西は相模灣に面してゐる。面積一方里一七にして、木古庭、上山口、下山口、一色、堀内、長柄の六大字より成る。町役場、葉山警察署、同巡查駐在所、

葉山郵便局、消防組、葉山尋常高等小學校、同分教場、葉山女學校、葉山託兒所、葉山魚市場、葉山醸造所、葉山病院等の官公衙、學校、會社、病院等があり、産業團體には町農會、町漁業組合、葉山購買會、町養蠶組合、葉山魚商組合、葉山出荷組合、耕地整理葉山組合が組織され産業は隆盛を極め、年生産總額四十餘萬圓をかぞへる。

明治四年戸長役場が置かれ、木古庭村上山口村、下山口村、一色村、堀内村が同一區劃として治められ、同六月長柄村を加へた。明治二十二年町村制實施にあたり、この五ヶ村を合併し、葉山郷なりしを以て葉山村と稱し、自治の制度漸を追つて進み、大正十四年葉山町となり、以て今日に至る。

逗子町

本町は三浦半島の咽喉を扼した氣候溫和、風光明媚な地、東は横須賀市、南は

葉山町北は鎌倉町に接し、西は相模灘の北東



隅なる逗子灣、小坪灣に臨んでゐる。廣袤東西一里餘、南北二十七町餘、面積一・一一一方

地勢は北東隅にある神武寺山を主峰とし、田越盆地をとり圍んでゐるが、盆地の中央を迂回する田越川に沿ふて田園都市が建設され、高樓軒を列ね、一面また蔬菜、園藝等に利用されて風



場役町子逗

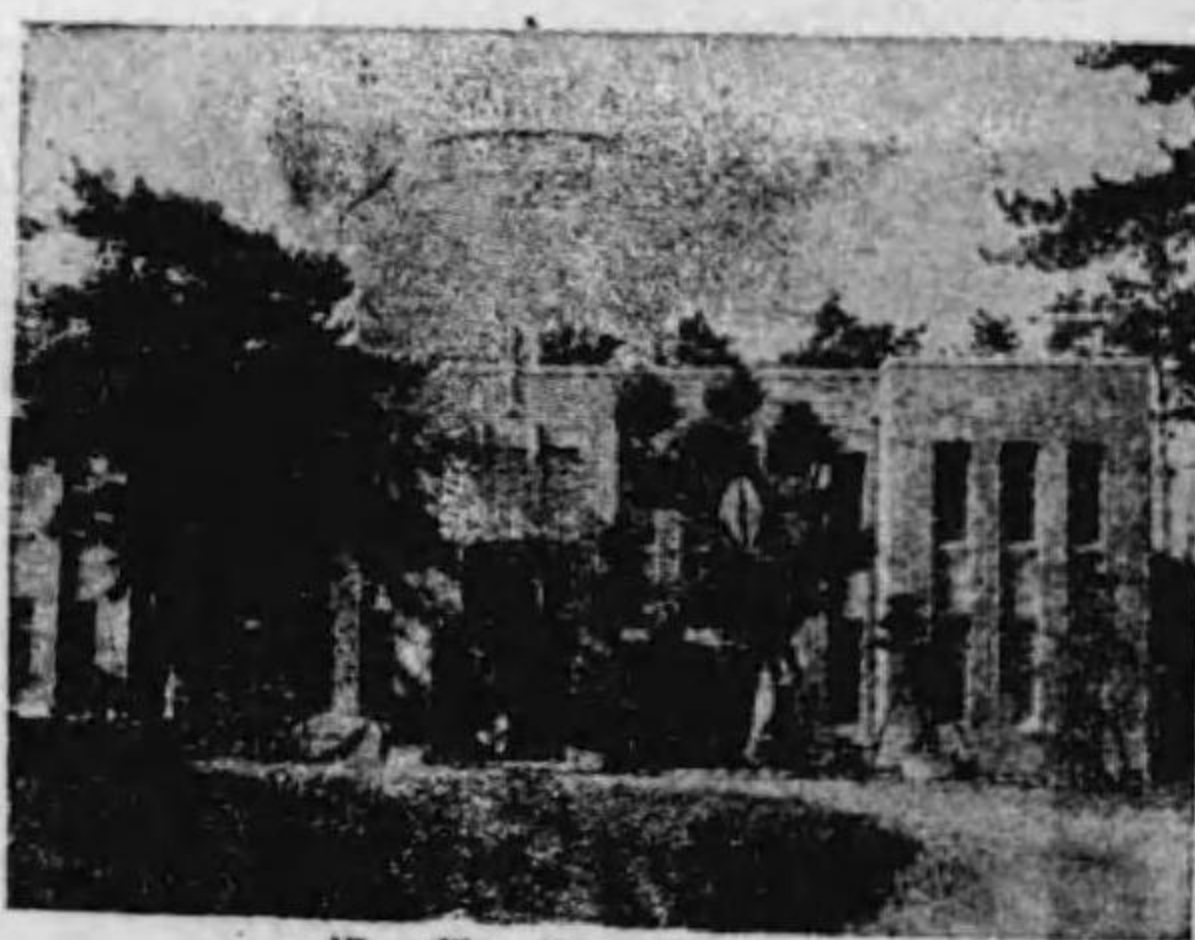
趣を添へ、且つ鮮魚と相俟つて避暑、避暑の客を遇し、三方を圍む神武寺山景の四時衣を更ふ風光に對し、海は名に負ふ逗子灣の眺望を擅にし、天下唯一の海水浴場の矜持を有つてゐる。

現在戸數三千八百餘戸、人口一萬八千四百餘人で商業を主位に水産業農業工業の順にそれゝ、生業を勵んでゐる。本町は北條氏の滅亡と共に徳川氏の直轄となり、大正二年四月、田越村を改めて今の逗子町となつたもので、現町長は伊藤龍雄氏、交通に財政に、教育に衛生に、産業に兵事に、社會事業その他にと完備を告げた整然たる町である。

三崎町

古くから漁業で著はれた三崎町は、三浦半島の南端に位し、海岸線長く、西北に小網代、油壺の二港があり、南に城ヶ島が横はつて三崎港の外壁をなしてゐる。そして中央部は多く畑で、他は丘陵起伏

し、低地に水田が散在し、氣候中和、夏は海風涼を送り、冬は暖風岸を洗つて寒暖共に人體に適してゐる。



場役町崎三

神宮寺を建設した當時、既に土豪を以て割據してゐたといふ。後三浦黨の所領となり足利氏の後永録年間三崎十人衆等の采地となり、更に徳川時代に至つて旗本の采地に屬した。文化八年これを東西二部に分ち、西部を分郷と稱して松平容衆の所領、東部を公料と稱して明治維

新に至るまでは浦賀奉行が所管してゐた。維新後、一時葦山縣の所轄となつたが、次で神奈川縣に移り向ヶ崎、原、東岡、仲ノ町、岡、二町谷の六村を合して六合村とし、城村を三崎に合せて宮城町と稱し、同十二年三崎の小名を日ノ出入船、仲崎、花暮、海南、西野、宮城、西濱の八區域に分ちて三崎町と稱し、同二十二年町村制の實施によつて三崎町、城ヶ島村、六合村、諸磯村、小網代村を合併して三崎町と總稱し、現在に至つてゐる。面積一・六八九平方キロメートル、戸數約二千九百戸、人口約一萬三千七百人、漁業を最とし、商業、農業その他の順によつて、それ／＼生計を營んでゐる。

町は今、第一期の築港工事埋立地の完成を見、續いて第二期工事を計劃し、該工事の完成を了し、漁船の輻輳股賑を極めつゝあるが、眞に日本の一大漁港としての面目を一新し、將來への輝かしい發展を約束づけられてゐる。

長井町

天惠豊かにして寶藏無盡の海に名を得た長井町は、南々東の初聞村、北々東の武山村に續き、他の三方はすべて海である。北は小田和灣を隔て、指呼の間に西浦村佐島を望み、西は相模灣を隔て、秀嶺富士を仰ぎ、荒崎を廻れば南洋々たる海の彼方に永劫の御神火渺として霞み、近く初聲村黒崎、三崎町小網代、諸磯の岬が双眸のうちに入つて来る。方僅かに一〇・六五平方キロメートルの小區域ながら、三浦層に重なる宮田介層、ローム層を以て構成された小丘、海蝕の臺地、小岬處々に突出して斷崖をなし、小谷丘を穿ちて變化の妙を極め、全地これ緑衣、風光これ明媚、春は丘に雲雀の聲を聞き、秋は清朗の舟唄に富士の美装を望む、民家は丘下に櫛比して環狀に郷土を守つてゐる。現在戸數は一千戸、人口六千二百餘人で漁業を第一とし農、商これに亞いでゐる。

大楠町

本町は三浦半島の西南に位し、東北は武山村と横須賀市とに接し、西北は葉山

町につゞき、相模灣を東西に控へてゐる。東北に山脈を負つてゐるが、海岸に近くなるに従つて漸次平坦となり、起伏する小丘陵の間に平地が拓け、耕地が見られる。東北にある大楠山は半島第一の高峯で、海拔二四二米、この山地より發する川には向坂川、岩川、宮川、沼坪川などがあつて、何れも西流して相模灣に注いでゐる。東西四・五八キロ、南北四・二五キロの廣袤を有し、現在戸數一千餘戸、人口六千五百餘人で、農業第一位を占め、漁業がこれに亞いでゐる。

もと三浦氏累代の領地、同氏滅亡後北條氏の有に歸し、更に徳川氏の入國と同時にその領となつたもので、王政復古維新の六月、葦山縣廳に屬したが、後ち神奈川縣の管下となり、明治二十二年自治政の行はるゝに及んで從來の秋谷、蘆名佐島、長坂、萩野の五ヶ村を合一して中西浦村と名づけ、同四十四年七月一日西浦村と改稱し、更に昭和十年七月一日今の大楠町と改めて今日に及んでゐる。

北下浦村

小學校の外に町立青年學校があり、社會教育としては在郷軍人分會、男子青年團、女子青年團の設けがある。また各種の團體組合には町農會、衛生、水道、信用、漁業、園藝蔬菜、農事改良等の組合が設けられて、それ／＼向上へと邁進してゐる。なほ町役場は大字蘆名に置かれてゐる。

當村は謂ゆる三浦大根、三浦馬鈴薯の主産地として知られてゐるもので、郡の東南にあつて金田灣に面し、面積〇・七方里、東西一里餘町、南北二十餘町、野比、長澤、津久井の三大字を包容してゐる。西北に武山を負ひ、東南は海岸に向つて傾斜し、地勢は山間、海岸、丘陵の三部に分れ、東及び北久里濱に接する地方と、北西武山村と境する部分は山間部と稱すべく、西方初聲村及び南下浦村に接する部分は即ち丘陵部で、遠く三崎に

南下浦村

至るまで一帯高臺をなしてゐる。野比、堂前、川尻の三川があり、縣道は海岸に沿つて横須賀市に走つてゐる。半島の中央に聳える武山は村の西北境を限り、その一部は蜿蜒として東に走り千駄崎をなして東京灣口を扼し、軍事上樞要の天險をなしてゐる。耕地の主なるものは前記三川の流域を占め、水田その大部にをり、畑が少くない。地味は一般に肥沃、穀物、蔬菜などの栽培に好適してゐる。現在戸數は七百餘あつて、そのうちの五百餘戸が農業に従事し、人口四千餘人を包容してゐる。高等小學校の外に村立青年學校があり、各種團體として赤十字社、愛國婦人會、青年團(男女)、在郷軍人分會、農會などの設けがあり、また種種の組合も新設されて共存共榮の發展へと邁進してゐる。

本村は三浦半島の東南端、東京灣の咽喉部に位し、避暑避寒の好適地をなす。村内一般に高臺性の山脈あり、東部方面に緩傾斜をなし、西は長井町、初聲村、三崎町と境を交へ、北は北下浦村に接し、東西一里九町、南北一里三十町あり、行政區を金田、上宮田、菊名、松輪、昆沙門の五大字に分ち、面積一三方軒、村役場、尋常高等小學校、村社五、寺院十四等がある。

曩に農山村の經濟更生が企劃されるや昭和七年更生指定村となり、その施設經營に極めて見るべきもの多く、實績顯著にして他の範と稱された。就中、農産物に於て大根の栽培及び共同販賣に驚異的成績を示し、村内十の出荷組合は一絲亂れぬ完全な統制下に活躍をつづけ、更生に拍車をかけたのである。一方、昭和九年三月、南下浦負債整理組合が創立され、全村民に對し勤儉貯蓄の美風を涵養し、毎月各戸に少額の貯蓄をなさしめ、將來に備へしむる等、他に範とするに足

るものがある。

初聲村

當村は、北は武山村、南は三崎町に連り、東は南下浦村に隣り、西は茫洋たる相模灣に面する。面積一〇方軒を有し入江新田、三戸、下宮田、和田、高砂の五行政區より成り、模須賀驛より三里半、返子驛より四里、何れも自動車の便がある。村内に村役場、尋常高等小學校、上諏訪神社ほか三社、寺院十ヶ寺等があり煙草耕作組合、出荷組合等が組織される。

當村に於ては、近年産業振興を策してその躍進物凄く、殊に蔬菜園藝に於ては斷然他を壓倒し、すでに十箇の出荷組合が設立され、いづれも成績良好である。また昭和御大典記念事業として五人組制度による納稅組合を組織し、これまた所期以上の優秀なる成績を收めて、昭和七年に縣知事より一等表彰旗及び獎勵金を

交附された。またこれ等産業の發達振興と相俟つて村民の精神方面に於ても、國體觀念の明徴、敬神思想の普及、國家主義精神の強調等により作興の途が講ぜられ、各種の社會奉仕事業は村當局の援助を受けてますます旺盛な活動を展開してゐる。

武山村

本村は、西は相模灣にのぞみ、他の三面は大楠町、横須賀市、北下浦村及び初聲村と境してゐる。横須賀驛より一里半毎日自動車の往復があつて交通の便よく武山、須郷谷、林、大和田の四大字に區劃され、面積九方軒ばかり、村内には村役場、尋常高等小學校がある。

村風淳朴にして各種團體の協力和衷を得て愛郷心の發露ともいふべき村政の圓滿なる發達を見せてゐる。協同一致の精神は誠に他にその例多からず、天物感謝の念の深きことも一特色をなし、勤勞を

尊び、分度を知り、自治に對する理解もなかく深い。

産業中、蔬菜は主たるものにして、五箇の出荷組合を有し、共同利益の増大に努力してゐる。また最近農會の指導獎勵により、柿の産額著るしく増加し、しかも將來の發展を有望視されてゐる。

海水浴場、武山、鑛泉等は年々設備を改善して遊客の絶讚を受け、觀光客は年毎にその數を加へてゐる。今、村長は鈴木三郎氏が任期中である。

遊覽地の鎌倉郡

本郡は、三浦半島の西方頸部に位し、東は横濱市及び都筑郡並に東京府南多摩郡につゞき、西は高座郡に接し、南は一部が三浦郡に連り、一半が相模灣を望んでゐる。面積一五一方軒あり、次の町村

より成る。

町 戸塚、大船、鎌倉、片瀬、腰越
村 中川、川上、豊田、本郷、深澤、村岡、大正、中和田、瀬谷

當地方一帯は氣候溫和を極め、避暑避寒に適し、源氏創業の古蹟たる鎌倉をはじめ江の島、片瀬など、名勝、舊蹟、遊覽地が多く、湘南地方を代表するところである。

抑も鎌倉郡が置かれたのは、人皇第四十三代元明天皇の和銅六年のことである。王朝の末期から平安朝の中葉に至るまで、この地方領有の支配者は明かでないが、平氏の盛時から鎌倉幕府の當初までは、到るところに莊園が置かれた。頼朝が鎌倉に根據を定めるや、當地は日本の政治の中心地となり、郡内に山内庄、吉田庄のほかは小林郷、大倉郷、由比郷、村岡郷、岩瀬郷、倉田郷、牛部郷、長尾郷等があつて、いづれも有功將士の采邑となり、山谷を夷けて平地となし、邑宅樓臺の壯觀を極め、今に至るも鎌倉

の谷七郷としてこの時代の榮華のさまを想見せしめる寺がある。

しかし北條高時滅亡後は、政治の中心が他に移つて、武家政治の濫觴たりし地もやうやく世人から疎んぜられるに至り上杉管領、北條早雲執政を経て、天正十八年、一國すべて徳川氏の領國となり、この地方は幕府の直轄（旗本知行）または諸侯の領地に屬し、明治維新に至つて小田原縣の支配にうつり、次で神奈川県に所管となり、東京横濱の發展と比例し遊覽地帯として年毎に繁榮を來し、今や都人士の憧れの地となつた。

産業方面を見ると、本郡は蠶絲の産が極めて多く、その産額も高座、足柄上の兩郡に次で縣下第三位にあり、更に畜産は横濱に次で縣下第二位にある。生産總額は約六百萬圓である。

戸塚町

本町は、郡制當時郡役所が置かれた郡

内の主邑で、更に往時に溯れば東海道五十三次中の驛次として行き還りの旅人に殷盛を呈したところである。鐵道の開通と郡制の廢止とにより、稍や衰微して昔日の佛を失つたとはいへ、最近は住宅地としての設備と、避暑避寒に對し諸施設及び遊覽客が急激に増加し、面積六方呎に對して戸數千四百戸を越え、一方呎につき千五百人の人口密度を有し、鎌倉、片瀬の兩町に次で、人口の稠密なること郡下第三位である。

産物の主なるものは米及び生絲で、町役場、戸塚警察署、區裁判所出張所、尋常高等小學校、戸塚實科高等女學校、その他銀行、會社、商店等多數あり、殊に教育の充實は他に誇るに足るものあり、郷土教育の徹底並に環境の教育化への留意は不斷に行はれてゐる。

當地は今後更に小市民の住宅地として發展を約束されて居り、町當局の諸事業もこの文化的向上の線に沿ふて計畫實施

されてゐる。なほ行政区は戸塚、元町、矢部、吉田の四大字より成る。

鎌倉町

鎌倉なる地名は昔、大職冠鎌足がまだ鎌子と稱してゐた頃、宿願のことがあつて鹿島參詣の途、この由比の里に宿し、靈夢によつて年來所持の鎌を、大藏の松ヶ岡、即ち今の鶴ヶ岡に埋めたことに起因するといはれてゐる。

聖武天皇の頃までは染屋太郎大夫時忠こゝに住し、東八ヶ國の總追捕使として東夷に備へ、治承四年、源頼朝、府を開いて以來、世々頼朝の所管に屬し、徳川氏の代に至つて代官がこれを管してゐた徳川氏政治の始めには十二所、淨明寺、二階堂、西御門、雪ノ下、扇ヶ谷、小町大町、亂橋材木座、長谷、坂ノ下、極樂寺の十二ヶ村あつたが、のちこれを東鎌倉村、西鎌倉村の二ヶ村に合併し、明治二十七年四月二日東西の二ヶ村を合併して

今の鎌倉町となし、現在に及んでゐる。

東、西、北の三方は山で圍まれ、南は海に臨み、海岸には砂丘が連つてゐる。廣袤東西約一里三十町、南北約一里十五町、面積一方里餘、戸數六千三百戸、人口三萬四百、商を第一位に工業、農業その他に従事してゐる。

教育方面にあつては小學校は尋常校一高等併置校二校、町立實科高女、町立青年學校、縣立師範學校附屬小學校、私立鎌倉高女、ハリス鎌倉幼稚園、少年團、町立鎌倉圖書館、町立鎌倉國寶館などの設けがあつて、文化の花が咲くと共に、町營住宅地、財團法人鎌倉保育園、在郷軍人分會、青年團、婦人會、女子青年會等社會事業方面に於ける各種團體も駁々たる發展を見せてゐる。なほ町役場は大文字小町にあり、電話一〇一・四二二番である。

腰越町

町長は川崎喜太郎氏で、昭和十年末就任職身的に町治に盡瘁してゐる。

大船町

當町は、いはゆる往時の鎌倉の一部をなせし地で、もと小坂玉繩の組合村であつたが、明治二十一年鐵道東海道線が開通して、小坂村大船に停車場が設けられ

次で横須賀線の分岐點となつてから著しい發展を示したもので、今や大船驛を通過する列車の數は、日に百回に達し、他方湘南地方の避暑避寒及び遊覽に對する交通至便を極め、溫和なる氣候と清新なる空氣と相俟つて住宅地としての建設を促進され、組合村の名も大船町と改められるに至つた。誠に湘南の樂天地、夏の東京ともいふべく、京濱在住者遊樂の絶好の場所であり、遊覽に關する諸施設も萬端滞りなく整つてゐる。

面積一四方呎にして、人口密度は一方呎二千餘人の割合となり、郡下第一の稠

密さであり、更に今後ますます發展の向上線を辿つてゐる。町内には町役場、尋常高等小學校二、横濱區裁判所出張所、農事試験場等があり、松竹映畫會社の大船スタジオや大船田園都市があり、近年こゝから東京への通勤者も多くなつた。常樂寺には北條泰時及び木曾義仲の嫡子冠者義高の墓がある。

なほ鎌倉ハムの製造所がこの地に存することは注目に價する。

片瀬町

本町は縣の南部東經一三九度三〇分、北緯三五度一九分、湘南の中央に位し片瀬、江ノ島の二大字から成つてゐる。東は腰越町に、北西は村岡村に、西は境川を限界として高座郡藤澤町に隣し、南は渺茫たる相模灘に面し、風光明媚を以て天下に知らるゝ江ノ島は繪の如く浮んでゐる。

腰越町に接するあたり一帯は丘陵性の

本町地名の起りは「江之島縁起」によると、昔湖水に惡童が棲み、往々邑里に出て幼兒を噉ふことがあつたので、里人は怖れてその地をすて、悉く他に移住してしまつた。故に子が死んで土地を越えて來たところから、子死越といふのであらと傳へられてゐる。

本町は郡の南部にあつて腰越村、津村が合併して腰越津村と稱したが、昭和五年一月一日、町制を施行して腰越町と改稱、今日に至つてゐる。

地勢は南部は概ね相模灣に面する海濱で、小動岬その中央に突出し、川口村境及び鎌倉町境に向ひ砂丘が連つてゐる。西半部は海岸近くに低地があり、人口稠密して商業街をなし、神戸川の流域は土地肥沃、農作地に適し、北部深澤村境の山林丘陵地帯は住宅地として急激な發展を遂げ、將來貴顯紳商等の別荘地域と見られてゐる。戸數一千餘戸、人口五千餘人、交通機關として江ノ島電鐵會社線、日本自動車會社線などの便宜がある。現

山地をなし、北に駒立、中央に赤山、海岸に近く龍口の三山が並び連つて恰も一つの山脈を形づくり、土地は西南方に傾斜してゐる。また片瀬川は町の西北を北から南に向つて流れ、相模灣に注いでゐるが、潮の干満は川を溯つて遠く二十餘町に及んでゐる、以て土地の平坦なることが知られる。

現在戸数は一千百餘戸、人口五千七百餘人で、商業を主なるものとなして營んでゐる。

中川村

當村は郡の西北部に偏在して阿久和、岡津、上矢部、名瀬、秋葉の五大區より成つてゐる。そして東は川上村、西は瀬谷村に隣り、南は中和田村及び戸塚町に隣り、北は都筑郡の二俣川村に接してゐる。

地勢は所謂關東平野の一部で、西方に阿夫利、箱根、富士、丹澤の諸山を望み

土地一般に丘陵起伏して平地が少ない。阿久和川は本村北隅、三ツ境の低地から發し、流れて南に向ひ、東に折れ、當村坂本に於て柏尾川に合し、灌溉等に著大の利便を與へてゐる。

當村の生産物としては米を首位に小麥、大麥、甘藷、花百合、西瓜などを主なるものとしてゐる。現在戸数は六百七十餘戸、人口約四千三百人、尋常高等小學校の外に青年學校の設けがある。

川上村

本村は武藏國境に位し、上柏尾、下柏尾、平戸、前山田、後山田、品濃、舞岡市場の八大字より成り、面積一一方軒、戸數五百戸弱である。米、麥、繭の産多く、戸塚驛へは半里にして達し、その間自動車の便あり、道路は舊東海道が村の中央を横断してゐる。

村内に村役場、尋常高等小學校、産業組合等がある。

豊田村

當村は郡の中央にあつて、稍や東に偏し、東は川上村に接し、東南に本郷村、西南は大正村と大船町とに連なり、北西は柏尾川を以て戸塚町と境してゐる。

地勢は東南に高く西南に低く、高地は山嶺丘陵起伏蜿蜒し、低部は概ね平坦で田疇茅屋參差交錯してゐる。柏尾川は北から南に貫流し、沿岸一帯は水田で、畑地は僅かにその一部に過ぎない、南端は獨川流域に沿ふて一の耕地をなし、縣道大船戸塚線は大正村との村境を通過し、當村の西南部大字田谷、長尾臺を経て大船驛に至つてゐる。

廣袤東西二十五町餘、南北一里十町餘面積〇・四四九方里を占め上倉田、下倉田、長沼、飯島、金井、田谷、長尾臺の各大字に分れてゐる。

現在戸數は四百三十戸餘、その人口約三千、農業を主なる生計となし、豊田村

深澤村

農會、在郷軍人分會、青年團、處女會があり、また豊田、長尾の産業組合その他の諸組合を設けて農村豊田の發展向上へと拍車をかけてゐる。

當村は梶原、寺分、山崎、上町屋、手廣、笛田、常盤の七大字より成り、東は大佛坂を以て鎌倉町に接し、西は柏尾川を隔て、村岡村に對し、東北は小坂村に隣り、そして南部一帯は腰越町に續き、藤澤町へ約三十二町、鎌倉町長谷へ十八町、大船停車場へ三十町を距てゐる。

本村は桂、鍛冶ヶ谷、中野、上野、公田、笠間、小菅ヶ池の七大字より成り、面積一四方軒にして戸數約九百四十戸をかぞへ、産物の主なるものは米、繭、蔬菜である。

交通は大船驛に十五町にて達し、役場尋常高等小學校があり、學校では精神教育により強固なる意志の鍊成につとめ、着々効果を擧げてゐる。圓宗寺境内には男瀧、女瀧の二瀑あり、勝景地として名高い。

地勢は東北は一般に高く、西南は低くして平地が多く、田畑もまた、この方面に開けてゐる。山岳には山崎部落に天神山、笛田部落を東南に走れる大塚山、手廣部落の南部に連なる飯盛山があり、川には當村の西部村岡村、玉繩村を境する柏尾川が常盤部落の東方より發して笛田部落の北部を流れて柏尾川に注入する大塚川、その他化粧坂を發して梶原部落の南方を流る、梶原川その外山崎寺分を貫流する細流がある。

當村の面積廣袤は東西約三十一町、南

村岡村

北約卅七町、面積凡そ〇・五〇方里で、村民の殆んどが農業を營んでゐる。

本村は、有史以前に於て人類の原始的生活を營める遺跡甚だ多く、青史にあらはれてからは約一千年前、關東武士の起りよりはじまり、八平氏の祖村岡良文公の居城地として威を揮つたことは世人の知る通りである。戰國時代は小田原北條氏の治下にあり、明治維新後數度の變遷を経て村岡村となつた。面積約四方軒である。昭和五年に既往二十ヶ年の久しきに亘つて國稅完納の美績を擧げたるにより、表彰を受けた。農會、産業組合の活動踏るべきもの多く、各種團體の聯絡協調の實績また顯著である。

大正村

當村は、往古山内庄村岡郷及び長尾郷

と稱し、徳川時代には旗本采邑の地であつた。明治二十二年町村制實施と共に、富士見村、俣野村、長尾村の三ヶ村に岐れ、三村組合村を形成したが、大正四年に合併して大正村と改稱した。行政区を原宿、深谷、汲澤、東俣野、上俣野、山谷新田、今井、田谷、小雀、長屋臺に分つてゐる。面積一四方軒、米、麥、蕎麥を産し、最近は副業として繩の製造が盛んになり、産額も相當額に達してゐる。小學校では、各種の作業教育により勤勞愛好、創作能力の進展を期してゐると共に、親土、汗愛、犠牲奉仕の精神を涵養し以て健實なる農民を養成すべく努めてゐる。補習教育たる青年學校に於ても質實剛健、勤儉力行の堅實なる農村公民を養成しつゝあり、趣味多き教授をなし生徒はいづれも研究心が旺盛である。なほ村内には長泉寺の古刹あり、田次の穴は同寺内にあり、曲折せる洞穴内の周壁は佛體花鳥の精巧なる彫刻に充たされてゐる。

中和田村

本村は、和泉、中田、上飯田、下飯田の四大字を以て行政区劃となし、面積一七方軒、戸數八百三十戸をかぞへ、産物は米、麥、蕎麥の農産が大部分を占める。食料作物の増殖及び品質の改良をはかり近年増加せる金肥の使用を減減せしむる目的を以て自給肥料の増産が行はれつゝあり、殊に養豚その他の有畜農業による既肥堆肥の増産は成績良好である。また經營に關する改善も種々實行され、過剩勞力利用を基調とした農業組織が多角化の傾向をとつてゐることは注目すべき現象であり、勤勞主義が徹底し、勞働能率増進の工夫は各個に於て研究がつけられてゐる。副業も諸方面に向つて開拓され産業經濟の躍進は大いに睹るべきものがあり、湘南の理想的農村たるべく全村民が一致協力してゐる姿は實に美ましくも美しい光景である。

瀬谷村

省線戸塚驛、神中鐵道瀬谷驛より各一里にして達し、その間自動車の便あり、今後は農村としてのみならず、工業都市として、且つ一方に田園都市として發展するであらうことは明かである。當村は弘安五年の九月、日蓮上人が身延山より武藏池上へ至るの途次、この地に止宿したと傳へられ、その因縁から妙光寺がある。村は郡の北端、突角のところにあつて東は都筑郡、西は高座郡に接し、戸數六百餘戸、人口四千餘人を數へてゐる。役場は大字澁谷にあり、神中線澁谷驛があつて交通等に便してゐる。

蠶業の地 高座郡

本郡は相模國の稍や中央部に位し、東

は境川を隔て、鎌倉郡に對し、北は東京府南多摩郡に連り、西は相模川を挟んで中、愛甲、津久井の三郡を望み、南は澁漣相模灣の海波を瞰下する。南北に細く、郡内は一般に平坦であり北方には相模原の荒蕪地がある。到るところ明媚なる風景と新鮮なる空氣とを有し、殊に海岸地方は、保養として有名である。面積一九方里三九、全郡を區劃して次の三町十六村とする。

町 藤澤、茅ヶ崎、上溝
村 寒川、小出、御所見、有馬、海老名、座間、新磯、麻溝、田名、大澤、相原、大野、大和、綾瀬、澁谷、六

産業の筆頭は、何といつても農業で、年額四百五十餘萬圓に上り、縣下郡市中の第二位を占める。しかも養蠶業は、その地質上最もよく適し、郡内所到所に行はれ、農家副業といふよりは、むしろ本業といつた方がいゝくらゐで、住民經濟の重要財源をなし、産額も縣下第一位で

ある。畜産は約六十萬圓で、將來を有望視されてゐる。水産に於ては、海岸地と相模川を有するが、海岸は砂地のため漁業に適せず、年産僅か十數萬圓、足柄下郡の約二十分の一に過ぎない。工業は、製絲及び機業が大部分で、共に養蠶事業の隆盛につれて勃興したもの、しかも今後ますます發展の餘地あるは悦ぶべき現象である。

縣下交通機關の多くは、本郡内を通過するを以て、道路、鐵道による交通は頗る便利を極める。郡の南部を國道が東西に走り、本郡主邑たる藤澤町と茅ヶ崎町をつらね、この二ヶ町を發したる數條の縣道は北上して郡内諸町村に通じてゐる。縣道の多くは自動車を通ずる。鐵道は、東海道線を筆頭に、小田原急行電鐵、神中鐵道、横濱線があり、その他交通要路として相模川の下流舟楫がある。

因に本郡地方は以前すでにコロポックルなる民族の居住したところで、高座の字のはじめて史に見えたのは延喜式であ

り、先是、書紀には高倉郡と出てゐる。大化改新後、現海老名村に國分寺が建立され、當時相州一國の中心地であつた。

藤澤町

本町は郡の東南端、縣の中央南部に位し、東は鎌倉郡の片瀬町、村岡、大正の一町二ヶ村に、北は六會村、西は茅ヶ崎町、小田村に隣接し、南は相模灣に面してゐる。

地勢は西北部及び東部は丘陵圍繞し、その他は平坦。國道は町の中央を東西に横斷して厚木、岡田、町田、大船、鎌倉江ノ島、辻堂の各府縣道は本町を起點として縣下の各重要市町村に通じてゐる。

本町はもと高座郡藤澤驛大久保町、坂戸町と鎌倉郡藤澤驛大鋸町、西富町とを總稱したものであつたが、明治二十二年町村制施行と共に大久保坂戸の兩町合して高座郡藤澤大坂町となり、大鋸、西富の兩町合して鎌倉郡藤澤大富町となり、

また大庭、稻荷、羽鳥、辻堂の各村合して明治村となり、後同四十二年十月一日、鎌倉郡藤澤大富町は高座郡に編入されて藤澤大坂町に合併し、越えて同四十四年四月一日、藤澤大坂町、明治村、鶴沼村が合して今の藤澤町をなしたのである。面積東西五・六軒、南北七・〇軒で戸数六千餘戸、人口三萬餘人を數へ、商業を第一となし、農業、工業、その他の順で生計を營んでゐる。

茅ヶ崎町

當町は、郡の西南隅——相模川沿岸の地を占め、湘南の勝地として、近年、その名頃に著れる。全町概ね平坦、東は藤澤町、北は小出、寒川二村につゞき、南は相模灣に濱み、郡下藤澤に次ぐ名邑である。茅ヶ崎、室田、赤羽根、甘沼、高田、香川、菱沼ほか十二大字にわかれ、大字茅ヶ崎が行政中心地で、町役場、郵便局、その他町の重要機關はこゝにあつ

まつてゐる。

教育の發展は頗る健實且つ顯著なるものあり、學校の施設改善、教職員の素質向上など著々成績を擧げて居り、最近は中等教育の普及發達も大に見るべきところがある。青年學校あり、これと協力して青年團や在郷軍人分會の活動目ざましく、頗る活氣を呈してゐる。

古來漁村として名目を保つて來たところも今は半農半商の土地となり、農事方面に於ては、町當局の指導よろしきを得て、非常な進歩を示しつゝあり、米、麥、甘藷の主要産物はもとより、蔬菜園藝全般に互つて、縣内屈指の成績を擧げてゐる。また相模川から産する砂利は本町特産の一つである。

茅ヶ崎八景、柳島、烏帽子岩、海水浴場等の名勝がある。

上溝町

本町は、郡の北部に位し、東は大野村

西は田名村、南は麻溝村、北は大津村に接し、地勢概して平坦、町内には警察署横濱區裁判所出張所、郵便局等の重要機關あり、本郡北部の中心地である。實科高女があつて女子中等教育の普及發達を促すところ甚大である。小學校は一校、これに附隨して青年學校が設けられ、また大正五年より青年團の社會奉仕事業として早起、鐘撞きの勵行が現在まで繼續し、昭和九年の「時の記念日」には日本全國に紹介され表彰を受けた。住民は多く農を業とし、近來、副業に養蠶が行はれ、米、麥、蕎麥を以て主産物とする。

寒川村

本村は、茅ヶ崎町の北方一里の地にあり、相模一の宮たる國幣中社寒川神社の鎮座するところ、東は小出、御所見の兩村に接し、西は相模川を境として中郡に對ひ、北は有馬村と境する。

相模川支流は村内を貫流し、その沿岸及び相模川に面する地方は平地展開して田圃よく拓け、各種産業また盛んで、本村發展の原素は、全くこゝにあるといへよう。

全村を區分して宮山、一の宮、中瀬ほか六大字とし、村役場を大字宮山に置く主産物は米、麥、蕎麥にして、最近は農閑期を利用せる苗の栽培が隆盛に赴き、年産約五萬圓に達してゐる。

小出村

當村は昔は「渭堤」の郷と稱した。明治十七年堤村外四ヶ村、即ち芹澤、行谷下寺尾、遠藤を合併して小出村と改稱、今日に至つてゐる。村役場は今、芹澤に設けてある。

村は茅ヶ崎町へ約一里、厚木町へ二里、相模鐵道寒川驛へも約一里あつて、自動車の便が自由である。戸數六百餘戸、人口四千餘人、麥、小豆、粟、蕎麥、玉蜀

黍、甘藷、馬鈴薯、甘藷切干などを主たる産物となしてゐる。

御所見村

本村は郡の南部に位置し、東は六會村南は小出村、北西は綾瀬、有馬、寒川の三ヶ村に接續してゐる。東西最長一里十數町、南北最長一里強、面積一平方里、用田、葛原、菖蒲澤、打戻、瀬郷、宮原の六大字に分れてゐる。

地勢は概ね平坦、海拔最高四二米、最低七米である。東北部は打戻東側より葛原、蒲澤、葛原、用田、北部稍や高く、畑地多く、僅かに起伏するところに山林と水田とが交錯してゐる。そして西南は用田南部より宮原、瀬郷、打戻、西側は低平にして畑多く、人家點在し、農耕に便である。南は小出川村界をなし、西端に目久尻川があり、その流域は悉く水田で、地味は稍や肥えてゐる。交通としては三線の縣道があり、何れ

も乗合自動車の便があつて、物資の移出入は頗る頻繁である。

有馬村

當村は、郡の中央より稍や西南に位し北は海老名村、東は綾瀬、御所見の兩村南は寒川村に接し、西は相模川を越えて愛甲、中の二郡を望む。

往時はコロボツクル人種の居住せしところといはれ、村内諸處よりその遺物が發見される。明治廿二年町村制施行に際し、思馬郷の馬と、有鹿郷の有を取つて有馬と稱した。役場は字中河内に置く。住民は多く農耕の業に従ひ、蕎麥、米、麥、甘藷、里芋、大根、果實を産出し、また一致團結の美風あり、在郷軍人分會及び男女青年團の活躍目ざましきものがある。

海老名村

本村は郡の中部に在つて相模川左岸の沃野を占據し、相模野の臺地にひろがり田圃は遠くに連つてゐる。康平の頃、海老名郷園と呼ばれ、海老名、一色氏滅びて上杉氏の屬領となり、北條氏の分國となつて、更に徳川氏の手へ歸した。明治維新後、神奈川縣の管轄に移り、同十一年高座郡の所屬となり、同十七年戸長役場を廢して國分、大谷、中新田、河原口上郷、下今泉、上今泉、柏ヶ谷、望地の九ヶ村聯合戸長役場を置き、町村制施行と共に合併して舊稱海老名村と名づけて今日に至つてゐる。

面積八八方里、村役場は國分であり、七線の縣道には何れも乗合自動車が行き相模鐵道、神中鐵道、小田原急行鐵道が布かれ、八つの停車場と國分寺の所在地とで有名な村となつてゐる。戸數一千百餘、人口六千餘人を占めてゐる。

座間村

當村は郡の中央に位し、小田急沿線の地を占め、本郡主邑の一であり、昭和十二年陸軍士官學校が移轉して來てから全國にその名を知られるに至つたところである。座間、座間入谷、新田宿、四ッ谷栗原の部落より成り、續日本紀に相模國夷參驛とあつて、往昔より要驛たりし地である。

村民は農を主とし、近時、養蠶業を副業に營むもの多く、漸次改良を加へられて、村民經濟の重要資源とされてゐる。その他主なる産物は米、麥、甘藷、里芋生絲等で、いづれも村内の需要を充たすと共に他都市に出荷される。

新磯村

本村はその昔、武田信玄南下の際に通過したところといひ傳へられてゐる。村は厚木町の北方、相模川の東岸、相模原の西方に位置して磯邊、新戸の二大字に分れてゐる。

現在戸數は五百餘戸、人口は三千餘人を占めた農村で麥、小豆、粟等の外に甘藷、馬鈴薯も産し、また養蠶も行はれてゐる。

社寺には村社白山姫神社、同八幡宮、常福寺、勝源、長松、能徳寺等がある。

麻溝村

明治二十二年の町村制施行に際して當麻、下溝二ヶ村合併、麻溝村と改稱して今に至つてゐる。當村は郡の西北部に位し、東に大野村、西に愛甲郡依知村、南



新磯村、北落村、北合に上溝村町が、長り東西一里餘

町、南北約二十六町に跨がつてゐる。

地勢は東北に相模平原を控へ、相模横山前面に連り、西南相模川の清流を隔て

て遠く丹澤、箱根、足柄の連峰を一眸に收めてゐる。縣道が二線あり、一は村の西北部を東北へ、他は中央部を南北に縦貫してゐる。

現戸數は五百六十餘戸、約四千の人口を擁し、農を専業とするもの約四百戸で發達たる農村風景を描出してゐる。農會産業組合をはじめその他副業組合等が設けられ、共存共榮へと精進してゐる。現村長は人望家の落合治三郎氏である。

田名村

本村はもと鹽田郷に屬してゐたもので郡の北部に位置を占め、愛甲郡と津久井郡との交會野をなしてゐる。そして東は上溝町に接續し、西に馬入川が滾々と流れてゐる。

今、戸數七百五十餘戸、人口約五千人、麥、小豆、粟、甘藷、馬鈴薯等を主なる物産として産出してゐる。

大澤村

當村は昔は座間郷に屬し、粟飯原四ヶ村の一つで、明治維新後大島、上九澤、下九澤を併合して大澤村と改稱、今日に及んでゐる。村は郡の最北端にあつて、東は上溝町、西は川尻、湘南の兩村に、南は田名村、北は相原村に接してゐる。土地は肥えてはゐないが、概ね作物の生育に適し、とりわけ小麥、甘藷は良質のものを出産する。そして當村生産品の尤なるものは繭であるだけに、耕地の殆んどは桑樹で蔽はれてゐる。

現在の戸數は約七百戸、人口は四千五百人を數へてゐる。

相原村

本村は縣北部の中央、本郡の最北部に位置し、東に大野村、西に津久井郡川尻村あり、南は大澤村、上溝町に隣り、北



相原村役場と上井村長

適、近來他市町村より來住するものいよ多きを加へてゐる。東西は約一里三十町、南北約二十町、現在戸數九百弱、人口五千餘、農を専業となすもの四百餘

は境川を隔て、東京府南多摩郡堺村に對してゐる。地勢は概ね平坦、謂ゆる相模原の北端をなし、氣候溫和、住宅地に必

戸を數へてゐる。
本村は天文以前に起り、昔時相原村、中相原村、下相原村と稱したを、正保三年相原、橋本、小山村などに改め、後ち町村制の布かるゝに及んで以上三ヶ村並に清兵衛新田を合せて相原村となし、從來の村を大字となして今日に至つたもので、現村長は井上喜市氏である。

大野村

當村は郡の北部に位する廣潤な地區で地勢は東南より西北に長く、東北一帯は境川の流域により東京府下南多摩郡の南部南、町田、忠生、堺の四ヶ町村に對し西南の相模平野を以て本郡相原、上溝、麻溝、新磯、座間、大和の六ヶ町村に接し、廣袤南北約三里、東西凡そ半里乃至一里に及んでゐる。

當村は古くから上鶴間、鶴野森、淵野邊、上矢部、矢部新田の五ヶ村に分れてゐるが、明治二十二年町村制の施行によ

つて合併、一村に統一して大野村と改稱今日に及んでゐる。

現在戸數約九百五十戸、七千五百強の人口を擁し、農を主体として商業、工業これに次ぎ、一村の明るい平和を目標に邁進努力してゐる。なほ現村長として植田安五郎氏任期中である。

大和村

本村は、境川の上流に位し、鎌倉郡、高座郡、東京府南多摩郡の三郡が互に境を接するところであり、全村を區劃して下鶴間、深見、上草柳、下草柳の四大字とし、村役場は大字下鶴間に置く。

村民は概して農業に従事し、米、麥、藪を主要産物とする。氣候温和にして民風淳朴、湘南の平和な桃源郷として理想農村の建設に向つて、全村民が一致邁進しつゝあり、村農會をはじめ、産業組合並に村理事當局の指導誘掖宜しきを得てその發展振りは實に刮目に價するものが

ある。

村内に神中鐵道大和驛あり、先年また小田原急行鐵道江ノ島線の開通により交通の便いよ／＼加はり、村内を貫く縣道二線は、鎌倉郡及び都筑郡方面へ通ずる要路となつてゐる。下鶴間には郵便局がある。

尋常高等小學校一、これに併設する青年學校あり、男女青年團、在郷軍人分會の組織堅實にして業績見るべきものありその他各團體共協力一致、理想郷大和村の實現に向つて努力してゐる。

綾瀬村

當村は郡の中央に位置し、東西一里二十町弱、南北二里餘、東北は相模平野に連り、そして澁谷、大和の兩村に接してゐる。西南は相模横山を以て海老名、有馬、御所見、六會の四ヶ村に境し、遠く富士の靈峰を眺め、雨降、丹澤、高麗の連峰を一眸し小園、早川、吉岡の三部落

澁谷村

はその中間、目久尻川貫通し、水田の灌溉に便してゐるから、河流に接する關係上坂路繁く、畑への搬出には不便を感じざる點が多い。本村の中央を南北に貫通しなほ横濱厚木間の縣道は蓼川、寺尾、小園を横断してゐる。戸數約一千戸で六千人近くの人口があり、農業を主として營んでゐる。

本村は往昔澁谷庄司重國の所領で、天正十八年、徳川氏の領有するところとなり、大字吉岡の地は春日局の領地となつたほど、明治九年に神奈川縣に屬した。町村制實施と同時に深谷、本蓼川、蓼川寺尾、小園、早川、吉岡、上土棚の八大字を併合して綾瀬村と改め、今日に至つてゐる。

併産業團体としては産業組合をはじめ養蠶、農事の各實行組合、蔬菜組合、納稅組合、養豚組合聯合會、報徳社などがある。また小學校の外に青年學校、村立圖書館の設けがあつて、育英方面への努力の跡も見られる。

當村は、長後、高倉、下和田、上和田福田等の部落より成る平和な農村にして東は境を隔て、鎌倉郡中和田村に對し、南は六會村に接し、北は大和村につゞき地勢概して平坦、北西部に僅かに丘陵を見るのみである。役場は大字福田に置き長後には郵便局があり、近隣町村との通信事務の中心をなしてゐる。以上のほか村内には巡査駐在所、尋常高等小學校、青年學校などあり、また男女青年團、在郷軍人分會、消防組、産業組合等が組織されてゐる。教育に對する施設の充實すること並に全村民の教育への理解の深きことに於ては、他にその例少しといふべく、産業組合の成績もまた特筆に價するものがある。

藤澤驛まで一里、自動車の便あり、更に小田急江ノ島の開通により交通の便益大に加はり、交通の發達はやがて村勢の

進展を招來せんもの氣運を見せてゐる。道路もよく完備し、昭和九年には縣道路愛護共進會に於て一等を以て表彰された。産業は農耕が主で、養蠶業これに次ぐ。先年村當局では生蠶販賣の不利なるに鑑み、組合製絲を主張唱導し、組合員三百人を擁する製絲組合を創立し、村民に多大の福利をもたらしつゝある。

六會村

本村は郡の東南に位し、面積一方里五五四を有し、いはゆる相模平野の一部を占め、東は境川を以て鎌倉郡に對し、南は藤澤町、西は小出、御所見の兩村、北は綾瀬、澁谷の二村に隣接し、引地川は村の中央を南北に貫流し灌溉の便がある。小田急電鐵江ノ島線により交通至便である。

村内には村社六、無格社五、寺院五を有し、また小學校、青年學校、男女青年團、巡査駐在所、産業組合、養蠶實行組



年の頃海、水浴、場として、開か、れ、伊藤、山縣、等、明治、政府、元勳、の別、莊が、營ま、れ、一時、政界、風雲、の地、とな

つた。町の西端西行堂の存する小丘に鴨立庵があり、その東北一キロ餘のところにある高麗山の山頂は眺望絶佳である。また大天覺敷、小天覺敷の名所がある。なほ大磯八景として高麗寺晚鐘、花水橋夕映、小餘濱晴風、鳴立澤秋月、照ヶ崎歸帆、唐ヶ原落雁、化粧坂夜雨、富士暮雪が知られる。町内産物の主なるものは、米、大麥、葱、胡瓜等の農産物及び烏賊、鰹、鱈、鱒、鰯、メジロ、ニシキ等、の海産物である。教育機關としては小學校、實科高等女學校、青年學校がある。

伊勢原町

伊勢原町の官公署の外に銀行、會社等があり、町内は市街地を形成して商業は相當の繁榮を示してゐるが、町民の多くは未だ農業に従事し、蔬菜の産が多く、特に最近副業としての製繩をなすものが殖えて來た。

大山町

相模第一の高山大山と共にその名世人の周知する當町は、郡の北端雨降山山腹にあり、雨降山は海拔千九百米、一名大山と呼ばれてゐる。登山の途中、山嶺や峻嶮ならんとする斜面に約三百餘戸と人口千八百人がある。町より山頂まで一里三十一町、途中に良辨の瀧があり、山頂には阿夫利神社があつて眺望に適してゐる。阿夫利神社は、往時石尊大權現と稱し、俗に大山不動と呼ばれる。本町の發展は大山登山者、阿夫利神社參拜者と不可分の關係にあり、これ等の參集者の多寡が直に町の財政經濟一般に影響する

農本位の 中 郡

本郡は相模國の南部中央に位し、東は相模川を越えて高座郡に接し、西は足柄上郡及び同下郡に隣り、北は愛甲郡に接し、南は相模灣の碧波をのぞみ、相模灣沿線及び相模川を各一邊とする矩形をなしてゐる。河面を撫で來る春風、海面を渡る夏の涼風、沿岸地方は名勝多く、湘南の勝地としてその名は天下に喧傳されてゐる。地勢は、西部及び北部は高く、漸次南部に傾斜し、相模川及び相模灣に沿ふて平地をなしてゐる。郡の中央を流れる花

水川は、その源を西北部郡境に發する。面積二二三二方呎に及び、本縣にあり、次の四町二十一ヶ村に分れる。大磯、伊勢原、大山、秦野、二宮、(以上町) 國府、大野、相川、成瀬、大田、鳥城岡崎、豊田、金田、旭、土澤、金目、高部屋、比々多、大根、東秦野、西秦野、南秦野、北秦野(以上村) 本郡は元來大住、洵綾の二郡に分れてゐたのを合併したものである。後村上朝の正平年中、庄内の關所を波多野次郎に與へたとの古文書があり、鎌倉時代には北條氏の支配下に屬し、北條氏滅亡後は足利氏の管轄地として關東管領に從屬した。また岡崎郷には三浦庄司義繼の子四郎義實が城廓を構へ、土屋郷には中村庄司宗平の三男土屋宗遠が在住し、糟屋庄には左大臣冬嗣の孫藤原元方がゐる。糟屋庄大夫と稱し、その他豊田庄には豊田景俊、善波庄には善波太郎、石田郷には石田爲久、三宮郷には三ノ宮次郎、四宮郷には四ノ宮四郎等が領住したが、後奈良

大磯町

本町は縣の南部に位し、相模灣に面する。海水浴場として有名である。人口約九千七百人。東海道線に沿ひ、相模の海岸平野が洵綾地塊で盡きやうとするところにある。海水浴場は南濱と北濱にわかれ、また別莊地として發達した。明治初

合、甘藷組合聯合會、衛生組合、養豚組合、園藝組合、兵事會その他がある。主産物は米、麥、甘藷、里芋、大根、蔬菜、繭にして合して四十萬圓の多額に上つてゐる。

天皇の永正十九年に至つて本郡全圖は全く北條氏の勢力下に置かれることとなつた。爾來明治二十九年までは大住、洵綾の二郡に分れてゐたが、これを合して中郡となした。

本郡の農産額は年産四百數十萬圓に上り、縣下第一位の誇りを有し、畜産は六十餘萬圓にて第三位、水産は五十餘萬圓にて第四位、いづれも將來ますます發展の可能を有し、その他蠶絲、林産、工業及び備かながら鐵産を加へると生産總額は實に八百二十有餘萬圓の多きに達するのである。

ため、或は道路の改修をはかり、或は交通の至便をはかる等、一切の經營が、その觀點よりなされる。

秦野町

古來本町は秦野盆地の中心都邑として秦野煙草の名と共に普く知られてゐるが承平の昔、山城盆地と酷似する明媚な地形風光に魅せられて、平將門がこゝに住居したと知る人は少なからう。氏神の境内から滾々と湧く靈泉を導いて最新の設備を施した秦野水道もまた名物の一つである。丹澤林道によつて眞に丹澤の玄關として、岳人には親しみ深い町である。中郡の西部に位し、水無川を隔て、南秦野村と接する外、東西北秦野村及び大根、比々多の諸村と接し、廣袤西北より東南へ六軒、西南より東北へ二軒二、約六方軒の面積を占める。地勢上山間の一市街なるがため、交通機關の備はらざり

し最近に至るまでは、他との交通不便なりしも、一面それがためまた特殊の發達をなし、就中秦野煙草の大耕作地を控へ

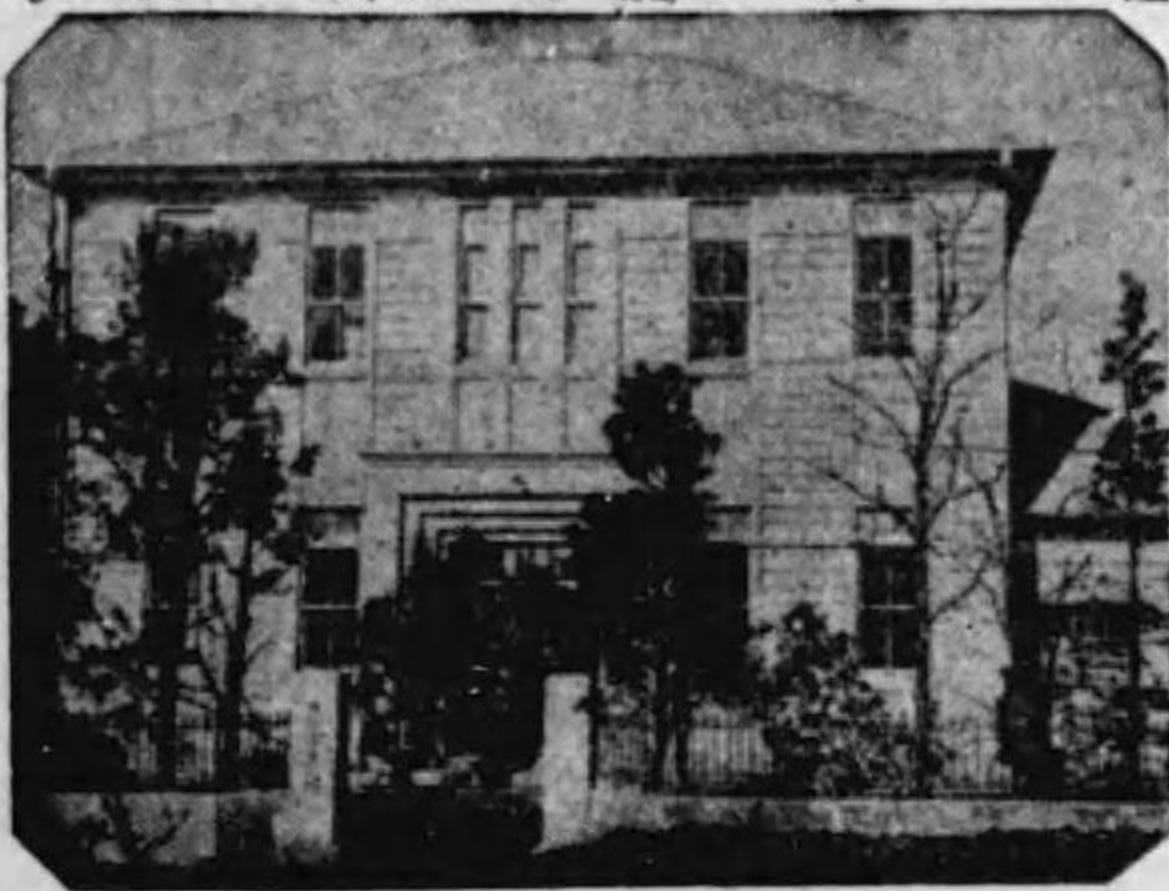


秦野町役場

る。今を以て、堅實に漸進的に向の上發を展し來つた。そしてその人情風俗は極めて儉素の氣風がある。今は縣道が厚木、御殿場、伊勢原、平塚、二宮などに通じ、小田急行電車、湘南鐵道もあり、バスも走つて交通至便である。本町はまた、町營電氣あり秦野消防組の成績と共に縣下の範と稱される。

二宮町

當地は健康長壽の里として日本一と稱される。七十歳以上の老人が人口九千人



二宮町役場

の中五百人もあるといふ有様で、八十歳以上の高齢者は百何十人、九十歳以上の夫婦が十數組、祖父、父、子の三夫婦揃つた家が十數家族あり、天下の長壽の里として名高いことは當然である。相模灣に面し、大磯國府津の中間に位し、海岸一帯老松枝を交へ風防、砂防、魚附保安

林となつてゐる。北方は山や岳で老松老杉繁茂して北風を防ぎ、海岸は丈餘の傾斜ある砂丘で津波の心配は絶對にない。夏季海岸に遊べば涼風やはらかに吹いて暑さを覺えず、冬期雪の日に平塚や大磯國府津が銀世界となつても、この二宮には雪のないことが多い。住民は半商、半農、半漁といつたやうな生活様式で、一般に温順且つ質朴である。

この地の牛乳は農林省の調査分析によれば、全國有数の良成績の折紙がつけられてゐる、豚もまた美味特別である。その他落花生は相州落花生と稱して全國第一と賞讃せられ玉葱、胡瓜、メロン、蜜柑、苺、桃、梨等、特に魚類は新鮮にして美味である。

松浦伯爵、龜井伯爵、檢事總長林頼三郎氏その他六十餘の知名人士の別荘がここにゐるのも人の知るところである。

國府村

相模國の歴史を語らんとせば、先づ第一に本村の歴史を語らなければならぬ。即ち往古、大寶年間、相模國府の置かれたところで、村内國府本郷に國府の跡があり、また村内六所神社は二千年前に勧請した延喜式記載の古社で、往時は相州の總社と稱せられたものである。だが、交通の發達は、この村の曾ての繁榮をば平塚、大磯へ移送してしまひ、今は一農村として堅實な歩みを續けるに過ぎない。往古の政治の中心地は靜かな回想の中に平和な樂土となつてゐる。現在面積一〇方軒、戸數七百四十の上のほり國府新宿、生澤、蟲窪、西久保、黒岩、國府本郷、寺坂の七大字より成り米、麥甘藷、蔬菜などの農産物のほかに、魚介類を主要産物となし、住民は概ね質朴醇良である。

本村は曩に經濟更生村に指定されたがその實績顯著にて、豚一頭、鶏十羽以上を一户毎に飼育したり、初穂貯金や初乳貯金、精勵貯金等を奨勵實施したり、更に生活の改善を行ひ、男女青年團が先頭に立つて指導奮闘してゐる。交通は、東海道本線大磯驛及び二宮驛の中間に位し、便利である。

大野村

當村は郡の東南部に所在し、東は相模川を隔て、高座郡寒川村に對し、西は金田、旭の二村に、南は平塚市に、北は神田、豊田の二村に接續してゐる。地勢は概ね平坦、北方の一部に低い丘陵があるのみで、相模川はその東を流れ、玉川は北より來つて西北に赴き、更に南流して金目川に合する。金目川は村の西部旭村との境を流れ、南下して玉川に合し、平塚市に至つて花水川となつて海に注いでゐる。面積は一方里弱、東西一里、南北一里弱で、縣道三線を通じ、厚木平塚停車場線は、東部を平塚伊勢原線は中部を平塚秦野線は西部に通じ、何れも乗合自動車運轉して交通を助けてゐる。戸數

一千二百餘、人口七千餘人、農業を主位に商業、工業その他を以て生計を營んでゐる。

神田村

本村往古の事跡は詳かでないが、永録年間北條氏康の所領であつたが、天正十八年豊臣氏東征して北條氏亡び、關東の豪族すべて滅亡した。後ち徳川氏江戸城を開くに至つて、その旗本の士に分與して子孫に及んだ。明治元年韭山縣に屬して神奈川縣に轉じ、足柄郡に移り、同九年復た神奈川縣の所管となり、町村制實施に當り田村、大神、吉際の三ヶ村合して神田村と稱し、今日に至つてゐる。地勢は平坦、面積は〇・四四〇方里、東西二十町餘、南北三十町餘、東に相模川、西に玉川を境になし陸地六分、水田四分を有し、北は相川村、南は大野村に接してゐる。従來年々水害を蒙つたが、耕地整理事業完備して以來、面目を一新

するに至つた。

今、當村の戸数は四百五十餘戸、人口二千六百餘人を數へてゐる。これを職業別にするとその殆んどが農業に従事し、米、麥、大豆、粟を主なる收穫とし、蔬菜類では甘藷を首位となしてゐる。

相川村

當村は戸田、岡田、長沼、酒井、上落合、下津古久の舊六ヶ村から成つてゐるもので、上落合部落には顯如上人の分骨を置く一向宗の大坊長徳寺があつて、天正四年顯如の相州坊衆中武州總徒門中へ送つたといふ古文書が遺されてゐる。村は郡の東北隅にあつて厚木の南に接し、東に馬入川が流れてゐる。戸數四百餘戸、人口二千四百餘人、主なる産物に麥、小豆、蕎麥、甘藷、馬鈴薯等がありまた養蠶も旺んでゐる。村役場は大宇戸田にあり、小學校の外に村立通俗相川圖書館の設けがある。

成瀬村

本村は郡の北部に位置してゐる。そして東は玉川を隔て、相川村に對し、西は高部屋村、南は大田村、伊勢原町に連なり、北は愛甲郡玉川村及び南毛利村に接し、西北に山陵多く、東南部は平坦、耕地をなしてゐる。地味は極めて肥沃、澁田並に昭和の兩用水の灌漑の便があるので、農業經營上の利用價値最も多い。村は下糟屋、東富岡、栗窪、高森、石田見附島、下落合の七大字に分れ、總面積八百五十五町餘、戸數五百餘戸、人口約三千人を擁してゐる。これを職業別にすれば農業を主位に商業、工業、その他の順になつてゐる。現七大字は往古より關係を共にし、區として各獨立を維持し、大住郡の内謂邊郷に屬し、中古に至つて代官の支配となり、後旗本の所領に屬しその子孫が傳襲した。明治大政維新に際し、采地はしばしば韭山縣に屬し、同四

足柄縣に入り同十一年大住、海綾の兩郡役所管轄となり、同十七年下糟屋外十一ヶ村戸長役場所屬となり、同二十二年町村制施行の時、七ヶ村合併して今の成瀬村を組織したのである。名所として、今上陛下攝政宮殿下御當時の御野立所があり、舊蹟には松高庵並に太田道灌の墓がある。

大田村

本村は海岸を距る北へ二里餘、大山の東三里餘の地點に位し、東西に廣く南北に狭い。殆ど平坦で、僅かな土地の高低によつて岡方と田方とに分れ、川はいづれも西北部の高地に發し、平地を南流して相模灣に入る。面積〇・三九方里。小學校は字下谷にあり、兒童四百七十名を算し、十二名の教員がこれが訓育に當り實習農園、花卉園等の設備充實し、教育費は兒童一人當り十九圓五十錢程度である。青年學校は男女併せて百二十餘

名の生徒、男女青年團は百六十名の團員を擁する。

村内各種團體には産業組合、耕地整理組合三、養蠶實行組合十五、農事實行組合三、園藝出荷組合二等あり、産物は米、麥、甘藷、蕎麥が主なるもので、諸産業團體の旺盛なる活動により年々産額の上昇と品質の向上を見えてゐる。

字上平間、舊大山街道の東圓寺境内に船繋松と稱する古木あり、周圍五米三三三古はこの邊に沼地多くこの渡と呼び、渡船場などありし頃、船を繋いだ古木なる故、船繋松の稱があると村人の口碑に残つてゐる。また櫻井伯耆守の墳墓も舊蹟として著名である。

城島村

當村は豊田村の北につゞく小村で、面積四方軒、花水川に沿つて小鍋島、下島城所、大島の四部落が點在し、小鍋島が村の中心をなし、村役場、小學校、巡查

駐在所等はみなこの區にある。

往古は城所郷といはれた地方で、今の大字城所がそれである。伊勢原町へは約二十五町にて達し、自動車の往復あり、平塚へも近く、交通は便利である。村民は農業を主とし、傍ら養蠶を營む。

岡崎村

本村は、往昔岡崎城のあつたところで、康正二年、三浦時高が足利成氏と戦を交へ、永正九年、北條早雲と三浦義同父子とが戦つた古戦場である。面積五方軒、丸島、馬渡、入山瀬、大向、西溝地、矢崎、北大繩、大畑の諸部落より成り、大字丸島は村役場の所在地で、大字入山瀬は即ち往古岡崎城のあつたところ、今は僅かな廢墟だになく、全く田地としてその昔の佛をしのぶすがない。

平塚驛より一里二十町、伊勢原驛より三十町、その間自動車の便があり、村内

には岡崎神社、駒形神社、大光寺のほか寺院七ヶ寺があり、また岡崎城趾、岡崎義實の墓は、榮枯盛衰の跡を物語つてゐる。産業は農業が主であり米、麥、繭を産し、教育は岡崎尋常高等小學校、岡崎青年學校を中心として行はれ、御大典記念事業の一たる小學校兒童の一人毎月二錢宛の貯金は引續き勵行してゐる。

本村は往時大住郷の一部に屬し、後花園朝には大字入山瀬の岡崎城に三浦時高が威を振ひ、小田原北條氏の支配となつて世々相嗣いだ。

豊田村

當村は神田村の西に連る農村にして、花水川及びその支流流域の地を占め、全村平坦、殊に農業に適してゐる。面積約三方里、平等寺、小嶺、宮下、打間木、豊田本郷の諸部落より成り、明治三十七年にすでに耕地整理に着手し、大正二年には完成し、縣下で第二番目に耕地整理

を行つた有名な村である。

往古、豊田庄と稱せる地方で、豊田次郎景俊が、長い間威を揮つたことがあり當時は今の豊田本郷がその中心地であつた。明治になつてからは、二十二年町村制施行と同時に現在の大字である各部落を併せて豊田村と稱し、村役場を大字平等寺に置いた。

縣道伊勢原平塚線が村の西部を南北に穿ぬき、兩地へ共に一里半、自動車の往復が頻繁である。米と蠶繭が主要産物で、製絲業も行はれる。

小學校は村役場同様大字平等寺にあり兒童學業成績とみにみるべきもの多く、男女青年團、在郷軍人分會、消防組、産業組合、農會等の治績また顯著である。

金田村

本村は飯島、寺田、入野、長持の四大字より成り、面積〇・一八五方里、役場は字入野に置く。

小學校、青年學校、男女青年團等の教育機關は、小學校の出席歩合は、九割七分強の良成績である。住民は米麥の耕作を以て主業とし、この年産額約十一萬圓餘、次で副業に養蠶を営むものが多

い。また乳牛飼育もあり、良質品を九千餘疋を年産する。最近宅地利用による各種副業が盛んになつて來た。村内社寺は神社四、寺院七である。一般に信仰心厚きは、本村の美點であり、教育充實の一證となるものである。

旭村

當村は中郡の南部に位し、南は高麗山脈によつて大磯町に連り、東は花水川を隔て、平塚市に對する。景勝の美に富み膏腴の美田あつて農作物の産額饒かである。春は花水長堤の櫻花を眺め、秋は高麗山の紅葉を賞し、四季折々の景が少なくない。

廣袤東西二十七町、南北二十二町、面

土澤村

本村は郡の西南、國府村の北に隣接し土屋、下吉澤、上吉澤の三村を合併し、これを各大字となして、形成されたものである。面積一二方里、住民の九割強は農業に従事するため、産物も殆んど農産に限られ米、麥、繭が主なものである。

秦野町、伊勢原町、平塚市へはそれ／＼乗合自動車の便があり、更に小田原急行鐵道、湘南鐵道の便も多い。

村内には村役場、尋常高等小學校一、尋常小學校一、巡査駐在所等のほか、産業組合、消防組、在郷軍人分會、青年團の各團體があつて、いづれも活氣を呈してゐる。

金目村

當村は、平塚市と秦野町の中間に位し直接鐵道の便はないが、縣道平塚秦野線

及び伊勢原大磯線が村内をつらぬき、前者にはバスの便があり、平塚驛にて東海道線に、秦野驛にて小田原急行に連絡することが出来る。面積六方里、南金目、千須谷、廣川、北金目、片岡の諸部落より成る。

住民の大部分が農業に従事する關係上生産物は殆んど農業品に限られ、總額三十萬圓餘の約九割を占め、繭、生絲等の養蠶に製絲業も亦盛んである。經濟更生指定村として積極的増産の計畫、生産費の軽減、生産方法の改良改善、副業の積極的奨励、宅地の合理的な利用、經濟の改善、販賣の統制、金融機關の機能向上産業組合の飛躍的活動等、幾多の計畫實行の業績があらはれて、今日では縣下屈指の優良村としての更生の日に進みつつある。

當村は昔時金目庄及び片岡庄といはれたところで、現在の各大字は町村制實施までは、それ／＼に獨立の一村をなしてゐた。

積〇・五方里、大字九區に分ち、丘陵地帯には有史以前すでに早く石器時代の住居してその生を樂しみし數多居住の遺跡遺物を殘し、後ち日本民族東遷移住するに及び、漸く繁榮を來した形跡歴然たるものがある。

現在住民の大部分は農を以て主業とし比較的小作者が多數である。昭和八年度に於て村全體の收支一戸當り五十九圓餘の不足を見て以來、經濟更生が計畫實施され、共存共榮を主眼とし、地主と小作人の協調を圖るため各部落毎に協調委員會を組織し、小作地の檢見並に小作料減免率及び小作條件の協定、爭議の調停等をなして成績良好である。

當村の主要産物は米、麥、柿、蔬菜、菜種、落花生などであるが、いづれも増産計畫がすゝめられ、乳牛飼育も盛んである。またこれら産業の更生躍進と平行しての社會生活の改善、消費節約等が、しかも効果的に實施されてゐることは勿論である。

高部屋村

本村は郡の北部、伊勢原町より大山への登山口にあり、文明十八年、上杉定正が山内顯走と矛を交へし古戦場たるのみならず、日向薬師、太田道灌の墓があり歴史的由緒に富む地である。面積一四方秆、上粕屋、日向、西富岡の三大字よりなる。

伊勢原驛に近く交通の便よく、村内には多数麻絲工場あり、麻絲の産地として知られてゐる。その他石材、乳牛、柿、栗、米、麥の産も多く、石材、牛乳、麻糸を稱して本村の三大特産物とする。なほ、産業組合は縣下屈指の優良なものである。

比々多村

當村はもとの大住郡桶橋郷で、伊勢原町と秦野町との間にあつて、大山の南麓

に當つてゐる。戸数は約六百戸、人口は三千六百餘人である。

役場は大字神戸にあり、また比々多村立圖書館の設けがある。養蠶の盛んな地で、特に甘藷、蕎麥、馬鈴薯などを産出してゐる。

大根村

本村は秦野町の南に隣接し、小田原急行鐵道の開通により世に出たる新興の氣に満つる一村で、面積一〇方秆あり、南矢名、下大根、北矢名、落幡、眞田の五部落よりなつてゐる。縣道平塚秦野線は村内を東西に貫いて自動車の便あり、小學校は學級十四、青年學校を併置し、また村内に奈珂中學校あり、近隣より來り學ぶものが多い。

耕地面積は田畑各五割に分れ、村民は殆んど全部が農に従事し、米、麥、蕎麥を主産物となし、園藝それに葉煙草などがこれに次ぐ。

東秦野村

當村は、三方に山をめぐらし、いはゆる舊時の秦野郷の一部にして、秦野、比々多の産地として有名である。全村を區劃して、東田原、箕毛、名古木、西田原、小箕毛、寺山、落合の七大字とし面積は二九方秆に及ぶ。

秦野町へは二十五町、秦野、大山兩町の中間に位する。

百六十餘町の村有林が開墾され、二毛作も完全に行はれ、今や優良農村として郡下に君臨せんとしてゐる。

西秦野村

本村は、秦野郷の西部々落を合して出來た村で、秦野町の西一里の點に位し、小田原急行鐵道の便があり、また縣道秦野松田線が村の中央を東西につらぬき、自動車が往復し、交通至便である。煙草

ビール麥及び落花生の特産を以て知られる。全村を分ちて堀西、堀川千、溢澤、堀山下の五大字とし村役場、學校、巡查駐在所は堀西にある。郷社八幡神社、岩倉丹後の墓等の舊趾あり、秦野郷歴史の一部を物語つてゐる。

南秦野村

當村は中郡の西部に位し、もとの平澤今泉、尾尻及び西大竹を管轄する。その疆域は足柄上郡中井村、上中村及び本郡西秦野村にして、東北一帯は水無川を隔て、秦野町に境する。地勢南に高く北に低く、川は概ね西より東に流れ、人家は川及び縣道に沿ふて集團する。道路は四方に發達し、鐵道は秦野二宮間に輕便鐵道あつて西大竹に停留場を有し、小田原急行鐵道は今泉及び尾尻入口に大秦野驛を設け、その他乗合貨物自動車往復し、交通便利である。面積〇・五四三方里。村内主要産物には米、麥、菜種、煙草

北秦野村

本村は、秦野町を去ること一里半、郡の西南隅に位し、舊時秦野郷と呼ばれた地方の一部で、面積二〇方秆を有し、羽根、三屋、菩提、横野、戸川の部落より成る。山村なれど畑地多く、煙草、大小

麥、菜種、蕎麥、落花生の産地で、就中煙草は秦野煙草と呼ばれ全国的に有名である。甘藷や里芋の栽培は最近とみに激増し、市場に好評を得てゐる。全面積の約十分の一を占める水田から産する米は自村内の飯米にも足らず、爲めに陸稻栽培が奨励され、村農會が中心となつてこれが増殖につとめてゐる。

高原地帯の

足柄上郡

金時が熊と相撲をとつたといふ足柄山の麓に位置する本郡は、相模國の西端を占めて丹澤山、金時山、矢倉嶽等の山嶽重疊たるところである。東は愛甲、中の二郡に連り、南は足柄下郡に接し、西は静岡縣に隣り、北は津久井郡及び山梨縣に境する。面積二六方里一四五、本縣中最も廣大なる地域を占め、全面積の約七

割五分が原野で、またこの六割が丹澤御料地に屬し、田畑は約二割餘に過ぎず、酒匂川及びその支流沿岸に點在する。郡を分ちて二町十七ヶ村とし、上中村及び山田村は組合を組織する。

町 松田、山北
村 寄、上秦野、中井、上中、山田、曾我、金田、共和、清水、三保、北足柄、南足柄、福澤、酒田、吉田、櫻井、岡本

農業は主として酒匂川沿岸の地、殊に郡の東南方平地に行はれ、米、麥、煙草が主産物で、本縣中第三位を占める。養蠶業は農家の副業として殆んど各町村に營まれ、高座郡に次で第二位である。畜産はさして見るべきものもないが、將來相當有利なもの見られてゐる。水産は畜産以下に微々たるもので、全くいふに足りない。地勢上、林産業は頗る盛んで津久井郡と相並んで、縣下一二位を争ひ材木及び薪炭をその主なるものとする。工業は、林業や養蠶業の發達に伴つて相

常隆盛に赴きつゝある。

道路は多く酒匂川及びその支流に沿つて通じ、先づ南足柄、酒田、松田の諸町村を連絡して本郡を東西に貫く縣道が郡の南方を貫通し、これを幹線として南北に走るものあり、その多くは自動車を通ずる。しかし郡の北部の交通はまだ不便といはざるを得ない。鐵道は舊東海道線たる御殿場線があり、松田、山北の兩驛に置く。松田町に於てこれと交錯するものに小田原急行電鐵があり、更に小田原町を起點として本郡南足柄村に至る一線があり、更に東南方には湘南軌道が開通してゐる。

足柄上の名の初めて見えたのは元明天皇の靈龜元年のことである、和名抄には足幸乃加美と訓じ、高家、櫻井、岡本、伊部、餘戸、驛家の六郷がこれに屬した。

松田町

本町は郡の東南に位し、東海道本線及

び小田原急行電鐵の松田驛あり、縣道は東西南北に走り、交通至便である。松田總領、松田庶子、神山の三大字より成り面積一〇方軒、松田總領が町の中心で役場、郵便局等はこゝにある。その他町内には松田警察署、小田原區裁判所出張所、松田尋高校、ほか銀行會社等多數存し、町内頗る活況を呈する。町民は商工業のほかに農業を營むものあり、米が主要産物で、町内の需要を充たしてなほ餘力がある。因に當町は往古の松田郷である。

山北町

當町は古の川村郷の地にして、郡の中央に位し、東は松田町、北及び西は共和村に接し、南は酒匂川を隔て、福澤、酒田の兩村と相對する。面積一五方軒弱、小田原區裁判所出張所、女子技藝學校、山北郵便局、その他會社、銀行支店等があり、郡内商業の中心ともいふべき股脈を呈してゐる。主要産物は蜜柑、木炭、

鮎、竹細具、米等であるが、柑橘類は最も主要なる物産で、約二十數年前よりの栽培に係り、米を除き當町唯一の移出品である。販路は京濱、北陸、北海道、北米カナダ、滿洲などに及ぶ。川村、川村岸、山北の三産業組合があり、いづれも良績を収めてゐる。

寄村

本村は松田町より約四里の地點にあり、丹澤御料地の南につゞいてゐる山村で、面積二九方軒、村民は概ね質實勤儉、農業及び林業を主とし、麥、米、煙草、木炭を多く産出する。村内には村役場をはじめとして尋常高等小學校、産業組合、青年團、在郷軍人分會、消防組等があり、村務はよく整備されてゐる。昭和七年經濟更生村に指定され、峻嶮なる高峯山嶺を以て四方を斷たれたる高原の僻村なるも、よく更生の實績をあげてゐる。自治行政は圓滿に行はれ、政争絶無、納税成

績は九十九パーセントを示してゐる。

上秦野村

當村は松田町の北につゞく純農村で、面積一三方軒、柳川、菖蒲、八澤、三回部の四大字より成る。松田町より一里半自動車の便があり、こゝより東海道線及び小田原急行電鐵の便を借ることがある。村役場、小學校は大字柳川にあり、巡査駐在所がある。酒匂川の上流は村の西部を流れる。麥、煙草が主要産物で、殊に煙草は本村産物中の第一位に擧ぐべき重要品にして、村農會の指導幹旋により共同販賣成績八〇パーセントを示してゐる。副業では養豚が第一位、馬の飼育も近年多くなつて來た。

中井村

本村は郡の東南隅、中村川の上流に位し、面積二〇方軒、松田町及び山北町に

亞ぐ本郡の主邑である。湘南軌道は村内を南北に貫いて井ノ口驛を置き、東海道線及び小田原急行電鐵の便が出来る。米、小麥、煙草、落花生を主要産物とし、各部落毎に出荷組合あつて共同販賣に當つてゐる。また農事改良組合は、村農會指導の下に産業組合と聯携して全村的進出をはかつてゐる。副業では菜種、胡瓜、蜜柑の栽培が凄まじい勢で發展しつゝあり、養豚業も日毎に隆盛を加へてゐる。

上中村組合 山田村組合

當組合村は往昔板窪、篠窪、柳、高尾赤田の五ヶ村と山田村とに分立し、共に洵綾郡中村郷に屬してゐた。今前記五ヶ村を合併して上中村と改稱し、山田村と組合村を組織してゐる。位置は郡の東部にあつて、東北は中郡西秦野、南秦野の二村に對し、東南は中井、曾我の二村、

西は金田村、西北は松田町と上秦野村とに接続してゐる。交通機關としては松田町神山より中井村鴨澤に至る縣道神山二宮線を主に秦野神山、山田栃窪、赤田小田原の三線の町村道が分岐して、それ／＼利便を與へてゐる。

今、四百弱の戸数を占めてゐるが、うち約三百は農を本業となす農村で、特に煙草の産地として有名である。

曾我村

本村は郡の南端に位し、往古曾我庄といはれた地方と大井庄と呼ばれた地方の諸村とを合して一村としたもので、曾我庄は人も知る曾我兄弟の義父曾我太郎祐信が建久中領有してゐたところである。大井庄は文治四年京都延松寺の寺領となり、建保元年には山城判官行村の所領となつたと傳へられる。面積約五方村。役場を大字下大井に置く。東海道下曾我驛

へは二十八町、小田原より本村を経て松田町に至る乗合自動車の便があり、村内は何んとなく活気を呈してゐる。蜜柑、梨、梅干の特産がある。

金田村

當村は松田町の南に隣し、東海道御殿場線の松田、下曾我兩驛の中間にあり、小田急開通してから交通の便一層加はり地理的に頗る有利の地を占めてゐる。

面積四方村、金子、金手の二部落を合し、村役場、小學校、巡察駐在所等の重要機關は大字金手にあり、主産物は米と麥である。

共和村

本村は山北町の北方、河内川の流に沿ふ山村で、面積一七方村、往昔は相模權守佐伯氏の所管であつたが、その後、小田原城主の所領となり、徳川氏の天下

となつてからは、大久保氏、阿部氏等の治下に屬した。交通は頗る不便で、畑は四十度以上の急勾配の土地多く、水田は僅かに六町歩弱、養蠶と木炭の製造、その他には雜役による貸銀稼ぎが主な収入である。しかし村治は頗る圓滿で、村民の氣風もよく一致してをり、村内金融の如きは産業組合の手で完全に行はれ、貯蓄心も非常に盛んである。

清水村

當村は山北驛より四哩の地にあり、從來は交通概して不便であつたが、山北清水間の乗合自動車を村營で運轉するやうになつてから面目を一新した。教育産業の諸機關よく備はり、殊に先年は御大典記念事業として御眞影奉安所を建設、機械製茶場を設置するなど教育及び産業上一層の光彩を添へた。酒匂川上流に位する關係上、水力發電所多く、現在富士

電力、東京電燈の發電所があり、そして將來この種の發展が約束されてゐる。山村養蠶の特殊性を發揮し、また近年果樹の栽培も頗る増加して來た。

三保村

本村は郡の北部山間に點在する諸部落を合して成れる一村で、山北町より北へ四里、謂ゆる丹澤御料林の一部をなしてゐる。酒匂川の上流は、この地方に水源を發し、その沿岸に僅かに畑地を見るのみで、村内の大部分は山地である。従つて産物も林産物を主として木炭、製材、三極、篠竹等が多い。面積一五方村六である。

村役場を大字中川に置く。村内には尋常高等小學校、東京電燈發電所あり、また八幡神社、太神社、玄倉寺、實相寺、能安寺などの社寺を有し、武田信玄の隠湯、湯ノ澤城趾、玄孫佛、帯杉の名勝舊蹟がある。

北足柄村

當村は郡の西南隅に位し、往昔足柄街道の一驛亭として多數の旅客を吸收したところ、當時の足柄關は、今の大字矢倉澤にあつたと傳へられるが、その跡はさだかでない。西にある足柄峠は新羅三郎義光の遺跡であり、

足柄の八重山越えて今しなば
誰をか君と見つゝしのばむ
の歌と共に、美しき物語を永久につたへてゐる。また村の西南隅に聳える金時山は往時金時が山姥に捨てられたといふ傳説の地である。總面積三一万里。米、木炭、木材の産が頗る多い。

南足柄村

本村は郡の西南部に位し岡本、福澤、北足柄の諸村と境し、南西は明神ヶ嶽を以て足柄下郡宮城野村に續き、東南の一

面は狩川の流るゝあり低平なるも、他の三方は山岳丘陵を以てめぐらされる。面積一方里六四二。大雄山最乗寺の所在を以て相州一圓に知られ、交通機關の發達と相俟つて發展の氣勢頗る濃厚な新興村の一である。村内主要産物は米、麥、煙草、里芋、蜜柑、繭、清酒等にして、菓子、醬油も少なくない、豚の飼育も多く、會社工場五をかぞへる。

福澤村

當村は南北兩足柄村の中間に位し、面積七方里あり、怒田、小市、班目、千津島、儘下、村松の舊六ヶ村を合したものの米麥を主作物となし、落花生、蜜柑などの特産物がある。村内には村社福澤神社のほか、寺院九ヶ寺あり、承久の亂の忠臣藤原範茂の墓、大口堤東碑、田中丘陵の墓は、いづれも歴史の跡を窺はせるに足る。また大口堤上の四季の遊樂は、近來その名が高くなつてゐる。

酒田村

本村は松田町の西に隣り、縣道松田南足柄線の通路にあつて自動車の便あり、一方は大雄山鐵道に連絡する。面積四方秆、延澤ほか六大字より成り、延澤が村治の中心地で、村役場、小學校はこゝに置かれる。

主要産物は米で、副業として全戸の三分の一が胡瓜の促成栽培をなし、また秦野地方へ煙草用手製繩を移出する。麥、菜種、アメリカ向蕪等の裏作物も多い。醬油味噌は全部自給自足し、消費節約による生活改善の徹底的に行はれる村である。納税成績一〇〇パーセント、自治上黨争暗流を認めることは出来ない。

吉田島村

當村は松田町に隣接する農村にして、松田町の發展に伴つて村勢の向上日に月

に目覺ましく、新興村として最も注目される村である。先年縣立農業學校が設置せられてから教育は急速な飛躍を遂げ、文化の程度頗る高きを加へたかの感がある。面積三方秆を有し、酒匂川は本村を貫き、土地概ね平坦、土壤また肥えて農耕に適し、村民の大部分は農作に従事し米を主として幾多の農作物が村外に移出される。しかも松田驛に近き關係から交通の便よく、また縣道は村を南北に貫いて車馬の往來が頻繁である。

櫻井村

本村は郡の南端を占め、東は曾我村、西は岡本村に接し、小田急沿線にして交通の便よく、聖者二宮尊徳を出して天下に萬丈の氣を吐いた村である。村民は今なほその遺風を慕つて勤儉力行の美風を持ち、村治の諸施設また見るべきものがある。面積四方秆。米、麥、蕎麥の産額多く、米は年々約六千俵を村農會に於て幹

岡本村

旋販賣し、肥料購入もその六七割は農會の手を通じてゐる。産業組合は大正十三年の設立である。他村に比し、概して文化の程度高く、婦人雜誌の購讀者など相當多く、主婦會、女子青年團、良風作興會、それに婦人報德會などが組織されてゐる。

當村は櫻井村の西につき、米、麥、木炭等を主産物とする純農村であるが、大雄山鐵道開通と共に、村内は塚原、岩原の兩驛の設置によつて村勢の向上著しいものがあり、やうやく都會化の傾向を見せてゐる。

温泉郷の足柄下郡

本郡は、相模國の西南隅に位し、郡の西境には、往時支那の函谷關に比すべき天下の險道と唱へられた箱根の峻嶺を控へ、西南は靜岡縣駿東郡と、伊豆半島の頸部たる熱海市に迫り、北は足柄上郡、東は中郡及び相模灘に接し、海上遙かに三浦半島をのぞんでゐる。海水浴場と温泉に富み、山に、海に、名勝は頗る多く箱根關……芦ノ湖……箱根七湯……湯河原……小田原城……石橋山合戦……眞鶴の蜜柑……等々の名に於て世に知られてゐるのが本郡であり、先年國立公園に指定され觀光の便を加へた地帯である。

全郡山岳重疊して、平地は海濱と酒匂川流域とに過ぎない。先づ郡北部を東より塔ノ峯、明星嶽、明神嶽、台ヶ嶽等連亘し、神山、駒ヶ岳、鞍掛山は郡の西部

を南北に連なり走り、東方海に近く聳えるものに聖嶽がある。

有名な芦ノ湖は、郡の西境、駿河國に接するところにある。早川はこゝに源を發して郡北部を東西に流れ、大窪村附近に至つて海に注ぐ。酒匂川は郡の東部を南北に貫き、小田原、足柄、酒匂等の郡の主邑は多くその流域に所在する。鞍掛山に源を發する門川は相模、伊豆の兩國を區切つてゐる。

行政區は左の通りである。

- 町 小田原、國府津、湯本、箱根、眞鶴、湯河原
- 村 足柄、豊川、上府中、下府中、下曾我、田島、下中、前羽、酒匂、大窪、温泉、宮城野、仙石原、芦ノ湯元箱根、早川、片浦、岩、福浦、吉濱

産業は、相模灣に面して有利な地を占める本縣隨一の漁場をなし、水産額三百余萬圓に達し、鰯、鯖、鯖、鰯、鱈等を主要漁獲物とする。また郡内山岳重

疊する關係上、木炭、製材を多く産し、温泉ではその土地特有の細工物を製してゐる。畜産、鑛業また相當の發達を見せ農業は米麥を主作物とし、酒匂川流域が最も盛んである。

鐵道は東海道本線、山北線、小田原急行電車、大雄山鐵道、箱根登山鐵道、同ケーブル線などあり、またバスの疾驅郡内にとどるところに見る。

小田原町

本町は、往昔東海道の重要驛遞たりしところ、西下の客箱根越の便をかつて、多くこの地に宿泊せしを以て特に繁榮を極めた。大久保氏の城下として相州第一の都會をなした時代もあり、現在東海道本線、小田原急行電車、箱根鐵道、大雄山鐵道等交通の中心となり、町役場、警察署、區裁判所、稅務署、帝室林野局出張所、郵便局、縣立中學校、同高等女學校、商業學校、圖書館、小學校三等があ

り、會社、銀行また多く、行政、教育、商工業の中心をなしてゐる。

附近一帯は史蹟名勝に富み、海濱は海水浴場として知られ、殊に昭和九年設置の海水プールは、海岸に井戸をうがち、電力を以て汲みあげるもので、新名物として好評を博してゐる。氣候四時温和、湘南の勝地として來遊するもの絶えず、眞に理想的住宅地にして町内老松や梅林多く、眺望絶佳無比とされてゐる。

位置は縣の西南を占め、南方は相模灘に面し、西は大窪、早川の兩村、東は酒匂村に續き、北は足柄村と界し、西は箱根連峯の餘脈を受けて丘地をなし、東北南は平坦である。面積約四万里。

國府津町

當町は足柄下郡の東南部にあり、北は田島村、下中村に隣り丘陵起伏、南は一碧千里の相模灘に面し、東は前羽村、西は下府中村及び酒匂村に接し、遂に富士

の靈峰、箱根の連山を望む。地勢東北に高く西南に低く、南方東海道の通ずるところ市街をなし、西方耕地に人家點在し森戸川はこの間を流れる。夏は海風涼を送り、冬は暖流岸を洗ひ、空氣清澄、氣温中和、健康に適する。東西十二町、南北十三町にして面積は〇・一八六方里である。

古くは古宇都と稱し、應永中の鶴岡文庫には國府津と記してゐる。源頼朝が幕府を鎌倉に開いた頃は戸數僅に七戸であつた。明治維新後、一時國府津村を置かれ、大正十三年四月町制を施行して今日に至つた。

國府津尋常高等小學校、青年學校、石塚裁縫女學校等あり、教育の施設よく、一般住民は知識の程度が高い。衛生状態等も良好である。社寺には村社菅原神社（正曆五年創建）眞宗眞樂寺、眞言宗安樂院、同寶金剛寺、時宗蓮台寺、同光明寺、日蓮宗法秀寺がある。主要物産は米、蜜柑、酒、醬油等にし

て銀行、會社、組合、市場等は十六の多きをかぞへ、商業頗る殷盛を呈する。

湯本町

箱根七湯のうちの湯本温泉及び塔之澤温泉によつて知られる本町は、温泉が生んだ都邑の一である。郡の西部、箱根連山の東麓に位し、東は大窪村、南は早川吉濱の二村、西方は元箱根、芦ノ湯、温泉の三村と接し、北は足柄村に境する。

地勢概ね山岳にして平地とばしく、國道第一號路線の沿道は、人家稠密にして稍や市街の状態をなし、その他は舊東海道の沿線に於て所々に部落をつくつてゐる。氣候温和、寒暑度に適ひ、盛夏も九十度位、嚴冬も二十度を降らない。

湯本温泉は、單純泉味を帯び、聖武天皇の天平十年に釋淨光の發見せしものといふ。塔之澤温泉は、弱性鹽類泉にして、慶長十年彈誓上人が開いたもの、また湯本茶屋温泉も弱性塩類泉にして、大

正十一年の頃發見されたものである。いづれも四圍に山を繞らし、溪谷の美に富む幽邃の境である。しかも幾多の史蹟名勝天然記念物を附近に有し、遊覽に、保養に最適の地である。即ち明治天皇御駐紮趾、和宮殿下御終焉の遺跡、山崎古戰場、矢立杉、早雲寺、曾我堂、阿彌陀寺、鎗突石、玉簾瀧、忍ヶ瀧等がある。箱根登山鐵道走り、湯本、塔之澤の二驛を置き、國道をバスが通つてゐる。

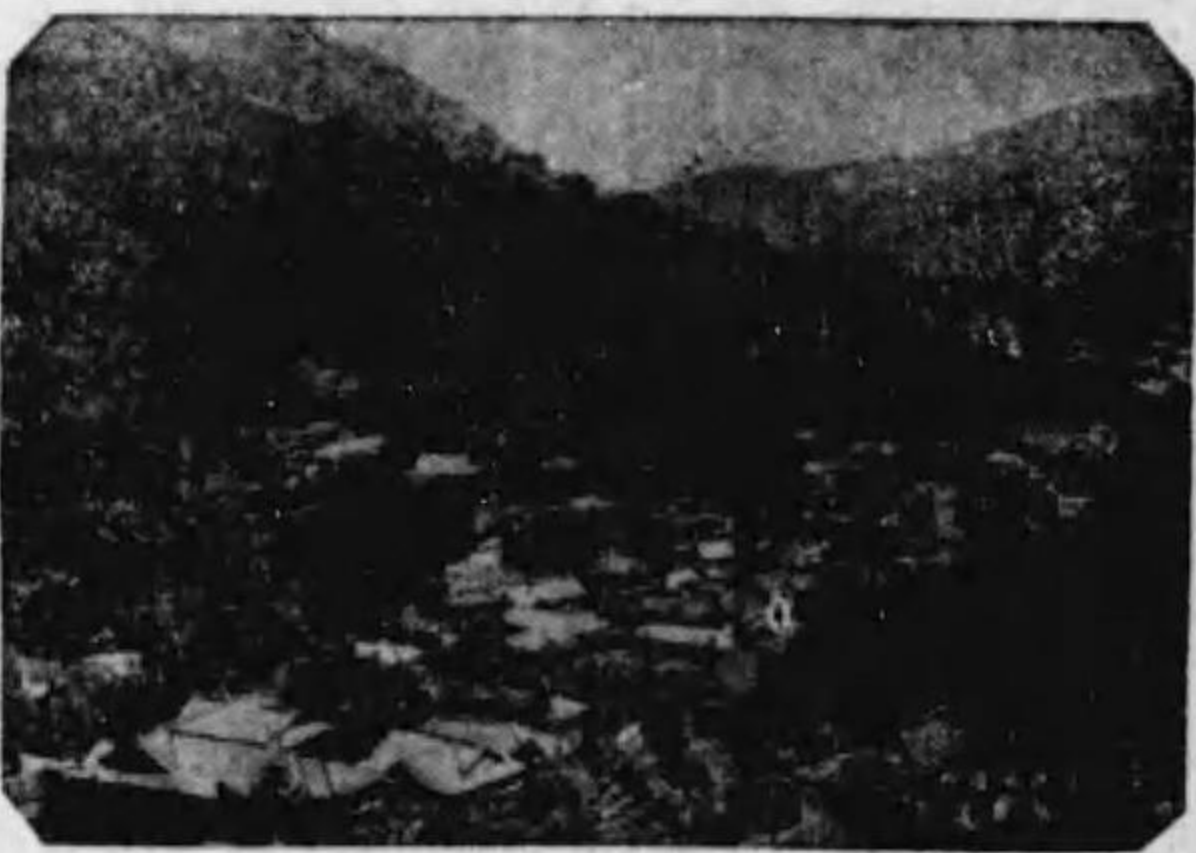
湯河原町

天惠の温泉郷湯河原町は、縣の最南西端に位し、峯巒重疊たる箱根外輪山脈によつて圍まれた謂ゆる千年峽谷の狭長な平坦地である。東は相模灘に面して吉濱村吉濱に連り、西は鞍掛山脈を以て箱根町と静岡縣田方郡函南村に隣り、南は千年川を境に静岡縣田方郡熱海町に接續し北は箱根外輪山たる鞍掛山脚の走り來れる分水嶺を境として吉濱村鍛冶屋に對し

てゐる。

府縣道小田原熱海線は町的一端を横斷し、更に府縣道箱根眞鶴線は門川に於て分岐して町の稍や中央を縱斷して、交通に便してゐる。

藤木川は鞍掛山脈なる藤木の溪谷に源を發して湯河原温泉に入り、日金山麓に注いでゐる。即ちこれ等地域内の平坦地は



湯河原温泉

府縣道に沿ふて人家栞比し、水田は河川

に沿つて豊かに後方の山脚地は柑橘園多く、奥に進むに従つて漸次地盤高く、地域また狭つて湯河原温泉地帯に入る。東西二十町餘、南北一里、面積一・二四五方里である。戸數約一千戸、四千七百餘の人口を擁し、年次増加の一方である。明治十一年七月の郡區町村編成法の制定によつて足柄下郡門川村、城堀村、宮下村、宮上村となり、更に同二十二年四月町村制施行に當り、以上四ヶ村を併合して土肥村と改め、大正十五年七月一日町制施かれて湯河原町と改稱、現在に至つてゐる。

町役場は大字宮下にあり、八龜武雄氏町長として現任中であるが、氏は名望家また手腕として崇敬されてゐる。

箱根町 外二ヶ村組合

箱根町、元箱根及び芦之湯の兩村は、古くは箱根權現社の領地であつたが、明

治維新後神奈川縣の所轄となり、同二十二年の町村制實施の際一町二ヶ村組合役場を組織して今日に至つてゐる。その面積は三・四七餘平方町で、戸数は二百餘戸、人口一千百餘人、主として商業を營んでゐる。

眞鶴町組合 外一ヶ村

本町は神奈川縣南西端に近く、南東は相模灣に面し海岸線長く、北西は聖ヶ岳の東南山脈を以て外壁をなす。大平台山の南山脚は相模洋に突出すること約一里その東北は浪靜かなる海水を擁して眞鶴港をなす。極暑と雖も九十度を上らず、極寒の候も四十度を下らず、四時中和の氣候である。曾てベルツ博士は眞鶴を以て日本一の健康地帯と稱揚された。沿岸は斷崖絶壁怒濤岸を嘯むの奇勝あれば、また波靜かな津浦は海水浴に適し、港を隔て、貴船の神域や琴ヶ濱の清澄な渚、

また洋中に突出せる御料林を望めば千古の老松叢々として天を蔽ひ、風光明媚眞に大民衆の樂土である。

眞鶴岬は大磯の崎と伊豆國賀茂郡川崎との中間に蟠つてゐる。これを遠望すれば、東西の崎は宛も鶴の兩翼の如く、中間なる眞鶴岬は鶴の首に似てゐる、故に眞鶴の地名が起つたとのことで、古は眞名鶴と書いた。漁業が盛んで鯛、惣太鰯、鱒、黒鯛、蝶鰯、蛸、かじめ等の漁獲多く、するめ、鱈塩乾等の製造物も少なくない。また陸には蜜柑が枝もたわゝに實り、乳牛の長閑な姿も美しい。

足柄村

當村は足柄下郡の北部に位し、東は酒匂川を以て豊川村、下府中村と對し、南は小田原町及び酒匂村に接し、北は足柄上郡櫻井村、同岡本村に連り、西は山嶽を隔て、宮城野村及び温泉村に隣り、西は湯本町及び大窪村と界する。廣袤東

西二里三十町、南北一里十七町、面積二方里六である。

西部は箱根外輪山の一つなる明星ヶ嶽等の峯巒高く聳え、余脉連亘漸次東方へ傾斜し、林野曠圃とする。東部は平坦の耕地にして地味概ね膏腴である。耕作地は田五四五町歩、畑四七六町歩にして、二毛作田三五〇町歩に上る。農産物には米を筆頭に麥、甘藷、大豆、蜜柑、梨、胡瓜、西瓜、茄子、トマト、大根を主とし、副業の養蠶は年々一萬五千貫の收購高があり、副業にはまた養雞、養豚が多く、乳牛飼育も少なくない。工業方面では清酒、味噌、醬油等の醸造物をはじめ菓子類、綿織物、木製品、綿紙、石炭瓦斯、フィルム、罐詰及び爆詰等多種多様に亘り、銀行、會社等七社をかぞへる。

名所古蹟到るところに多く、家康陣場跡、幻庵屋舖跡、花立松、白糸の瀧、神山神社、大稻神社、本久寺、總世寺、淨永寺等有名である。

豊川村

本村は酒匂川に沿ふた純農村にして、東海道線下曾我驛より約十五分のところに位置し、成田、飯泉、桑原の三部落より成り、面積四方町を有す。村民は一般に質實勤勉、加ふるに土地豊穡にして農耕に適し、米産に富む。村農會、産業組合等の指導活動により、産業の發達、經濟狀態の改善は大に睹るべきものあり、殊に農業の多角形化、金融機關の能率發揮、生活の改善等は、特筆大書に價する實績を上げてゐる。純良優秀農村として今や郡下にその範を垂れ、湘南の平和郷たるの名に恥ぢざるものがある。

實際、本村には古來政争なるものなく村民も實直なるため、村治もよく行はれ縣下に於ける模範の一に數へられるも當然のことである。前記の如く、生活の改善、産業組合の利用及び酒匂川左岸の地一千歩の地に三十萬圓を投じて開墾耕地

となし、村の經濟更生には老ひも若きも全村一致して當つてゐるのだ、やがて近い將來には全國に於ける優良村の一に數へられるであらう。

村役場その他村内重要機關の多くは大文字成田に置かれ、青年團、在郷軍人分會消防組、その他各種産業団体はいづれも活動活潑で、よく自治体の精華を發揮してゐる。

上府中村

當村は郡の北部に位し、西に箱根連峯北に丹澤連山をめぐらし、東に曾我山通り、南は遙かに相模灘をのぞんでゐる。面積約四方町、酒匂川の上流より引用する酒匂堰水により水利至便で、二百余町歩の水田は、一望のうちに坦々としてゐる。道路は縣道國府津松田線に連絡あり、小田原松田線は村内をつらぬき、各村道は皆これと連絡し、御殿場線下曾我驛は約五町の近きにあり、下曾我小田原

當村は郡の北部に位し、西に箱根連峯北に丹澤連山をめぐらし、東に曾我山通り、南は遙かに相模灘をのぞんでゐる。面積約四方町、酒匂川の上流より引用する酒匂堰水により水利至便で、二百余町歩の水田は、一望のうちに坦々としてゐる。道路は縣道國府津松田線に連絡あり、小田原松田線は村内をつらぬき、各村道は皆これと連絡し、御殿場線下曾我驛は約五町の近きにあり、下曾我小田原

下府中村

本村は足柄下郡の東部に位し、東は前羽村の飛地を越えて國府津町に境をなし

本村は足柄下郡の東部に位し、東は前羽村の飛地を越えて國府津町に境をなし

東北は田島村の一部と上府中村とに隣り南は酒匂村に、北は上府中村に、西は豊川村につき、西南部は酒匂川の清流を隔て、足柄村に對してゐる。

地勢上、山水の景色天與の樂園をなし氣候は寒暑ともに宜しきを得、井水は到るところ良好な清水が湧出する。鐵道線路附近から南部一帯は隨所に掘抜井戸を穿てば多量に清澄なる噴水を、殊に相模灣より發するオゾンは海邊一帯より十數町を隔て、程よく緩和される關係もあつて、保健長壽の好適地といはれてゐる。工場、學校、花卉園、果樹園等廣大な土地を必要とする事業には充分な分譲地を有し、住宅地にも土地を廉價に提供すべく、土地所有者は意氣込んでゐる。

東海道が走つて交通の便よく、村内産物には米、麥、果實、蔬菜、繭、砂利及び砂等があり、各種産業團體の發達顯著なるものがある。また名所舊蹟として廣く知られてゐるものに飯泉觀音、光照寺、孝女天満宮、養魚場、養蛙場その他など

がある。

下 曾 我 村

當村は往昔足柄下郡高田郷に屬し、曾我ノ里六ヶ村の内、曾我原、曾我谷津、曾我、別所曾我岸の四ヶ村にして、また曾我ノ莊とも謂つた。足柄下郡の北端にあり、東は下中村及び田島村に隣り、西は足柄上郡曾我村に連り、北は曾我山脉の頂を界して足柄上郡中井村に接し、南は上府中村に境する。曾我山頂は起伏甚だしく、清水の流出する溪谷數ヶ所あり地積の大部はこの山の西南傾斜地にして山麓を西北より東南に通ずる縣道以南は稍や平坦である。鐵道御殿場線は縣道の南方を殆んどこれと並行して貫通し、村の西南に下曾我驛を置く。

昭和七年十月經濟更生村に指定せられ爾來村の實情に即せる計畫の下に着々實果を収めつゝあり、暗渠排水工事及び明渠排水工事により二毛作田に改良された

る水田は約七町歩に上り、荒廢柑橘園の改植は約九町歩に亘つて實施され、温州蜜柑の増産は完全に一割強の増加を見た。本村蜜柑は長期貯蔵に堪へる特色を有し、現在貯蔵庫は約二百棟、貯蔵量二十數萬貫である。畜産、梅干製造の改善もよく行はれ、産業組合は擴充も顯著であり、全般的には頗る良好な成績を示してゐる。

田 嶋 村

本村は足柄下郡の西北部にあり、北部は曾我山脉の高低起伏により段階をなし、頂腹に白田あり、各所に松林、雜木林がある。南部は平坦にして水田開け、劍澤川は西部を北より南に流れる。道路は國府津道即ち縣道元標により小田原道と岐れ、北部を西北に通ずる。人家は中部の山脚高低の地にある。面積僅か一方村の郡下の最小農村ではあるが、下曾我と國府津兩驛の中間に位し、交通概して

便なるため、國府津町の發展につれて將來の發展を期待されてゐる。

水田は埴土または砂礫交り、その質中等稻に適し、陸田は壤土である。山地は赤土、黒土、砂礫交りにてその質佳く、麥、豆及び蜜柑の栽培に適す、従つて米麥、蠶繭を以て主要生産物となす。昭和九年十二月經濟更生の目的を以て産業組合が組織され、爾來日向淺きに拘らず、活動目覺ましく、また各部落に於ては貯金組合更生會を組織して貯金の奨勵、或は商品の共同購入をなし、統制販賣を行ひ全村民一致してこれに當り、郡下の優良村と呼ばれるに至つた。

下 中 村

本村は足柄下郡の東北部にあり、東は中郡吾妻村に隣り、西南に下曾我、田島國府津、前羽の町村と連り、北方は足柄上郡中井村に境する。地勢西南に高く北東に低く、中村川は村の北東を貫流して

海に注ぐ。空氣、清澄氣温中和、健康に適する土地である。東西二十五町、南北二十六町、面積〇・四三八方里を占める。

曩に經濟更生村に指定されるや、全村民の和衷協同と各種團體の聯絡協調の下に産業的並に社會的改善を遂行し、着々更生の實績を収めて來た。地主對小作人の共村共榮のための小作委員會（各部落毎に設置）は相互の福利増進と農業の改良發達に寄與するところ多く、耕地整理組合に於ては開墾適地二十七町歩の開墾工事を實施し、將來一戸平均耕作地積を畑に於て七反四畝歩以上たらしめんとしてゐる。勞力の利用、收支の調節よく行はれ、農業經營の改善踏るべきもの多く普通作のほか蔬菜、果樹、園藝、畜産、養蠶、工藝等極めて多角經營化し、これに伴つて各種作物の増産も全努力を以て遂行されてゐる。そしてこれら産業經濟上に於てのみならず、公私生活の改善も全く舊弊を打破し、新時代の樂土たらんとしてゐる。

前 羽 村

當村は足柄下郡の東端にして、中郡吾妻村に接し、西は國府津町に連り、北は吾妻、大塚等の丘陵を負ひ、南は浩波森森たる相模灘に面する。白砂青松遙に大島と相對し、東西に三浦、伊豆の半島を望み、山色水光殊に明媚である。東海道の本道は村の東西に貫通し、土地は傾斜にして狭長である。更に國府津町を隔てて田畑三十六町餘の飛地がある。氣候は冬温夏涼、故に都人名士の別荘を營むものが頗る多い。前川、羽根尾の二大字より成り、前川は更に西、中宿、向原、町谷の小字より成る。東西十五町、南北十二町、面積〇・一〇七方里を占める。

村社近戸神社、無格社淺間神社、臨濟宗長泉寺、淨土宗常念寺の社寺あり、小學校は一枚、青年學校と併設する。各種團體には村農會、耕地整理組合、在郷軍人分會、青年團、女子青年團、消防組、